

平成24年度文学研究科開講科目

【文献文化学】

科目 コード	専修・科目	講義形態	週 時間	単 位	開 講 期	曜時限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通	頁
1330003	国語学国文学	特殊講義	2	4	通年	金3	木田章義			12
1330004	国語学国文学	特殊講義	2	4	通年	金2	大谷雅夫			13
1330005	国語学国文学	特殊講義	2	4	通年	水4	須田千里	二十世紀学 005 人間・環境学研究所	総合人間学部	14
1330006	国語学国文学	特殊講義	2	4	通年	月2	岡島昭浩			16
1330007	国語学国文学	特殊講義	2	4	通年	火2	母利司朗			18
1330008	国語学国文学	特殊講義	2	4	通年	金4	清水康次	二十世紀学 007		19
1331009	国語学国文学	特殊講義	30	2	前期	集中	塩村 耕			21
1340012	国語学国文学	演習	2	4	通年	金5	大槻 信			22
1340013	国語学国文学	演習	2	4	通年	月4	金光桂子			23
1340014	国語学国文学	演習	2	4	通年	火3	森 眞理子			24
M112001	国語学国文学	演習	2	4	通年	月3	木田章義			25
M112002	国語学国文学	演習	2	4	通年	水4	大谷雅夫			26
M112003	国語学国文学	演習	2	4	通年	水1	木田・大谷・大槻・金光			27
M990001	修士論文(国語学国文学)					集中	木田章義他			
1430005	中国語学中国文学	特殊講義	2	4	通年	月4	木津祐子			28
1430006	中国語学中国文学	特殊講義	2	4	通年	金2	緑川英樹			29
1431007	中国語学中国文学	特殊講義	2	2	前期	金1	高田時雄			30
1430008	中国語学中国文学	特殊講義	2	4	通年	火1	井波陵一	中国哲学史 004		31
1430009	中国語学中国文学	特殊講義	2	4	通年	木1	池田 巧			32
1430010	中国語学中国文学	特殊講義	2	4	通年	火2	道坂昭廣			33
M122001	中国語学中国文学	演習	2	4	通年	金3	平田昌司			34
M122002	中国語学中国文学	演習	2	4	通年	火3	木津祐子			35
M122003	中国語学中国文学	演習	2	4	通年	水4	緑川英樹			36
M122004	中国語学中国文学	演習	2	4	通年	月5	金 文京			37
M122005	中国語学中国文学	演習	2	4	通年	木4	蔡 毅			38
M123006	中国語学中国文学	演習	(隔)2	2	通年	水2	平田・木津・緑川			39
M990002	修士論文(中国語学中国文学)					集中	平田 昌司他			
1530002	中国哲学史	特殊講義	2	4	通年	金3	宇佐美文理	美学美術史学 008		40
1530003	中国哲学史	特殊講義	2	4	通年	金4	武田時昌			41
1530004	中国哲学史	特殊講義	2	4	通年	火1	井波陵一	◎中国語学中国文学 008		42
1530005	中国哲学史	特殊講義	2	4	通年	火4	船山 徹	◎仏教学 003		43
1531006	中国哲学史	特殊講義	30	2	前期	集中	川原秀城			44
1540007	中国哲学史	演習	2	4	通年	金5	宇佐美文理			45
1540008	中国哲学史	演習	2	4	通年	火2	吉本道雅	◎東洋史学 018		46
1540009	中国哲学史	演習	2	4	通年	月4	麥谷邦夫			47
1540010	中国哲学史	演習	2	4	通年	火3	木下鉄矢			48
M13311	中国哲学史	演習	2	2	後期	水5	宇佐美文理			49
M990003	修士論文(中国哲学史)					集中	宇佐美 文理他			
1633003	インド古典学	特殊講義	2	2	前期	木1	横地優子			50
1633004	インド古典学	特殊講義	2	2	後期	木2	Diwakar Acharya			51
1633005	インド古典学	特殊講義	2	2	前期	火5	VASUDEVA, Somdev			52
1633006	インド古典学	特殊講義	2	2	後期	火5	SANDERSON Alexis			53
1632007	インド古典学	特殊講義	2	4	通年	水5	藤井正人			55
1632008	インド古典学	特殊講義	2	4	通年	金1	八木 徹			56
1633009	インド古典学	特殊講義	2	2	前期	金2	堂山 英次郎			57
1633010	インド古典学	特殊講義	30	2	前期	集中	張本研吾			58
1643011	インド古典学	演習	2	4	通年	火1	横地・Acharya・藤井・VASUDEVA			59
1643012	インド古典学	演習	2	4	通年	月5	横地優子			60
1643013	インド古典学	演習	2	4	通年	火2	Diwakar Acharya			61
1643014	インド古典学	演習	2	4	通年	木5	Diwakar Acharya			63
1643015	インド古典学	演習	2	4	通年	水2	VASUDEVA, Somdev			64

科目コード	専修・科目	講義形態	週時間	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	他専修・他学部(研究科)共通	頁	
1643	016 インド古典学	演習	2	4	通年	木4	VASUDEVA, Somdev			65	
1644	017 インド古典学	演習	2	2	前期	木3	山口周子		仏教学 009	66	
1644	018 インド古典学	演習	2	2	後期	木3	八木綾子		仏教学 010	67	
1653	019 インド古典学	講読	2	2	前期	月4	横地優子			68	
1653	020 インド古典学	講読	2	2	後期	月4	藤井正人			69	
1652	021 インド古典学	講読	2	4	通年	水3	VASUDEVA, Somdev		仏教学 011	70	
1652	022 インド古典学	講読	2	4	通年	金4	佐藤直実		仏教学 012	71	
8091	135 インド古典学	語学	2	2	通年	金5	小松久恵	現代インド語(ヒンディー)	大学院共通科目	西南アジア史学 135	72
M990	004 修士論文(インド古典学)					集中	横地優子				
1830	002 仏教学	特殊講義	2	4	通年	水4	宮崎 泉			73	
1830	003 仏教学	特殊講義	2	4	通年	火4	船山 徹		中国哲学史 005	74	
1830	004 仏教学	特殊講義	2	4	通年	金3	室寺義仁			75	
1840	005 仏教学	演習	2	4	通年	火3	宮崎 泉			76	
1841	006 仏教学	演習	2	2	後期	金2	志賀浄邦			77	
1841	007 仏教学	演習	2	2	前期	金2	佐藤直実			78	
1840	008 仏教学	演習	2	4	通年	月3	加納和雄			79	
1841	009 仏教学	演習	2	2	前期	木3	山口周子		◎インド古典学 017	80	
1841	010 仏教学	演習	2	2	後期	木3	八木綾子		◎インド古典学 018	81	
1850	011 仏教学	講読I	2	4	通年	水3	VASUDEVA, Somdev		◎インド古典学 021	82	
1852	012 仏教学	講読II	2	4	通年	金4	佐藤直実		◎インド古典学 022	83	
8078	127 仏教学	語学	2	2	通年	月1	高橋慶治	チベット語(初級)	大学院共通科目	84	
8079	128 仏教学	語学	2	2	通年	金3	宮崎 泉	チベット語(中級)	大学院共通科目	85	
8046	123 仏教学	語学	4	2	前期	月5木5	VASUDEVA, Somdev	サンスクリット(4時間単修コース)	大学院共通科目	86	
8046	124 仏教学	語学	4	2	後期	月5木5	VASUDEVA, Somdev	サンスクリット(4時間単修コース)	大学院共通科目	87	
M990	005 修士論文(仏教学)					集中	宮崎 泉				
3130	003 西洋古典学	特殊講義	2	4	通年	木2	高橋宏幸			88	
3130	004 西洋古典学	特殊講義	2	4	通年	水3	チエシュコ、マルテイン			89	
3130	005 西洋古典学	特殊講義	2	4	通年	火4	大西英文			90	
3131	006 西洋古典学	特殊講義	30	2	前期	集中	大芝芳弘			91	
3131	007 西洋古典学	特殊講義	30	2	前期	集中	師尾晶子		◎西洋史学 010	92	
3140	008 西洋古典学	演習	2	4	通年	月4	高橋宏幸			93	
3140	009 西洋古典学	演習	2	4	通年	金4	チエシュコ、マルテイン			94	
3140	010 西洋古典学	演習	2	4	通年	火2	山下修一		西洋史学 011	95	
3140	011 西洋古典学	演習	2	4	通年	月3	早瀬 篤		◎西洋哲学史 014	96	
3151	012 西洋古典学	講読	2	2	前期	水2	チエシュコ、マルテイン			97	
3151	013 西洋古典学	講読	2	2	後期	水2	チエシュコ、マルテイン			98	
3151	014 西洋古典学	講読	2	2	前期	水4	高橋宏幸			99	
3151	015 西洋古典学	講読	2	2	後期	水4	高橋宏幸			100	
M990	006 修士論文(西洋古典学)					集中	高橋宏幸他				
3231	003 スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	2	前期	月2	佐藤昭裕			101	
3231	004 スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	2	後期	月2	佐藤昭裕			102	
3230	005 スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	4	通年	木3	服部文昭		◎総合人間学部	◎人間・環境学研究科	103
3230	006 スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	4	通年	月5	松本賢一			104	
3241	007 スラブ語学スラブ文学	演習	2	2	前期	金3	佐藤昭裕			105	
3241	008 スラブ語学スラブ文学	演習	2	2	後期	金3	佐藤昭裕			106	
3241	009 スラブ語学スラブ文学	演習	2	2	前期	月4	佐藤昭裕			107	
3241	010 スラブ語学スラブ文学	演習	2	2	後期	月4	佐藤昭裕			108	
3240	011 スラブ語学スラブ文学	演習	2	4	通年	木5	Grecko, Valerij			109	
8082	130 スラブ語学スラブ文学	語学	2	2	通年	金4	森田耕司	ポーランド語(初級I)	大学院共通科目	110	
8086	131 スラブ語学スラブ文学	語学	2	2	通年	金5	森田耕司	ポーランド語(中級I)	大学院共通科目	111	
8033	132 スラブ語学スラブ文学	語学	2	2	通年	金3	Bogna Sasaki	ポーランド語(初級II)	大学院共通科目	112	
8086	133 スラブ語学スラブ文学	語学	2	2	通年	金4	Bogna Sasaki	ポーランド語(中級II)	大学院共通科目	113	
M990	007 修士論文(スラブ語学スラブ文学)					集中	佐藤昭裕				

科目 コード	専修・科目	講義形態	週 時間	単 位	開 講 期	曜時限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通	頁	
3331	003 ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	2	前期	月3	尾野照治		人間・環境学研究科 総合人間学部	114	
3330	004 ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	4	通年	月4	奥田敏広		人間・環境学研究科 総合人間学部	115	
3330	005 ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	4	通年	金4	河崎 靖		人間・環境学研究科 総合人間学部	117	
3330	006 ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	4	通年	木3	Dieter Trauden			118	
3330	007 ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	4	通年	火3	岡田暁生		美学・美術史学 010	119	
3344	011 ドイツ語学ドイツ文学	演習III	2	4	通年	金5	松村朋彦			120	
M182	001 ドイツ語学ドイツ文学	演習	2	4	通年	水2	松村朋彦			121	
M990	008 修士論文(ドイツ語学ドイツ文学)					集中	松村朋彦				
M190	001 英語学英米文学	特殊講義	2	4	通年	火2	佐々木 徹			122	
M191	002 英語学英米文学	特殊講義	2	2	前期	金5	家入葉子			123	
M191	003 英語学英米文学	特殊講義	2	2	前期	水4	若島 正			124	
M191	004 英語学英米文学	特殊講義	2	2	後期	火4	森 慎一郎			125	
M191	005 英語学英米文学	特殊講義	2	2	前期	金3	山梨正明		◎言語学 005 人間・環境学研究科	心理学 025	126
M190	006 英語学英米文学	特殊講義	2	4	通年	木3	水野尚之		人間・環境学研究科	127	
M190	007 英語学英米文学	特殊講義	2	4	通年	木4	西村秀夫			128	
M190	008 英語学英米文学	特殊講義	2	4	通年	水2	服部典之			129	
M190	009 英語学英米文学	特殊講義	2	4	通年	月2	林 以知郎			131	
M190	010 英語学英米文学	特殊講義	2	4	通年	火3	西谷拓哉			132	
M190	011 英語学英米文学	特殊講義	2	4	通年	木1	Michael Jamentz			133	
M190	012 英語学英米文学	特殊講義	2	4	通年	月3	Gallimore, Daniel			134	
M190	013 英語学英米文学	特殊講義	2	4	通年	木5	Raphaël Lambert			136	
M191	014 英語学英米文学	特殊講義	30	2	前期	集中	Mark Campana			137	
M191	015 英語学英米文学	特殊講義	30	2	前期	集中	Ramisch, Heinrich			138	
M191	016 英語学英米文学	特殊講義	30	2	前期	集中	木原善彦			140	
M190	022 英語学英米文学	特殊講義	2	2	後期	木3	谷口一美			141	
M191	023 英語学英米文学	特殊講義	2	4	通年	火3	内田充美			142	
M192	017 英語学英米文学	演習	2	4	通年	水5	若島 正			143	
M192	018 英語学英米文学	演習	2	4	通年	金3	佐々木 徹			144	
M192	019 英語学英米文学	演習	2	4	通年	金4	家入葉子			145	
M192	020 英語学英米文学	演習	2	4	通年	月1	廣田篤彦			146	
M192	021 英語学英米文学	演習	2	4	通年	火5	森 慎一郎			147	
M990	009 修士論文(英語学英米文学)					集中	佐々木 徹他				
3630	004 フランス語学フランス文学	特殊講義	2	4	通年	水4	田口紀子			148	
3630	005 フランス語学フランス文学	特殊講義	2	4	通年	金3	増田 眞			149	
3631	006 フランス語学フランス文学	特殊講義	2	2	前期	月4	永盛克也			150	
3631	007 フランス語学フランス文学	特殊講義	2	2	後期	月4	永盛克也			151	
3631	008 フランス語学フランス文学	特殊講義	2	2	前期	木3	エリック・アヴォカ			152	
3631	009 フランス語学フランス文学	特殊講義	2	2	後期	木3	エリック・アヴォカ			153	
3630	010 フランス語学フランス文学	特殊講義	2	4	通年	水5	大浦康介			154	
3630	011 フランス語学フランス文学	特殊講義	2	4	通年	木5	王寺賢太		西洋史学 006	155	
3630	012 フランス語学フランス文学	特殊講義	2	4	通年	水3	稲垣直樹		人間・環境学研究科 総合人間学部	156	
3630	013 フランス語学フランス文学	特殊講義	2	4	通年	月3	中畑寛之			157	
3631	014 フランス語学フランス文学	特殊講義	30	2	前期	集中	吉田典子			158	
3645	018 フランス語学フランス文学	演習	2	2	前期	木4	エリック・アヴォカ			159	
3645	019 フランス語学フランス文学	演習	2	2	後期	木4	エリック・アヴォカ			160	
M202	001 フランス語学フランス文学	演習	2	4	通年	火4	田口・増田・永盛			161	
M203	002 フランス語学フランス文学	演習	2	2	前期	火3	エリック・アヴォカ			162	
M203	003 フランス語学フランス文学	演習	2	2	後期	火3	エリック・アヴォカ			164	
M990	010 修士論文(フランス語学フランス文学)					集中	田口紀子他				
3730	002 イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	4	通年	金4	天野 恵			166	
3730	003 イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	4	通年	水3	ダニエラ・シャロム・ヴァガータ			167	
3730	004 イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	4	通年	水5	ダニエラ・シャロム・ヴァガータ			168	
3730	005 イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	4	通年	火2	村瀬有司			169	

科目 コード	専修・科目	講義形態	週 時間	単 位	開 講 期	曜時限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通	頁	
3731	006	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	30	2	前期	集中	長神 悟		170	
3740	007	イタリア語学イタリア文学	演習	(隔)4	4	通年	木3木4	天野・ヴァガータ		171	
3740	008	イタリア語学イタリア文学	演習	2	4	通年	金2	天野 恵		172	
3740	009	イタリア語学イタリア文学	演習	2	4	通年	火4	天野 恵		173	
3760	012	イタリア語学イタリア文学	外国人実習	2	2	通年	火3	ダニエラ・シャロム・ヴァガータ		174	
M990	011	修士論文(イタリア語学イタリア文学)					集中	天野 恵			
5130	002	哲学	特殊講義	2	4	通年	水1	伊藤邦武		175	
5130	003	哲学	特殊講義	2	4	通年	火5	出口康夫		176	
5130	004	哲学	特殊講義	2	4	通年	火3	西村正秀		177	
5140	005	哲学	演習	2	4	通年	水5	出口康夫		178	
5140	006	哲学	演習	2	4	通年	月4	須藤訓任		179	
M222	001	哲学	演習	4	4	通年	金4金5	伊藤・出口		180	
M222	002	哲学	演習	2	4	通年	火4	矢田部俊介	◎基礎現代化学系 001	181	
M224	003	哲学	語学	2	2	通年	金2	堀川 宏	ギリシア語(2時間コース)	183	
M225	004	哲学	語学	2	2	通年	金3	仲川 章	ラテン語(2時間コース)	184	
M990	012	修士論文(哲学)					集中	伊藤邦武他			
5230	005	西洋哲学史	特殊講義	2	4	通年	水3	中畑正志	古代	185	
5231	006	西洋哲学史	特殊講義	30	2	前期	集中	金子善彦	古代	186	
5233	007	西洋哲学史	特殊講義	2	4	通年	火4	加藤雅人	中世	187	
5234	008	西洋哲学史	特殊講義	30	2	前期	集中	山内志朗	中世	188	
5235	009	西洋哲学史	特殊講義	2	4	通年	月5	福谷 茂	近世	189	
5235	010	西洋哲学史	特殊講義	2	4	通年	木4木5	上野 修	近世	190	
5236	011	西洋哲学史	特殊講義	30	2	前期	集中	御子柴 善之	近世	191	
5240	012	西洋哲学史	演習	2	4	通年	金2	中畑正志	古代	192	
5240	013	西洋哲学史	演習	(隔)4	4	通年	木4木5	中畑正志	古代	193	
5240	014	西洋哲学史	演習	2	4	通年	月3	早瀬 篤	古代	西洋古典学 011	194
5242	015	西洋哲学史	演習	2	4	通年	月4	川添信介	中世	195	
5242	016	西洋哲学史	演習	2	4	通年	金5	川添信介	中世	196	
5242	017	西洋哲学史	演習	2	4	通年	木3	横田蔵人	中世	197	
5242	018	西洋哲学史	演習	(隔)4	4	通年	木3木4	川添信介	中世	198	
5244	019	西洋哲学史	演習	2	4	通年	火5	福谷 茂	近世	199	
5244	020	西洋哲学史	演習	2	4	通年	水5	福谷 茂	近世	200	
5244	021	西洋哲学史	演習	(隔)4	4	通年	金4金5	福谷 茂	近世	201	
5244	022	西洋哲学史	演習	2	4	通年	火4	山脇雅夫	近世	202	
M990	013	修士論文(西洋古代哲学史)					集中	中畑正志	古代		
M990	014	修士論文(西洋中世哲学史)					集中	川添信介	中世		
M990	015	修士論文(西洋近世哲学史)					集中	福谷 茂	近世		
5331	002	日本哲学史	特殊講義	2	2	前期	月4	藤田正勝		203	
5331	003	日本哲学史	特殊講義	2	2	後期	月4	藤田正勝		204	
5331	004	日本哲学史	特殊講義	30	2	前期	集中	田中久文		205	
5331	005	日本哲学史	特殊講義	2	2	後期	火4	高坂史朗		206	
5331	006	日本哲学史	特殊講義	2	2	後期	水5	林 晋	◎情報・史科学 004	207	
5340	007	日本哲学史	演習	2	4	通年	火2	秋富克哉		209	
5340	008	日本哲学史	演習	2	4	通年	水4	芦名定道	◎キリスト教 006	210	
5340	009	日本哲学史	演習	2	4	通年	金2	林 晋	◎情報・史科学 012	211	
M244	001	日本哲学史	演習II	(隔)4	4	通年	金3金4	藤田正勝		212	
M990	016	修士論文(日本哲学史)					集中	藤田正勝			
5430	002	倫理学	特殊講義	2	4	通年	火3	水谷雅彦		213	
5430	003	倫理学	特殊講義	2	4	通年	月3	亀喜 信		214	
5431	004	倫理学	特殊講義	30	2	前期	集中	鈴木 真		215	
5440	005	倫理学	演習	2	4	通年	火4	水谷雅彦		217	
5440	006	倫理学	演習	2	4	通年	金4	水谷雅彦		218	
5440	007	倫理学	演習	2	4	通年	金5	北尾宏之		219	

科目 コード	専修・科目	講義形態	週 時間	単 位	開 講 期	曜時限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通	頁
5440	008 倫理学	演習	2	4	通年	金3	佐藤義之			220
M990	017 修士論文(倫理学)					集中	水谷雅彦			
5530	002 宗教学	特殊講義	2	4	通年	火4	氣多雅子			221
5530	003 宗教学	特殊講義	2	4	通年	水4	杉村靖彦			222
5530	004 宗教学	特殊講義	2	4	通年	金2	吉永進一			223
5540	005 宗教学	演習	2	4	通年	火5	氣多雅子			225
5541	009 宗教学	演習	2	2	前期	水5	杉村靖彦			226
5541	010 宗教学	演習	2	2	後期	水5	杉村靖彦			227
5550	008 宗教学	講読	2	4	通年	木4	鶴 真一			228
M264	001 宗教学	演習II (隔)	4	4	通年	金3金4	氣多・杉村			229
M990	018 修士論文(宗教学)					集中	氣多雅子他			
5630	003 キリスト教学	特殊講義	2	4	通年	火5	芦名定道			230
5630	004 キリスト教学	特殊講義	2	4	通年	火4	手島勲矢			231
5631	005 キリスト教学	特殊講義	30	2	前期	集中	津田謙治			232
5640	006 キリスト教学	演習	2	4	通年	水4	芦名定道		日本哲学史 008	233
5641	007 キリスト教学	演習	2	2	後期	金4	芦名定道			234
5640	008 キリスト教学	演習	2	4	通年	水5	堀川敏寛			235
8068	125 キリスト教学	語学	2	2	通年	火3	手島勲矢	ヘブライ語	大学院共通科目 西南アジア史学 125	236
M272	001 キリスト教学	演習 (隔)	4	4	通年	木4木5	芦名定道			237
M272	002 キリスト教学	演習	2	4	通年	金5	芦名定道			238
M990	019 修士論文(キリスト教学)					集中	芦名定道			
5730	004 美学美術史学	特殊講義	2	4	通年	水2	吉岡 洋			239
5730	005 美学美術史学	特殊講義	2	4	通年	水3	根立研介			240
5730	006 美学美術史学	特殊講義	2	4	通年	木2	平川佳世			241
5730	007 美学美術史学	特殊講義	2	4	通年	金3	中村俊春			242
5730	008 美学美術史学	特殊講義	2	4	通年	金3	宇佐美文理		◎中国哲学史 002	243
5730	009 美学美術史学	特殊講義	2	4	通年	月3	篠原資明		◎人間・環境学研究科	244
5730	010 美学美術史学	特殊講義	2	4	通年	火3	岡田暁生		◎ドイツ語ドイツ文学 007	245
5730	011 美学美術史学	特殊講義	2	4	通年	木4	安田篤生			246
5731	012 美学美術史学	特殊講義	30	2	前期	集中	伊藤大輔			247
5740	013 美学美術史学	演習I	2	4	通年	火2	中村・根立・平川			248
5742	014 美学美術史学	演習II	2	4	通年	水5	中村・平川			249
5742	015 美学美術史学	演習II	2	4	通年	金2	平川佳世			250
5742	016 美学美術史学	演習II	2	4	通年	月2	永井隆則			251
M285	001 美学美術史学	演習III	2	4	通年	金5	中村・根立・吉岡・平川			252
M990	020 修士論文(美学美術史学)					集中	中村俊春他			
6630	002 日本史学	特殊講義	2	4	通年	水1	横田冬彦			253
6630	003 日本史学	特殊講義	2	4	通年	火3	吉川真司			254
6631	004 日本史学	特殊講義	2	2	後期	金4	谷川 穰			255
6630	005 日本史学	特殊講義	2	4	通年	木3	元木泰雄			256
6630	006 日本史学	特殊講義	2	4	通年	火4	岩城卓二			257
6630	007 日本史学	特殊講義	2	4	通年	月3	岩崎奈緒子			258
6630	008 日本史学	特殊講義	2	4	通年	金2	原田敬一		現代史学 014 二十世紀学 012	259
6630	009 日本史学	特殊講義	2	4	通年	木4	原田正俊			260
6631	010 日本史学	特殊講義	2	2	前期	金4	飯塚一幸		現代史学 012	261
6631	011 日本史学	特殊講義	30	2	前期	集中	橋本義則			262
6630	012 日本史学	特殊講義	2	4	通年	水2	高木博志		◎現代史学 005	263
M292	001 日本史学	演習	2	4	通年	火4	勝山清次			264
M292	002 日本史学	演習	2	4	通年	月4	横田冬彦			265
M292	003 日本史学	演習	2	4	通年	水3	吉川真司			266
M292	004 日本史学	演習	2	4	通年	月1	吉川真司			267
M292	005 日本史学	演習	2	4	通年	月5	谷川 穰			268
M990	021 修士論文(日本史学)					集中	勝山清次他			

科目 コード	専修・科目	講義形態	週 時間	単 位	開 講 期	曜時限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通	頁	
D021	001 日本史学	博士論文指導			通年	木5	勝山・横田・吉川・谷川			269	
6730	002 東洋史学	特殊講義	2	4	通年	火4	夫馬 進			270	
6730	003 東洋史学	特殊講義	2	4	通年	月5	杉山正明			271	
6730	004 東洋史学	特殊講義	2	4	通年	金4	吉本道雅			272	
6730	005 東洋史学	特殊講義	2	4	通年	月3	中砂明德			273	
6730	006 東洋史学	特殊講義	2	4	通年	火1	高嶋 航			274	
6730	007 東洋史学	特殊講義	2	4	通年	金1	松浦 茂		人間・環境学研究所	総合人間学部	275
6730	008 東洋史学	特殊講義	2	4	通年	火3	浅原達郎			276	
6730	009 東洋史学	特殊講義	2	4	通年	月4	岩井茂樹			277	
6730	010 東洋史学	特殊講義	2	4	通年	金5	冨谷 至			278	
6730	011 東洋史学	特殊講義	2	4	通年	木1	矢木 毅			279	
6730	012 東洋史学	特殊講義	2	4	通年	木2	辻 正博		人間・環境学研究所	総合人間学部	280
6730	013 東洋史学	特殊講義	2	4	通年	金2	木田知生			282	
6730	014 東洋史学	特殊講義	2	4	通年	金3	佐藤達郎			283	
6731	015 東洋史学	特殊講義	30	2	前期	集中	吉澤 誠一郎		現代史学 015	284	
6740	016 東洋史学	演習I	2	4	通年	金3	夫馬 進			285	
6742	017 東洋史学	演習II	2	4	通年	月2	杉山正明			286	
6744	018 東洋史学	演習III	2	4	通年	火2	吉本道雅		中国哲学史 008	287	
6746	019 東洋史学	演習IV	2	4	通年	火5	中砂明德			288	
6747	020 東洋史学	演習V	2	4	通年	火3	高嶋 航			289	
6748	021 東洋史学	演習	2	4	通年	水2	水野直樹		◎現代史学 021	二十世紀学 017	290
6748	022 東洋史学	演習	2	4	通年	木2	村上 衛		◎現代史学 020	二十世紀学 022	291
M302	001 東洋史学	演習	2	4	通年	水4	杉山正明			292	
M302	002 東洋史学	演習	2	4	通年	火4	吉本道雅			293	
M990	022 修士論文(東洋史学)					集中	夫馬 進他				
D022	001 東洋史学	博士論文指導			通年		夫馬・杉山・吉本・中砂・高嶋			294	
6830	002 西南アジア史学	特殊講義	2	4	通年	火4	吉田 豊		◎言語学 004	295	
6830	003 西南アジア史学	特殊講義	2	4	通年	水5	稲葉 稜			296	
6830	004 西南アジア史学	特殊講義	2	4	通年	木4	谷口淳一			297	
6830	005 西南アジア史学	特殊講義	2	4	通年	水2	磯貝健一			298	
6831	006 西南アジア史学	特殊講義	2	2	前期	水3	川瀬豊子			300	
6831	007 西南アジア史学	特殊講義	30	2	前期	集中	菟原 卓			301	
6842	009 西南アジア史学	演習II	2	4	通年	月4	井谷綱造			302	
6842	010 西南アジア史学	演習II	2	4	通年	月3	久保一之			303	
6842	011 西南アジア史学	演習II	2	4	通年	木5	谷口淳一			304	
6842	012 西南アジア史学	演習II	2	4	通年	木1	吉田 豊		◎言語学 015	305	
6850	013 西南アジア史学	講読	2	4	通年	金2	井谷綱造			306	
6850	014 西南アジア史学	講読	2	4	通年	火5	久保一之			307	
6850	015 西南アジア史学	講読	2	4	通年	月5	東長 靖			308	
8080	129 西南アジア史学	語学	2	2	通年	木2	西尾哲夫	アラブ語(初級)	大学院共通科目	309	
8070	126 西南アジア史学	語学	2	2	通年	水4	森 茂男	イラン語(初級)	大学院共通科目	310	
8036	109 西南アジア史学	語学	2	2	通年	金1	森 若葉	シユメール語(初級)	大学院共通科目	言語学 109	311
8068	125 西南アジア史学	語学	2	2	通年	火3	手島勲矢	ヘブライ語	大学院共通科目	キリスト教 125	312
8091	135 西南アジア史学	語学	2	2	通年	金5	小松久恵	現代インド語(ヒンディー)	大学院共通科目	インド古典学 135	313
8062	122 西南アジア史学	語学	2	2	通年	火2	横地優子	サンスクリット(2時間コース)	大学院共通科目	314	
M990	023 修士論文(西南アジア史学)					集中	久保一之他				
D023	001 西南アジア史学	博士論文指導			通年		井谷・久保			315	
6930	002 西洋史学	特殊講義	2	4	通年	水5	南川高志			316	
6930	003 西洋史学	特殊講義	2	4	通年	木1	小山 哲			318	
6930	004 西洋史学	特殊講義	2	4	通年	火5	金澤周作			319	
6930	005 西洋史学	特殊講義	2	4	通年	木2	伊藤順二		現代史学 010	320	
6930	006 西洋史学	特殊講義	2	4	通年	木5	王寺賢太		◎フランス語学フランス文学 011	322	
6930	007 西洋史学	特殊講義	2	4	通年	火3	朝治啓三			323	

科目 コード	専修・科目	講義形態	週 時間	単 位	開 講 期	曜時限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通	頁
6930	008 西洋史学	特殊講義	2	4	通年	水4	小関 隆		現代史学 013 二十世紀学 014	324
6931	009 西洋史学	特殊講義	2	2	前期	月3	森永貴子			325
6931	010 西洋史学	特殊講義	30	2	前期	集中	師尾晶子		西洋古典学 007	326
6930	011 西洋史学	特殊講義	2	4	通年	火2	山下修一		◎西洋古典学 010	327
6931	012 西洋史学	特殊講義	2	2	前期	木4	力久昌幸		◎現代史学 006 二十世紀学 008	328
6931	013 西洋史学	特殊講義	2	2	後期	木4	力久昌幸		◎現代史学 007 二十世紀学 009	329
6931	014 西洋史学	特殊講義	2	2	後期	木2	高橋秀寿		◎現代史学 008 二十世紀学 010	330
6940	015 西洋史学	演習I	2	4	通年	金5	南川高志			331
6942	016 西洋史学	演習II	2	4	通年	金5	服部良久			332
6944	017 西洋史学	演習III	2	4	通年	金5	小山 哲			333
6946	018 西洋史学	演習IV	2	4	通年	金5	金澤周作			334
M322	001 西洋史学	演習	2	4	通年	金3	服部・南川・小山・金澤			335
M990	024 修士論文(西洋史学)					集中	服部良久他			
D024	001 西洋史学	博士論文指導			通年	金4	服部・南川・小山・金澤			336
7030	002 考古学	特殊講義	2	4	通年	月4	上原真人			337
7030	003 考古学	特殊講義	2	4	通年	水4	泉 拓良			338
7030	004 考古学	特殊講義	2	4	通年	火2	吉井秀夫			339
7030	005 考古学	特殊講義	2	4	通年	水3	清水芳裕			340
7030	006 考古学	特殊講義	2	4	通年	月2	岡村秀典			341
7031	010 考古学	特殊講義	2	2	後期	金4	矢野健一			342
7031	011 考古学	特殊講義	30	2	前期	集中	岩永省三			343
7031	012 考古学	特殊講義	2	2	後期	火4	小方 登		◎地理学 007 ◎総合人間学部	344
M334	001 考古学	演習IV	2	4	通年	火5	上原・泉・吉井			345
M990	025 修士論文(考古学)					集中	上原真人他			
D025	001 考古学	博士論文指導			通年	金1	上原・泉・吉井			346
7131	011 心理学	特殊講義	2	2	前期	月1	清水寛之		教育学部	347
7131	012 心理学	特殊講義	2	2	前期	火5	越野英哉		教育学部	348
7131	013 心理学	特殊講義	2	2	後期	金1	小林哲生		教育学部	349
7131	014 心理学	特殊講義	30	2	前期	集中	小松英彦		教育学部	350
7131	015 心理学	特殊講義	2	2	前期	金4	田中紗織		◎教育学研究科	351
7131	016 心理学	特殊講義	30	2	前期	集中	足立浩平		◎教育学研究科	352
7131	017 心理学	特殊講義	30	2	前期	集中	山本淳一		◎教育学研究科	354
7131	018 心理学	特殊講義	30	2	前期	集中	村田光二		◎教育学研究科	355
7131	025 心理学	特殊講義	2	2	前期	金3	山梨正明		◎言語学 005 人間・環境学研究科 英語学英米文学 007	356
M341	001 心理学	特殊講義	2	2	前期	水2	藤田和生		教育学研究科	357
M341	002 心理学	特殊講義	2	2	後期	水2	櫻井芳雄		教育学研究科	358
M341	003 心理学	特殊講義	2	2	後期	水3	板倉昭二		教育学研究科	359
M341	004 心理学	特殊講義	2	2	前期	火2	蘆田 宏		教育学研究科	360
M341	005 心理学	特殊講義	2	2	後期	月2	齋木 潤		◎人間・環境学研究科	361
M341	006 心理学	特殊講義	2	2	前期	月5	松村道一		◎人間・環境学研究科 総合人間学部	362
M341	007 心理学	特殊講義	2	2	前期	月2	乾・水原		◎情報学研究科	363
M342	008 心理学	演習	2	4	通年	火3	藤田・櫻井・板倉・蘆田			364
M990	026 修士論文(心理学)					集中	藤田和生他			
7230	003 言語学	特殊講義	2	4	通年	金2	吉田和彦			365
7230	004 言語学	特殊講義	2	4	通年	火4	吉田 豊		西南アジア史学 002	366
7231	005 言語学	特殊講義	2	2	前期	金3	山梨正明		英語学英米文学 007 心理学 025 人間・環境学研究科	367
7230	006 言語学	特殊講義	2	4	通年	月4	梶 茂樹			368
7230	007 言語学	特殊講義	2	4	通年	水2	郡司隆男			369
7230	008 言語学	特殊講義	2	4	通年	火3	上田 功			370
7230	009 言語学	特殊講義	2	4	通年	金3	前田広幸			371
7230	010 言語学	特殊講義	2	4	通年	月5	定延利之			373
7231	011 言語学	特殊講義	30	2	前期	集中	五十嵐 陽介			374
7231	012 言語学	特殊講義	2	4	通年	水4	齋藤治之			375

科目 コード	専修・科目	講義形態	週 時間	単 位	開 講 期	曜時限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通	頁	
7231	013 言語学	特殊講義	2	2	前期	水3	B.Vine			376	
7240	015 言語学	演習	2	4	通年	木1	吉田 豊		西南アジア史学 012	377	
7240	016 言語学	演習	2	4	通年	火5	田窪行則			378	
7240	017 言語学	演習	2	4	通年	木2	笹間史子			380	
7240	019 言語学	演習	60	4	前期	集中	田窪行則		社会学 044	381	
8036	109 言語学	語学	2	2	通年	金1	森 若葉	シュメール語(初級)	大学院共通科目	西南アジア 109	382
8039	110 言語学	語学	2	1	前期	火3	井戸根 綾子	スワヒリ語(初級)	大学院共通科目	⑦17・1733地域研究研究科	383
8038	111 言語学	語学	2	1	後期	火3	井戸根 綾子	スワヒリ語(中級)	大学院共通科目	⑦17・1733地域研究研究科	384
M352	001 言語学	演習	2	4	通年	金4金5	田窪・吉田和・吉田豊			385	
M990	027 修士論文(言語学)					集中	田窪行則他				
7330	002 社会学	特殊講義	2	4	通年	木5	伊藤公雄			386	
7331	003 社会学	特殊講義	2	2	前期	月4	落合恵美子			387	
7331	004 社会学	特殊講義	2	2	後期	月4	落合恵美子			388	
7330	005 社会学	特殊講義	2	4	通年	火4	田中紀行			389	
7331	006 社会学	特殊講義	2	2	前期	水2	太郎丸 博			390	
7331	007 社会学	特殊講義	2	2	後期	水2	太郎丸 博			391	
7330	008 社会学	特殊講義	2	4	通年	火4	富永茂樹			392	
7331	009 社会学	特殊講義	2	2	前期	金4	高橋由典		◎人間・環境学研究科	総合人間学部	393
7331	010 社会学	特殊講義	2	2	前期	火3	吉田 純	情報・史科学 005 総合人間学部	◎人間・環境学研究科	394	
7331	011 社会学	特殊講義	2	2	前期	木1	佐藤卓己	二十世紀学 006 ◎教育学部	現代史学 011	395	
7331	012 社会学	特殊講義	2	2	前期	金3	岩井八郎	◎教育学部		397	
7331	013 社会学	特殊講義	2	2	後期	金3	岩井八郎	◎教育学部		398	
7330	014 社会学	特殊講義	4	4	前期	月4水4	新川敏光		◎法学部	399	
7331	015 社会学	特殊講義	2	2	後期	火2	若林直樹		◎経済学部	400	
7331	019 社会学	特殊講義	2	2	前期	火2	森本一彦			402	
7331	020 社会学	特殊講義	2	2	前期	火4	安里和晃			403	
7331	024 社会学	特殊講義	2	2	後期	金2	中野康人			404	
7331	025 社会学	特殊講義	2	2	前期	木2	天田城介			405	
7331	026 社会学	特殊講義(隔)	4	2	後期	木4木5	ジャンクリヌ・ベルント			406	
7331	027 社会学	特殊講義	30	2	前期	集中	内山 節			408	
7331	028 社会学	特殊講義	2	2	後期	木2	立木茂雄			409	
7331	029 社会学	特殊講義	4	2	前期	木3木4	Koikari Mire・Lan Pei-Chia	研究科横断型教育科目 (Aタイプ)		411	
7331	030 社会学	特殊講義	4	2	後期	木3木4	Korhonen Ari Pekka・Yang Der-Ruey	研究科横断型教育科目 (Aタイプ)		412	
7331	031 社会学	特殊講義	2	2	前期	木2	伊藤公雄	研究科横断型教育科目 (Aタイプ)		413	
7331	032 社会学	特殊講義	2	2	後期	木2	伊藤公雄	研究科横断型教育科目 (Aタイプ)		414	
7330	033 社会学	特殊講義	2	4	通年	水2	小林致広		◎地理学 002	415	
7330	034 社会学	特殊講義	4	4	後期	水4水5	福岡良明		◎二十世紀学 019	現代史学 024	416
7330	035 社会学	特殊講義	2	4	後期	木1木2	池谷和信		◎地理学 012	417	
7331	043 社会学	特殊講義	30	2	前期	集中	ノクター デイビッド'		◎教育学研究科	419	
7344	044 社会学	演習II	60	4	前期	集中	田窪行則		◎言語学 019	420	
M361	001 社会学	特殊講義	2	2	後期	火4	吉田 純		情報・史科学 001	421	
M361	002 社会学	特殊講義	2	2	後期	水3	稲垣恭子		◎教育学研究科	422	
M361	003 社会学	特殊講義	2	2	前期	火3	速水洋子		◎17・1733地域研究研究科	423	
M360	004 社会学	特殊講義(隔)	2	4	通年	金4金5	竹沢泰子			424	
M361	005 社会学	特殊講義	2	2	通年	月3	松田素二			426	
M361	006 社会学	特殊講義	2	2	通年	水4	太郎丸 博			427	
M361	009 社会学	特殊講義	30	2	前期	集中	秋津元輝			429	
M361	010 社会学	特殊講義	2	2	後期	水2	秋津元輝		◎農学研究科	430	
M362	011 社会学	演習	2	4	通年	水3	伊藤公雄			431	
M362	012 社会学	演習	2	4	通年	月5	松田素二			432	
M362	013 社会学	演習	2	4	通年	火5	落合恵美子			433	
M362	014 社会学	演習	2	4	通年	火2	田中紀行			434	
M362	015 社会学	演習	2	4	通年	金2	太郎丸 博			435	

科目 コード	専修・科目	講義形態	週 時間	単 位	開 講 期	曜時限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通	頁	
M364	016 比較社会学	演習	2	4	通年	月2	鶴飼孝造			437	
M990	028 修士論文(社会学)					集中	松田素二他				
7430	002 地理学	特殊講義	2	4	通年	水2	小林致広		社会学 033	439	
7430	003 地理学	特殊講義	2	4	通年	金1	石川義孝			440	
7430	004 地理学	特殊講義	2	4	通年	金3	米家泰作			441	
7430	006 地理学	特殊講義	2	4	通年	水3	小島泰雄		◎総合人間学部	442	
7431	007 地理学	特殊講義	2	2	前期	火4	小方 登		考古学 012	◎総合人間学部	443
7431	008 地理学	特殊講義	30	2	前期	集中	若林 芳樹			444	
7431	009 地理学	特殊講義	30	2	前期	集中	杉浦 真一郎			445	
7430	010 地理学	特殊講義	60	4	前期	集中	今里 悟之			446	
7430	011 地理学	特殊講義	2	4	通年	火2	吉田容子			447	
7430	012 地理学	特殊講義	4	4	後期	木1木2	池谷和信		社会学 035	448	
7431	013 地理学	特殊講義	2	2	後期	月2	大住克博			450	
M372	001 地理学	演習	2	4	通年	水5	小林・石川・杉浦・米家			451	
M990	029 修士論文(地理学)					集中	石川義孝他				
8231	003 科学哲学科学史	特殊講義	2	2	前期	月3	伊藤和行			452	
8231	004 科学哲学科学史	特殊講義	2	2	後期	月3	伊藤和行			453	
8231	005 科学哲学科学史	特殊講義	2	2	前期	水2	伊勢田哲治			454	
8231	006 科学哲学科学史	特殊講義	2	2	後期	水2	伊勢田哲治			455	
8231	007 科学哲学科学史	特殊講義	2	2	前期	木4	白井哲哉			456	
8231	008 科学哲学科学史	特殊講義	2	2	後期	木4	斎藤 光			457	
8231	009 科学哲学科学史	特殊講義	2	2	後期	木3	喜多千草		◎情報・史科学 007 現代史学 016	二十世紀学 013	458
8231	010 科学哲学科学史	特殊講義	30	2	前期	集中	中戸川孝治		◎情報・史科学 011	459	
8241	011 科学哲学科学史	演習	2	2	前期	火3	伊藤和行			461	
8241	012 科学哲学科学史	演習	2	2	後期	火3	伊藤和行			462	
8241	013 科学哲学科学史	演習	2	2	前期	水3	伊勢田哲治			463	
8241	014 科学哲学科学史	演習	2	2	後期	水3	伊勢田哲治			464	
M382	001 科学哲学科学史	演習	2	4	通年	金4	伊藤・伊勢田			465	
M990	030 修士論文(科学哲学科学史)					集中	伊藤和行他				
8531	003 情報・史科学	特殊講義	2	2	前期	月5	林 晋			466	
8531	004 情報・史科学	特殊講義	2	2	後期	水5	林 晋		日本哲学史 006	467	
8531	005 情報・史科学	特殊講義	2	2	前期	火3	吉田 純		◎社会学 010 総合人間学部	人間・環境学研究科	469
8531	006 情報・史科学	特殊講義	2	2	前期	金4	小田宗兵衛			470	
8531	007 情報・史科学	特殊講義	2	2	後期	木3	喜多千草		二十世紀学 013 現代史学 016	科学史・科学哲学 009	472
8531	008 情報・史科学	特殊講義	2	2	後期	火3	奥乃 博		◎工学部	473	
8531	009 情報・史科学	特殊講義	2	2	後期	火5	岡田至弘			475	
8531	010 情報・史科学	特殊講義	2	2	前期	木2	師 茂樹			476	
8531	011 情報・史科学	特殊講義	30	2	前期	集中	中戸川孝治		科学史・科学哲学 010	477	
8540	012 情報・史科学	演習	2	4	通年	金2	林 晋		日本哲学史 009	479	
8540	013 情報・史科学	演習	2	4	通年	金5	林 晋			480	
M391	001 情報・史科学	特殊講義	2	2	後期	火4	吉田 純		◎社会学 001 総合人間学部	◎人間・環境学研究科	481
M391	002 情報・史科学	特殊講義	2	2	前期	火2	山本・Marco Cuturi		◎情報学研究科	482	
M393	003 情報・史科学	演習	2	2	前期	木3	喜多千草			483	
M990	031 修士論文(情報・史科学)					集中	林 晋				
8330	002 二十世紀学	特殊講義	2	4	通年	月3	小野澤 透		◎現代史学 002	485	
8330	003 二十世紀学	特殊講義	2	4	通年	水4	Brian HAYASHI		◎現代史学 003 総合人間学部	◎人間・環境学研究科	486
8330	004 二十世紀学	特殊講義	2	4	通年	月2	石川禎浩		◎現代史学 004	487	
8330	005 二十世紀学	特殊講義	2	4	通年	水4	須田千里		◎国語学国文学 005 人間・環境学研究科	総合人間学部	488
8331	006 二十世紀学	特殊講義	2	2	前期	木1	佐藤康己		◎社会学 011 ◎教育学部	現代史学 011	490
8330	007 二十世紀学	特殊講義	2	4	通年	金4	清水康次		◎国語学国文学 008	492	
8331	008 二十世紀学	特殊講義	2	2	前期	木4	力久昌幸		◎現代史学 006	西洋史学 012	494
8331	009 二十世紀学	特殊講義	2	2	後期	木4	力久昌幸		◎現代史学 007	西洋史学 013	495
8331	010 二十世紀学	特殊講義	2	2	後期	木2	高橋秀寿		◎現代史学 008	西洋史学 014	496

科目 コード	専修・科目	講義形態	週 時間	単 位	開 講 期	曜時限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通	頁
8331	011 二十世紀学	特殊講義	30	2	前期	集中	梶川伸一		◎現代史学 009	497
8330	012 二十世紀学	特殊講義	2	4	通年	金2	原田敬一		◎日本史学 008 現代史学 014	498
8331	013 二十世紀学	特殊講義	2	2	後期	木3	喜多千草		◎情報・史科学 007 科学哲学科学史 009 現代史学 016	499
8330	014 二十世紀学	特殊講義	2	4	通年	水4	小関 隆		◎西洋史学 008 現代史学 013	500
8341	015 二十世紀学	演習I	2	2	前期	水4	杉本淑彦			501
8341	016 二十世紀学	演習I	2	2	後期	水4	杉本淑彦			502
8343	017 二十世紀学	演習II	2	4	通年	水2	水野直樹		◎現代史学 021 東洋史学 021	503
8343	019 二十世紀学	演習II	4	4	後期	水4水5	福岡良明		現代史学 024 社会学 034	504
8344	020 二十世紀学	演習II	月末4	2	前期	木3・4金3・4	山登義明		現代史学 025	505
8344	021 二十世紀学	演習II	30	2	前期	集中	山登義明		現代史学 026	506
8343	022 二十世紀学	演習II	2	4	通年	木2	村上 衛		◎現代史学 020 東洋史学 022	507
8344	023 二十世紀学	演習II	2	2	前期	火4	坂本尚志		現代史学 017	508
8344	024 二十世紀学	演習II	2	2	後期	金2	吉村和真		現代史学 027	509
8344	025 二十世紀学	演習II	2	2	後期	木4	山口 誠		現代史学 028	510
8344	026 二十世紀学	演習II	30	2	前期	集中	Dick STEGEWERNIS		現代史学 029	512
M403	001 二十世紀学	演習 (隔)	2	2	通年	木3	杉本淑彦			513
M402	002 二十世紀学	演習	2	4	通年	金5	杉本・永井・小野澤		現代史学 001	514
M990	032 修士論文(二十世紀学)					集中	杉本淑彦			
8432	002 現代史学	特殊講義	2	4	通年	月3	小野澤 透		二十世紀学 002	515
8432	003 現代史学	特殊講義	2	4	通年	水4	Brian Hayashi		二十世紀学 003 ◎人間環境学研究科	516
8432	004 現代史学	特殊講義	2	4	通年	月2	石川禎浩		二十世紀学 004	517
8432	005 現代史学	特殊講義	2	4	通年	水2	高木博志		日本史学 012	518
8433	006 現代史学	特殊講義	2	2	前期	木4	力久昌幸		二十世紀学 008 西洋史学 012	519
8433	007 現代史学	特殊講義	2	2	後期	木4	力久昌幸		二十世紀学 009 西洋史学 013	521
8433	008 現代史学	特殊講義	2	2	後期	木2	高橋秀寿		二十世紀学 010 西洋史学 014	522
8433	009 現代史学	特殊講義	30	2	前期	集中	梶川伸一		二十世紀学 011	523
8432	010 現代史学	特殊講義	2	4	通年	木2	伊藤順二		◎西洋史学 005	524
8433	011 現代史学	特殊講義	2	2	前期	木1	佐藤卓己		◎社会学 011 二十世紀学 006 ◎教育学部	525
8433	012 現代史学	特殊講義	2	2	前期	金4	飯塚一幸		◎日本史学 010	527
8432	013 現代史学	特殊講義	2	4	通年	水4	小関 隆		◎西洋史学 008 二十世紀学 014	528
8432	014 現代史学	特殊講義	2	4	通年	金2	原田敬一		◎日本史学 008 二十世紀学 012	529
8433	015 現代史学	特殊講義	30	2	前期	集中	吉澤 誠一郎		◎東洋史学 015	530
8433	016 現代史学	特殊講義	2	2	後期	木3	喜多千草		◎情報・史科学 007 科学史・科学哲学 009 二十世紀学 013	531
8433	017 現代史学	特殊講義	2	2	前期	火4	坂本尚志		◎二十世紀学 023	532
8447	020 現代史学	演習II	2	4	通年	木2	村上 衛		東洋史学 022 二十世紀学 022	533
8447	021 現代史学	演習II	2	4	通年	水2	水野直樹		東洋史学 021 二十世紀学 017	534
8447	022 現代史学	演習II	2	4	通年	火5	永井 和			535
8447	024 現代史学	演習II	4	4	後期	水4水5	福岡良明		◎二十世紀学 019 社会学 034	536
8448	025 現代史学	演習II	月末4	2	前期	木3・4金3・4	山登義明		◎二十世紀学 020	537
8448	026 現代史学	演習II	30	2	前期	集中	山登義明		◎二十世紀学 021	538
8448	027 現代史学	演習II	2	2	後期	金2	吉村和真		◎二十世紀学 024	539
8448	028 現代史学	演習II	2	2	後期	木4	山口 誠		◎二十世紀学 025	540
8448	029 現代史学	演習II	30	2	前期	集中	Dick STEGEWERNIS		◎二十世紀学 026	542
M412	001 現代史学	演習	2	4	通年	金5	永井・杉本・小野澤		二十世紀学 002	543
M990	033 修士論文(現代史学)					集中	永井 和			544
D033	001 現代史学	博士論文指導			通年	水3	永井 和	博士論文指導		
8036	109 シュメール語(初級)	語学	2	2	通年	金1	森 若葉			545
8039	110 スワヒリ語(初級)	語学	2	1	前期	火3	井戸根 綾子		◎アフリカ地域研究研究科	546
8038	111 スワヒリ語(中級)	語学	2	1	後期	火3	井戸根 綾子		アフリカ地域研究研究科	547
8062	122 サンスクリット(2時間コース)	語学	2	2	通年	火2	横地優子			548
8046	123 サンスクリット(4時間前期コース)	語学	4	2	前期	月5木5	VASUDEVA, Somdev			549
8046	124 サンスクリット(4時間後期コース)	語学	4	2	後期	月5木5	VASUDEVA, Somdev			550
8068	125 ヘブライ語	語学	2	2	通年	火3	手島勲矢			551

科目 コード	専修・科目	講義形態	週 時間	単 位	開 講 期	曜時限	担 当 者	備 考	他専修・他学部(研究科)共通	頁
8070:126	イラン語(初級)	語学	2	2	通年	水4	森 茂男			552
8078:127	チベット語(初級)	語学	2	2	通年	月1	高橋慶治			553
8079:128	チベット語(中級)	語学	2	2	通年	金3	宮崎 泉			554
8080:129	アラブ語(初級)	語学	2	2	通年	木2	西尾哲夫			555
8082:130	ポーランド語(初級I)	語学	2	2	通年	金4	森田耕司			556
8086:131	ポーランド語(中級I)	語学	2	2	通年	金5	森田耕司			557
8033:132	ポーランド語(初級II)	語学	2	2	通年	金3	Bogna Sasaki			558
8086:133	ポーランド語(中級II)	語学	2	2	通年	金4	Bogna Sasaki			559
8091:135	現代インド語(ヒンディー)	語学	2	2	通年	金5	小松久恵			560
M601:001	研究科横断型教育科目(Bタイプ)	講義	2	1	前期		出口・水谷・伊勢田			561
M601:002	研究科横断型教育科目(Bタイプ)	講義	2	1	後期		伊勢田・水谷			562
M601:003	研究科横断型教育科目(Bタイプ)	講義	2	1	後期		浅原 達郎			563

《文献文化学専攻》 国語学国文学専修

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 木田 章義				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	国語音韻史								
【授業の概要・目的】									
奈良時代以降、現代に至る日本語の音韻、音声の変遷を検討する。 音声変化や音韻体系の構築、具体的音声の理解などを深める。									
【授業計画と内容】									
奈良時代には上代特殊仮名遣という現象があり、日本語の歴史の中でも特殊な音韻体系を持っていた。その体系の表す意味を探り、奈良時代の音韻体系を明らかにする。平安時代の音韻体系は奈良時代から大きく変容したが、その体系を再構し、その理由を考える。そして、鎌倉、室町、江戸、現代へとその変化をたどってゆく。 日本語は変化の少ない言語であるため、変化した現象を中心に論じることになる。 多くの資料があるが、それらをどのように処理すべきかという点もこの授業の眼目である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
成績は年度末のレポートによって評価する予定である。ときどき授業中に課題を出す。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 大谷 雅夫				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	萬葉集研究								
【授業の概要・目的】									
萬葉集にかかわる諸問題、その訓詁、中国文学の受容と変容、また後世の和歌との比較など、さまざまな問題について考える。									
【授業計画と内容】									
以下の各課題について1～4週の授業をする予定。ただし、この順序で講義するかどうかは未定。 一、巻八の巻頭歌、志貴皇子の御歌「いはばしる垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも」と普通訓読されている歌を読解する。 二、志貴皇子の御歌を『和漢朗詠集』が「いはそそく垂氷の」の形で収録することを手がかりに、萬葉集と古今集以降の間の季節感の相違を考える。 三、萬葉集、書名の問題。 四、表記のさまざま。 五、誤写の問題。 六、萬葉集の歌の特色について考える。契沖、歌ははかなく詠む、歌人は色を愛すの言を手がかりにして。 七、相聞歌を読む。 八、挽歌を読む。 九、自死する女性の歌を読む。 十、柿本人麻呂の「古にありけむ人も我がごとか妹に恋ひつつ寝ねかてずけむ」。永遠をよむことについて、後世の和歌に及ぶ。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主として学期末に課するレポート試験による。授業の折々に小レポートを課することもあり、それをも参照する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 須田 千里				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	近代文学の注釈的研究								
【授業の概要・目的】									
<p>山田美妙・泉鏡花の小説を読むことを通じて、明治文学について理解を深めることを目標とする。</p> <p>山田美妙は言文一致の「です・ます」体を創出したことで著名だが、こうした初期以外の文学作品については研究が進んでいない。この講義では、本格的な時代小説や少年文学、滑稽小説が目立つ明治20年代後半の作品を中心に精読する。</p> <p>後期は、泉鏡花の作品中、あまり論文が書かれていない作品をいくつか取り上げて精読する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>下記の内容について1～3週で講義を行う予定。授業の進行に応じて、内容に若干出入りするところがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、山田美妙の経歴、文学的特徴。 2、『雪折竹（利休と太閤）』 3、『猿面冠者』 4、『雨の日くらし』 5、『千里駿馬之助（徳川初年時代小説）』 6、『兜菊』 7、『丸二ツ引新太平記』 8、『家庭教育 園の二葉』 9、『みゝずばれ』 10、泉鏡花の経歴、文学的特徴。 11、『化銀杏』 12、『錦帯記』 13、『柳小島』 14、『X 螻螂鯨鉄道』 15、『怪語』 16、『笈摺草紙』 17、『梟物語』 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期末と後期末の各レポートの点数の平均点。単位の数え間違いなどにより卒業が懸かっている場合、締め切り後のレポートは受け取らない。									
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

国語学国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

積極的な授業参加、発言を希望する。

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 岡島 昭浩				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	国語学史からみる国語史								
【授業の概要・目的】									
<p>日本語の研究史・意識史、日本における言語の研究史を通して、日本語の歴史をどのように見ることが出来るのか、ということについて、音韻研究史を中心に講じる。 日本語を観察するとはどういうことか、言語はどのように研究されたか、そしてそれらはどのように発表・受容されたのかを見る。 過去の日本語観察を後世の目で見ることを通して、現在の日本語観察についても、評価できるような目を養うことができるようになるはずである。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>下記の課題について、1課題あたり1～3週の授業をする予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 韻鏡研究と字音研究 ・ 韻鏡研究と日本語音研究 ・ 韻鏡研究と音図研究 ・ 韻鏡と通俗 姓名判断 ・ 韻鏡・音韻学と通俗 早口 ・ 韻鏡・音韻学と音声芸術と訛音 ・ 韻学・音韻学と辞書 ・ 辞書と語の収集・記述 ・ 和漢対照と韻学・字音 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末のレポートと、後期開始時まで提出してもらう小レポートを中心に採点するが、随時のメールなどによるコメント・質問等を平常点として加味する。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

国語学国文学(特殊講義)(2)

(関連URL)

<http://kokugosi.g.hatena.ne.jp/>(雑多な情報だが、国語学史・国語史情報の手がかりとなる。)

(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))

聞きたいことなどは、メールでお聞きください。

スパムに紛れないように、きちんと題名をつけて (授業に関わるものであることがわかるような題名)、なるべく携帯ではないアドレスからお出してください。やむを得ず携帯から出す場合には、返事を拒否しないような設定にしてください。

私のメー

ルアドレスは授業中に示します。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	京都府立大学 文学部 教授 母利 司朗				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	御伽草子と仮名草子								
【授業の概要・目的】									
<p>近世前期に流行した読み物としての物語草子は、文学史上、仮名草子と呼ばれることが一般です。しかし、それらはすべてが当時作られたものばかりというわけではなく、前代に作られたものと当代出来の草子がおおらかに混じり合っていたというのが実態に近いでしょう。</p> <p>本授業では、近世前期に流行した典型的な物語草子である『ふくろう』『小男の草子』『薄雪物語』『美人絵尽』などの作品を取り上げ、近世前期における物語草子研究をとりまく諸問題への理解を深めていきます。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、実際の作品を読み解く時間を適宜はさみながら、1課題あたり1～6週の授業をする予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近世前期の物語草子 御伽草子・仮名草子・浄瑠璃本・舞の本 2. 写本と版本 3. 上方と江戸 4. 『ふくろう』講読 5. 『小男の草子』講読 6. 『薄雪物語』講読 7. 『美人絵尽』講読 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポートを基にして評価する。									
【教科書】									
授業時間内に適宜プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 清水 康次				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	芥川龍之介の文学								
【授業の概要・目的】									
<p>近代文学の研究にはいくつかの方法があり、研究の目的やテーマによって行う作業も発想も異なってくる。芥川龍之介の作品を題材とし、1つ1つの方法にどのような手続きが必要で、何が明らかになってくるのかを理解し、それらの方法に習熟していくことが授業の目的の1つである。</p> <p>芥川は、日本近代文学において、短篇小説という形式を確立し、さまざまな実験を行った作家である。その緊密な作品世界の形成には、西洋文学、中国文学、日本古典文学、日本の同時代の文学が関わる。この大正期を代表する作家と作品にさまざまな方向から光を当て、芥川文学の特質を明らかにしていくことが、もう1つの授業の目的である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業を行う。受講生の発表する授業も数回組み込みたい。なお、課題は状況に応じて、順序・内容を変更する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「羅生門」の構造と主題 2. 「羅生門」の形成過程 3. 「鼻」の構造と主題 4. 「芋粥」の形成過程と主題 5. 初期作品の創作方法 6. 文壇デビューまでの道のり 7. 「偷盗」という作品 8. 「戯作三昧」の世界 9. 語りの方法の採用 10. 「地獄変」の構造と主題 11. 「奉教人の死」の典拠と主題 12. 語りの方法によるさまざまな実験 13. 「藪の中」の問題 14. 書誌とテキストクリティック 15. 作品論とテキスト論 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
各期末のレポートに平常点を加味する。									
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

国語学国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業はプリントを配布して進めるが、ちくま文庫本『芥川龍之介全集』第1巻、第2巻を購入して、適宜授業に持参することが望ましい。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	名古屋大学 大学院文学研究科 教授 塩村 耕				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	西鶴研究								
【授業の概要・目的】									
<p>西鶴文学を、できるだけ同時代の文脈で読むことをめざす。特に、作家の伝記、書物や出版をめぐる状況を勘案する。</p> <p>概要は、1) 西鶴の俳諧師としての生涯を概観し、残された書簡の精読を通して、その人間像に迫る。</p> <p>2) 最後に発表した『世間胸算用』及び遺稿集を中心に、いくつかの作品を講読し、西鶴が文学史上、何を達成したのか、考える。</p> <p>3) 出版史及び書誌的研究がどのように西鶴研究に資するのか、具体的に考える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1～4回：西鶴の伝記資料を読む。</p> <p>第5～10回：西鶴の主な作品の講読。</p> <p>第11～14回：出版史と書誌学を実習的に学ぶ。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポート(70%)・出席率と授業参加時の積極性(30%)									
【教科書】									
<p>プリントを配布する。</p> <p>すべて版本や、書簡などの文書類の写真を用いるので、くずし字読解に対する強い意欲を要する。</p>									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 大槻 信				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	漢籍訓点資料の研究								
【授業の概要・目的】									
漢籍訓点資料をとりあげ、演習形式で研究を行う。訓点資料についての基礎知識を獲得し、訓点資料を日本語史の研究資料として使用するための方法・視点を学ぶことを目的とする。授業では、調べ、考える楽しさを重視する。									
【授業計画と内容】									
日本では、漢文を読解するための補助手段として、漢文本文に返点・仮名・ヲコト点などを記入することがあった。返点により語順を示し、仮名によって訓や音を表す。ヲコト点は字画の様々な位置に点や線を施すことで、助詞・助動詞のような助辞や活用語尾などを表示した。これらの注記・符号を「訓点」、訓点が施された文献を「訓点資料」と呼ぶ。 本演習では、唐代の伝奇小説『遊仙窟』の訓点本（陽明文庫本）をとりあげ、その研究を行う。具体的には、資料をもとに訓み下し文を作成し、その過程で、書誌・表記・音韻・文法・語彙といった種々の方面から検討を加える。日本語史、訓読語、古辞書、伝奇小説に興味がある人には面白いものとなる。年度はじめ数回をイントロダクションと訓点資料入門にあてる。その後、受講者による発表形式を進める。発表者は半丁分（洋本の1ページに相当）を担当する。授業では受講者からの積極的な発言を歓迎する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
成績は発表によって評価し、授業中の発言等を平常点として加味する。									
【教科書】									
資料のコピーを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 吉田金彦・築島裕・石塚晴通・月本雅幸編 『訓点語辞典』（東京堂出版、2001年） その他は授業時に指示する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講者全員が該当部分の訓み下し文を作成して授業にのぞむことが期待されている オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 金光 桂子				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	室町物語を読む								
【授業の概要・目的】									
室町物語のうち、伝説的歌人、小野小町の生涯を描いた作品を精読する。本文の正確な読解に基づきつつ、典拠との比較対照を通して、作品の独自性を解明する方法を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
受講者は一人ずつ担当部分を決め、テキストの翻字、語釈、現代語訳、典拠との比較を行う。その上で、疑問点や問題点を指摘し、調査・考察した結果をレジュメにまとめ、発表する。発表者以外の受講者もあらかじめ予習し、積極的に質問や意見を述べる事が望まれる。典拠として参照すべき文献は、和歌、漢籍、謡曲、古典注釈書など多岐にわたる。他の発表者と同じ文献を調べるだけでは済まないことも多いので、柔軟な発想と緊張感をもって取り組んでほしい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表と平常点（授業中の発言等）による。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
くずし字の文献を扱うため、「国語学国文学講読」を履修済み又は受講中であることが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	国際交流推進機構 教授 森 真理子				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	蕪村の連句								
【授業の概要・目的】									
蕪村を中心とした俳壇の連句（歌仙）を精読し、安永期の俳諧のあり方を、諸資料を通して明らかにしていく。また同時期の作者の俳文・俳論を講読し、俳諧関係の資料の扱い方や江戸期の俳諧の基礎的知識を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
蕪村の連句は蕉門連句に比べて数は少ないとされるが、俳諧史上見逃すことのできないものである。蕉風の復興を目指したと言われる蕪村とその一派の人々の、伝統の受容の方法とともに、安永期の俳諧の新しい展開のあり方と特徴を、連句及び俳論その他の資料を通して考えていくことを授業の眼目としたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
毎時間の発表と最終レポート提出を基準として、評価する。									
【教科書】									
コピー配布									
【参考書等】									
（参考書） 資料は多岐にわたるので、適宜講義中に指示する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎時間の発表内容を重視するので、担当箇所の文献調査を丁寧に行なうこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 木田 章義				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	演習
題目	国語学研究法								
【授業の概要・目的】									
古い日本語がどのようなものであったのかを、具体的な資料を分析することによって、明らかにする。同時に、資料としてどのようなものがあるのか、資料をどのように分析するのかを学ぶ。									
【授業計画と内容】									
<p>明治以前の資料の中、主としてその時代の言語状況を考察することができる資料を選び、それぞれの文献について考察してゆく。国内資料だけではなく、外国資料も重要な証拠となることが多いので、キリシタン資料や朝鮮資料などの外国資料も対象とする。</p> <p>受講者は、担当する資料を決め、それを分析して、その時代の日本語がどのようなものであったのかを明らかにし、その結果を発表する。どのような授業の進め方になるかは、受講者の態度によって大きく変わる。調査が不足していれば、一定レベルに達するまで何週も発表することになるので、第一回目の発表をしっかりと行うこと。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表かレポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) なし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 大谷 雅夫				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	演習
題目	国文学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
出席者が輪番に発表者となり、また司会者となって研究発表会を行う。相互批判によってそれぞれが自らの研究を深化できるような授業としたい。									
【授業計画と内容】									
全員が輪番で発表者となり、司会者となる。もちろんそれ以外の出席者も発表に対して何らかの発言をすることが求められる。発表、司会の順番など、すべて出席者の相談によって決定することとする。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表と発言等による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者氏名	文学研究科 教授 木田 章義			
						文学研究科 教授 大谷 雅夫			
						文学研究科 准教授 大槻 信			
						文学研究科 准教授 金光 桂子			
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水1	授業形態	演習
題目	修士論文指導								
【授業の概要・目的】									
修士論文の作成についての指導を行う。									
【授業計画と内容】									
最初の授業で、出席者はそれぞれの修士論文の構想を述べて、教員の指導を受ける。その後は個別の指導を行い、適当な時期に中間発表会を催し、各人は修士論文の中間的な成果について発表する。今年度修士論文を提出する学生はかならず受講しなければならない。									
【履修要件】									
今年度末に修士課程を卒業見込みの者。									
【成績評価の方法・基準】									
中間発表による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

中国語学中国文学専修

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 木津 祐子				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	清代官話研究史：琉球								
【授業の概要・目的】									
<p>琉球の久米村通事が用いた通事書を題材に、官話学習がどのように行われていたかを探る。具体的には『人中画』『百姓』を取り上げ、その本文と、本文に通事が施した注記を読解する。注記に引用される文献からは、当時の中国書籍の流通状況や利用の実態が、また音注からは、彼らが運用した官話の地域性が浮かび上がることが予想されるが、それらを精読することにより、官話学習のシステムが清代琉球においてどのように成立・維持されていたか、そこにはどのような普遍性が潜むのかについて、理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>『人中画』『百姓』は、京大所蔵本と天理大学所蔵本を用いる。講義部分と受講者による発表部分の二方式を採用する。講義部分は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：琉球通事の歴史 2：通事編纂の通事書 3：『人中画』『百姓』の特徴 4：他の通事書との比較 <p>を主に論ずる。受講者の分担発表は、主に本文と注記部分について解読し、それを踏まえ、特に注記の意味と他本との関係について、全体で検討を行う。</p>									
【履修要件】									
中国語を履修していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点及びレポート。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 緑川 英樹				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	唐宋詩比較論の系譜								
【授業の概要・目的】									
「唐詩」と「宋詩」の比較をめぐるさまざまな言説を検討し、中国文学批評の特徴と歴史的展開について理解を深める。今年度は主に宋代の詩学文献をとりあげる。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について、一つの課題あたり3～4週の講義をおこなう予定。(1) 錢鍾書『談藝録』「詩分唐宋」、(2) 歐陽脩『六一詩話』、(3) 張戒『歲寒堂詩話』、(4) 江西詩派の唐詩観、(5) 嚴羽『滄浪詩話』、(6) 劉克莊『後村詩話』、(7) 方回『瀛奎律髓』。なお、受講者の人数や状況を見たうえで、部分的に演習形式を交えることもある。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点40%、期末レポート60%で評価する。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 高田 時雄				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	日本所蔵漢籍の歴史と現況								
【授業の概要・目的】									
<p>この講義では、日本における漢籍収蔵の歴史と現状を概観する。前近代の東アジアにおいて、漢籍（中国典籍）はあらゆる知的営為の源泉であった。日本には今日でも数多くの善本（古写本及び古刊本）が収蔵されており、その収蔵の歴史を跡づけることで、日中文化交渉の特質を明らかにする。到達目標は以下の二点。</p> <p>日本の漢籍収蔵の歴史的背景を理解する。 日本の漢籍収蔵の現状について基本的知識を獲得する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>漢籍の概念及び域外所蔵漢籍の価値について解説する。 日本所蔵の唐鈔本及び旧鈔本について解説する。 金澤文庫と足利學校の果たした役割を論じる。 日本所在の大蔵経と仏教典籍について概観する。 徳川幕府の蔵書について、その歴史的沿革を解説する。 徳川時代の諸藩の蔵書及びその変遷を概観する。 近代以前の個人の蔵書と文庫について解説する。 近代における学者の所蔵および大学研究機関の蔵書の特質を解説する。 漢籍調査の方法を解説し、注意すべき点について述べる。 漢籍目録と漢籍データベースの現状について解説する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末のレポートによる。									
【教科書】									
原則としてPPTを用いる。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 井波 陵一				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火1	授業形態	特殊講義
題目	目録法と分類法								
【授業の概要・目的】									
漢籍目録の作成要領および四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。									
【授業計画と内容】									
『漢籍目録 カードのとりかた』に基づき、目録法について解説する。 1. 漢籍の定義 2. カード作成の目的 3. 書名 4. 巻数 5. 撰者 6. 鈔刻(出版事項) 『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説する。 1. 経部 2. 史部 3. 子部 4. 集部 5. 叢書部									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート。									
【教科書】									
『漢籍目録 カードのとりかた』(朋友書店) 『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』 『漢籍目録 カードのとりかた』は各自で購入すること。『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』は分類法の講義を行う際に配布する。なお、授業では目録法の講義を先に行う。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
中国哲学史と共通。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 池田 巧				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	中国における記述言語学の黎明								
[授業の概要・目的]									
<p>現代言語学の方法論で中国語の歴史と諸方言、周辺諸語の記述研究に偉大な足跡を残した趙元任、羅常培、李方桂という三人の研究者を取り上げ、その生涯と時代背景を参照しながら、彼らの業績とその継承と発展を概観する。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>趙元任、羅常培、李方桂は、中国の記述言語学および歴史言語学の基礎を築いた三巨星である。彼らの事績を辿りつつ、彼らが近代言語学の方法論を如何に導入し、東洋の伝統的な言語学に新たな光をあて、いかなる研究上の発見と貢献をしたのかについて概観する。1テーマごとに2回の講義を目安とするが、テーマによっては講義回数に増減が生じる可能性がある(テーマは順不同)。</p> <p>(1) 中国音韻学研究の翻訳 (2) 趙元任の事績 (3) 中国語方言研究 (4) 中央研究院の活動 (5) 羅常培の事績 (6) 歴史言語学への貢献 (7) 李方桂の事績 (8) 上古音研究 (9) タイ諸語の研究 (10) チベット諸語の研究</p>									
[履修要件]									
中国語についての基礎的知識を有すること。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点による。授業への出席と課題への取り組みを総合評価する。									
[教科書]									
必要な資料を授業時に配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 参考文献は多岐にわたるので、授業時に適宜指示する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	初唐駢文選読								
【授業の概要・目的】									
<p>駢文は中国語の特性と生かした文体である。内容空疎な美文とも批判されるが、古典世界の終焉まで作成され続けた。その完成期とされる六朝末期から初唐の作品を選読し、その特色やその文学性について考える。</p> <p>中国古典世界の一翼を担った散文文学の実態を理解する。</p>									
【授業計画と内容】									
駢文とは何か。駢文と古文。駢文と韻文。六朝期の駢文。徐陵と信。初唐の各種ジャンルの作品から駢文の特色を探る。駢文批判。駢文と古文。以上のテーマを2回から3回の授業で行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび平常点									
【教科書】									
プリント配布									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 平田 昌司						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	演習
題目	黄侃『文心雕龍札記』								
【授業の概要・目的】									
中国古典文学理論として最も体系的である『文心雕龍』の20世紀における受容の例を読むことで、(1)古典文学理論をあつかった体系的論述の読解力を高め、あわせて(2)章炳麟・劉師培・黄侃らおよび近現代中国の研究者による古典文学論への理解を深める。									
【授業計画と内容】									
授業では、章炳麟・劉師培らの学説を視野に置きながら、黄侃『文心雕龍札記』を中心に読む。『文心雕龍』に関連する現代中国の研究論文も多読する。原典の1篇あたり1～3回程度の授業をあて、19～20世紀の学者たちが古典からどのような観念をみちびきだし、近代中国の文体を作りだそうとしたかを検討する。出席者には、指定された原典あるいは研究論文の読解・注釈・訳文の作成を求める。									
【履修要件】									
中国語（古典・現代）についての一定水準の学力、中国古典文学についての知識と関心を有すること。									
【成績評価の方法・基準】									
授業担当のできばえ・質疑応答・学年末の研究レポート（400字原稿用紙20枚程度の分量）によって評価する。テキスト読解・要点把握の予習が毎回必要。授業時には積極的な発言を期待している。									
【教科書】									
黄侃『文心雕龍札記』（上海古籍出版社）（解説（導読）は開講までに自分で読んでおくこと。） 黄霖整理集評『文心雕龍』（上海古籍出版社）（「章炳麟講授『文心雕龍』記録稿兩種」を含む。） 夏曉虹、王風 等著『文学語言与文章体式 從晚清到“五四”』（安徽教育出版社）									
【参考書等】									
（参考書） 徐復觀『中国文学論集』（台湾学生書局）（とくに「文心雕龍浅論(一)～(七)」などに見える『文心雕龍札記』批判。） 王元化『文心雕龍講疏』（上海古籍出版社） 劉永濟『文心雕龍校釈 附徵引文録』（中華書局）（徵引文録のない版でもよい。）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
興膳宏「中国における文学理論の誕生と発展」（興膳宏『中国文学理論の展開』2008年）、周勛初「梁代文論三派述要」、徐雁平「在研究中国伝統學術的新途徑上摸索前進 周勛初教授訪談録」（『文藝研究』2011年第6期）を読んで出席することをすすめる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 木津 祐子				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	『朱子語類』選読								
【授業の概要・目的】									
南宋の思想家朱熹の教えを学生が記録した『朱子語類』のうち、巻八・巻九を読む。これらは「総論為学之方」「論知行」に相当するが、短い言葉に朱熹の教えのエッセンスを盛り込む重要な巻である。これらを会読することを通して、朱熹の学問や思想のみならず、彼の言語運用上の特徴など、当時の言語表現についての理解を深めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
<p>担当者により訳注を準備して、その検討しながら読解していく。</p> <p>前期は巻八、後期は巻八が終了次第、巻九に入る。巻八は巻十・十一の「読書法上下」とも深い関係を有するので、担当者はそれらの巻にも目を配ること。また、記録者である弟子の他の記録などにも、可能な限り注意を払ってほしい。</p> <p>日本語訳を作成する際には、近代語文法に考慮した上で、決して意識で読み進むことのないよう期待する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点により評価。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 緑川 英樹				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	演習
題目	『文選』選読								
[授業の概要・目的]									
中国古典文学における最も重要なアンソロジー『文選』、その作品を精密に読むことによって古典詩文の読解力を身につけ、六朝文学に対する理解を深める。									
[授業計画と内容]									
今年度は巻二十三「哀傷」から読み始める。毎回、一首の詩について担当者が詳細な訳注を準備したうえで、それをもとに受講者全員で討論してゆく。『文選』の旧注や既訳を参考にしつつ、新たな読みを提示することをめざしたい。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点（授業内での担当、発言）による。									
[教科書]									
『胡刻本文選』（藝文印書館ほか）									
[参考書等]									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 金 文京				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	演習
題目	敦煌変文講読								
【授業の概要・目的】									
<p>敦煌で発見された変文をはじめとする唐・五代の通俗文学作品、写本によって講読することにより、写本の字体、またその文体、語彙などの特徴について、理解を深め、あわせて内容の背景と伝播の問題についても説明する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1・2週：敦煌の通俗文学について 第3 - 7週 「王昭君変文」講読 第8 - 11週 「茶酒論」講読 第12 - 14週 「孔子項托相問書」講読</p>									
【履修要件】									
<p>漢文読解の基礎的能力を有することが望ましい。また演習形式で行うため、毎回受講者に担当、順番で訳注を作成することが求められる。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点。</p>									
【教科書】									
<p>使用しない 授業時にプリントを配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>毎回予習し、担当した訳注を必ず作成することが望まれる。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 〈英訳〉	中国語学中国文学演習 Chinese Language and Literature(Seminars)				担当者氏名	南山大学 外国語学部 教授 蔡 毅			
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木 4	授業形態	実習
題目	中文作文								
〔授業の概要・目的〕 本課程为上級汉语写作练习。上课时就某一写作方法先选一篇范文, 进行提问, 讲解难点, 分析“写作特色”, 并布置作文题目。希望听讲者通过一年的学习, 能做到文章大致通顺, 传情达意基本无碍。									
〔授業計画と内容〕 就某一写作方法先选一篇范文, 进行提问, 讲解难点, 分析“写作特色”, 并布置作文题目。下一次上课讲另一篇范文, 布置新的作文题目, 同时收回前一次作文, 带回批改。然后发还作文, 进行讲评, 分析篇章结构和遣词造句中存在的问题。平均两周读一篇范文, 写一篇作文。									
〔履修要件〕 听课学生应该获得三年以上正规的汉语训练。									
〔成績評価の方法・基準〕 平常点および試験									
〔教科書〕 范文适当介绍一些著名作家和学者的作品。									
〔参考書等〕 特になし									
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕 添削をおこなうため受講者数の上限は8名。中国語学中国文学専修の大学院生を優先。余裕がある場合は他専修も受け入れる。									

授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 平田 昌司 文学研究科 教授 木津 祐子 文学研究科 准教授 緑川 英樹				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水2 隔週2	授業形態	演習
題目	中国語学中国文学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
修士論文提出予定者および博士後期課程在学者を対象とし、研究論文執筆について助言をおこなうとともに、口頭発表・質疑応答能力を高める機会を設ける。あわせて、中国語による研究論文要旨作成の指導をおこなう。									
【授業計画と内容】									
隔週で開講する。修士論文提出予定者および博士後期課程在学者が、研究論文の内容について十分な質と量の発表資料を自ら準備し、それにもとづき口頭発表をおこなったのち、意見・質問に答える形式をとる。 担当するときには、(1)自分の専門領域以外の聴き手がいることに充分配慮し、研究の前提・主要論点・結論および引用原典を必要充分なだけ挙げた説明資料、(2)内容の中国語要旨(800字程度)を配布し、60分間で出席者に分かりやすく説明するものとする。これにより、独立して研究発表をおこなう能力を高めることが期待される。 配布資料をそのまま読み上げるのは避けること。									
【履修要件】									
中国語学中国文学専修所属の大学院生に限る。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（修士論文提出年度の口頭発表による。）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
担当する際には、必ず(1)口頭発表用資料、(2)中国語による論文要旨草稿を必要部数準備すること。 博士後期課程については、年次研究報告提出後、大学院生全員参加の合評会も開催する。PPTを用意してもよい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

中国哲学史専修

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	文献学研究								
【授業の概要・目的】									
<p>清朝の代表的な蔵書家である黄丕烈の讀書記『士禮居蔵書題跋記』を読みながら、清朝の文献学ならびに学術全般についての理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>黄丕烈の讀書記『士禮居蔵書題跋記』は、彼が購入したり譲り受けたりした書物に関して、そのテキストの来歴あるいは他のテキストとの校勘の記録、さらには購入時のさまざまな逸話的記録などが示されており、当時の蔵書家達の書物に対する意識を知るには格好の書物である。基本的に講者が読んでいくこととするが、出席者のメンバーから希望があれば、一部を学生諸氏に読んでもらうことも考えている。今年度は、潘祖蔭の序文から始めて、經部、史部と進む予定。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。(論述の内容について、使用した資料の読解、分析の仕方を含めて総合的に判断する。レポートが100%。)									
【教科書】									
こちらで『士禮居蔵書題跋記』のコピーを準備する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業時に適宜指示する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>中国の文献学を理解するためには、広く漢籍に対する理解と、唐本(中国刊線装本)に対する視覚、触覚等の感覚的な「慣れ」が必要となるので、授業外に出来る限り文学研究科図書館の書物を手に取ることが必要となる。美学美術史学と共通。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 武田 時昌				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	類書の思想史的考察								
【授業の概要・目的】									
<p>中国では膨大な量の書物が著述されたが、そのなかで類書と総称される書物群は、様々な書物から語句や文章を抄出して類別したものであり、異色の存在である。その用途は、皇帝が社会的教養を学ぶ帝王学の書であったり、詩文作成のための情報ツールとして活用されたり、あるいは庶民の生活便利帳だったり、多種多様であるが、そこに中国的な「知」のあり方を具体的に窺うことができる。そこで、類書の思想史的考察を通して、中国的教養の特色を構造的に把握し、かつての日本人の教養基盤を明確にし、漢籍が文化形成に与えた影響を考える。受講者に設定した最終的な課題は、東アジア世界における「教養ある人間」とはどのような人物像であるのかについて、遡及的な考察を踏まえつつ、今日の問題として複眼的に思索するところにある。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期は類書の種類とその歴史を概観した後に、主要な著作を取り上げて、内容的な特色を窺い、それがどのように読まれたのかを考察することで、中国的教養の形成に類書が果たした役割を探る。後期は、日本にもたらされた類書が漢文学的な素養としてどのような作用を発揮したのかを、伝存する資料を読解しながら具体的に検討する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席よりも自主レポート等の学習意欲を重視する）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>旺盛な好奇心と豊かな発想による多種多様な読書活動を通して、文献読解と哲学的思索の界域を自由遊泳することを要望する</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 井波 陵一				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火1	授業形態	特殊講義
題目	目録法と分類法								
【授業の概要・目的】									
漢籍目録の作成要領および四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。									
【授業計画と内容】									
『漢籍目録 カードのとりかた』に基づき、目録法について解説する。 1. 漢籍の定義 2. カード作成の目的 3. 書名 4. 巻数 5. 撰者 6. 鈔刻(出版事項) 『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説する。 1. 経部 2. 史部 3. 子部 4. 集部 5. 叢書部									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート。									
【教科書】									
『漢籍目録 カードのとりかた』(朋友書店) 『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』 『漢籍目録 カードのとりかた』は各自で購入すること。『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』は分類法の講義を行う際に配布する。なお、授業では目録法の講義を先に行う。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
中国語学中国文学と共通。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 船山 徹				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	注釈書に見る中国六朝時代の学術仏教								
【授業の概要・目的】									
<p>仏教教理学史形成の実態を知る上で注釈書は重要である。注釈は何ら個性のない単なる語句の注解である場合も皆無ではないが、多くの場合、注釈家は經典への注釈という形を借りて、仏教に対する自らの理解や他説との相違を様々に表現した。時に注釈は独立した著作よりも雄弁である。この授業は中国の六朝時代における仏教の注釈の特徴を扱う。仏典の様々な書物形式の中で注釈という形態にいかなる特徴があるか、インド仏教と比較して中国の注釈にはどのような特徴があるか、六朝時代の注釈書にはどのような特徴や制約が認められるかを考える。また注釈作成における学派と他説の採用、剽窃、個性の問題などもあわせて検討する。とりわけ五世紀から五世紀前半頃の南朝における『涅槃経』に対する一注釈を中心として具体的検討を試みる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業は以下の課題について具体的に検討を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教において注釈書を読むことはなぜ必要か ・ インド仏教における注釈書の概観と特徴 ・ 中国仏教における早期の注釈書をめぐって ・ 鳩摩羅什およびその弟子による注釈書 ・ 南朝仏教における注釈書の特徴（とくに『涅槃経』と『成実論』との関係） ・ 6世紀前半の注釈書『大般涅槃経集解』より知られる南朝の学術仏教（注釈の一部を精読する。内容的に関連する他の文献の記述も比較検討する。） ・ 中国仏教における注釈書の種類とその特徴 <p>上記各課題の説明と精読とを合わせて14回を予定。</p>									
【履修要件】									
漢訳仏典を読むための最低限度の基礎知識を有していること									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（授業内での発言と小レポート）									
【教科書】									
授業中にプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>仏教学と共通。授業に関係する事柄であれば質問等はいつでもどんなことでも歓迎します。授業初回到質問等の問い合わせ先メールアドレスを知らせます。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	東京大学 大学院人文社会系研究科 教授 川原 秀城				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	東アジア思想史概説								
【授業の概要・目的】									
東アジアの思想、特に朝鮮王朝期の思想を概観する。真の意味の東アジア思想の解明には、朝鮮思想の分析を欠くことができないとの認識にたつ。									
【授業計画と内容】									
1.朱子学の伝来 2.儒仏交代期の朱子学 3.朱子学の隆盛 4.退溪哲学 5.栗谷心学 6.宋時烈 7.朝鮮実学 8.朝鮮末期の思想									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
使用しない 朝鮮思想史研究は日本にあっては絶学にちかい。したがってよい教科書はない。									
【参考書等】									
(参考書) 参考書としては 1.姜在彦『朝鮮儒教の二千年』(朝日選書), 2001 2.裴宗鎬著・川原他訳『朝鮮儒学史』知泉書館, 2007 3.川原・金光来編訳『高橋亨朝鮮儒学論集』知泉書館, 2011 などを紹介したい。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	日知録集釋								
【授業の概要・目的】									
<p>清朝考証学の代表的な著作、『日知録』を精読する。出典に細かく当たりながら読むことによって、中国古典学に対する理解を深めるとともに、漢文読解力を養成する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>顧炎武の代表的著作『日知録』に、黄汝成が注をつけた『日知録集釋』をテキストとして、注釈も含めて精読する。本年度は巻十三の「除貪」から始める。授業は、各条毎に、学生諸氏に訳注を準備してもらい、授業時に参加者全員で内容等について議論検討する、という形式を取る。出典に確実に当たることを重視し、本文の文章や語句のみならず、集釋を含めたすべての典拠について、もとの書物（紙で出来た書物）を調べる作業を重視する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。（漢文読解、典拠の調査等を総合的に判断する。訳注作成ならびに毎時間の発表が100%。）									
【教科書】									
テキストはコピーして配布する（道光版『日知録集釋』）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>内容の項目に書いたように、典拠については紙のテキストに必ず当たるという作業を重視するので、参加者には毎時間、相当程度の時間にわたる予習が要求される。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	東北アジア古代中世史の研究								
【授業の概要・目的】									
10世紀以前の内蒙古・東北の諸民族につき、中国文献を主な素材として通時的に概観する。この時期の歴史的推移、中国文献の批判的分析の方法論、考古学的資料の利用法などを理解する。									
【授業計画と内容】									
10世紀以前の内蒙古・東北の諸民族は、基本的に自らの文字記録をもたず、かれらについての情報は、中国文献の記述から獲得するしかないが、記述の絶対量は零細で、かつ「華夷思想」に基づく偏見も少なくない。昨年度扱った3世紀以前の推移を整理したのち、4世紀以後の鮮卑ついで契丹の推移を概観しつつ、関連する正史四夷伝などの中国文献を、文献学的方法および考古学的資料を全面的に援用することによって批判的に分析し、この時期のユーラシア東部の歴史的推移を再構築する。韓半島・日本列島の状況をも見渡し、ナショナル・ヒストリーとしての「中国史」を相対化した「東洋史」的視点を再確認する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる（受講生は授業の感想を中心とした小レポートを毎回提出する。期末レポートと小レポートを総合的に評価する）。									
【教科書】									
講義資料は担当者が準備する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 麥谷 邦夫				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	道教思想資料								
【授業の概要・目的】									
六朝後半から隋・初唐にかけての時代は、道教が仏教教理の影響を受けつつも、自己の教理体系を形成・展開していった重要な時期にあたる。この時期の道教の思想・教理を理解するための基本的文献を選んで精読する。									
【授業計画と内容】									
前半は、昨年度に引き続き唐代の代表的道士のひとりである呉#31584;の『玄綱論』を読む。今年度は、「畏神道章」第二十六から始める。担当者が作成した詳細な訳注をもとに、参加者全員で討議するというかたちで精読するとともに、思想史的に重要なことがらについては、適宜解説を加えながら進めていく。中国古典文読解の基本にのっとり、担当者は、個々の語句の典拠を確実に調査するとともに、思想史的文脈にも配慮して訳注を作成することが求められる。一回に読み進める分量は多くても二葉程度であるので、担当者任せにせずに参加者全員がそれなりの下調べをしていくことが必要である。 後半は、六朝隋唐時期の道教教理のトピックを選んで関連資料を講読する。									
【履修要件】									
中国古典文の読解力を要する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。(中国古典文読解力、典拠の調査等を総合的に判断する。毎時間の発表が100%)									
【教科書】									
正統道藏所収『玄綱論』の該当部分のコピーを用意すること。									
【参考書等】									
(参考書) 授業時に適宜指示する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
内容の項目に書いたように、詳細な訳注作成のため、担当者には相当程度の時間にわたる予習が要求される。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	総合地球環境学研究所 木下 鉄矢 特別客員教授				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	中庸章句・朱子語類								
【授業の概要・目的】									
<p>朱熹の『中庸章句』第一章および『朱子語類』卷第六十二「中庸一」以下を精読します。朱熹の思索がいかなる活動であったのか、その語彙選択の深層、発想の現場、その理路の主軸と展開を「読み」の遂行の中で生き生きと発現せしめる「読みの現場」を自ら展開しうる能力を養うことを目的とします。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>本授業の計画・内容は朱熹の思索・注解テキストを精密に生き生きと読むことに尽きる。しかし、そのためには何が必要か、どのような点に注意しなければならないか、そのような「読みの現場」の展開を支える「読みの技法」についても述べる予定である。「読みの技法」を「テキスト内在」の技法と「テキスト外在」の技法に分け、内在的技法としては通常語彙にかかる語彙選択の地形図を実証的、意識的に掘り起こして行く方法意識が重要であり、外在的技法としては個人史、時代、歴史と重畳するテキストに外在的な大文脈にテキストを常に置いて眺めるという心得が重要である。このことを具体的なテキストの「読みの現場」を展開するなかにおいて述べる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（積極的に下調べをしているか否か。50%）および注解レポート（通年4回程度。50%）による。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
<p>（参考書） 木下鉄矢 『朱熹哲学の視軸 続朱熹再読』（研文出版）ISBN:ISBN978-4-87636-301-8（2009年） 木下鉄矢 『朱子－ はたらき と つとめ の哲学』（岩波書店）ISBN:ISBN978-4-00-028287-1（2009年）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>十分な下調べを行うことが必要です。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 〈英訳〉	中国哲学史演習 History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 5	授業形態	演習
題目	国朝文録								
【授業の概要・目的】									
清朝の文章を集めた『国朝文録』を講読する。綿密な出典調べとともに、精確な漢文読解の能力を身につける。									
【授業計画と内容】									
『国朝文録』序跋篇を読む。訳注は作らずに、その場で典拠などの注釈を口頭で行ってもらい、その後、出席者で討論する。									
1. 理学宗伝序 2. 孫徵君先生文集序 3. 刑書纂要序 4. 王山長集序 5. 古今五服考異序 6. 高子遺書後序 7. 汪氏族譜序 8. 歴代宅京記序 9. 張仲誠先生講録史学源流鈔合序 10. 三魚堂四書大全自序 11. 陸桴亭思辨録序 12. 功行録序 13. 経典釈文跋 14. 詩所序 15. 書韓子原道後									
原則的に一回に一つの文章を読む。が、長短いろいろなので、おそらく必ずしもその通りにはいかず、一応上記の文章を順番に読んでいく予定としておく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席、平常点が 100 パーセント。									
【教科書】									
なし									
【参考書等】									
授業時に指示する。									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
綿密な予習が必要である。									
なお、前期の間に何度か補講を行う。第一回は 6 月 13 日。会読箇所は「理学宗伝序」。第二回は 6 月 27 日。その後の予定は追って連絡する。									

インド古典学専修

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies(Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	パーシュパタ・ヨーガ								
【授業の概要・目的】									
<p>最古のシヴァ教プラーナ文献の一つである『スカンダプラーナ』の最後の10章(174-183章)はパーシュパタ・ヨーガの記述にあてられている。パーシュパタ派はタントリズムが主流となる以前の初期のシヴァ教の修行者集団の一つであり、このパーシュパタ・ヨーガの記述にはタントラの的ヨーガの萌芽をみることができる。今回の授業では、181-182章を中心としてヨーガ経典やシヴァ教タントラ文献中の記述と比較検討することで、いわゆる古典的ヨーガからタントラの的ヨーガへの発展過程をより詳しく解明することを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>『スカンダプラーナ』内のパーシュパタ・ヨーガを述べる10章のうち、182章はヨーガ行者の自死のしかたを扱い、181章ではタントラの的ヨーガにおいてヨーガ的身体の重要な概念となる、息をめぐらす管とそれをめぐる蛇の姿をした氣息に言及している。この二つの章を中心として、Patanjaliのヨーガ経典とその注釈、パーシュパタ経典とKaundinyaの注釈、Nisvasatantra、Malinivijayottaratantra等のシヴァ教タントラ文献の関連記述と比較検討する。このパーシュパタ・ヨーガを扱う部分は、ネパールに伝わる9世紀の写本2本のみ現存する部分であり、写本に基づきテキストを再校訂しながら読んでいくことになる。授業中に写本2本の当該部分の写真を渡すので、意欲のある学生は自分で写本を読み校訂を試みてほしい。</p>									
【履修要件】									
サンスクリット文法を履修済であることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点によって評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies(Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 ACHARYA, Diwakar Nat						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	Origins of Indian Philosophies: Readings in early Upanishads								
【授業の概要・目的】									
Continuing with the last years ' theme, in this course we will analyse passages from the early Upanishads more critically, applying the method of higher criticism.									
【授業計画と内容】									
The Upanishadic texts are not so simple to interpret because we are far removed in time, so were the traditional commentators, and the semantic association of words is constantly shifting. So, once we begin to read them more carefully and critically, several problems and their possible solutions are revealed, which can have far-reaching implications. With this awareness in mind, we will read the fifth and sixth chapters of the Brhadaranya Upanishad.									
【履修要件】									
This course is designed for advanced students with good knowledge of Sanskrit.									
【成績評価の方法・基準】									
Evaluation of the course will be based on: 1)Attendance of classes; 2)Participation in class discussions.									
【教科書】									
Handout will be distributed.									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する Eighteen Principal Upanisads Vol. 1. Ed. P. Limaye and R. D. Vadekar. Poona: Vaidika Samsodhana Mandala, 1958.									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Matters of higher criticism and logical precision, and complications involved in interpretation of archaic texts. オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies(Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	Introduction to the scriptural and exegetical sources of non-dualist Shaivism								
【授業の概要・目的】									
The aim of this class is to provide an overview of scriptural and exegetical sources important to the evolution of doctrines and practices central to non-dualist Shaivism.									
【授業計画と内容】									
This class presents an overview of the historical development of some of the doctrines central to the mature system of non-dualist Shaivism. Source passages will be presented in edition and translation and recent secondary work will be looked at where relevant. Both the earlier scriptural works and the later exegetical works will be contrasted to come to a clearer understanding of the formative dynamics of the non-dualist schools of Shaivism.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance and participation in class.									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies(Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 客員教授 SANDERSON Alexis				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	Shaivism and Brahmanism								
[授業の概要・目的]									
A detailed examination of the nature of the co-existence of the two dominant constituents of religious life in India during the early medieval period.									
[授業計画と内容]									
<p>In approximately the first third of the lectures I will outline my view of the development of Shaivism from its beginnings, proposing a new model of the relationship between its primary constituents. Thereafter I shall examine the following: (1) evidence of how the learned inside the Brahmanical and Shaiva traditions viewed each other, looking closely at the Shaiva position that Shaivas though following a system that transcends the brahmanical must nonetheless comply with its injunctions; (2) evidence of the extent of this compliance in practice; (3) textual and epigraphical evidence of royal backing for the Shaiva concept of a Shaiva-brahmanical socio-religious order, (4) evidence of the undermining of the learned Shaiva view of the nature of this order as a consequence of the Shaivas' success in promoting it, evidence, that is, of the weakening of the orthodox brahmanical rejection of Shaivism and of a commensurate adoption by Shaivas themselves of a view of their religion that surrendered the doctrine of its transcendence, and (5) a reading of the upsurge of Shakta-Shaivism among Shaiva intellectuals from the ninth century onwards as a reaction to this loss of transcendence in the Shaiva mainstream.</p> <p>My aim is to show that the key to a balanced perception of the dynamics of the history of Shaivism lies in seeing it in terms of two antithetical tendencies: on the one hand a drift towards loss of transcendence and on the other the effort of its fundamentalist theoreticians to counter this drift by constructing doctrinal positions and propagating systems of practice that were designed to immunize the Shaivas against acceptance of this loss of transcendence. Through this analysis I wish also to demonstrate that to work towards a full and balanced understanding of Shaivism, and indeed of any Indian religious tradition, we cannot restrict ourselves to the study of the views of its pre-eminent theoreticians. These works, fascinating though they may be, become much more so when it is recognized that they draw much of their meaning from their place in a process of historical change that encompasses several intersecting traditions in a state of flux that they are seeking to counteract and conceal. To see through to the processes that have given rise to the great and influential works we must be prepared to look at the much humbler evidence of ritual manuals, inscriptions, and material remains, at what non-adherents have reported of their views of these traditions, and at the growing body of ethnographic and socio-anthropological studies of descendants of these traditions down to modern times, notably in Tamilnadu, Kerala, and the Kathmandu valley. The lectures will be based on the examination of primary sources, textual and epigraphical, texts and translations of which will be given in the form of handouts accompanying the lectures.</p>									
[履修要件]									
It will be possible to follow the lectures without a knowledge of Sanskrit. The Sanskrit sources will be discussed and the texts circulated in handouts but they will not be read word by word in the lectures.									
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----									

インド古典学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・基準]

Attendance and an essay to be submitted at the end of term.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 教授 藤井 正人						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	特殊講義
題目	ウパニシャッド講読 Chandogya-Upanisad								
【授業の概要・目的】									
ヴェーダ文献史の後期に成立し、インド哲学思想史の始まりの一つとなったウパニシャッドから重要な箇所を選んで講読する。今年度は昨年度に引き続き、最初期のウパニシャッドの一つである『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』を読むことによって、ウパニシャッド文献とその思想を原典に基づいて理解するとともに、サンスクリット散文読解の基本的な技能を習得することをめざす。									
【授業計画と内容】									
ヴェーダ学派と直接的な関係をもつ初期ウパニシャッドのなかで、『ジャイミニヤ・ウパニシャッド・ブラーフマナ』『プリハッドアーラニヤカ・ウパニシャッド』『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』は、成立の古さと内容の豊富さとともに、先行する祭式文献との関係や後続する諸文献への影響などの点で極めて重要な文献である。それらの中で『チャンドーギヤ』は比較的成立が遅く、もっとも古いと考えられる『ジャイミニヤ』から多くのものを借用し、作り変えるとともに、『ジャイミニヤ』にはない新しい思想を展開している。今年度の授業では、『ジャイミニヤ』の関係箇所をも読む比べることによって、『チャンドーギヤ』と『ジャイミニヤ』との文体、思想、背景の学派伝統などの違いについても考察する。授業の参加者にはテキストの正確な読解のために、各種の辞書、文法書、コンコードランスなどの道具類に慣れ親しむように指導する									
【履修要件】									
サンスクリット基礎文法の既習者									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。評価に際しては出席を重視し、理解度と積極性を加味する。									
【教科書】									
教材を授業時に配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
予習と復習のしかたについては初回の授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)			担当者氏名	大阪学院大学 企業情報学部 教授 八木 徹				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	特殊講義
題目	マハーバーシャ研究								
【授業の概要・目的】									
<p>1. 後の論書の範となったマハーバーシャを、カイヤタ及びナーゲーシャの注釈とともに、でき得る限り正確に読むこと。</p> <p>2. 文法学派の論法に習熟すること。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期：P.6.4.1 vt.1-11</p> <p>後期：P.6.4. 2, 3, 12-13, 14, 16</p>									
【履修要件】									
サンスクリット文法既習者									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
Vyakaranamahabhasya of Patanjali with the Commentary Bhasyapradipa of Kaiyata Upadhyaya & the Super Commentary Bhasyapradipoddyota of Nagesa Bhatta, Vol. V, edited with Notes and Variants by Shri Bhargava Shastri Joshi, Delhi 1988. (プリントを用意する。)									
【参考書等】									
(参考書)									
Toru Yagi, Le Mahabhasya ad Panini 6.4.1-19, Paris 1984									
James W. Benson, Patanjali ' s Remarks on anga, Delhi 1990									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies(Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 講師 堂山 英次郎				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	『リグヴェーダ』研究								
【授業の概要・目的】									
<p>インド最古の文献『リグヴェーダ』を読む。紀元前1200年頃の成立とされる『リグヴェーダ』は古代インド思想の源泉であると同時に、印欧語比較言語学の発展に決定的な役割を果たした文献でもある。また、その神話や儀礼の記述を通じて見えてくる古インド・アーリヤ人の社会・文化・歴史・世界観等は、人類史の理解という面でも重要な視座を与えてくれる。『リグヴェーダ』の内容の正しい理解には、ことばの厳密な理解が特に重要となる。この古代文献を材料として、語源・音韻・アクセント・統辞法・韻律等を綿密に分析・点検する技術を身につけることが、授業の目的である。それは古語文献の読解一般にとっても有効な訓練となるはずである。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>パニと呼ばれる敵により砦（Vala）に閉じ込められた牛を、インドラ、プリハスパティ、アンギラスたちが連携して略奪する話 いわゆる「Vala神話」 を取り上げる。同神話は『リグヴェーダ』の各所に散見されるが、その中から、詩人による一般的な讃歌の形式をとる第1巻第62歌と登場人物同士の会話で構成される第10巻第108歌という、スタイルの異なる二つの歌篇を順番に読んでゆく。</p> <p>授業は輪読形式で行い、参加者にはそれぞれテキストを音読・翻訳するとともに、一語一語を文法的に出来るだけ細かく分析・説明してもらおう。内容の解釈も含めて、参加者全体による積極的な議論を期待する。当該神話を扱う『リグヴェーダ』の他の箇所や、後のヴェーダ文献の記述も適宜参考にしつつ、また一方では、同神話に重ねられた太陽の解放などの異なる神話やシンボリズムにも注目しながら、丁寧に読み進めたい。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。予習・復習の程度、授業の理解度、発言の内容によって総合的に判断する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>参加者はサンスクリット語の基礎知識を有することが望ましい。予習を前提とするが、予習が無理な時でも授業に参加し、復習を心がけること。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(特殊講義) Indological Studies(Special Lectures)	担当者氏名	ハンブルグ大学 アジア・アフリカ研究所 研究員 張本 研吾						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	Patanjalayogasastravivarana 研究								
【授業の概要・目的】									
『ヨーガバーシュヤ』に対する、高名な不二一元論学者シャンカラに帰せられる註釈『ヴィヴァラナ』を素材に、インド哲学史研究における諸問題に触れて行く。テーマとして、一次資料（写本）の評価、テキスト校訂の手法、テキストの思想史上の位置づけ、著者問題へのアプローチ、哲学学派ヨーガ派の歴史、などに焦点を当てる。									
【授業計画と内容】									
初回で素材となる『パタンジャラヨーガシャーストラヴィヴァラナ』の概要、現存写本、関連する先行研究等について紹介した後、同書より、適宜、講義のテーマに即した箇所を抜粋し、校訂テキストを読んで行く。									
取り扱う箇所は、									
1) 冒頭と結びの偈分（テキストの integrity と著作の意図、著者の背景に強い関わりを持つ）									
2) 知識根拠に関する議論（他学派あるいは他のシャンカラに帰せられる著作との関連の上で、著作の位置づけに有意義）									
3) 神の存在論証に関する議論（上と同様な意味で重要。特にこの部分は長大で、他の興味深いテーマ---ウパニシャッドの権威、ミーマーンサー学派への返答など---を含む）									
4) スポータに関する議論									
などを計画している。									
授業の一環として、受講者に写本資料を渡し、自らテキスト校訂を試みてもらい、それを発表、正当化した上で、他の受講者と共に議論検討するという場も想定している。									
【履修要件】									
サンスクリット語の最低限の知識が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポート									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子 文学研究科 准教授 ACHARYA, Diwakar Nat 人文科学研究所 教授 藤井 正人 文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火1	授業形態	演習
題目	インド学・サンスクリット学の諸問題（論文指導）								
【授業の概要・目的】									
インド学・サンスクリット学の分野における論文作成の技術を基礎から学び、自らテーマを選んで、資料を集め、分析し、その成果を発表する、さらに討論の場で批判を受けるといった訓練を重ねることで、本格的な論文を作成するためのノウハウを身につける。									
【授業計画と内容】									
論文の作成法について指導するとともに、学生各自が選んだテーマについて、毎回研究発表を行ってもらう。当該年度の卒論、修論提出予定者には、それぞれの論文にかかわるテーマやテキストに関する発表を行ってもらう。それ以外の学部生、院生は、それぞれの関心に従って、各自の研究発表を行ってもよいし、また近年に発表された重要論文についての研究発表を行ってもよい。例年、各学生には、2～3回程度の発表の機会が与えられる。									
【履修要件】									
インド古典学専修の学生であること（（インド学に関連する分野の研究を行っている他専修の学生も履修可））。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（発表と討論への参加度により総合的に判断する）。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
自分の発表のときだけでなく、他者の発表のときにも必ず出席し、質問、討論に参加することが要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	演習
題目	マハーラーシュトリー説話『悪党物語』								
【授業の概要・目的】									
<p>インド中世にジャイナ教徒は非常に多くの説話文献を残しており、その多くはサンスクリットではなく、中期インド・アリア語であるマハーラーシュトリーやアパブランシャで著されている。またマハーラーシュトリーはジャイナの説話だけではなく、詩・戯曲等の文芸作品に使われるもっとも重要なプラークリット（文学言語となった中期インド・アリア語）である。この授業ではまず語彙集を備えたリーダーを使ってマハーラーシュトリーの入門を行ったのち、Haribhadra作 Dhurtakhyana 『悪党物語』を読解する。授業の第一の目的はプラークリットを代表するマハーラーシュトリーの読解力を身につけることだが、同時に日本ではあまり研究されていないジャイナ教説話を通して、当時のインドの文化・社会に対する、仏教やヒンドゥー教徒とは異なる視点を学んでほしい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期の前半では、文法の簡単な解説と語彙集を含むマハーラーシュトリーのリーダーAusgewählte Erzählungen in Maharashtraから一編を選んで読み、この言語に関する基礎的な読解力を身につける。その後、8世紀のジャイナ教作家Haribhadraが著したDhurtakhyana 『悪党物語』をSingh Jain Seriesで出版されている版を底本として講読する。この版ではサンスクリットによる翻訳に近い翻案も含まれているので、それを参考にしながら読み進める。</p> <p>『悪党物語』は悪党たちが旅の宿りでたまたま一同に会し、ほらの吹きあいをして夜をすごすという筋であるが、さまざまなヒンドゥー教神話をほら話として語り笑い飛ばすことで、ジャイナ教からのヒンドゥー教批判になっている。授業では批判されているヒンドゥー神話をできるだけプラナ文献等で同定していき、ヒンドゥー文献で語られる神話と、この物語で語られるジャイナ教の視点からみた神話の比較検討も行う予定である。</p>									
【履修要件】									
サンスクリット文法既習者									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（毎回の授業中の読解等）で評価する。									
【教科書】									
<p>Jacobi, Hermann 『Ausgewählte Erzählungen in Maharashtra』（Wissenschaftliche Buchgesellschaft, Darmstadt, 1967）</p> <p>Haribhadrasuri 『Dhurtakhyana, edited by Jina Vijaya Muni』（Singh Jain Series, No.19, Bharatiya Vidya Bhavan, Bombay, 1944）（Reprint: Sarasvati Oriental Research Sanskrit Series No.15, Sarasvati Pustak Bhandar, Ahmedabad, 2002）</p>									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>受講者は毎回の授業で本文の翻訳が課せられるので、予習が必須である。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 ACHARYA, Diwakar Nat						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	Mandana Misra on the nature of brahman and its realisation								
【授業の概要・目的】									
<p>The general aim of this course is to provide the knowledge of the version of Vedanta as expounded in the Brahmasiddhi of Mandana Misra. Mandana 's version differs on crucial issues from that of the most popular Vedanta exponent Sankara (8C CE), a junior contemporary of the former. This year we will read the section on the nature of brahman and the means to realise it.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Mandana Misra has contributed to various branches of Indian Philosophy: Mimamsa, Vedanta, and also the philosophy of language. He received inspirations from Bhartrhari and Kumarila, and has deeply influenced Vacaspati Misra and other Indian philosophers of the following centuries. As for the Brahmasiddhi, it is not only Mandana's sole work on Vedanta but also the last work. This obviously implies that it contains his matured and revised views, and thus deserves proper attention.</p> <p>In the first term, we will read from the auto-commentary on the first verse of the first chapter. This portion contains elaborate discussion on certain aspects of brahman such as pure cognition and imperishability. In the second term, we cover the second verse and the auto-commentary which discusses the means to know brahman.</p> <p>We will make occasional use of all four classical commentaries, wherever available and whenever necessary.</p>									
【履修要件】									
This course is designed for the students who have good knowledge of classical Sanskrit and philosophical inclination as well.									
【成績評価の方法・基準】									
Paper test will be scheduled at the end of the academic year.									
【教科書】									
Brahmasiddhi of Mandana Misra with Sankhapani's Commentary (vyakhya). Ed. S. Kuppaswami Sastri. Madras Government Oriental Series No. 4. Madras: Government Press, 1937. Photographic reprint, Delhi: Sri Satguru, 1984.									
【参考書等】									
(参考書)									
Vacaspatimisra 's Tattvasamiksa: The Earliest Commentary on Mandana-misra 's Brahmasiddhi. Critical Edition with an Introduction and Summary. NRC Publication Series 25. Stuttgart: Steiner Verlag, 2006.									
Two Commentaries on Brahmasiddhi: Bhavazuddhi of Anandapurna Muni and Abhiprayaprakazika of Citsukha Muni (Brahmasiddhi--vyakhye). Ed. N. S. Anantakrishna Sastri. Madras Government Oriental Series, No. 161. Madras: Government Oriental Manuscript Library, 1963.									
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----									

インド古典学(演習)(2)

Allen Wright Thrasher 1993. The Advaita Vedanta of Brahmasiddhi. Delhi: Motilal Benarsidass.

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

Evolution of Vedanta thoughts around the early 8th century CE, matters of critical interpretation of ancient Sanskrit texts.

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 ACHARYA, Diwakar Nat						
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	演習
題目	Basic Panini Grammar								
【授業の概要・目的】									
Largely following the method of late Brahmadata Jijnasu and Yudhishtira Mimamsaka, I will teach basic Sanskrit Grammar using Panini's Ashtadhyayi itself directly.									
【授業計画と内容】									
It will be an introduction to basic Sanskrit grammar, and at the same time, also to the text of Panini's Ashtadhyayi. We will study necessary portions of Panini's Ashtadhyayi directly, without resorting to its commentaries, and see how Sanskrit words are formed in Panini's system. In the first semester, the course will focus on introduction to Panini's terminologies, basic nominal declensions, euphonic combinations. In the second semester, it will focus on some simple verbal inflections, more of Panini's terminologies, and the basics of syntax.									
【履修要件】									
This course is designed for the beginners of Sanskrit, but is useful even for those who already know Sanskrit and want to study Panini.									
【成績評価の方法・基準】									
Evaluation of the course will be based on: 1)Attendance of classes; 2)Participation in class discussions.									
【教科書】									
Study material will be provided in the class.									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
1. Boehtlingk, Otto. Panini's Grammatik. Leipzig 1887. Reprint: Georg Olms, Hildesheim/New York 1977.									
2. Katre, Sumitra M. Ashtadhyayi of Panini. First edition. Delhi: Motilal Banarsidass, 1989.									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	演習
題目	The Rajendrakarnapura of Shambukavi								
【授業の概要・目的】									
The aim of this class is to read the 11th century Rajendrakarnapura of Shambhukavi, a royal panegyric in honor of King Harsha of Kashmir, in concert with the Kashmirian Rajatarangini chronicles, and to explore if it is possible to recognize features of a regional style of Sanskrit poetry.									
【授業計画と内容】									
Is the Rajendrakarnapura of Shambhukavi a recognizably Kashmirian work? What might be the criteria by which such a claim could be substantiated? To find answers to these questions, we will study the short Rajendrakarnapura together with other Kashmirian works which are either contemporaneous or bear directly on the content, style, or any other identifiable feature.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance and participation in class.									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	演習
題目	Academic English writing in Indology and Buddhology								
[授業の概要・目的]									
The aim of this class is to improve English writing skills.									
[授業計画と内容]									
We will study exemplary articles and chapters of longer works, summarize them and discuss in class. Students will practice writing and rewriting short essays, outlines, and sections of their theses.									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
Attendance, essays, participation in class.									
[教科書]									
授業中に指示する									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies(Seminars) (Seminars)			担当者氏名	(財)東方研究会 研究員 山口 周子				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3	授業形態	演習
題目	パーリ語入門								
【授業の概要・目的】									
『ジャータカ』（釈迦の前世譚）等、原典の精読を通してパーリ語の読解力を養う。文法事項については、テキストの講読演習と並行して解説する。									
【授業計画と内容】									
初回の授業は、サンスクリット語と比較しながら、パーリ語の基本的な文法事項、音韻について概説する。さらに、講読予定のテキスト（『ジャータカ』等）について解説を加える。 2回目以降は、各文法事項について解説の後、実際の講読演習に入る。毎時間とも輪読形式とする。文法事項に関しては、授業第2回目から5回目までは名詞活用、第6回目から9回目には動詞活用、10回目から最終回までは、連続体(Gerund)、不定体(Infinitive)等を重点的にとりあげる。									
【履修要件】									
サンスクリット文法を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
輪読形式のため、平常点評価とする。									
【教科書】									
購読用テキスト等のプリントを、授業にて配布する。									
【参考書等】									
（参考書） Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4 水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(演習) Indological Studies(Seminars) (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 八木 綾子						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	演習
題目	アルダマーガディー入門								
【授業の概要・目的】									
<p>現在もインド国内を中心に教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点も多い。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディーは、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。基本的な文法を確認の上、テキストを読みながら、辞書・文法書の使用に慣れる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1 - 3週：アルダマーガディーを中心とした中期インド語の概説と辞書・参考書の紹介。A.M. Ghatage 「introduction to Ardha-Magadhi」の練習問題をしながら、名詞変化・動詞活用の確認をする。</p> <p>第4 - 5週：数詩節からなるAyaranga第2篇16章「vimukti」の読解とともに、ジャイナ聖典や教義の紹介を行い、適宜パーリ語との対応関係を確認する。</p> <p>第6 - 15週：選文講読 出席者の意見を参考にして以下の中から読むテキストを選びたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Kalpasutra Jinacarita:前年度に読んだAyaranga II.15より詳細なマハーヴィーラ伝。 ・ Kalpasutra Samacari等のジャイナの行動規定(律)に関するテキスト ・ Vasudevahindi, Paumacariu等の説話文献 									
【履修要件】									
サンスクリット文法を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平素の成績									
【教科書】									
テキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	講読
題目	サンスクリット初級演習(古典サンスクリット)								
【授業の概要・目的】									
<p>サンスクリット文法を既習した学生を対象とする初級演習。語彙集を備えたリーダーを使って、易しい韻文・散文を読むことで文法知識を確実に身につけること、最終的に辞書を使いこなして自力で原典が読めるようになることを目的とする。</p> <p>この授業を履修する学生は、後期に開講される「サンスクリット初級演習(ヴェーダ語)」も履修することが望ましい。どちらを先に履修してもかまわない。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>教科書のうち、古典サンスクリットで著された「ナラ王物語」「ヒトーパデーシャ」「カターサリットサーガラ」を主教材とする。毎回の震度は受講者の習熟度によるが、最初の数回は文法を確認しながらゆっくり読み、そのあとは毎回1～2頁程度の進捗で読み進める予定である。辞書をはじめとする、原典を読むための有用なツールについては、授業の中で紹介する。</p>									
【履修要件】									
サンスクリット文法既習者									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験によって評価する。									
【教科書】									
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』 (Motilal Banarsidass) ISBN:978-81-208-1362-2 (インド学研究室にて購入できる。)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>受講者には毎回の予習・復習が必須である。デーヴァナーガリー文字を未習の者は、受講前に自習しておくことが望ましい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)	担当者氏名	人文科学研究所 教授 藤井 正人						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	講読
題目	サンスクリット初級演習(初期サンスクリット[ヴェーダ語])								
【授業の概要・目的】									
サンスクリット基礎文法の既習者を対象とする初級演習。比較的簡単なヴェーダ散文を読みながら、初期サンスクリット(ヴェーダ語)の文法と構文の基礎を習得するとともに、サンスクリット全般に共通する分析的な読解法を身につける。									
【授業計画と内容】									
サンスクリット基礎文法の知識である程度読むことのできる『シャタパタ・ブラーフマナ』を教材にして、ヴェーダ散文の手ほどきを行う。そのあと、代表的な初期ウパニシャッドである『プリハッド・アーラニヤカ・ウパニシャッド』の一節ないし数節を精読する。教科書とともに、アクセントを伴った校訂本のプリント(授業時に配布)を用いて、語句・構文・アクセントなど、テキストのすべての要素を分析して読解する方法を学ぶ。辞書については、初めのうちは教科書の語彙集を用いるが、徐々に本格的な辞書や語源辞典を使いこなすことを目指す。									
【履修要件】									
サンスクリット文法既習者。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(50%)と学期末筆記試験(50%)により評価する。									
【教科書】									
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』(Motilal Banarsidass) ISBN:978-81-208-1363-2(インド学研究室にて購入できる。)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
毎回の予習・復習が必須である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	講読
題目	German Reading in Indology and Buddhology								
[授業の概要・目的]									
The aim of this class is to read excerpts from major works of German Indology.									
[授業計画と内容]									
We will read the following works: G. Buehler, "Ueber das Leben des Jainamoenches Hemachandra " , Denkschriften der Wiener Akademie, 1889. Selections from W. Schubring: Kleine Schriften. Hrsg. von Klaus Bruhn. Wiesbaden: Steiner 197; Selections from: Harry Falk, Schrift im alten Indien, Gunter Narr Verlag, 1993.									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点による。									
[教科書]									
授業中に指示する コピーを配布する									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)			担当者氏名	宗教情報センター 研究員 佐藤 直実				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	講読
題目	仏語講読								
【授業の概要・目的】									
Etienne Lamotteの古典的名著 Histoire du Bouddhisme Indienの講読を通し、インド仏教史の基礎知識を確認すると共に、仏語の読解力を養成する。									
【授業計画と内容】									
1. 初回は文献及び授業の概説を行う。 2. 各回、講読を行う。和訳は事前に準備すること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。 テストは行わない。									
【教科書】									
Etienne Lamotte 『Histoire du Bouddhisme Indien. Des Origines a L'ere Saka』 (Publications de L'institut Orientaliste de Louvain) ISBN:2801700401 講読箇所については授業中に指示する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代インド語（ヒンディー）(語学) Hindi	担当者氏名	北海道大学 スラブ研究員センター 研究員 小松 久恵						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	語学
題目	現代インド語（ヒンディー語）								
【授業の概要・目的】									
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初頭文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通してインド社会に触れ、急激に変化を遂げる現代インド社会への理解を深める。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。									
【授業計画と内容】									
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。幸い、ヒンディー語は文法が簡単で、日本語に極めてよく似ているので、日本人学習者にとり習得することはそれほど困難ではないであろう。教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語に触れ、同時にインドの社会風俗に対する知識を深める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（40％）と筆記試験（期末30％、年度末30％）によって評価する。									
【教科書】									
町田和彦『ニューエクスプレス、ヒンディー語』（白水）ISBN:ISBN978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）									
【参考書等】									
（参考書） 辞書については初回の授業で紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

仏教学専修

授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 宮崎 泉				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	ツォンカパの中観思想とインド中観派の思想								
【授業の概要・目的】									
チベット仏教における大学者のひとりにも数えられる、ゲルク派の祖ツォンカパは、中観派を自立論証派と帰謬論証派に区分する際、独自の解釈を導入したことが知られている。本講義では、インドの諸論師の思想と対比しながら、ツォンカパの中観理解を検討し、ツォンカパの思想とインド中観派の思想の両者に対する理解を深めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
授業は『了義未了義善説心髓』『帰謬論証派章』を通読しながら進める。ツォンカパについての研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、授業で扱う「帰謬論証派章」には既に和訳も存在する。そのため授業の重点は、ツォンカパの思想とインド原典を比較することにある。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の思想も十分に把握しておくことが求められる。授業は、初回にインド中観思想の展開について解説し、二回目以降は、『了義未了義善説心髓』『帰謬論証派章』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。									
【履修要件】									
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
テキストはコピーして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の準備をしておくことが求められる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 船山 徹				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	注釈書に見る中国六朝時代の学術仏教								
【授業の概要・目的】									
<p>仏教教理学史形成の実態を知る上で注釈書は重要である。注釈は何ら個性のない単なる語句の注解である場合も皆無ではないが、多くの場合、注釈家は經典への注釈という形を借りて、仏教に対する自らの理解や他説との相違を様々に表現した。時に注釈は独立した著作よりも雄弁である。この授業は中国の六朝時代における仏教の注釈の特徴を扱う。仏典の様々な書物形式の中で注釈という形態にいかなる特徴があるか、インド仏教と比較して中国の注釈にはどのような特徴があるか、六朝時代の注釈書にはどのような特徴や制約が認められるかを考える。また注釈作成における学派と他説の採用、剽窃、個性の問題などもあわせて検討する。とりわけ五世紀から五世紀前半頃の南朝における『涅槃経』に対する一注釈を中心として具体的検討を試みる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業は以下の課題について具体的に検討を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教において注釈書を読むことはなぜ必要か ・ インド仏教における注釈書の概観と特徴 ・ 中国仏教における早期の注釈書をめぐって ・ 鳩摩羅什およびその弟子による注釈書 ・ 南朝仏教における注釈書の特徴（とくに『涅槃経』と『成実論』との関係） ・ 6世紀前半の注釈書『大般涅槃経集解』より知られる南朝の学術仏教（注釈の一部を精読する。内容的に関連する他の文献の記述も比較検討する。） ・ 中国仏教における注釈書の種類とその特徴 <p>上記各課題の説明と精読とを合わせて14回を予定。</p>									
【履修要件】									
漢訳仏典を読むための最低限の基礎知識を有していること									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（授業内での発言と小レポート）									
【教科書】									
使用しない 授業中にプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>授業に関係する事柄であれば質問等はいつでもどんなことでも歓迎します。授業初回到質問等の問い合わせ先メールアドレスを知らせます。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)			担当者氏名	高野山大学 文学部 教授 室寺 義仁				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	仏教教義のアビダルマ的定義とヨーガーチャーラの解釈								
【授業の概要・目的】									
<p>釈尊（ゴータマ・ブッダ）が説き示した真理内容は、四諦説、五蘊説、そして縁起説として今に伝えられている。ブッダは覚醒体験後、その自覚内容を言葉化した時、有情／衆生の生存の本質は苦であるとの真実を説き示した。この説示方法は因果律に拠っており、縁起説の出発点でもある。生存する存在者一般は、無常なる縁起的存在として純然たる苦しみが集積した「五蘊」として捉えられた。このような視点を学び取ることを目的として、アビダルマ教義による定義と瑜伽行派の中で展開する解釈とを、ヴァスバンドゥ（西暦400年頃）作の『阿毘達磨俱舍論』と『五蘊論』、並びに、『瑜伽師地論』とヴァスバンドゥの兄・アサンガ作『大乘阿毘達磨集論』をテキストとして、サンスクリット原典を比較吟味しながら、文献学的な分析手法について理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>初回・第2回の授業では、アビダルマの諸論書、ヴァスバンドゥに帰せられる諸論書、特に『阿毘達磨俱舍論』と『五蘊論』、そして、『瑜伽師地論』と『大乘阿毘達磨集論』などの基本テキストについて概説する。その後、受講生が作成した、サンスクリット・テキストのワーキング・エディションを用いながら、『瑜伽師地論』「本地分」中の「意地」を、比較分析可能なアビダルマ、並びに、ヨーガーチャーラの諸テキスト箇所を参照しつつ、チベット語訳・漢訳・現代語（英独仏日）訳とも対比して、精密に解読して行く。</p>									
【履修要件】									
チベット語、サンスクリット語を履修済み、若しくは履修中。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。講読担当者を予め定め発表をしてもらいます。テキスト解読の緻密度・正確度をもって成績評価とします。									
【教科書】									
授業中に指示するテキストは、適宜、コピー配布します。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
質問などの連絡は、初回授業において周知するメールアドレスを活用して下さい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 宮崎 泉				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	大乘仏教における空性の意義								
【授業の概要・目的】									
<p>昨年度に引き続き、初期大乘経典と考えられる『三昧王経』（月燈三昧経）を通読し、仏教サンスクリットで書かれた仏教経典の基本的な読解力を習得するとともに、大乘仏教における空の意義と機能に対する理解を深めることを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>初回の授業では、大乘仏教における空に関連する問題点を解説し、二回目以降の授業では、『三昧王経』を通読しながら、空性の機能について考えていく。</p> <p>現存する『三昧王経』のサンスクリット本は40章からなり、各章は比較的独立している。そのため『三昧王経』から一章だけを取り上げるが、取り上げるのは、サンスクリット本では「持経利益品」というタイトルを持つ第32章である。この章は最初に導入の短い散文がある他は偈頌だけからなり難解であるため、チベット語訳と那連提耶舎による漢訳も併用しサンスクリットテキスト自体も慎重に検討しながら精読する。</p>									
【履修要件】									
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
テキストはコピーして配布する。									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
<p>（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））</p> <p>授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の準備をしておくことが求められる。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)			担当者氏名	京都産業大学 文化学部 准教授 志賀 浄邦				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	ダルマキールティの論理学								
【授業の概要・目的】									
<p>7世紀頃のインドにおいて活躍し、論理学・認識論の分野において後世に多大な影響を与えた学僧ダルマキールティの代表的著作の一つである『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第2章「自己のための推理」を講読する。当該テキストはチベット語訳のみが現存し、サンスクリット原典は散逸したと考えられていたが、近年そのサンスクリット写本が発見され、ウィーン大学のシュタインケルナー氏によって校訂テキストが出版された。本授業では、上記のテキストを精読することを通してダルマキールティの思考プロセスや彼の打ち立てた推理論の新体系、また7世紀インドの思想状況についての文献学的解明を試みたい。また、『プラマーナ・ヴァールティカ』をはじめとする同著者による他の論理学書と当該テキストの平行箇所を押さえた上で両テキスト間に見られる明示的な変更点を精査することにより、ダルマキールティの著作の成立過程および著作順序についても従来の研究を再考してみたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業では、ダルマキールティの諸著作および仏教論理学の概説の後、『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第2章（昨年度の続きから）を講読する。近年新たに出版された校訂本に対するレビューや先行研究等を参考にしながら、シュタインケルナー氏によって校訂されたテキストを批判的に精読する。</p> <p>第1～2回 ダルマキールティの諸著作および仏教論理学についての概説 第3回以降 『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第2章講読</p>									
【履修要件】									
サンスクリット，チベット語，ドイツ語の基本的な読解能力を必要とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。（毎時間の発表が100%）									
【教科書】									
Ernst Steinkellner 『Dharmakiirti's Pramaa.navini;scaya Chapter 1 and 2』 (China Tibetology Research Center and Austrian Academy of Science) ISBN:978-7-80057-873-1									
【参考書等】									
（参考書）									
Ernst Steinkellner 『Dharmakiirti's Pramaa.navini;scaya.h, Zweites Kapitel: Svaarthaanumaanam, Teil I Tibetischer Text und Sanskrittexte』 ISBN:3-70001-0041-8									
Ernst Steinkellner 『Dharmakiirti's Pramaa.navini;scaya.h, Zweites Kapitel: Svaarthaanumaanam, Teil II Uebersetzung und Anmerkungen』 ISBN:3-7001-0315-8									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)			担当者氏名	宗教情報センター 研究員 佐藤 直実				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	大乘仏教經典の読解								
【授業の概要・目的】									
<p>如来蔵思想を含む中期大乘の代表的經典『大般涅槃經』の中から、金剛身品をとりあげ、そこに記されるAksobhyaとその仏国土の逸話を講読する。本經は六朝時代の仏教で重視され、また日本では道元、日蓮、親鸞などにも影響を与えている。釈尊入滅時における弟子との最後の問答を通し、如来常住、悉有仏性、闍提成仏、常樂我淨などを説く。本演習では、当該箇所を読解を通し、大乘仏教における護法のあり方を理解すると共に、大乘仏教及び大乘經典の基礎知識の習得を目的とする。また、仏教サンスクリット、仏教漢文、古典チベット語の読解力も養成する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回 テキストの概説と資料配付 第2回以降 『大般涅槃經』金剛身品の講読</p>									
【履修要件】									
サンスクリット、古典チベット語、仏教漢文の基本的な読解能力を必要とする。									
【成績評価の方法・基準】									
<p>授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。 テストは行わない。</p>									
【教科書】									
授業中に資料を配付する。									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)			担当者氏名	高野山大学 文学部 助教 加納 和雄				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	演習
題目	梵文仏典写本精読								
【授業の概要・目的】									
インド周辺諸国に断片的に伝存する梵文仏典写本は、失われたインド仏教の原像に近づくための一次資料であり、とくにチベットやネパールに伝来する梵文写本については近年めざましい研究成果が報告されている。授業では梵文仏典写本研究の現状について理解し、そして実際に写本の解読を行いながら写本研究の方法論を習得することを目指す。資料は適宜授業において配布する予定である。基本的に演習形式とするが初心者も歓迎する。									
【授業計画と内容】									
授業においてはまず、ネパール・チベットに伝存する梵文仏典写本研究の現状を解説する。世界各地の研究機関が所蔵するコレクションを俯瞰して、それらがいかなる由来をもち、どの程度解読が進んでいるのかについて説明する。また、写本を読むための基礎知識として写本特有の文字の綴り方や奥書の読み方などについて学ぶ。それらの基礎知識を習得した後は、写本解読の実践的な能力を養うために、未解読の写本をサンプルとして選り抜き、順次、授業において丹念に解読を進める。サンプルは、短めの断片写本を扱い（瑜伽行派関係のテキストなどを中心とする予定だが出席者の要望にも応じる）、写本の読みに問題がある箇所を一つずつ洗い出して解決策を模索しながら精読してゆく。									
【履修要件】									
サンスクリットの基本的な読解能力を必要とするが、初心者も歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。（毎時間の発表が100％）									
【教科書】									
授業中に指示する その他 テキストはコピーして配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)			担当者氏名	(財)東方研究会 研究員 山口 周子				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3	授業形態	演習
題目	パーリ語入門								
【授業の概要・目的】									
『ジャータカ』（釈迦の前世譚）等、原典の精読を通してパーリ語の読解力を養う。文法事項については、テキストの講読演習と並行して解説する。									
【授業計画と内容】									
初回の授業は、サンスクリット語と比較しながら、パーリ語の基本的な文法事項、音韻について概説する。さらに、講読予定のテキスト（『ジャータカ』等）について解説を加える。 2回目以降は、各文法事項について解説の後、実際の講読演習に入る。毎時間とも輪読形式とする。文法事項に関しては、授業第2回目から5回目までは名詞活用、第6回目から9回目には動詞活用、10回目から最終回までは、連続体(Gerund)、不定体(Infinitive)等を重点的にとりあげる。									
【履修要件】									
サンスクリット文法を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
輪読形式のため、平常点評価とする。									
【教科書】									
購読用テキスト等のプリントを、授業にて配布する。									
【参考書等】									
（参考書） Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4 水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 八木 綾子				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	演習
題目	アルダ・マーガディー入門								
【授業の概要・目的】									
<p>現在もインド国内を中心に教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点も多い。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディーは、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。基本的な文法を確認の上、テキストを読みながら、辞書・文法書の使用に慣れる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1 - 3週：アルダマーガディーを中心とした中期インド語の概説と辞書・参考書の紹介。A.M. Ghatage 「introduction to Ardha-Magadhi」の練習問題をしながら、名詞変化・動詞活用の確認をする。</p> <p>第4 - 5週：数詩節からなるAyaranga第2篇16章「vimukti」の読解とともに、ジャイナ聖典や教義の紹介を行い、適宜パーリ語との対応関係を確認する。</p> <p>第6 - 15週：選文講読 出席者の意見を参考にして以下の中から読むテキストを選びたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Kalpasutra Jinacarita:前年度に読んだAyaranga II.15より詳細なマハーヴィーラ伝。 ・ Kalpasutra Samacari等のジャイナの行動規定(律)に関するテキスト ・ Vasudevahindi, Paumacariu等の説話文献 									
【履修要件】									
サンスクリット文法を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平素の成績									
【教科書】									
テキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	講読
題目	German Reading in Indology and Buddhology								
[授業の概要・目的]									
Selections from major works of German Indology.									
[授業計画と内容]									
We will read the following works: G. Buhler, "Ueber das Leben des Jainamoennes Hemachandra " , Denkschriften der Wiener Akademie, 1889. Selections from W. Schubring: Kleine Schriften. Hrsg. von Klaus Bruhn. Wiesbaden: Steiner 197; Selections from: Harry Falk, Schrift im alten Indien, Gunter Narr Verlag, 1993.									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点により評価する。									
[教科書]									
授業中に指示する コピーを配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	仏教学(講読II) Buddhist Studies (Seminars)			担当者氏名	宗教情報センター 研究員 佐藤 直実				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	講読
題目	仏語講読								
[授業の概要・目的]									
Etienne Lamotteの古典的名著 Histoire du Bouddhisme Indienの講読を通し、インド仏教史の基礎知識を確認すると共に、仏語の読解力を養成する。									
[授業計画と内容]									
1. 初回は文献及び授業の概説を行う。 2. 各回、講読を行う。和訳は事前に準備すること。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。 テストは行わない。									
[教科書]									
Etienne Lamotte 『Histoire du Bouddhisme Indien. Des Origines a L'ere Saka』 (Publications de L'institut Orientaliste de Louvain) ISBN:2801700401 講読箇所については授業中に指示する。コピーは各自で行うこと。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	チベット語（中級）（語学） Tibetan			担当者氏名	文学研究科 准教授 宮崎 泉				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	語学
題目	チベット語（中級）								
【授業の概要・目的】									
この授業は、チベット語初級を終えた学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めるためのものである。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中に使われているチベット語にも様々な種類があるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げ、どの分野の仏教文献にも対処できる基礎的な能力を身につけることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
授業では、偈頌だけからなる文献や注釈文献といったスタイルの違う文献も含め、古チベット語を含む仏教文献、サンスクリットからの翻訳文献、チベット撰述文献を取りあげる。それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴の解説と読解のために必要な内容の説明を行う。その後各文献を五週程度かけて輪読する。									
【履修要件】									
チベット語初級文法を終えている必要があるが、読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。出席と授業の中で発表の内容により評価する。									
【教科書】									
授業中にプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	チベット語（初級）（語学） Tibetan	担当者氏名	愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	月1	授業形態	語学
題目	チベット語初級								
【授業の概要・目的】									
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p> <p>テキストは、プリントとして配布する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>成績は、出席点および学期末に行う試験によって決定する。 チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。</p>									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(4時間前期コース)(語学) Sanskrit (4H)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	Sanskrit Grammar								
【授業の概要・目的】									
An introduction to the Sanskrit language for beginners. This class aims to cover the basics of Sanskrit Grammar in one term.									
【授業計画と内容】									
We will focus on covering the material taught in R. Goldman's Devavanipraveshika, reading all of the exercises and actively translating into Sanskrit. Supplementary materials and exercises will be provided as necessary.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, participation, quizzes.									
【教科書】									
1) Devavanipravesika: An Introduction to the Sanskrit Language (Paperback) by Robert P. Goldman (Author), Sally J. Sutherland (Author), Paperback, Publisher: Center for South & Southeast; 2nd Rev edition (August 1987), ISBN-10: 0944613004, ISBN-13: 978-0944613009 Arthur A. MacDonell, A Sanskrit Grammar for Students (OUP, 1971)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(4時間後期コース)(語学) Sanskrit (4H)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	Sanskrit Grammar								
【授業の概要・目的】									
An introduction to the Sanskrit language for beginners. This class aims to cover the basics of Sanskrit Grammar in one term.									
【授業計画と内容】									
We will focus on covering the material taught in R. Goldman's Devavanipraveshika, reading all of the exercises and actively translating into Sanskrit. Supplementary materials and exercises will be provided as necessary.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, participation, quizzes.									
【教科書】									
1) Devavanipravesika: An Introduction to the Sanskrit Language (Paperback) by Robert P. Goldman (Author), Sally J. Sutherland (Author), Paperback, Publisher: Center for South & Southeast; 2nd Rev edition (August 1987), ISBN-10: 0944613004, ISBN-13: 978-0944613009 Arthur A. MacDonell, A Sanskrit Grammar for Students (OUP, 1971)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

西洋古典学専修

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 高橋 宏幸				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	ウェルギリウス研究								
【授業の概要・目的】									
ラテン文学を代表する詩人ウェルギリウスの詩作について考究する。建国叙事詩『アエネーイス』を精読し、「ローマ建国」にともなう苦難の諸相がどのように表現されているか観察する。									
【授業計画と内容】									
<p>本年度は昨年度に引き続き、『アエネーイス』第10歌659行から始めて第11歌後半までを扱う。毎回、60行前後を読む。</p> <p>作品後半の主題である「戦争」がその実相を示すくだりに入り、過酷さと悲惨さを描く叙述を観察する。「戦争」の核にある「遅延」、「背信」、「犠牲」といったモチーフに着目し、それらに関わる表現を検討する</p> <p>授業の進め方としては、古注を考察の手がかりとして紹介する一方、参照される先行作品との比較に重きを置く。</p>									
【履修要件】									
ラテン語文法を修得し、なんらか原典を読んだ経験があること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点、および、年度末に課すレポート。									
【教科書】									
R.A.B.Mynors(ed.) 『P.Vergili Maronis Opera.(OCT)』 (これを標準テキストとするが、各自用意できるものも可。)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
毎時間の該当箇所について下調べが必要になる。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 マルティン チェシコ				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	Human and divine passions in Greek literature and mythology (in English)								
【授業の概要・目的】									
<p>Passions are wide-ranging (from, say, wine, love or music to irrational behaviour, to heroism and intellectual curiosity). Greeks valued moderation in life and warned against succumbing to dark passions. We shall explore early and classical Greek literature (and mythology on which it is based) in search of their views on passions, human body and life itself.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>This class will develop in greater detail and with more attention to scholarly literature the contents of my Friday courses (4th and 5th period) on Eur. Hippolytus and an introduction to Greek mythology for the uninitiated. It would be ideal to take all three courses simultaneously (though it is not essential). Some keywords: dangerous women, dangerous sex, dangerous intellectual endeavours, humanism, heroism, politics of moderation, Dionysus vs. Apollo.</p>									
【履修要件】									
Students will have attained a certain level of proficiency in English.									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance 40% 2 presentations 60%									
【教科書】									
None.									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>Extensive reading of early and classical Greek literature as well as some secondary literature will be required. オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)			担当者氏名	神戸市外国語大学 外国語学部 教授 大西 英文				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	Seneca philosophusと後期ストア								
【授業の概要・目的】									
Seneca philosophusの、特にConsolatio ad Marciamを取り上げ、ストア思想の「創世論」、「情動論」などの問題を考察する。									
【授業計画と内容】									
前期はConsolatio ad Marciamの精読に充て、後期は、ストア思想の個別のテーマ（「創世論」、「情動論」、「宿命論」、「意志論」などの問題）を考察し、三期に別れるストア思想の変遷を跡づけるとともに、ローマに入って大きく変わったとされる後期ストアの在り方をSeneca philosophusの諸著作を通して確認する。 なお、使用するテキスト、文献等は授業で配布、または指示する。									
【履修要件】									
ラテン語文法を既修得のこと。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（授業での発表）及びレポート									
【教科書】									
Costa,C.D.N. 『Seneca ; Four Dialogues』 (Aris & Phillips,London,1995.)									
【参考書等】									
（参考書） Rist,J.M(ed) 『The Stoics』 (University of California Press,London,1978.)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)			担当者氏名	首都大学東京 都市教養学部 教授 大芝 芳弘				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	ホラーティウス『エポーディ(イアンビー)』研究								
【授業の概要・目的】									
<p>ホラーティウスの『エポーディ(イアンビー)』の講読を中心としながら、併せてThesaurus linguae Latinae についての解説を行う。</p> <p>『エポーディ(イアンビー)』については、テキストを精読することを通じて、ホラーティウス初期作品としての特色と意義について考えたい。TLL に関しては、辞書編纂の経緯や手順等とともに、具体的な項目を例にその語義分類、用例提示の仕方などについても解説したい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>集中講義期間中、一日のうち1時限を TLL の解説に充て、それ以外の時間で『エポーディ(イアンビー)』を講読する。具体的にどの作品を読むかについてはあらかじめ連絡する。</p>									
【履修要件】									
<p>ラテン語原典の講読を中心とするので、ラテン語既習者を対象とする。また、参加者には訳読の担当を求める。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>出席率、訳読の分担等の平常点評価を原則とするが、レポートの提出を求める場合もあり得る。</p>									
【教科書】									
<p>Q. Horatius Flaccus 『Opera (edidit D. R. Shackleton Bailey)』 (Teubner) Lindsay C. Watson 『A Commentary on Horace's Epodes』 (Oxford UP) ISBN:0-19-925324-2 David Mankin 『Horace, Epodes』 (Cambridge UP) ISBN:0-521-39774-X</p>									
【参考書等】									
(参考書)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
<p>訳読の担当に当たった出席者には、事前の予習を求める。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)		担当者氏名	千葉商科大学 商経学部 教授 師尾 晶子					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	古代ギリシアの碑文習慣とその周辺								
【授業の概要・目的】									
<p>文字を石やブロンズなど耐久性のある素材に刻むという習慣は、地域および時代による相違は顕著に存在したものの、総じて古代ギリシア世界に幅広く見られた文化現象であり、その文化的特徴の一つであった。碑文習慣は公私のさまざまな場で展開され、人々の生活とも深くかかわっていた。本講義では、碑文習慣をめぐる議論を整理するとともに、数多くの碑文を具体的に取り上げることから、古代ギリシアの碑文習慣の展開についての理解を深めたいと思う。</p> <p>アルカイック期からヘレニズム時代まで扱うが、古典期から前3世紀にかけてのアッティカ碑文にとくに焦点をあて、テキストにとどまらず建立された場(トポグラフィ)、モニュメンタリティにも注意を払いながら、碑文習慣と政治・社会・文化との関係をさぐりたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の話題について取り上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 碑文習慣 ・ アルファベットと方言 ・ 奉納碑 韻文碑と散文碑 神々にむけて言葉を書き記すこと ・ エヴェルジェティズムと碑文習慣 記念碑と奉納碑 ・ 建築碑文とエヴェルジェティズム ・ 権力の表現と碑文習慣 法と行政 ・ デロス同盟と碑文習慣 ・ 記憶・記録・再刻・再利用・偽作 歴史の創出 ・ 古典史料と碑文 ・ グラフィティと碑文 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業最終時の筆記試験もしくは初回時に指示するレポートによる。									
【教科書】									
教科書は使用しない。初回時に参考文献とあわせて必要な資料を配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 高橋 宏幸				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	オウィディウス『変身物語』								
【授業の概要・目的】									
オウィディウスの神話叙事詩『変身物語』を精読して、物語構成の変化の妙、繊細な人物造形、それらの表現を支える巧みなウィットとユーモアを味わい、楽しむ。									
【授業計画と内容】									
『変身物語』はギリシア・ローマの神話伝承に取材した大小250あまりの物語が切れ目なく連なって、形式上は叙事詩の体裁を取る。しかし、そこには叙事詩の本質的な要素である統一的主题が見当たらない。詩人の執筆意図は物語が関わるあらゆるレベルで「変身」もしくは「変容」を表現することにある。本演習はその仕掛けを読み解くことを目指す。 本年度は第5巻より、毎回70行前後を読み進み、第6巻末まで読み終える予定で、「ムーサ女神とピーエロスの娘らの歌競べ」、「プロセルピナの略奪」、「ミネルウァ女神とアラクネーの機織り競べ」、「テーレスとプロクネーとピロメーラ」といった物語を味読する。									
【履修要件】									
ラテン語文法を修得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。									
【教科書】									
W.S.Anderson 『Ovid's Metamorphoses Books 1-5.』 (Oklahoma 1998.) W.S.Anderson 『Ovid's Metamorphoses Books 6-10.』 (Oklahoma 1972.)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
原典の下調べの他、教科書に挙げた注釈書をよく読んで授業に望むこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 マルティン チェシコ				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	エウリーピデース『ヒッポリュトス』								
【授業の概要・目的】									
エウリーピデースの代表作の講読を通して、ギリシア語の読解力を養いながら、悲劇の構造、文学的モチーフやアッティカ、イオーニア、ドーリス地方の方言など分析していきたい。									
【授業計画と内容】									
コメンタリーを使用しながら劇を購読していく。literary languageやtextual criticismにも充分注意を払わなければならないことを具体的な例を挙げて示したい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。									
【教科書】									
Barrett, W. S. 『Euripides, Hippolytos, edited with Introduction and Commentary』 (Oxford: Clarendon Press)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 山下 修一				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	ヘーロドトスの『歴史』								
【授業の概要・目的】									
ヘーロドトスの『歴史』を精読することで、古代ギリシア語の読解力を養成するとともに、誕生したばかりの歴史叙述がもつ特徴と問題を考察しながら、その豊かな作品世界に触れる。									
【授業計画と内容】									
この授業では、昨年につき、『歴史』の第1巻60章から読みすすめる。 『歴史』の重要な主題部を形成する「クロイソス・ロゴス」に続いて、キューロスを大王に戴くペルシアの勃興の様子が描かれる。リュディア王クロイソスとキューロスの対決以後、『歴史』は、歴代ペルシア大王の事績を軸に記述されることとなる。ヘーロドトスの筆は、各地の自然や風習の特異な記述を含みながら、キューロスの生い立ち、ペルシアの興隆、小アジアやバビロニアの征服、さらに、エジプト史へと流れるように進む。 初回の授業では、テキストのコピーを配布し、参照すべきコメントリーを指示する。また、ヘーロドトスのテキストは、古代ギリシア語の授業で学習したアッティカ方言ではなく、イオニア方言で書かれているため、このイオニア方言についての解説をおこなう。毎回の授業では、出席者に訳読をしてもらいながら、約3～4ページの割合ですすむ予定である。									
【履修要件】									
古代ギリシア語の初級文法を既修のこと。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価。（必要に応じて学期末テストを行う予定である。）									
【教科書】									
Carolus Hude 『Herodoti Historiae Libri - 』（OCT）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
出席者には、ある程度の予習が必要とされる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 早瀬 篤				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	演習
題目	プラトン『パイドロス』を読む								
【授業の概要・目的】									
プラトンの『パイドロス』の原典を精読する。古典ギリシャ語文献を日本語に訳読する能力、およびプラトンのテキストを明晰な仕方で分析し、議論する能力を身につけることを目指す。									
【授業計画と内容】									
<p>プラトンの『パイドロス』を冒頭から丁寧に読んでいく。この対話篇は、イデア論を神話の形で描写するソクラテスの恋(エロース)を主題とするスピーチ、真の技術を獲得するために必要な哲学的方法論など、プラトン哲学の要素が詰まっている。授業では、そのひとつひとつを丹念に読み解いていく。</p> <p>毎時間、3ページ程度のテキストを、事前に担当者を決めずに、参加者全員が少しずつ訳読するという形式をとる(ただし、ギリシャ語に慣れていない学生は、前期は毎回の範囲の最初の部分の訳を担当する)。そして、注釈書や論文を参照しながら、内容についても議論を行う。</p>									
【履修要件】									
必須ではないが、初級ギリシャ語を習得していることが望まれる。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
J. Burnet 『Platonis Opera』 (Oxford Classical Text) ISBN:9780198145417									
【参考書等】									
(参考書)									
H. Yunis 『Plato: Phaedrus』 (Cambridge University Press) ISBN:9780521612953									
Ch. Rowe 『Plato: Phaedrus』 (Aris & Phillips) ISBN:9780856683145									
藤沢令夫 『藤沢令夫著作集IVプラトン『パイドロス』註解』 (岩波書店) ISBN:4000924141									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業に参加するためにはかなりの予習が必要である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 マルティン チェッコ				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水2	授業形態	講読
題目	ギリシア語中級講読 (Platon, Symposium III)								
【授業の概要・目的】									
ギリシア語初級文法習得者対象。プラトーン『饗宴』(200bから)の講読を通して、ギリシア語の読解力を養う。									
【授業計画と内容】									
プラトーンの著作はやや原文が難しいため、中級者対象ではあるが、文法の詳しい説明と、授業ごとの復習を重視し、初級者も中級文法の習得ができるよう目指す。毎週(Stephanusの)1-2頁を読み進める。また、時代的背景や、プラトーン哲学に触れながら、授業を行う。前期から後期まで、一貫して作品を読み進める。									
【履修要件】									
ギリシア語初級文法を習得済みであること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
OCTテキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
K. Dover 『Plato, Symposium』(Cambridge, 1980)									
C. J. Rowe 『Plato, Symposium』(Aris & Phillips, 1998)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 マルティン チェシコ				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水2	授業形態	講読
題目	ギリシア語中級講読 (Platon, Symposium IV)								
【授業の概要・目的】									
ギリシア語初級文法習得者対象。プラトーン『饗宴』の講読を通して、ギリシア語の読解力を養う。									
【授業計画と内容】									
プラトーンの著作はやや原文が難しいため、中級者対象ではあるが、文法の詳しい説明と、授業ごとの復習を重視し、初級者も中級文法の習得ができるよう目指す。毎週（Stephanusの）1-2頁を読み進める。また、時代的背景や、プラトーン哲学に触れながら、授業を行う。前期から後期まで、一貫して作品を読み進める。									
【履修要件】									
ギリシア語初級文法を習得済みであること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。									
【教科書】									
OCTテキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） K. Dover 『Plato, Symposium』 (Cambridge, 1980) C.J. Rowe 『Plato, Symposium』 (Aris & Phillips, 1998)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 高橋 宏幸				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水4	授業形態	講読
題目	ラテン語中級講読								
【授業の概要・目的】									
ラテン語初級文法を終えた人を対象に、カエサル『ガリア戦記』を教材として、ラテン語の基礎力を養う機会を提供する。									
【授業計画と内容】									
カエサルの平明な文体の散文を読むことで、ラテン語の基本的な感覚を身につけることを目指す。そのため、初級文法のおさらいを行なう一方、初級者が見落としやすい意味の区別、よく使われる言い回し、構文の特徴などに注意を喚起しながら、原文を読む。 第5巻、ブリタンニア遠征を中心とした箇所を教材とし、毎回、2～3章を読み進む。 折に触れてカエサルの記述意図や歴史的背景などにも言及する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 高橋 宏幸				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水4	授業形態	講読
題目	ラテン語中級講読								
[授業の概要・目的]									
ラテン語初級文法を終えた人を対象に、カエサル『ガリア戦記』を教材として、ラテン語の基礎力を養う機会を提供する。									
[授業計画と内容]									
カエサルの平明な文体の散文を読むことで、ラテン語の基本的な感覚を身につけることを目指す。そのため、初級文法のおさらいを行なう一方、初級者が見落としやすい意味の区別、よく使われる言い回し、構文の特徴などに注意を喚起しながら、原文を読む。 前期に引き続いて第5巻後半から始め、エブローネース族などガリア人の蜂起によるローマ軍の壊滅的敗北、また、危機の回避の個所を教材とし、毎回、2～3章を読み進める。 折に触れてカエサルの記述意図や歴史的背景などにも言及する。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点。									
[教科書]									
プリントを配布する。									
[参考書等]									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

スラブ語学スラブ文学専修

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	古教会スラブ語研究								
【授業の概要・目的】									
Psalterium sinaiticum 「シナイ詩篇」を精読することにより古教会スラブ語の知識を確実に身につけるとともに、スラブ古文献の取り扱いに慣れる。									
【授業計画と内容】									
9世紀末に、スラブ人にキリスト教を伝道するため、テッサロニケ出身のギリシア人、キュリロスとメトディオスの兄弟が聖書を翻訳したことにより成立したのが、古教会スラブ語である。新約聖書、旧約聖書の全巻が翻訳されたと伝えられるが、現在きちんとした形で残っているのは、そのうちの4福音書、使徒書簡、詩篇である。この授業ではその中から「詩篇」を講読することにより、この言語の基本的構造を学ぶ。主たるテキストとしてはグラゴル文字テキストをキリル文字に転写した「シナイ詩篇」Psalterium sinaiticumを用いるが、キリル文字の「ボローニャ詩篇」「キエフ詩篇」テキストも参照する。また、古教会スラブ語訳のもととなったギリシア語70人訳聖書テキストと対照しつつ、読み進める。(前学年の続き。)									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と学期末のレポート。									
【教科書】									
授業時にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
最初の授業時に示す。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕
配当学年	全回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	月2
授業形態	特殊講義		
題目	古教会スラブ語研究		
[授業の概要・目的]			
Psalterium sinaiticum 「シナイ詩篇」を精読することにより古教会スラブ語の知識を確実に身につけるとともに、スラブ古文献の取り扱いに慣れる。			
[授業計画と内容]			
9世紀末に、スラブ人にキリスト教を伝道するため、テッサロニケ出身のギリシア人、キュリロスとメトディオスの兄弟が聖書を翻訳したことにより成立したのが、古教会スラブ語である。新約聖書、旧約聖書の全巻が翻訳されたと伝えられるが、現在きちんとした形で残っているのは、そのうちの4福音書、使徒書簡、詩篇である。この授業ではその中から「詩篇」を講読することにより、この言語の基本的構造を学ぶ。主たるテキストとしてはグラゴル文字テキストをキリル文字に転写した「シナイ詩篇」を用いるが、キリル文字の「ボローニャ詩篇」「キエフ詩篇」テキストも参照する。また、古教会スラブ語訳のもととなったギリシア語70人訳聖書テキストと対照しつつ、読み進める。(前学期「古教会スラブ語研究」Iの続き。)			
[履修要件]			
特になし			
[成績評価の方法・基準]			
平常点と学期末のレポート。			
[教科書]			
授業時にプリントの形で配布する。			
[参考書等]			
(参考書) 授業中に紹介する			
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))			
最初の授業時に示す。			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 服部 文昭						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	ロシア語学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
現代ロシア語の構造を研究する上での基本的な諸問題につき、理解を深めてゆく。									
【授業計画と内容】									
動詞のアスペクト、名詞・形容詞の格、コピュラを含む構文といったテーマを中心に、取り組む予定である。 具体的に述べれば、古典的なヴェンドラーの分類をめぐる問題、借用語である動詞と両体動詞との関係の問題、否定とアスペクトとの問題、動詞のアスペクトと目的語（その格）の問題などである。さらにまた、コピュラを含む構文の述部での名詞・形容詞の格の選択の問題も当然扱うが、その際に、格とアスペクトとの関係、近隣のスラヴ諸語との対照といった点にも目配りをしてゆきたい。 単なる講義には終わらず、いくつかのカレントの論文を輪読する形式で進めてゆく。受講生諸君に割り当てる際には、本人の関心・興味と勉学・研究の進み具合を勘案の上、分担を決めようと考えているので、受講する諸君は積極的に参加して欲しい。									
【履修要件】									
特には無いが、ロシア語で論文の読めることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートなどの総合評価を原則とする。									
【教科書】									
佐藤純一 『ロシア語史入門』（大学書林）ISBN:4475018913									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業中に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 言語文化教育研究センター 教授 松本 賢一				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	特殊講義
題目	ドストエフスキイの『弱い心』から『罪と罰』へ								
【授業の概要・目的】									
ドストエフスキイの創作史の中で『罪と罰』は作家がもっとも円熟し、また作品の完成度も高まった時期の代表作とみなされている。しかし実際にはこの作品の中には、シベリア流刑もはさんだ初期のもろもろの作品で提起されたテーマが流れ込んでいる。この授業では、そのような初期作品の一つとして『弱い心』をとりあげ、細かく読み説いた上で、『罪と罰』との共通点や相違点を探っていきたい。初期と中期、短篇と長篇という全く異なる二作品に様々な方向からアプローチすることによって、ドストエフスキイの創作活動の全体像や、近代ロシアが抱えていた諸問題を明らかにしていきたい。									
【授業計画と内容】									
いわゆる講読スタイルはとらない。あらかじめ割り当てた分を家で読んできてもらい、そのテキストがはらむ問題点を発表してもらい、討議する、という形をとる。受講者数にもよるが、前期の最初の4回は『弱い心』について、後期の最初4回は『罪と罰』について担当者が講義し、その中で受講者各自が自身の問題意識に合うテーマを選ぶことにする。講義部分4回を除き、残り10回ですべての受講者が最低2回は発表できるように考慮する予定である。									
【履修要件】									
できれば辞書を用いてでもロシア語の原文を読み解く力がほしい。									
【成績評価の方法・基準】									
日常的な出席率と、授業への積極的な参加を主として成績評価を行うが、受講人数によっては学期末にテーマを選んでレポートを作成してもらい、これを評価に加味することがある。									
【教科書】									
ロシア語の原文を含め、プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	演習
題目	ポーランド文学演習								
【授業の概要・目的】									
Jaroslaw Iwaszkiewicz (1894-1980) の長編小説『栄光と称賛』Slawa i chwala (1956-1962)を読む。									
【授業計画と内容】									
Jaroslaw Iwaszkiewicz (1894-1980) は戦間期から戦後にかけて活躍した現代ポーランドを代表する作家の一人である。邦訳された作品として、中編小説「尼僧ヨアンナ」の他、いくつかの短編が紹介されている。この演習の授業では、彼の代表的な長編作品『栄光と称賛』Slawa i chwala (1956-1962)を精読する。この物語は1914年、第一次世界大戦前夜のオデッサの町を舞台にした1シーンから始まり、第二次大戦直後のポーランドで終わる。旧ポーランド領ウクライナの地主貴族ムイシンスキ家、ロイスキ家、シルレル家という3家族の興亡を描きだす。前学年の続き(第7部Osty nad katedra, Vより)から始めるが、これまでの出来事、また登場人物等については、最初の授業時に簡単に解説する予定である。									
【履修要件】									
ポーランド語の初級文法を修めていること(独習で構わない)が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への出席と学期末のレポートの両方で評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
最初の授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金3	授業形態	演習
題目	ポーランド文学演習								
【授業の概要・目的】									
Jaroslaw Iwaszkiewicz (1894-1980) の長編小説『栄光と称賛』Slawa i chwala を読む。									
【授業計画と内容】									
Jaroslaw Iwaszkiewicz (1894-1980) は戦間期から戦後にかけて活躍した現代ポーランドを代表する作家の一人である。邦訳された作品として、中編小説「尼僧ヨアンナ」の他、いくつかの短編が紹介されている。この演習の授業では、彼の代表的な長編作品『栄光と称賛』Slawa i chwala (1956-1962) を精読する。この物語は1914年、第一次世界大戦前夜のオデッサの町を舞台にした1シーンから始まり、第二次大戦直後のポーランドで終わる。旧ポーランド領ウクライナの地主貴族ムィシンスキ家、ロイスキ家、シルレル家という3家族の興亡を描きだす。前学期（「ポーランド文学演習II」）の続きから始める。									
【履修要件】									
ポーランド語の初級文法を修めていること（独習でも構わない）が望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への出席と学期末のレポートの両方で評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
最初の授業時に指示する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	ロシア文学演習								
【授業の概要・目的】									
ドストエフスキーの『罪と罰』（ ）を読む。									
【授業計画と内容】									
誰でも知っている . . . の長編小説『罪と罰』（ 、文字通りに読めば『犯罪と処罰』を精読する。テキストは6. 1973. を用いる。必要に応じて同全集 .7. 所載の3つの手稿版（第1 = 簡略版、第2 = 拡大版、第3 = 最終版）を参照する。									
【履修要件】									
初級文法を修めていること。ただし独習であっても構わない。自分の力に不安がある人は前もって教員に相談してください。									
【成績評価の方法・基準】									
出席の状況と学期末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
プリントの形で授業時に配布する。									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
最初の授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	ロシア文学演習								
【授業の概要・目的】									
ドストエフスキーの『罪と罰』 を読む。									
【授業計画と内容】									
<p>..... の長編小説『罪と罰』（、文字通りに読めば『犯罪と処罰』を精読する。テキストは.....6. 1973. を用いる。必要に応じて同全集 .7.所載の3つの手稿版（第1 = 簡略版、第2 = 拡大版、第3 = 最終版）を参照する。（前学期「ロシア文学演習I」の続き）。</p>									
【履修要件】									
初級文法を修めていること。ただし独習であっても構わない。自分の力に不安のある人は前もって教員に相談してください。									
【成績評価の方法・基準】									
出席の状況と学期末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
プリントの形で授業時に配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
最初の授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 ＜英訳＞	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 Valerij Grecko				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	演習
題目	ロシア文化論研究								
【授業の概要・目的】									
19世紀から20世紀にかけて書かれたロシア文学の重要な作品と、文学・文化関係の論文をロシア語で読み、その内容に関して議論する。ロシア語能力を高め、ロシア文学やロシア文化に対する理解を深めるとともに、文学理論についての知識を得ることを目指す。									
【授業計画と内容】									
前期は文学作品（プルガーコフ、プラトーフ、パウストフスキーなど）を読む。小説はなるべく短編を選ぶが、長編の場合は、重要な場面をピックアップする。まずロシア語を正しく理解した上で、それぞれの作家独自の文体や表現に着目する。また、作品が成立した時代背景と作品の内容との関連についても考えてみたい。後期はロシア・フォルマリズムと構造主義の主要な論文（シクロフスキー、ヤーコブソン、ロートマン）を読む。ロシア・フォルマリズムと構造主義の重要な概念と方法論について考察し、シクロフスキーらの考えが文学作品を分析する際にどのように応用できるかを考える。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
成績は平常点（出席状況・課題への取り組み・討論への貢献度など）で評価する。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級Ⅰ）（語学） Polish	担当者氏名	神戸市外国語大学 森田 耕司 外国語学部 准教授						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	語学
題目	ポーランド語初級Ⅰ								
【授業の概要・目的】									
ポーランド語の初級文法を習得する。									
【授業計画と内容】									
ポーランド語はスラブ諸語の一つとして、チェコ語、スロヴァキア語とともに、西スラブグループを構成する。文字は、ロシア語とは異なり、普通のローマ字に必要な改変記号をつけて使用する。この授業では、文字の読み方、母音と子音の発音から始めてポーランド語の初級文法を教科書に沿って学習する。概ね次のような文法項目を学習する。名詞の性の区別、単数形と複数形、男性名詞・女性名詞・中性名詞の格変化、人称代名詞の変化、形容詞的代名詞の変化、形容詞の変化、動詞の現在形・過去形・未来形、非人称文、動詞の体（アスペクト）、命令法、能動分詞と受動分詞の作り方、前置詞の用法、仮定法など。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況（50%）と定期試験（50%）の両方で評価する。									
【教科書】									
石井哲士朗・三井レナータ著 『ニューエクスプレス ポーランド語』（白水社）ISBN:978-4-560-06794-9									
【参考書等】									
（参考書） 木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正〔編〕 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書を中心に授業を行うので、毎回、各自予習・復習を怠らないこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級Ⅰ）（語学） Polish	担当者氏名	神戸市外国語大学 森田 耕司 外国語学部 准教授						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	語学
題目	ポーランド語中級Ⅰ								
【授業の概要・目的】									
この授業では、「ポーランド語初級Ⅰ」を終えた学生がスムーズに中級へレベルアップできるようにすることを主な目的とする。ポーランド政府公認のポーランド語国家検定試験のB1（初中級）に合格できる程度の運用能力養成をめざす。									
【授業計画と内容】									
初級時に学習した基礎的な文法事項（名詞・形容詞・形容詞的代名詞・人称代名詞の格変化、形容詞の比較変化、副詞とその比較変化、動詞の現在形・過去形・未来形、非人称文、動詞の体、仮定法、sie動詞、命令法など）の復習を豊富な練習問題を通して行いながら、文法への理解を深め、知識の安定化を図る。特に応用力の養成に重点を置く。									
【履修要件】									
「ポーランド語初級Ⅰ」を履修済みであるか、もしくはそれ同等の知識を有すること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況（50%）と定期試験（50%）の両方で評価する。									
【教科書】									
初回授業時に指示するので、履修希望者は必ず出席すること。									
【参考書等】									
（参考書） 木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正〔編〕『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3（授業時必携） 石井哲士朗・三井レナータ著『ニューエクスプレス ポーランド語』（白水社）ISBN:978-4-560-06794-9（授業時必携）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書を中心に授業を行うので、毎回、各自予習・復習を怠らないこと。そして、辞書を引く苦勞をいとわないこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級II）(語学) Polish	担当者氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	語学
題目	ポーランド語初級								
【授業の概要・目的】									
ポーランド語の学習を始めた人を対象にネイティブの教員が文法事項の復習をし、それぞれの表現が身に付くように練習して、ポーランド語能力試験に定義されるA2のレベルを目指します。									
【授業計画と内容】									
基本的な日常表現と文法の基礎を学び、丁寧な挨拶や自己紹介から始めて、ゆっくりと、簡単な言い回しを使いながら、家族、趣味、料理、仕事などのテーマについて簡単に話すことができるように学んでいきます。 授業中は、聴解練習と会話練習をたくさん行います。									
【履修要件】									
とくにないが、「ポーランド語初級」と並行して出席することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と学年末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
授業中にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級II）(語学) Polish	担当者氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	語学
題目	ポーランド語中級								
【授業の概要・目的】									
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。自身の意見や観点を、より明確に伝えられるようになることを目指し、やや複雑な文章構造を学びます。ポーランド語能力試験に定義されるB1のレベルを目指します。									
【授業計画と内容】									
ポーランド語の文法の基礎と基本的な語彙力を持つ学生を対象に、会話、聴解、読み書き等の能力を高める練習を行います。 実際に日常生活でよく使われる表現を紹介し、実生活の場面で必要な会話能力の充実を目標とします。									
【履修要件】									
ポーランド語の文法の基礎を習得していること、および簡単に自己紹介したり家族・趣味等について話すことができるような語彙力を持っていることが要求される。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と学年末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

ドイツ語学ドイツ文学専修

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 尾野 照治				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	中世ドイツ再発見(12, 13世紀)								
[授業の概要・目的]									
ヨーロッパ中世の大きな一角を占めるドイツ語圏の文化と思想に関して、当時の様々なジャンルの原典を研究素材に、その形成と発展を考察する。									
[授業計画と内容]									
中世盛期(12, 13世紀)ドイツ語圏の社会の構造と文化を概観した後、物文化としての貴族・騎士の新しい生活様式と、貴族・騎士の社会文化の思想的基盤である宮廷的社会理想を、当時の法書・思想書・説教集・文芸作品等の研究素材によって、具体的に検討していく。本学期は特に、説教集、キリスト教的宮廷倫理の教育詩、法書、宮廷抒情詩、宮廷叙事詩、英雄叙事詩等の原典を読み解きながら、謎多いヨーロッパ中世の人々の生活像を炙り出す。更にその歴史的状況を把握しながら、中世の文化・思想の形成と発展に関わる諸問題を、総合的に考察する。									
[履修要件]									
ドイツ語初級の単位を取得していること。									
[成績評価の方法・基準]									
レポートと出席率による。									
[教科書]									
それぞれの原典の抜粋をコピーして配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは、毎週水曜日の12:00~13:00。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 奥田 敏広				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	ニーベルング伝説をめぐるヘッベルとヴァーグナー								
【授業の概要・目的】									
<p>ニーベルング伝説を下敷きにした19世紀ドイツ近代戯曲を代表するふたつの大作、ヘッベルの『ニーベルンゲン』とヴァーグナーの『ニーベルングの指環』を取りあげ、それらを比較・対照することによってその相違点と共通点について考察する。</p> <p>また、ドイツ近代悲劇の代表作を具体的に知ることによって、近代悲劇の特徴について考察すると同時に、歴史悲劇と市民（家庭）悲劇、共同体と演劇（祝祭）について、およびニーベルング伝説をめぐる北欧神話と近代芸術について考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期は、フリードリヒ・ヘッベルの最後の大作『ニーベルンゲン』を取り上げ、注釈を参考にしながら、全体を読み通す。精読を中心に、速読も加味しながら作品を読み通す。授業参加者には、前者の場合は逐語訳を、後者の場合は要約を発表してもらい、それを全員で検討しながら進めていく。いずれの場合も発表者は、注釈を参照して、さまざまな解釈可能性を考慮しながらよく吟味しておくこと。</p> <p>後期は、ヘッベルとヴァーグナーの作品に関する評論を読むことが授業の中心となる。</p> <p>まずは、『ニーベルンゲン』受容史における転回点となった、ヴィルヘルム・エムリヒの『偶像と神々』（1974年）から始めるが、これは、それまでのナショナルでオプティミスティックな解釈を明確に拒否したもので、その後現在に至るまでの総じて「歴史を、恣意と裏切り、復讐と殺人の意味のない循環と捉える、根源的にペシミスティックな歴史観」の出発点となったものである。</p> <p>しかし一方、ヘッベルとヴァーグナーともに、来る2013年に生誕200年祭を迎えることになり、新しい研究や解説書の出版、および新演出による上演などが始まりつつある。これらの新しい研究が本授業の中心的な対象となる。</p> <p>また適宜、実際の上演例もDVDなどの映像資料で鑑賞し、演出に見られる作品解釈を参考にする。</p> <p>なお、上記のような解釈例に対する、授業参加者自身の評価や見方を、適宜、口頭で発表してもらおう。それらを踏まえて、各自が冬休み中にレポートをまとめ、1月はそれを発表してもらいながら、全員でその検討を行う。</p>									
【履修要件】									
ドイツ語の読解力があること									
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・基準]

上記で述べた授業中の発表とレポートを総合して評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 河崎 靖				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	ドイツ・ゲルマン語学概論								
【授業の概要・目的】									
ゲルマン諸語を視野に収めながらドイツ語を中心に言語学の各レベル（音・文法・意味・語彙等）にわたって考察を行う。									
【授業計画と内容】									
印欧諸言語を対象に、ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とし、ことばの諸相を観察することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を追求する。言語体系の普遍的な法則性を探るべく考究を進める。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。									
授業は、講義・演習の両形式とする。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
基本的に平常点による（口頭発表を含む）。									
【教科書】									
こちらでプリント教材を準備する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
木曜日（昼休み）									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 外国人教師 トラウデン,ディーター						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	Deutschsprachige "Phantastische Literatur"								
【授業の概要・目的】									
In diesem Kurs sprechen wir anhand von Texten aus mehreren Jahrhunderten über Theorie und Praxis der sog. "Phantastischen Literatur".									
【授業計画と内容】									
Was die Gattung "Phantastische Literatur" konstituiert, wie sie sich definieren lässt und was sie von anderen Gattungen abgrenzt, ist in der Forschung bereits seit dem 19. Jahrhundert bis in die neueste Zeit heftig umstritten. Wir lesen Texte insbesondere des 19. und 20. Jahrhunderts, z.B. von E.T.A. Hoffmann, Franz Kafka, Alfred Kubin, Gustav Meyrink sowie Leo Perutz, und versuchen uns auf dieser Textgrundlage eine eigene Meinung über die Tragfähigkeit der verschiedenen Theorieansätze zu bilden.									
【履修要件】									
Es wird erwartet, dass die Studenten die Texte jeweils vor dem Unterricht gut vorbereiten.									
【成績評価の方法・基準】									
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung.									
【教科書】									
Alle nötigen Materialien werden im Kurs verteilt.									
【参考書等】									
(参考書) Als Hilfsmittel sind Wörterbücher (auch elektronische) notwendig.									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 岡田 暁生				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	西洋音楽史とモダン・ジャズ								
【授業の概要・目的】									
<p>モダン・ジャズがアメリカ音楽（とりわけポピュラー音楽）の文脈で語られることはあっても、西洋音楽の歴史との関連に言及されることはほとんどない。むしろジャズ批評の多くは「クラシック音楽」を仮想敵として設定することにより成立してきたところがあり、クラシックとの差異化をはかるべく、「アメリカ」「黒人」「大衆（民衆）」といった要素を強調することで、むしろ二〇世紀初頭の西洋音楽モダニズムからの連続性が見えなくなってきたとすらいえる。この講義では、1. 西洋音楽にとってのジャズ（例えば一九二〇年代におけるラヴェルらのジャズ受容） 2. モダン・ジャズにとっての西洋モダニズム（和声などにおけるアナロジー） 3. 「芸術音楽」としてのモダン・ジャズおよびクラシック双方の歴史の並行関係（とりわけ独創性の概念） に焦点を当てる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>とりあげる主要なテーマは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：調性音楽からの出口の模索：ドビュッシーとエクゾチズム 2：西洋モダニズムとしてのジャズ受容：ストラヴィンスキーとラヴェル 3：「自由」のシンボルとしてのスイング 4：実験的調性音楽としてのバップ 5：ヨーロッパ戦間期の前衛とモダン・ジャズの連続性 6：即興とは何か 7：ジャズにおける和声とヨーロッパ・モダニズム 8：旋法（モード）とフォルムの危機 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>油井正一 『ジャズ歴史物語』（アルテス）</p> <p>音楽理論やジャズの歴史についての予備知識はなくともよい。二〇世紀モダニズムに何らかの関心をもつ者を歓迎する。マイルス・デイヴィスの歴史的な名盤『カインド・オブ・ブルー』だけは録音を聴いておくこと。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 松村 朋彦				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	ドイツ語学ドイツ文学の諸問題								
[授業の概要・目的]									
<p>受講者の発表と、それにもとづく討論を中心にして授業を進める。ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法に親しむとともに、研究発表とディスカッションの技法を学ぶ。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>前期は、博士後期課程1回生と修士課程1回生に、前年度に提出した修士論文と卒業論文の内容について、また、博士後期課程2・3回生と修士課程2回生に、博士論文と修士論文の進行状況について、それぞれ発表してもらう。</p> <p>後期は、修士課程2回生と学部4回生による修士論文と卒業論文の中間発表のほか、博士後期課程1回生、修士課程1回生、学部3回生にも、それぞれの研究テーマについて発表してもらう。</p> <p>受講者は、それぞれの発表について、少なくとも一度は発言すること。</p>									
[履修要件]									
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点（授業への出席と参加）によって評価する。									
[教科書]									
発表者が、プリントを作成して配布する。									
[参考書等]									
<p>（参考書） 発表者が、必要に応じて紹介する。</p>									
<p>（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） 発表者は、事前に予告篇を作成して、受講者に配布しておくこと。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 松村 朋彦				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	演習
題目	カスパール・ハウザーとドイツ文学								
【授業の概要・目的】									
1828年、ニュルンベルクの町に、奇妙な少年があらわれる。言語能力はほとんどなく、長い間地下牢のようなところに閉じ込められていたらしかった。この少年はカスパール・ハウザーと呼ばれ、町の学校教師ダウマーのもとで教育を受けるが、1833年、何者かによって殺される。この謎めいた事件にまつわるいくつかのテクストを読み、市民社会にとってカスパールが何者だったのかについて考えてみたい。									
【授業計画と内容】									
取り上げる予定のテクストは次の通り。 1 Kaspar Hauser: Autobiographie(1828/29) 2 Stefan George: Kaspar Hauser singt(1905) 3 Rainer Maria Rilke: Der Knabe (1906) 4 Jakob Wassermann: Caspar Hauser oder die Trägheit des Herzens(1907/08) 5 Georg Trakl: Kaspar Hauser Lied(1913) 6 Peter Handke: Kaspar(1967/68) 7 Werner Herzog: Jeder für sich und Gott gegen alle(1974)									
【履修要件】									
ドイツ語中級以上の語学力があること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（授業への出席と参加）によって評価する。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしてくること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

英語学英米文学専修

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 佐々木 徹				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	ヴィクトリア朝小説研究								
【授業の概要・目的】									
<p>ヴィクトリア朝（1837-1901）は、ブロンテ姉妹、ディケンズ、サッカレー、エリオット、ハーディなどの優れた作家が輩出した、英国文学史における小説の黄金時代であった。この授業は、アメリカの著名な学者ジョージ・レヴィーンが著した入門書を手掛かりに、この時期の小説の主題や技法面における特徴を探り、理解を深めることを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>レヴィーンが詳しく扱っている小説は、順に、ディケンズ『ピックウィック・ペイパーズ』、サッカレー『虚栄の市』、ブロンテ『ジェイン・エア』、ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』、コリンズ『白衣の女』、エリオット『ミドルマーチ』。</p> <p>毎回の授業でテキスト6頁ほどをカバーすれば最後まで目を通す計算になるので、その程度の予習が毎回必要になる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>授業が5、6回進むごとに短いレポートを出してもらおう。提出されたレポートはコメントを付けて返却する。評価はこれらのレポートに基づいて行う。</p>									
【教科書】									
George Levine 『How to Read the Victorian Novel』（Wiley-Blackwell）ISBN:978-1405130561									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワーは毎週月曜14時15分～15時15分。 返却したレポートについての質問等を受けつけるので遠慮なく来室されたい。 教科書の予習はこの種の文章を読み慣れていないと手間がかかるかもしれないので、できるかぎり毎回予習のポイント等を授業時間内に示す。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 家入 葉子						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金5	授業形態	特殊講義
題目	中英語入門								
【授業の概要・目的】									
中英語についての基礎知識がないことを前提に、基礎から丁寧な授業を行います。									
【授業計画と内容】									
<p>Chaucer (1340?-1400)の作品の中から、The Canterbury Talesにおさめられた"The Wife of Bath's Prologue and Tale"の講読を行います。なお、講読に際しては、日本語および現代英語による訳を参照しながら授業の準備をしてください。特殊講義ですが、受講者参加型の授業形態になります。</p> <p>中英語についての理解を深めるとともに、英語が今日まで発達してきた過程についても考察します。中英語への入門的な授業ですので、中英語の特徴をある程度つかむことができれば、授業の目的を達成したといえることができます。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点およびレポートにより評価します。最初の授業でレポートについての説明を行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。									
【教科書】									
L. D. Benson, et al. (eds.) 『The Riverside Chaucer』 (OUP) ISBN:978-0-19-955209-2									
【参考書等】									
(参考書)									
Norman Davis, et al. 『A Chaucer Glossary』 (Clarendon) http://homepage3.nifty.com/iyeyiri/students/chaucer.htm にも参考情報を掲載しています。									
(関連URL)									
http://homepage3.nifty.com/iyeyiri/students/index.htm (このウェブサイトを定期的にチェックしてください。)									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 若島 正				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	アメリカの幻想小説を読む								
【授業の概要・目的】									
アメリカの幻想短篇小説を読むことにより、幻想小説というジャンルの特徴をつかみながら、アメリカ文学史のおおまかな知識を獲得するとともに、メインストリームからは傍流とみなされがちな大衆小説の分野に対する関心を喚起することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
第1回目の講義では、幻想小説のおおまかな特徴づけを、いくつかの定義の試みに従って概説する。第2回目以降は、授業の形態を変え、毎週1作ずつアメリカの幻想短篇小説を読む演習形式にする。扱う予定の作家は、Hawthorne, Poe, Bierce, Wharton, Malamudといった主流文学の作家たちから、Lovecraft, Barbury, Straubとったいわゆる「怪奇と幻想」の大衆小説作家たちまで。演習形式では、あらかじめ発表当番を指名しておき、その当番による発表をもとに授業を進める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点80%（発表＋英文レポート3本以上）と期末のレポート20%（和文・英文どちらでも可）を合わせて評価する。									
【教科書】									
テキストはpdfファイル形式にして、受講者に一斉配信する。添付ファイルをダウンロードできるようなメールアドレスを登録すること。									
【参考書等】									
（参考書） 特になし。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 森 慎一郎						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	Ernest Hemingway, In Our Timeを読む								
【授業の概要・目的】									
20世紀アメリカ文学の重要作家の一人、Ernest Hemingway (1899-1961)の初期短篇集In Our Time (1925)を丹念に読みながら、散文彫琢の極致とも言われるHemingwayの文体についてあらためて考えてみたい。									
【授業計画と内容】									
1924年、in our timeと題された小文集をパリで出版して一部の作家・批評家の注目を集めたHemingwayは、翌1925年、そこに収められていたスケッチ群を再利用しつつ1冊の短篇集を纏め上げ、これが高い評価を得たことで新たな文学の担い手として広く認知されることになった。このIn Our TimeがHemingwayの最高傑作の一つであること、また彼のトレードマークとなる独特の文体がすでにここで完成されていたことは、つとに指摘されてきたとおりである。 この授業では、言葉の選択、配置、句読点の打ち方といった細かな点にも最大限の注意を払いつつ、In Our Time所収の短篇・スケッチを一つずつ丁寧に検討していくことで、Hemingwayの文学世界に親しむと同時に、その独特の研ぎ澄まされた文体のすごみを多少とも感得できるようになることを目指したい。各回、1～2篇の短編(+スケッチ)を扱うことにし、それぞれの作品について、受講者による発表をもとに授業を進める予定。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(授業への参加度)と学期末のレポートにより評価する。									
【教科書】									
Ernest Hemingway 『In Our Time』(Scribner) ISBN:978-0-684-82276-1									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
発表当番の回にかぎらず、毎回の綿密な予習と積極的な発言が求められる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 山梨 正明				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	言語と認知のメカニズム								
【授業の概要・目的】									
言語主体の認知能力からみた言葉の記述と分析を通して、日常言語の論理と伝達のメカニズム、異文化間の言葉と認識の違い、発想の違い等を考察していく。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業を行う。 言語学の基本的な考え方と分析の方法 認知科学からみた言語研究と関連領域の概観 認知言語学の基本的な枠組と研究の方法 一般的認知能力からみた言語能力の分析法 認知能力からみた言語現象の諸相の具体的分析									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験と平常点による評価									
【教科書】									
山梨正明 『認知言語学原理』（くろしお出版）									
【参考書等】									
（参考書） 山梨正明 『ことばの認知空間』（開拓社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業中に指示されたテキストの予習をしておくこと オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 水野 尚之				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	都市とアメリカ的想像力								
【授業の概要・目的】									
都市とアメリカ的想像力について、アメリカ文学の作品を題材にして考察する。									
【授業計画と内容】									
<p>植民地時代以来、アメリカの諸都市の発達は文学的想像力と密接に関わりあってきた。Salem、Concord、Boston、New Yorkなど東部の都市の発達がアメリカの作家たちにどのような影響を与えてきたか、また都市が小説、劇、日記、回想記、映画などでどのように表象されてきたかを考察する。</p> <p>扱う作家は、Washington Irving、Nathaniel Hawthorne、Henry David Thoreau、Herman Melville、Horatio Alger、Henry James、Stephen Crane、Edith Wharton、J. D. Salinger、Paul Auster、Don DeLilloなどである。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席・授業への参加度 50%、筆記試験の成績 50%									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
火曜2時限、火・木・金曜12時～13時、ほか研究室在室時。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者氏名	三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	古英詩入門(Introduction to Anglo-Saxon Poetry)								
【授業の概要・目的】									
古英語の基礎を学びながら、古英詩の豊かな世界に親しむことを目的とします。									
【授業計画と内容】									
古英語に慣れるため、まずイギリス文学史に最初に名を遺す詩人キャドモンのエピソード(散文)を読んだ後、前期は『モールドンの戦い』『ベオウルフ』(抜粋)などの英雄叙事詩を、後期は『十字架の夢』などの宗教詩を取り上げる予定です。「特殊講義」ですが、基本的には講読の形態で授業を行いますので、受講者には事前の準備が求められます。 ゲルマン的異教の価値観とキリスト教の価値観が交錯する世界に親しむには、語形変化表やグロッサリーを丹念に調べる根気に加えて、豊かな想像力が必要です。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点およびレポートで評価します。評価方法も含めて、授業の進め方を第1回目に説明しますので、受講を考えている人は必ず出席してください。									
【教科書】									
Bruce Mitchell and Fred C. Robinson 『A Guide to Old English 8th ed.』 (WILEY-BLACKWELL) ISBN: 978-0-470-67107-8									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
受講にあたっては入念な下調べが要求されます。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者氏名	大阪大学大学院 文学研究科 教授	服部 典之					
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	パミラの恋愛とその顛末								
[授業の概要・目的]									
<p>1. イギリス小説成立の要となったりチャードソン作『パメラ』(1740年刊)の後半・第2部(小説最後まで)を検討し、小説というジャンルへの理解を深める</p> <p>2. 貴族であるミスター・Bとヒロインであるパメラ(カントリー・ハウスの住み込み女中)のロマンスの結末を読み、近代的恋愛が可能になった人間的状況への洞察を深める。この英国近代初期の恋愛小説が結婚で終わらず、家庭の安定確保までも含むことの意味を探る。また近代的恋愛と近代小説ジャンル成立の関係性を考察する。</p> <p>3. 長編小説の全体を通読することで、英語の文学作品の読解力を涵養する。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>授業計画</p> <p>1年で、オックスフォード・ワールズ・クラシックス版(初版に準拠)のVol.2を読む。講義形式であり、受講者を指名して発表を求めることはない。ただ、毎回受講者はその回に感じた感想や質問などをコメントペーパーに書いて提出する義務を負う。教員はそのコメントペーパーへのレスポンスを行いながら講義を進める。</p> <p>講義の内容</p> <p>本講義では、当初はセクシュアル・ハラスメントに近い形で男女関係を進展させようとする主人と、彼への様々な対処を経て女主人公パメラが近代的恋愛を勝ち得る姿を、綿密に追う。特に書簡体小説で繰り広げられる様々な説得のレトリックの分析を行うことで、近代の心理小説の先駆けになった本作品の神髄に迫りたい。本作品は後世のジェイン・オースティンやヴァージニア・ウルフへ多大な影響を与えている。近代的小説成立と近代的恋愛の確立の関係への洞察を深めたい。本年はパメラとミスター・Bの結婚に至るクライマックスとその後の緊張と解決を辿る。</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
出席とコメントペーパーによる日常点と学期末のレポートで総合的に判断する。出席重視。									
[教科書]									
Samuel Richardson 『PAMELA: or, Virtue Rewarded』 ((Oxford World 's Classics) ISBN:019953649X (978-0199536498))									
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

初めての受講者も歓迎します。初回のイントロダクションで前半の粗筋は紹介しますが、できれば前半は翻訳(研究社刊、原田範行訳)で読んでおいて下さい。授業中指名することはしませんが、コメントペーパーへのフィードバックを行いながら講義を組み立てていくので、出席は重視します。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者氏名	同志社大学 文学部 教授 林 以知郎						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	初期アメリカ文学研究								
【授業の概要・目的】									
<p>いわゆる大航海時代の新大陸航海紀行に始まる「アメリカ」をめぐる文学・文化言説群を、ニューイングランド・ピューリタン時代を経て独立・建国期に至る時期を対象に辿ってみる文化史的考察である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>取り上げる題目と分析対象にするテキストは、北東部アングロ・アメリカ地域の男性中心的文化に偏ることは否めないが、ネイティブ・アメリカンや女性など、人種・文化的他者の声をすくいあげることにも努めてみたい。春・秋で取り上げる題目の主だったものを挙げておく。「文化記号としてのコロンプス」「丘の上の街というヴィジョンと異端」「ニューイングランドピューリタンの詩」「インディアン捕囚譚」「Salemの魔女裁判」「カルチャー・ヒーローとしてのフランクリン」「文化史の上での独立戦争」「アメリカ小説の誕生」等。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
それぞれの学期にレポートを課す。									
【教科書】									
プリントした教材を用意する。									
【参考書等】									
<p>(参考書) 講義時に適宜紹介するが、北アメリカに関する通史に眼を通しておいてほしい。</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p>									
特になし									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究科 教授 西谷 拓哉						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	英米小説研究と映画研究の接点								
【授業の概要・目的】									
小説と映画それぞれの表現媒体としての特徴を対比し、小説を語ることで映画の、映画を語ることで小説のリテラシー、すなわち「精読の技術」を高めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について、各々複数回にわたり講述する。適宜、学生諸君からの発表も取り入れ、双方向的に理解を深めたい。とりあげる作品は英米の小説と映画が主体となる。									
1. 映画研究の基本的な方法とテーマ (1) 映画の基本的単位 (2) 映画の表現技法 (3) ジャンル映画 (4) 映画における人種、ジェンダーの表象 (5) 映画研究の実例 2. 小説とその映画化 (1) 小説と映画におけるナレーション (2) 他の文学ジャンルと映画の関係 (3) アダプテーションの諸問題 (4) 小説家自身による映画化 (5) 比較研究の実例									
【履修要件】									
できればビデオ、DVD等が試聴できる環境にあることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(出席、発表、小レポート)(50%)、レポート(2回、50%)を総合して判断する。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者氏名	非常勤講師 マイケル・エドワード・ジャマンツ						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	Academic Writing in the Humanities								
【授業の概要・目的】									
This course is designed to assist those who wish to refine their English writing skills, particularly those skills needed to compose advanced-level academic papers and to create polished essays and criticism.									
【授業計画と内容】									
In addition to weekly exercises reviewing the basics skills required for effective writing in English, students will read examples of literary criticism and other writing on the arts which will then serve as models for student efforts. Students will gain experience fashioning sophisticated arguments that are well organized and cogently presented. As the class will often operate as a workshop, students are encouraged to share examples of their work, including those that have been previously submitted in other academic contexts. These works will be employed to hone and refine techniques of editing and revision. Students who have little experience in English composition will have an opportunity to build up a body of work over the course of the year.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Students will be evaluated on the quality of participation in classroom activities and written assignments.									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者氏名	非常勤講師 Gallimore, Daniel						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	The Poetry of Philip Larkin (1922-85)								
[授業の概要・目的]									
<p>The course introduces students to the poetry of Philip Larkin (1922-85), who is regarded as one of the greatest of contemporary British writers and even, in the words of one admirer, 'a modern British national cultural monument'. Larkin's small but highly select body of published verse presents a lasting insight into what it means to be British in the late 20th century, as well as attracting readers from around the world. Larkin's poetry is sometimes difficult but never dull!</p> <p>The aim of the course is that students should develop their ability to read a contemporary British poet, understanding him both in terms of his artistic development and his social and historical context.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>The course takes a thematic approach to Larkin's poetry, as follows. Readings of Larkin's poems, which are mainly from the 1950s to 1970s, are supported by excerpts from his letters and diaries, a range of critical material, and original recordings.</p> <p>Week 1: course introduction Weeks 2 and 3: Larkin's voice ('The Trees', 'This Be The Verse', and 'Days') Weeks 4 and 5: work ('Toads' and 'Toads Revisited') Weeks 6 and 7: marriage ('The Whitsun Weddings') Week 8: mid-term presentations Weeks 9 and 10: religion ('Church Going' and 'Water') Weeks 11 and 12: place ('Here' and 'To the Sea') Weeks 13 and 14: the past ('An Arundel Tomb' and 'MCMXIV')</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
<p>Students are assessed according to the following criteria:</p> <p>25% - course attendance (minimum two-thirds required)</p> <p>25% - mid-term oral presentation</p> <p>50% - final report (1,500 words)</p> <p>Further information on the mid-term presentation and final report will be given during the course.</p>									
[教科書]									
ed. Martin Amis 『Philip Larkin Poems』 (Faber and Faber) ISBN: 978-0571258109									
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

児玉実用等訳 『フィリップ・ラーキン詩集』 (国文社) ISBN: 978-4772001441

(関連URL)

<http://www.philiplarkin.com>

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者氏名	非常勤講師 ラファエル ロンベール						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	特殊講義
題目	African American Women in Fiction								
[授業の概要・目的]									
<p>Through the study of two celebrated works of African American fiction, Ernest J. Gaines ' s The Autobiography of Miss Jane Pittman (1971) and Octavia Butler ' s Kindred (1979), students will explore the destiny of African American women from slavery to the civil rights movement and beyond.</p> <p>This course is based on close reading analysis, and its purpose is to help students hone their skills in both oral argumentation and response writing. Emphasis will be put on methodology.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>Semester 1: Octavia Butler's Kindred (1979). Week 1: Introduction Rest of the semester: 25-30 pages a week.</p> <p>Semester 2: Ernest J. Gaines's The Autobiography of Miss Jane Pittman (1971) Week 1: Introduction Rest of the semester: 25-30 pages a week.</p>									
[履修要件]									
<p>Reading: an average of 25 to 30 pages a week. Assignments: 3 short response papers (300 words +) and one oral presentation per semester. Attendance Policy: 2 absences per semester, justified or not, are authorized. 3 to 4 absences will lower final grade drastically. 5 absences: Failure. Tardiness: Late twice = 1 absence.</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>Responses: 50 % Oral Presentation: 20 % In-class Participation: 20 % Attendance and Punctuality: 10%</p>									
[教科書]									
<p>Octavia Butler 『Kindred』 (Beacon Press, 2004) ISBN:13: 978-0807083697 Ernest J. Gaines 『The Autobiography of Miss Jane Pittman』 (Dial Press, 2009) ISBN:978-0385342780</p>									
[参考書等]									
(参考書)									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>Office Hours: by appointment only</p> <p>Attendance: As this course is based in great part on in-class participation, absenteeism is not an option.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)	担当者氏名	神戸市外国語大学 外国語学部 教授 Campana, Mark Robert						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	Speech and Gesture								
【授業の概要・目的】									
<p>This course will consider parallel streams of linguistic and non-linguistic communication, roughly, speech and gesture. Speech is composed of lexical units with semantic and referential values. Here gesture includes eye movement, body language, and prosody (vocal gestures), along with the more conventional notion of face and hand movement. Together, these two streams form the basis of human interactive potential.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Spoken language is almost always accompanied by gesture--broadly defined. In its subtlest form, this would entail variations in prosody (e.g. loudness, pitch, rhythm, intonation), or more visibly through movements of the eyes/hands/face. The crux is in the timing, e.g. Why did the speaker raise her voice or tap her finger there? What did she communicate (intentionally or not) by looking upwards and to the left on uttering that? These are the kinds of questions we aim to answer. Initially, the course will concentrate on describing gesture as it is understood in the literature. Focus will then shift to analyzing videotaped recordings of natural conversation. Ultimately, the goal will be to explain how speech and gesture work together in a given context.</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
There will be short (daily) homework assignments, and a final exam (mainly short answer).									
【教科書】									
There is no textbook PER SE. Material to be handed out by the teacher.									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>G. Yule 『Pragmatics』 (Oxford University Press)</p> <p>A. Kendon 『Gesture: Visible Action as Utterance』 (Cambridge University Press)</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 外国人教師 Ramisch, Heinrich				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	English Dialectology								
[授業の概要・目的]									
<p>Description: English Dialectology</p> <p>Foreign learners on their first visit to an English-speaking country often find that the language that people use is very different from the English they have learnt at school, and consequently they may encounter problems when communicating with native speakers. The foreign learners' experience only underlines the fact that the English language is by no means homogeneous but varies according to certain factors (region, social class, style, etc.). The aim of this course is to study linguistic variation in more detail. We will first discuss the nature of variation in English and consider the notions of accent, dialect, RP and Standard English. We will also be concerned with individual linguistic varieties and examine their characteristic features. Moreover, there will be a discussion of methodological and theoretical aspects that are related to the study of linguistic variation.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>Individual Sessions:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Variation in English: general aspects I (cf. Trudgill 1999: 1-10) 2. Variation in English: general aspects II (cf. Trudgill 1999: 10-19) 3. Phonological variation, RP (cf. Hughes et al. 2005: 1-11) 4. Grammatical and lexical variation, Standard English (cf. Hughes et al. 2005: 11-17) 5. Nonstandard grammatical features (cf. Hughes et al. 2005: 24-35) 6. English as a world language &#8211; basic notions (cf. Bauer 2002: 1-12) 7. English becomes a world language (cf. Bauer 2002: 13-29) 8. The vocabulary of international varieties of English (cf. Bauer 2002: 32-45) 9. The revenge of the colonised (cf. Bauer 2002: 84-92) 10. Varieties of American English I (cf. Wolfram/Schilling-Estes 2006: 103-118) 11. Varieties of American English II (cf. Wolfram/Schilling-Estes 2006: 118-133) 12. The BBC Voices Project (cf. http://www.bbc.co.uk/voices/recordings/) <p>References:</p> <p>Laurie Bauer. 2002. An Introduction to International Varieties of English. Edinburgh: Edinburgh University Press.</p> <p>Arthur Hughes et al. 2005. English Accents and Dialects. London: Hodder Arnold (4th edition).</p> <p>Peter Trudgill. 1999. The Dialects of England. Oxford: Blackwell (2nd edition).</p> <p>Walt Wolfram and Natalie Schilling-Estes. 2006. American English. Dialects and Variation. Malden: Blackwell (2nd edition).</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
To get credit for this course:									
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----									

英語学英米文学(特殊講義)(2)

short presentation and essay on a variety of English

[教科書]

The relevant texts for this course will be made available as pdf-files in spring 2012.

[参考書等]

(参考書)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 准教授 木原 善彦				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	現代英語小説を読む								
【授業の概要・目的】									
現代作家とその主要作品の紹介としていくつかの作品の冒頭部分（四ページ程度）を読みます。それぞれの作家・作品のスタイルに親しむとともに、今までに知らなかった作家や作風（娯楽的な小説もリストに入れる予定です）にふれることで、現代小説の多様性を知るきっかけになればと思います。取り上げる作品は授業計画欄記載のようなものになる予定ですが、一部入れ替わるか数が増減する可能性があります。									
【授業計画と内容】									
ここに挙げた作品を主に取り上げ、それぞれの作品を概観するとともに、その冒頭部を一緒に読みたいと思います。作品について事前に読んでいる、あるいは知っているというのは望ましいですが、授業参加の必要条件ではありません。必要な資料は授業時に教員が用意し、配布します。 Harry Mathews, _Cigarettes_ Thomas Pynchon, _Against the Day_ William Gaddis, _JR_ Victor LaValle, _Big Machine_ David Mitchell, _Cloud Atlas_ David Markson, _This Is Not a Novel_ Paul Auster, _City of Glass_ Adam Ross, _Mr Peanuts_ Sam Leith, _Coincidence Engine_ Richard Powers, _Generosity_									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業内での発言を中心に、授業参加度によって60パーセントを評価します。授業終了後1か月以内に現代の英語小説（授業で扱ったものでもそれ以外でも可）を取り上げたレポート（400字×10枚程度）を提出してください。それによって残りの40パーセントを評価します。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する 授業内では積極的な発言が求められます。難しいことを知っている必要はないので、臆することなく自分の意見を表明してください。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 谷口 一美				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目									
【授業の概要・目的】									
この授業では、認知言語学（認知意味論、認知文法、構文文法）の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や、近刊の論文集を中心とし、受講者各自の興味関心に応じ、英語論文を各回1本ずつ取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。論文の担当は、初回授業で割り当てる。1本の論文（20～30ページ程度）を1名ないし2名で担当する予定。									
【履修要件】									
認知言語学の基礎知識を備えていることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
演習の担当およびディスカッションへの参加状況、学期末のレポートから、総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学（特殊講義） English and American Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 客員教授 内田 充美					
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	授業形態	特殊講義
題目	オンラインコーパスを用いた現代英語研究							
【授業の概要・目的】								
現代英語の諸現象を記述する方法として、実際の言語資料を利用した観察と分析のもつ可能性と、注意すべき点についての理解を深める。								
【授業計画と内容】								
おもに教科書の流れに沿って、誰もが利用できるインターネット上に公開されている英語コーパスを利用した実習を行います。授業中のコンピュータを用いた演習、授業時間外での調査、その結果の発表などで構成していきます。								
【履修要件】								
特になし								
【成績評価の方法・基準】								
平常点（出席，小課題）とレポートで評価します。授業への積極的な参画を重視します。								
【教科書】								
Anderson, W. & J. Corbett 『Exploring English with Online Corpora』 (Palgrave Macmillan) ISBN:0-230-55140-8								
【参考書等】								
（参考書）								
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））								
受講を希望する人は必ず第1回目の授業に出席してください。								
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。								

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 若島 正						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	Vladimir Nabokov, Look at the Harlequins!精読								
【授業の概要・目的】									
20世紀に屹立する多言語作家Vladimir Nabokovの生前における最後の長篇小説となったLook at the Harlequins! (1974)を精読する。この作品は、ナボコフの作家歴を基盤にした一種の歪んだ自伝でもあるので、テキストの精読だけではなく、ナボコフの作品世界全般の知識を獲得することも授業の目的としたい。									
【授業計画と内容】									
前期のうち、ナボコフの文章に慣れるため、ゆっくり精読する方式をとる。全体は7部で構成されているが、そのうち第1部までを前期で終える。後期には、残りの第2部から第7部までを読むことにして、1回で読む分量を増やし、あらかじめ決められた当番による発表の形式を用いる。最終的には、通年でこの長篇小説を最後まで通読する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポート（英文1500語程度）のみで判定する。									
【教科書】									
Vladimir Nabokov 『Look at the Harlequins!』 (Vintage) ISBN:978-0679727286									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
テキストを精読することが基本になる演習なので、予習には相当の時間が必要となる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 佐々木 徹				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	演習
題目	『The Forsyte Saga』 精読								
【授業の概要・目的】									
この授業の目的は文学テキスト（イギリスの長編小説）の精密な読解能力を高めることにある。辞書を丁寧に引き、原文の一字一句も疎かにしない姿勢と共に、作品の背後にある社会についても理解を深めようとする態度を培う。									
【授業計画と内容】									
John Galsworthy (1867-1933)は1932年にノーベル文学賞を受賞した作家で、The Forsyte Sagaはその代表作である。これは1880年代から1930年代までに及ぶフォーサイト一家の運命をたどる一連の大河小説であり、授業ではその第一作The Man of Property (1906)を読む。予定としては、作品（364ページ）を1年で通読する。そのためには当然ながら1回の授業で相当な分量を読みこなすことが必要になってくる。慣れるまでは毎回3ページ程度のペースで進み、これを4回ほど行った後は、1回の授業でカバーする分量を15ページ程度に増やす。その際授業時間内で精読するのはやはり3ページほどで、残りのページについては質問を受け、適宜解説を加えることとする。夏休みの間にある程度各自で読み進んでもらうことになるだろう。できれば、作品を読了した後、批評文献にも目を通したい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および年度末レポートで評価する。									
【教科書】									
John Galsworthy 『The Forsyte Saga: Volume One』（Penguin）ISBN:978-0141184180									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業の目的はあくまでも精読であるから、毎回の授業のためには徹底的に辞書を引く、入念な予習が必要である。また、授業時間中に扱えない箇所については各自で読み進めることが求められる。オフィスアワーは月曜 14:15～15:15。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 家入 葉子				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	英語史研究の方法								
【授業の概要・目的】									
<p>具体的な研究を通じて、英語史研究の方法を学びます。また、授業を通して、資料収集の方法、データ整理の方法、論文の作成方法など、研究に必要な手法を習得します。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業は、以下のような作業の組み合わせにより行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書として指定した Corpus Linguistics and the Description of English を講読する。 ・実際に学術雑誌に公刊された論文を読み、その問題点を指摘するとともに、学術的にどのような貢献がなされているかを議論する。(否定的な批判をするだけでなく、自分が同じテーマで論文を書く場合を想定した建設的な議論を行う。) ・教科書や論文の中で取り上げられたテーマの中からトピックを選び、ミニリサーチを行う。 ・それぞれの研究テーマにしたがって、研究計画を作成し、その計画に沿って研究を進める。 ・必要に応じて、参考図書を講読する。 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点およびレポートにより評価します。最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。出席できない場合は、事前に連絡を取ってください。</p>									
【教科書】									
<p>Hans Lindquist 『Corpus Linguistics and the Description of English』 (Edinburgh University Press) ISBN: 978-0-7486-2615-1</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する http://homepage3.nifty.com/iyeyiri/students/corpus.htm にも参考情報があります。</p>									
(関連URL)									
<p>http://homepage3.nifty.com/iyeyiri/students/index.htm(このウェブサイトを定期的にチェックしてください。)</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>メールアドレスは、http://homepage3.nifty.com/iyeyiri/students/index.htmにあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 廣田 篤彦				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月1	授業形態	演習
題目	The Taming of the Shrew精読								
【授業の概要・目的】									
William Shakespeare, The Taming of the Shrewの精読を通じて、エリザベス朝演劇の特質について理解を深める。									
【授業計画と内容】									
The Taming of Shrewはエリザベス朝喜劇を代表する作品の一つであるが、特に女性の描かれ方に関しては様々な批判がなされてきた。本演習ではテキストの一字一句にこだわりながらこの作品を精読することで内容を正確に理解した上で、この喜劇における男女関係の諸問題についてエリザベス朝文化の文脈において考察する。毎回の授業では予め担当者を決めた上で100 - 150行程度講読する予定である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業における平常点ならびに学年末レポートにより評価する。									
【教科書】									
William Shakespeare, ed. Barbara Hodgdon 『The Taming of the Shrew』 (Methuen (Arden Shakespeare)) ISBN:9781903436936									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
シェイクスピアの演劇テキストを理解するためにはOxford English Dictionaryを常時参照しながら読んでいくことが必要であり、毎週の進度の目安である100-150行を読み進めるためには相当な時間をかけた予習が要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 森 慎一郎						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	William Faulkner, As I Lay Dyingを読む								
【授業の概要・目的】									
<p>20世紀アメリカ文学 / モダニズム文学の巨人William Faulkner (1897-1962)の代表作の一つ、As I Lay Dying (1930)を精読する。貧しい農民一家の母親埋葬の旅の模様をグロテスクなユーモアとペーソスをもって描き出すこの小説は、15人の登場人物を代わる代わる語り手に配した59の短いセクションからなり、モダニズム的実験性、おなじみYoknapatawpha郡Jeffersonという舞台設定、家族・共同体への関心等々といったフォークナー文学の特質を色濃くたたえながらも、他のFaulkner作品とは一風異なる軽妙な味わいも持ち合わせている。この作品を、様々な解釈の可能性を探りつつじっくりと読み進めていくことで、Faulkner独特の文学世界を理解する糸口をつかみたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Faulknerにしては軽めの作品とはいえ、Faulkner的な難解さには事欠かないテキストである。ゆえに授業の場では基本的に、受講者と講師とで知恵を出し合いながらテキストを丹念に精読していく。ただし後期の途中には作品を読み終え、できれば終盤の授業は批評の検討にあてたいと思っているので、必要なら発表形式を取り入れるなどして（その場合はセクションごとに担当者を決めて解説してもらおう）適宜進度を調節したい。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と学年末のレポートにより評価する。									
【教科書】									
William Faulkner 『As I Lay Dying』 (Vintage) ISBN:978-0679732259									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

フランス語学フランス文学専修

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 田口 紀子						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	フランス文学における歴史叙述の問題 : スタンダール『イタリア年代記』を中心に								
【授業の概要・目的】									
1820年代フランスではロマン主義的歴史観の影響のもとに歴史小説が流行した。その影響のもと、スタンダールが1830年代に執筆した『イタリア年代記』に注目し、歴史記述が小説のエクリチュールに与えた影響を跡付け、三人称リアリズム小説誕生の経緯についての理解を深める。									
【授業計画と内容】									
<p>スタンダールはロマン主義的テーマ設定と写実主義的叙述という、双方の特徴を併せ持っている。その意味で、その作品に歴史小説的要素が色濃く表れていることは興味深く、代表作『赤と黒』の副題も、「19世紀年代記」とされている。授業ではもう一つの「年代記」である『イタリア年代記』を取り上げ、作家が「翻訳」したことになっている歴史的逸話が、どのように「作品」に書き換えられているのかに注目しながら、スタンダールにとっての「現実」とは何かを考察する。</p> <p>取り上げられている歴史的逸話の特徴 登場人物の描写方法と人物造形 因果関係の記述をはじめとする語り手の解釈行為の表明 スタンダールの語りの「現在」と語られる「過去」の時間との交差 などの課題をを中心に、それぞれの課題に5～10週の授業をあてる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 増田 眞						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	ルソー『エミール』研究								
【授業の概要・目的】									
<p>2012年はルソー（1712-1778）の生誕300周年に当たる。これを機に、ルソーの主著の1つである『エミール』を読み、その思想について考察する。</p> <p>この作品には「教育について」という副題がついていることはよく知られているが、実際には、実践的な教育書というよりは著者の人間論の集大成であり、教育、道徳、宗教などの問題もあくまでもその一環である。そして個々の主張だけでなく、作品全体の構成、ある主張の置かれている文脈、同時代の思想的文脈などを考慮に入れて理解することが求められる作品である。この授業では『エミール』全体の構成や論理を念頭に置きつつ、第4編を中心に読む予定。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>長大な作品なので、いくつかの部分を選んで読むことになる。作品を理解する上で重要な部分をいくつか取り上げて、そのどっかと分析を中心とする。前期は第1編から第3編の構成などの要点をおさえ、なるべく早く第4編に入りたい。また、ルソーのほかの作品、同時代のほかの思想家たちとの関連についてもなるべく言及したい。</p> <p>何種類かの翻訳があるが、参加者は自分で原文を読む姿勢が求められる。</p>									
【履修要件】									
<p>中級程度のフランス語の語学力が必要。（18世紀のフランス語は現代語とほぼ同じなので、特別な知識は必要としない。）</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点とレポート。</p>									
【教科書】									
<p>開講時に指示する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 永盛 克也						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	フランス17世紀文学研究(1)								
【授業の概要・目的】									
フランス17世紀文学の特徴の一つである「社交性・趣味の洗練」について小説作品の読解を通して理解を深める。また、作者と読者が共有していた価値観、同時代の社会や政治と作品との関係、女性作家の地位、世紀を通して徐々に形成されていく古典主義美学などの問題について、回想録などの散文作品をも視野に入れて考察する。									
【授業計画と内容】									
以下のような問題について、それぞれ1～2週の授業をする予定である。									
イントロダクション 17世紀フランスの社会と文学									
1 田園小説『アストレ』の世界									
2 17世紀フランスのサロンについて									
3 トリスタン・レルミットの小説									
4 スカロンの小説									
5 スキュデリー嬢の小説									
6 「プレシオジテ」とは何か									
7 「フロンドの乱」の社会的・文化的影響									
8 ラ・ロシュフーコー『回想録』									
9 レ枢機卿『回想録』									
10 サン＝レアルの歴史小説									
11 ラファイエット夫人の小説									
まとめと展望 17世紀フランス小説の美学									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業での発表および期末レポート									
【教科書】									
プリント等を配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 永盛 克也						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	フランス17世紀文学研究(2)								
【授業の概要・目的】									
ラシーヌの『イフィジェニー』を中心にイピゲネイアをテーマとする悲劇を取り上げ、神話の受容と変遷を概観するとともに、詩学(すなわち悲劇の創作論)に関わる諸問題について考察する。文学的伝統の継承と新たな意匠の模索とのダイナミックな関係について理解を深める。									
【授業計画と内容】									
以下のような問題について、それぞれ1～3週の授業をする予定である。									
<p>イントロダクション 神話と悲劇</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 エウリピデス『アウリスのイピゲネイア』 2 エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』 3 アリストテレス『詩学』 - イピゲネイアの「認知」 4 ロトルー『イフィジェニー』 5 ラシーヌ『イフィジェニー』 6 ラシーヌ『タウリケのイフィジェニー』の自筆草稿 7 フランス古典悲劇と神話 8 古典悲劇からオペラへ 9 その後のイピゲネイア劇 <p>まとめ 比較文学的考察</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業における発表と期末レポート									
【教科書】									
プリント等を配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	Beaumarchais, Le mariage de Figaro								
【授業の概要・目的】									
<p>On prete au chef revolutionnaire Danton le mot suivant, qu'il aurait prononce lors de la representation de la tragedie de Marie-Joseph Chenier, Charles IX, en 1789 : "Si Figaro a tue la noblesse, Charles IX tuera la royaute." C'est dire l'importance que les contemporains ont tres tot reconnue au drame de Beaumarchais, Le Mariage de Figaro : en 1784, cinq ans avant la Revolution, la bourgeoisie exasperee par le privilege nobiliaire y trouve le langage eloquent et vibrant apte a traduire ses aspirations reformatrices, et a capter l'energie qui bouillonne dans les veines de la nation. Mais la piece tire cette force politique avant tout de la force comique et esthetique qui la porte, et de la virtuosite que deploie, dans tous les aspects de la creation theatrale, un dramaturge au sommet de son art.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Ce cours est concu pour former les etudiants aux methodes du commentaire de texte litteraire, et de l'etude d' une oeuvre complete a travers ses themes, sa structure, ses enjeux esthetiques, ideologiques, philosophiques. A cette fin, des exercices ecrits et des exposes oraux seront regulierement proposes, sur le modele des presentations faites par le professeur.</p>									
【履修要件】									
<p>Ce cours est ouvert aux etudiants de tous niveaux et de toutes specialites. De solides competences de lecture en francais, ainsi qu'un interet prononce pour les etudes litteraires, sont cependant souhaitables.</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>Une evaluation globale sera tiree de l'ensemble des travaux demandes aux eutdiants. Chacun d'entre eux devra presenter un expose pendant le semestre. Au terme du semestre, une composition longue sera demandee : les etudiants auront le choix entre le commentaire d'un extrait determine par leurs soins, et une dissertation sur l'oeuvre dont le theme sera discute avec le professeur.</p>									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>Le professeur n'assure pas de permanence fixe, mais est a la disposition des etudiants qui souhaitent prendre rendez-vous avec lui.</p> <p>NB : Due to improper settings, Kulasis is unable to enter up the special French graphic signs. I apologize about this regettable fact.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	Marivaux, La fausse suivante								
【授業の概要・目的】									
<p>Une femme se deguise en homme pour approcher celui qu'elle envisage d'epouser et sonder son caractere. Le stratageme porte ses fruits, car la camaraderie qu'elle parvient a etablir avec son mari pressenti lui revele toute la bassesse d'un sinistre coureur de dot. Le deguisement va alors etre mis a profit pour forger une intrigue qui fera amerement payer ses turpitudes a l'indelicat...</p> <p>Marivaux n'est pas sans raison, parmi les dramaturge francais du XVIIIe siecle, celui qui a attire la predilection des metteurs en scene modernes : le motif du travestissement, central dans son theatre, a le triple interet de permettre des intrigues efficaces, etincelantes d'ingeniosite comique, d'accueillir la satire sociale la plus mordante, et d'ouvrir des perspectives vertigineuses a la reflexion du theatre sur lui-meme. Au confluent de l'esthetique, de la politique et de la philosophie, le theatre de Marivaux est l'un des plus eclatants emblemes de la civilisation des Lumieres en France.</p>									
【授業計画と内容】									
Ce cours est concu pour former les etudiants aux methodes du commentaire de texte litteraire. A cette fin, des exercices ecrits et des exposes oraux seront regulierement proposes, sur le modele des presentations faites par le professeur.									
【履修要件】									
Ce cours est ouvert aux etudiants de tous niveaux et de toutes specialites. De solides competences de lecture en francais, ainsi qu'un interet prononce pour les etudes litteraires, sont cependant souhaitables.									
【成績評価の方法・基準】									
Une evaluation globale sera tiree de l'ensemble des travaux demandes aux etudiants. Chacun d'entre eux devra presenter un expose pendant le semestre. Au terme du semestre, une composition longue sera demandee : les etudiants devront commenter un texte qu'ils auront choisi avec l'aide du professeur.									
【教科書】									
pas de commentaire									
【参考書等】									
(参考書) pas de commentaire									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Le professeur n'assure pas de permanence fixe, mais est a la disposition des etudiants qui souhaitent prendre rendez-vous avec lui.									
NB : Due to improper settings, KULASIS is unable to enter up the special French graphic signs. I apologize about this regettable fact.									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 教授 大浦 康介						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	特殊講義
題目	Roland Barthes, Fragments d'un discours amoureux を読む								
【授業の概要・目的】									
昨年度に引き続き、Fragments d'un discours amoureux からいくつかの断章を選んで精読する。本書を恋愛論の系譜のなかに位置づけ、恋愛というテーマの扱い方、とくにそれが要請する表現形式について考えることが本講義の目的である。									
【授業計画と内容】									
Fragments d'un discours amoureux は、ゲーテの『若きヴェルテルの悩み』、プラトンの『饗宴』などいくつかの intertextes によって織りなされている。適宜それらのテキストも参照しながら授業を進めてゆく予定である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポート									
【教科書】									
教科書はない。資料は適宜コピーして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 准教授 王寺 賢太						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	特殊講義
題目	ルソー 『人間不平等起源論』を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>今年、生誕三百年を迎えるジャン＝ジャック・ルソーの『人間不平等起源論』（正式な題名は『人間観の不平等の起源と基礎についての論考』1755）は、自然状態と社会状態の対比を通じて、人間の自己自身への関係（自己愛）、性関係（性愛、家族）、経済的関係（所有・労働・分業）、政治的関係（国家・統治・支配／被支配）の存在条件を問いただそうとする著作である。社会はどのように成立し、また社会のなかにあるとはどのような事態なのか。またその社会全体の変動としての歴史はどのように成立し、どこに向かうのか。そうした大きな問題設定のなかで、ルソーは、経済的・政治的な不平等を、社会状態と切り離せない問題として提起する。本講義では、この『人間不平等起源論』を精読し、まずこの著作を18世紀の思想史のなかで理解することを心がける。また、現代政治哲学におけるルソーの思想の受容も踏まえつつ、その現代的な意義についても議論したい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業では、ルソーの『人間不平等起源論』の叙述にそって、順時、以下のようなテーマをあつかう。 自然状態の仮説（ホップズ、プーフェンドルフ、ロック、モンテスキュー、ルソー） 動物と人間、人間の身体的な素質（自己保存、あわれみ、完成可能性）、情念と愛、家族の成立、自己愛の成立、道徳の成立、農業社会における労働の成立、所有権と利害の起源、戦争状態、社会の成立、国際関係、統治関係の成立、不平等の拡大。また、適宜、現代のルソー研究や、現代政治哲学（マルクス主義、全体主義批判、シュトラウス、ロールズ、共和主義、フランクフルト学派、フェミニズム）におけるルソー受容について紹介する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
評価は授業への出席と発表に基づいて行なう。									
【教科書】									
Jean-Jacques Rousseau 『Discours sur l'origine et les fondements de l'inegalite parmi les hommes』（GF Flammarion, 2008）（Blaise Bachofen et Bruno Bernardi (ed).）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 稲垣 直樹						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	近現代フランス文化社会と日本								
【授業の概要・目的】									
フランス文化社会の特質を概観しつつ、19世紀・20世紀のフランス文化・社会の諸現象と、それを支えてきた基本的なパラダイム・価値観との動的な関係を把握することを試みる。さらに、それらの文化社会現象と日本との関連を探る。									
【授業計画と内容】									
19世紀・20世紀のフランス文化・社会・文学の諸現象と、それを支えてきた基本的なパラダイム・価値観との動的な関係を把握することを試み、それらと日本との関連を探るために、つぎのようなテーマを設定する。									
<p>近現代のパラダイムとパラダイム・チェンジ</p> <p>フランス・ファッションの歴史的変遷</p> <p>19世紀の消費社会とデパートの誕生</p> <p>「動き」の世紀としての20世紀</p> <p>川上貞奴のフランスでのインパクト</p> <p>フランス・ファッションにおけるジャポニスム</p> <p>着物とパリ・ファッション</p> <p>日本における大衆文化の開花と消費社会</p> <p>パリ・ファッションと日本の洋装</p> <p>オート・クチュールというシステム</p> <p>オート・クチュールの終焉としてのリアル・クローズ</p> <p>1900年～1940年のフランス・ファッションの動向</p> <p>Chanelのファッションと企業展開</p> <p>戦後フランス・ファッションの特質とその担い手たち</p> <p>「五月革命」とプレ=タ=ポルテ</p> <p>ファッションのメディア化と「空疎な天才」Yves Saint-Laurent</p> <p>Chanelの伝統とKarl Lagerfeld</p> <p>プレ=タ=ポルテの旗手としての高田賢三、山本耀司、川久保玲</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席をはじめ授業への参加、レポート等の総合的評価									
【教科書】									
資料・テキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	神戸大学 大学院人文学研究科 准教授 中畑 寛之						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	マラルメの「詩」作品精読								
【授業の概要・目的】									
ステファヌ・マラルメ(1842-98)の「詩」作品を年代順に精読することを通して、彼が提起する「詩」の問題のあり方とその変遷を理解することを目指す。「詩の危機」として捉えられた19世紀末フランス詩の問題だけでなく、同時に、「文学の進展」や「難解さ」といった同時代の文学場で提起され議論された幾つかの問題についても考察したい。また、19世紀末ヨーロッパの文化的・社会的状況の理解を深めるとともに、象徴派のみならず、現代フランス詩の展望の一側面を拓くことができればと思う。									
【授業計画と内容】									
マラルメの詩作品を制作年代順に選び、精読していく。まずはそれぞれの年代における詩人の問題意識・作品の特徴を概説したのち、実作をじっくり読み込み、議論を重ねながら、マラルメの「詩」について、19世紀末詩の状況について理解を即す。前期は60年代、70年代の作品を、後期は80年代、90年代を扱う。									
【履修要件】									
少なくとも初級段階修了レベルのフランス語の知識を有していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび平常点などから総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する 授業中に読むテキストに関してはコピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) Bertrand MARCHAL 『Lecture de Mallarme』(Jose Corti) ステファヌ・マラルメ 『マラルメ全集 第1巻』(筑摩書房) ISBN:9784480790019 Pascal Durand 『Poesies de Mallarme』(Gallimard) ISBN:9782070389391 その他、授業中にも紹介します。									
(関連URL)									
http://www.geocities.jp/mal_archives/									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 質問等は遠慮なく。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究所 教授 吉田 典子						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	画家エドゥアール・マネと3人の文学者ーボードレール、ゾラ、マラルメ								
【授業の概要・目的】									
近代絵画の成立において大きな役割を果たしたエドゥアール・マネ（1832-1883）は、同時代の文学者たちときわめて親しい関係を持っていた画家である。なかでも、ボードレール、ゾラ、マラルメという、互いに相当異なる個性を持った文学者であり美術批評家でもあった作家たちとは、個人的にも、また創作活動上も、深い関わりを持っていた。この授業では、マネとそれぞれの作家の関わりはどのようなものであったか、作家たちはマネをどのように理解したのか、またマネは彼らとの親交から何を自得して自身の創作活動に活かしたのかについて考察する。本授業の目的は、フランスの19世紀中葉から後半にかけての「近代」成立期において、文学と絵画のあいだにどのような相関関係があったのかについて検討し、近代都市パリの歴史的・社会的・文化的な文脈を踏まえながら、文学と芸術における「モダニズム」についての理解を深めることである。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり、3～4回の授業をする予定である。関連する作家のテキストを読解するとともに、パワーポイントを利用してマネの絵画の具体的な分析を行う。 1．マネとボードレール（1860年代前半を中心に） 2．マネとゾラ（1860年代後半を中心に） 3．マネとマラルメ（1874年～1876年を中心に） 4．マネとゾラ（1870年代～1884年）									
【履修要件】									
フランス語の基礎が既習であること、美術に関心を持っていることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポート。									
【教科書】									
資料、テキストのコピーを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
夏期休暇に入る前に、授業で扱うフランス語テキストのコピーを仏文研究室に置いておくので、夏期休暇中にできるだけ予習をしておいて下さい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木4	授業形態	演習
題目	conversation et civilisation								
【授業の概要・目的】									
<p>Ce cours est oriente vers la pratique de la discussion libre, collective, raffinee et plaisante, agrementee d'humour, dans la grande tradition francaise des salons et de la conversation. Il s'agit de joindre l'utile a l'agreable, en faisant de cette conversation l'occasion d'une revision et d'un apprentissage, aussi ludique que possible, des finesses de la langue.</p> <p>Les supports (ou les pretextes) seront tres varies, et choisis parmi les plus stimulants possibles : chansons, films, textes sur le Japon ecrits par des francophones (pour placer les etudiants en position de critiques, voire de juges), textes litteraires et poetiques enfin, mais inspires par le gout de l'amusement. Les suggestions, demandes, propositions des etudiants, sont evidemment les bienvenues pour nourrir les discussions.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Ce cours etant dedie a la liberte et au hasard des echanges, son deroulement n'est pas entierement previsible. Il est cependant fort probable que des exposes, voire de petits travaux ecrits, soient demandes a l'occasion, mais sous une forme tres libre.</p>									
【履修要件】									
<p>Ce cours est ouvert aux etudiants de tous niveaux et de toutes specialites. La plus grande diversite des profils est d'ailleurs vivement esperee par le professeur !</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>Pour ce cours, ce sont l'assiduite et la participation qui priment sur tout autre critere d'evaluation. Les exposes et les travaux ecrits etant volontaires, ils seront, par principe, valorises et recompenses.</p>									
【教科書】									
<p>使用しない pas de commentaire</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) pas de commentaire</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>Le professeur n'assure pas de permanence, mais est a la disposition des etudiants qui souhaitent prendre rendez-vous.</p> <p>NB : Due to improper settings, Kulasis is unable to enter up the specific French graphic signs. I apologize about this regrettable fact.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	演習
題目	Conversation et civilisation								
【授業の概要・目的】									
<p>Ce cours est oriente vers la pratique de la discussion libre, collective, raffinee et plaisante, agrementee d'humour, dans la grande tradition francaise des salons et de la conversation. Il s'agit de joindre l'utile a l'agreable, en faisant de cette conversation l'occasion d'une revision et d'un apprentissage, aussi ludique que possible, des finesses de la langue.</p> <p>Les supports (ou les pretextes) seront tres varies, et choisis parmi les plus stimulants possibles : chansons, films, textes sur le Japon ecrits par des francophones (pour placer les etudiants en position de critiques, voire de juges), textes litteraires et poetiques enfin, mais inspires par le gout de l'amusement. Les suggestions, demandes, propositions des etudiants, sont evidemment les bienvenues pour nourrir les discussions.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Ce cours etant dedie a la liberte et au hasard des echanges, son deroulement n'est pas entierement previsible. Il est cependant fort probable que des exposes, voire de petits travaux ecrits, soient demandes a l'occasion, mais sous une forme tres libre.</p>									
【履修要件】									
<p>Ce cours est ouvert aux etudiants de tous niveaux et de toutes specialites. La plus grande diversite des profils est d'ailleurs vivement esperee par le professeur !</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>Pour ce cours, ce sont l'assiduite et la participation qui priment sur tout autre critere d'evaluation. Les exposes et les travaux ecrits etant volontaires, ils seront, par principe, valorises et recompenses.</p>									
【教科書】									
<p>使用しない pas de commentaire</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) pas de commentaire</p>									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>Le professeur n'assure pas de permanence, mais est a la disposition des etudiants qui souhaitent prendre rendez-vous.</p> <p>NB : Due to improper settings, Kulasis is unable to enter up the specific French graphic signs. I apologize about this regrettable fact.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 田口 紀子 文学研究科 教授 増田 眞 文学研究科 准教授 永盛 克也				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	Introduction aux methodes de recherches en litterature francaise								
【授業の概要・目的】									
修士課程・博士後期課程の学生の研究発表とその内容についての議論を通して、研究の方法や作品分析の方法などを学び、フランス語での論文の作成の方法を習得する。									
【授業計画と内容】									
修士課程・博士後期課程の学生の研究発表を中心にプログラムを組む。概要は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・書誌目録の作成、資料収集の方法についての概説(第1回) ・修士1回生の卒業論文についての発表(4月-5月) ・修士2回生による修士論文の準備状況の発表(5月-7月) ・修士2回生による修士論文の中間発表(10月-12月) ・学会発表予定者の口頭発表(随時) ・海外の研究者による講演(随時) 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	Dissertation et litterature generale								
[授業の概要・目的]									
<p>Formation a la technique de la dissertation francaise, composition argumentee de quelques pages en reponse a une question generale, theorique, formulee a partir d'une breve citation d'un ecrivain ou d'un critique. Les sujets portent le plus souvent sur la valeur et la fonction de la creation litteraire, sur les mecanismes et les effets de la lecture des textes litteraires. Cet exercice est propose aux candidats du concours des bourses du gouvernement francais, organise par l'Ambassade de France. Le cours se compose de deux volets, correspondant aux deux semestres : l'entrainement a la pratique, destine a permettre l'acquisition des regles et des codes de la prose theorique et academique, fera suite a un panorama de l'histoire litteraire depuis la Renaissance, et a une initiation aux grands courants de la critique et de la theorie litteraires. Cette etude sera replacee dans le mouvement plus large de la reflexion esthetique en Occident, telle qu'elle s'est developpee depuis l'Antiquite grecque et romaine.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>Attention : en raison du calendrier du concours des bourses, qui se tient en octobre, la progression du cours sera calquee sur l'annee universitaire francaise (octobre-juillet) et non sur l'annee universitaire japonaise (avril-fevrier).</p> <p>Le semestre de printemps est donc consacre a des entrainements intensifs, methodiques et progressifs : mises en forme de problematiques, redactions de parties de la dissertation, conception de plans, dans les premieres semaines ; compositions completes a la fin du semestre. Apres le dernier cours, un entrainement en temps limite, dans les conditions du concours (4 heures) sera propose.</p> <p>Le semestre de printemps, tout en etant bien sur ouvert a tous les volontaires, est en principe reserve aux etudiants qui achevent leur preparation pour le concours. Les etudiants qui souhaitent suivre la formation depuis le debut sont invites a frequenter le cours a partir de l'automne.</p>									
[履修要件]									
<p>Le cours s'adresse d'abord aux etudiants de maitrise et de doctorat en litterature francaise. Plus largement, il est recommande a partir du mois d'octobre de la premiere annee de maitrise, aux etudiants qui ont a rediger un memoire en francais : les techniques d'ecriture, les methodes de reflexion, la culture litteraire et theorique, que le cours vise a procurer, sont des outils precieux pour un tel exercice.</p> <p>Au-dela, le court est ouvert a tous, quelle que soit le domaine de specialite, a condition que les etudiants acceptent de consentir un effort important a une etude approfondie des problematiques litteraires.</p>									
[成績評価の方法・基準]									
Une evaluation globale sera tiree de l'ensemble des travaux demandes aux etudiants.									
[教科書]									
使用しない pas de commentaire									
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----									

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

pas de commentaire

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

Le professeur n'assure pas de permanence fixe, mais est a la disposition des etudiants qui souhaitent prendre rendez-vous avec lui.

NB : Due to improper settings, Kulasis is unable to enter up the special French graphic signs. I apologize about this regettable fact.

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火3	授業形態	演習
題目									
【授業の概要・目的】									
<p>Formation a la technique de la dissertation francaise, composition argumentee de quelques pages en reponse a une question generale, theorique, formulee a partir d'une breve citation d'un ecrivain ou d'un critique. Les sujets portent le plus souvent sur la valeur et la fonction de la creation litteraire, sur les mecanismes et les effets de la lecture des textes litteraires. Cet exercice est propose aux candidats du concours des bourses du gouvernement francais, organise par l'Ambassade de France. Le cours se compose de deux volets, correspondant aux deux semestres : l'entrainement a la pratique, destine a permettre l'acquisition des regles et des codes de la prose theorique et academique, fera suite a un panorama de l'histoire litteraire depuis la Renaissance, et a une initiation aux grands courants de la critique et de la theorie litteraires. Cette etude sera replacee dans le mouvement plus large de la reflexion esthetique en Occident, telle qu'elle s'est developpee depuis l'Antiquite grecque et romaine.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Attention : en raison du calendrier du concours des bourses, qui se tient en octobre, la progression du cours sera calquee sur l'annee universitaire francaise (octobre-juillet) et non sur l'annee universitaire japonaise (avril-fevrier).</p> <p>Le semestre d'automne marque le veritable debut de l'annee de preparation : pour etablir les bases de la reflexion a mener sur les sujets de dissertation, le cours prendra le forme d'une lecture commentee d'une anthologie de textes litteraires et de textes critiques et theoriques. Pour ne pas perdre de vue l'objectif final, le professeur composera cette anthologie, et orientera son commentaire, en fonction de problematiques precises qui seront exposees au prealable.</p>									
【履修要件】									
<p>Le cours s'adresse d'abord aux etudiants de maitrise et de doctorat en litterature francaise. Plus largement, il est recommande a partir du mois d'octobre de la premiere annee de maitrise, aux etudiants qui ont a rediger un memoire en francais : les techniques d'ecriture, les methodes de reflexion, la culture litteraire et theorique, que le cours vise a procurer, sont des outils precieux pour un tel exercice.</p> <p>Au-dela, le court est ouvert a tous, quelle que soit le domaine de specialite, a condition que les etudiants acceptent de consentir un effort important a une etude approfondie des problematiques litteraires.</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>L'evaluation sera faite a partir des discussions sur la lecture des textes proposes. Les etudiants devront se les approprier de maniere active, en preparant des questions a poser au professeur, en repondant a des questionnaires, en presentant des exposes.</p>									
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----									

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない
pas de commentaire

[参考書等]

(参考書)
pas de commentaire

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

Le professeur n'assure pas de permanence, mais est a la disposition des etudiants qui souhaitent prendre rendez-vous.

NB : Due to improper settings, Kulasis is unable to enter up the specific French graphic signs. I apologize about this regrettable fact.

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

イタリア語学イタリア文学専修

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 天野 恵				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	ピエトロ・ベンボ『俗語論』分析								
【授業の概要・目的】									
イタリア文学の諸ジャンルの中でも最も重要かつ最も受容の困難な詩的言語の成立に当たって決定的とも言える重要性を果たした Pietro Bembo の <i>Prose della volgar lingua</i> の読解を通じて、イタリア文学の本質に迫る。									
【授業計画と内容】									
活版印刷術の普及に伴って沸き起こった16世紀の《言語論争》に終止符を打つことに成功したベンボの『俗語論』 <i>Prose della volgar lingua</i> の第3巻を講読しつつ、そこで扱われるイタリア語の詩に関する具体的な指針と、その成立過程を分析する。1525年の初版（Tacuino版）と1538年の第二版（Marcolini版）、1549年の決定版（Torrentino版）の他、残された唯一の手稿である Vaticano Latino 3210 を適宜参照する。高度な内容の授業であるが、学部学生のためにも懇切な解説を心掛けるのでイタリア文学の持つ精緻性に関心のある学生には奮って参加を呼び掛ける。また、こうした授業への参加により大学院生の先輩との間に学問的交流が生まれることをも期待する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 ダニエラ・ヴァガータ						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	Corso monografico di letteratura italiana								
【授業の概要・目的】									
Primo semestre: Lettura della "Gerusalemme Liberata"									
Secondo Semestre: "Vita d' un uomo"									
【授業計画と内容】									
Primo semestre: Lettura della “ Gerusalemme Liberata ” In questo corso verra' affrontata la lettura integrale della “ Gerusalemme Liberata ” di Torquato Tasso. Agli studenti verra' richiesta settimanalmente la lettura e la parafrasi di un canto della Gerusalemme Liberata, il quale verra ’ successivamente spiegato e commentato durante la lezione. Saranno consegnate delle pagine di critica da leggere come approfondimento. Corso seminariale destinato esclusivamente a studenti con un ottimo livello d ’ italiano.									
Secondo semestre: “ Vita d ’ un uomo ” Corso monografico dedicato alla figura Giuseppe Ungaretti nella sua evoluzione poetica. In particolare verra' affrontato lo studio di Ungaretti in rapporto alle diverse esperienze e avanguardie letterarie, dando ampio spazio allo studio delle innovazioni metriche del poeta. Sono previsti degli ascolti della dizione del poeta. E' richiesto agli studenti del corso un intenso coinvolgimento nelle attivita ’ seminariali attraverso l ’ approfondimento individuale o di gruppo di alcuni argomenti trattati. Corso destinato esclusivamente a studenti con un ottimo livello d ’ italiano.									
【履修要件】									
E' indispensabile un'ottima conoscenza della lingua italiana.									
【成績評価の方法・基準】									
E' ammessa una sola assenza. E' previsto un esame finale.									
【教科書】									
Dispense consegnate settimanalmente in classe.									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Lezioni di tipo seminariale. E' prevista la partecipazione attiva degli studenti. Programma suscettibile di alcuni cambiamenti. オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 ダニエラ・ヴァガータ						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	特殊講義
題目	Storia della letteratura italiana								
【授業の概要・目的】									
Primo semestre: Storia della letteratura I Secondo semestre: Storia della letteratura italiana II									
【授業計画と内容】									
Corso dedicato all' apprendimento della storia della letteratura italiana, dalle origini fino alla seconda meta' del Novecento. In questo corso e' prevista la lettura di estratti dalle opere maggiori degli autori piu' rappresentativi della letteratura italiana. Sara' dato spazio sia all' apprendimento di nozioni di storiografia, sia allo svolgimento ermeneutico del testo (parafraasi, commento, interpretazione). Sono previste alcune lezioni di introduzione alla storia della lingua italiana e all' analisi testuale. Durante l' arco dell' intero semestre a ciascuno studente verra' richiesta la lettura individuale di un' opera poetica o narrativa di uno degli autori presi in esame.									
【履修要件】									
Corso particolarmente impegnativo e destinato esclusivamente a studenti di lingua italiana di livello intermedio e superiore.									
【成績評価の方法・基準】									
E' ammessa una sola assenza. E' previsto un esame finale.									
【教科書】									
Dispense consegnate settimanalmente in classe.									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Lezioni di tipo seminariale. オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	大阪大学 世界言語研究センター 村瀬 有司						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	Torquato Tassoの詩と詩論								
【授業の概要・目的】									
<p>前期の授業では、16世紀後半のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソの詩論を精読する。タッソは、十字軍による聖地解放を歌った傑作『エルサレム解放』("Gerusalemme liberata")の創作に当たって、英雄叙事詩の創作技法を研究し、その成果を数冊の著作にまとめ上げている。今期の授業では、彼の最初の詩論"Discorsi dell'arte poetica"を取り上げて、「模倣」や「本当らしさ」といった重要概念に着目しながら、タッソの問題意識並びに西洋の伝統的な創作概念についての理解を深めていく予定である。</p> <p>後期の授業では、前期で取り上げたタッソの創作理論を踏まえつつ、実際に『エルサレム解放』を精読する。</p> <p>どちらの授業でも、テキストの読解能力を養成することが大きな目的となる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期の授業では、タッソの"Discorsi dell'arte poetica" (全3巻)の第1巻冒頭から精読する。16世紀の散文なので読みづらいところもあるが、内容は明快な論理にしたがって展開されており、決して曖昧ではない。イタリア語の文法にしたがって、語句と語句、節と節の関係をきちんと把握しながら、正確にテキストを読解する能力を培って頂きたい。一回当たりの進度は1～1.5ページを予想している。</p> <p>後期の授業では"Gerusalemme liberata"の第2歌冒頭から精読する。こちらは韻文作品であるために少し難しいところがあるが、参加者は原文を読み込んで、自分なりに意味をつかみ取ることに努めてもらいたい。慣れないうちは予習に時間がかかるだろうが、この機会に是非ともイタリア語詩の読解力を培って頂きたい。授業では、当時の韻文に特有な表現を解説しながら、1回あたり10stanzeを目処に、丁寧に読み進めていく予定である。</p> <p>なお、前期・後期どちらの授業でも、簡単な小テストで予習確認を行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席点・小テストをもとに評価する。									
【教科書】									
使用しない プリント配布。									
【参考書等】									
(参考書) アリストテレス、ホラーティウス 『詩学・詩論』 (岩波文庫)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)	担当者氏名	東京大学 大学院人文社会系研究科 教授 長神 悟						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	近代イタリアの言語問題：マンゾーニの場合								
【授業の概要・目的】									
近代イタリアの文豪 A.マンゾーニ(1785-1873)は、「言語問題」にも深く関心を抱き、数多くの論考を著わしている。本集中講義ではそのうちの何点かを選んで精読し、マンゾーニの言語観を考察する。昨年度の集中講義で取り上げたG.I.アスコリ(1829-1907)の言語観との違いについても言及する。									
【授業計画と内容】									
以下のテキストに収められた論考を講読する。 Tutte le opere di Alessandro Manzoni, Scritti linguistici e letterari (3 tomi), a cura di L. Poma e A. Stella, Mondadori, 1974-91									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業出席状況、レポートによって総合的に評価する。									
【教科書】									
コピー配布									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 天野 恵 文学研究科 特定准教授 ダニエラ・ヴァガータ				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3,4 隔週	授業形態	演習
題目	イタリア文学研究の諸問題								
【授業の概要・目的】									
研究論文執筆のための訓練と準備を目的とする演習である。《勉強》と《研究》の相違を明確に認識することから始めて、問題の設定と論証のプロセス、それらの表現方法、そして文献目録の作り方等の細部に至るまでを、学生が行なう実際の研究に沿って学習する。									
【授業計画と内容】									
学部生の場合は卒業論文、大学院生の場合は修士論文ないし研究報告や学術専門誌への投稿を念頭においた研究論文等の計画段階から、各自の研究テーマについて順次発表し、これに対して教員が具体的な指導を行なうと同時に、他の学生もまた自由に意見を述べつつ具体的な検討を加える。多くの場合、個人作業が中心となる文学研究においては、ともすると個々の学生・研究者が孤立しがちであるが、これは客観性を欠かすことのできない研究にとって決して好ましいことではない。また、他人の研究を適切に論評することは、自分の研究能力の向上にダイレクトにつながる。研究者を志す者ならば、学部学生からODまでキャリアの長短を問わず、誰もがそれぞれ得るところの多い演習である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席点および平常点。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) なし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
原則的には隔週開講の授業であるが、学生の希望があればこれに限定されることなく時間の許す限り開講する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 天野 恵				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	20世紀のイタリア文学(小説)								
【授業の概要・目的】									
<p>ジョルジョ・バッサーニの『フェラーラ物語』の講読を通じて、20世紀後半のイタリア文学が問題としたテーマの一つを認識し、かつ現代イタリア文学の読解に習熟することを目指す。単に「現代小説を読む」のではなく、われわれ現代の日本人のそれとは異なる価値観やメンタリティーを有する人々の問題意識を明確に認識することを授業の目標とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>形式的には、毎週の授業において現代小説を少しずつ読み進めるだけであるが、相手はわれわれ現代の日本人を読者として想定しているわけではないので、語学上の知識のみならず、ファシズム期から戦後にかけてのイタリア知識人の置かれた立場や、フェッラーラという北イタリアの地方都市の中の複雑な人間関係を把握することが要求される。ただし、こうした作業が困難なものであることは明らかであることから、授業においてはできるだけ平易な解説を行なうことにより、予習段階での学生の負担は少なくするよう最大限の努力を行なう予定。</p>									
【履修要件】									
<p>改めて言うまでもないことではあるが、初級のイタリア語を習得していることが条件となる。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点による。</p>									
【教科書】									
<p>プリント配布</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する 作品内容の理解は当然の前提となるが、難解な作品の場合、教員から説明を行なうので、この面において予習等に多大な時間を割く必要はない。</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 天野 恵				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	ダンテ『神曲』読解								
【授業の概要・目的】									
14世紀から現代に至るイタリア文学の、どこをどのように研究するに当たってもダンテの『神曲』を避けて通ることはできない。従って授業の目的はおのずから明らかであろう。《『神曲』の読み方》の習得である。									
【授業計画と内容】									
『神曲』地獄篇の中の特になし有名ないくつかのカント（歌）を、現代の注釈とともに読んでいく。韻文作品である以上、詩形やイタリア詩特有のリズムを捉えることは非常に重要であるが、まずは内容が理解できなくては話にならないので、その面における予習は必須である。授業においては、3行からなる単位(terzina)ごとに区切って、該当部分の注釈を参照しながら読解していく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
コピー配布									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
難解な作品であり、予習の段階ですべてを理解しておこうとして多大な時間を割く必要はない。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(外国人実習) Italian Language and Literature (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 ダニエラ・ヴァガータ						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	外人実習
題目	Esercitazioni di lingua italiana								
【授業の概要・目的】									
Lettura e analisi testuale di alcuni brevi racconti, articoli o favole italiani									
【授業計画と内容】									
La scelta dei testi da leggere sarà attentamente valutata durante le prime lezioni dell'anno accademico in base al livello di conoscenza della lingua italiana da parte degli studenti. A secondo del livello complessivo della classe verranno svolte alcune lezioni di introduzione all'analisi del testo letterario (analisi narratologica e stilistico-retorica). In questo corso è prevista la partecipazione attiva dello studente, al quale sarà chiesto di intervenire in sede di commento del testo. Tra gli argomenti di discussione, saranno affrontati anche temi volti a far riflettere sulle differenze culturali tra l'Italia e il Giappone.									
【履修要件】									
E' ammessa una sola assenza. E' previsto un esame finale.									
【成績評価の方法・基準】									
Corso destinato a studenti che sono già in possesso di una conoscenza basilare della lingua italiana.									
【教科書】									
E' distribuita una dispensa settimanalmente.									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Si richiede una partecipazione attiva da parte dello studente attraverso lo svolgimento di esercizi e la composizione di un diario.									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

《思想文化学専攻》 哲学専修

授業科目名 <英訳>	哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 邦武				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水1	授業形態	特殊講義
題目	医学と哲学								
【授業の概要・目的】									
<p>「生と死」「身体と心」「人生の価値」のなど問題は、哲学の基本問題であるとともに、医学の問題でもある。医学は「人間とは何か」という哲学的問題関心をつねにもたざるをえない。講義では医学的研究にも役立つような哲学の基本問題を、歴史的流れに沿って説明する。特に大学院生には、「死」をめぐる古代と現代、西洋と東洋の見方の習得を通じて、われわれの「人間存在」というあり方にたいする鋭い問題意識を深めるための場としたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり2-3週の授業をする予定である。</p> <p>1. 医学と哲学の密接な関係について 2. 古代ギリシアの死生観（プラトン、アリストテレス） 3. 東洋における死の観念（古代、中世） 4. 意識としての人間とその身体（デカルト） 5. 心身問題（ライプニッツ、スピノザ） 6. 知識と信仰 不確実な知識の活用（パスカル） 7. 分析哲学における死の取り扱い 8. 実存主義における死の理解 9. 生命論的世界像（ジェイムズ、ベルクソン） 10. エコロジカルな人間論（ギブソン）</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび出席状況によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
質問等あがれば授業後に研究室で対応する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 出口 康夫						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	数理哲学研究								
【授業の概要・目的】									
前年度から引き続き、現代数理哲学における様々なトピック、特に担当教員が進めている科学的实在論、統計学の哲学、東洋思想の非古典論理解釈、カントの数学論などを扱います。									
【授業計画と内容】									
【前期】 「科学的实在論論争」を概観しつつ、担当教員が提唱する「活動实在論」の擁護と展開を目指します。扱われる予定のトピックは以下。一つのトピックについて3～5週の授業を行います。 「観測(不)可能性」「測定ネットワーク」「理論パッチワーク」「反实在論論駁1：ファン・フレーセンの構成的経験論」									
【後期】 前期に引き続き「科学的实在論」を扱います。以下のトピックについて、それぞれ3～5週の授業を行います。 「反实在論論駁2：プラグマティズム」「反实在論論駁3：社会構成主義」「活動实在論」 また前期・後期とも、上記以外の数理哲学に関する様々なトピックを適宜取り上げます。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポートと平常点評価(出席回数、授業内での発言等にもとづく)									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 中才・美濃編『知識と实在』(世界思想社) ISBN:978-4-7907-1367-8(本書所収の論文、出口康夫「活動实在論の擁護」を参照します。)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	滋賀大学 経済学部 准教授 西村 正秀				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	知覚の哲学								
【授業の概要・目的】									
<p>知覚の哲学は認識論と心の哲学の両領域にまたがる分野であり、哲学における重要な一分野をなしている。本講義では、知覚の哲学における諸問題の中から、知覚経験の本性について理解を深める。具体的には、知覚経験はどのような本性を持っているのかという問題を、(1)知覚経験は表象的か関係的か、(2)知覚経験は概念的か非概念的かという観点から検討する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の課題について、1課題あたり2～3週の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.表象としての知覚経験(1)：知覚内容 2.表象としての知覚経験(2)：様々な志向説 3.表象としての知覚経験(3)：志向説の問題点 4.関係としての知覚経験(1)：様々な選言主義 5.関係としての知覚経験(2)：選言主義の問題点 6.知覚における指示 7.概念の諸理論 8.非概念主義(Dretske, Evans, Peacocke) 9.概念主義(McDowell, Brewer) 10.概念主義論争に対する否定的評価 11.注意と概念主義論争 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートの成績による。									
【教科書】									
講義で使用する資料・論文などはプリントで配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>担当教員との連絡は主にメールによるものとする。担当教員のメールアドレスについては授業時に指示する。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	哲学(演習) Philosophy (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 出口 康夫						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	現代哲学演習								
【授業の概要・目的】									
現代哲学の文献を読むことで、哲学的な文献の読解力と、文献の読解にもとづいて自らの議論を構築する力、即ち「哲学力」を身につけよう！									
【授業計画と内容】									
【前期】 まずは前年度に引き続き、Ian Hacking, Historical Ontology, 2002 を取り上げます。英語圏とフランス語圏にまたがって活躍するハッキングの「本音」がつまった論文集です。 次に、David Lewis, On the Plurality of Worlds, 1986 の読解を試みます。「20世紀後半最大の分析形而上学者」の呼び声の高いルイスが（例えばガンダムが一年戦争を繰り広げる）可能世界は、この現実世界と同じ意味で実在する、というトンデモな主張を、（やっかいなことに）極めて魅力的な議論を駆使して展開した問題の書です。									
【後期】 前期に引き続いて「ルイス本」の読解を進めます。それが終わり次第、Sergio Sismond, An Introduction to Science Technology Studies, 2nd ed., 2009 の訳読に移ります。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポートと平常点（出席、訳の担当、質問等のパフォーマンスなどにもとづく）									
【教科書】									
David Lewis 『On the Plurality of Worlds』 (Blackwell) ISBN:0631224262 (授業開始時に生協で一括購入します。) Ian Hacking 『Historical Ontology』 (Harvard UP) ISBN:0674016076 Sergio Sismondo 『An Introduction to Science and Technology Studies』 (Wiley-Blackwell) ISBN:1405187654									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学(演習) Philosophy (Seminars)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 須藤 訓任				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	Friedrich Nietzsche, Die fröhliche Wissenschaft を読む								
【授業の概要・目的】									
F・ニーチェ(1844-1900)の『愉快な学(悦ばしき知識)』(1882)の第5書を精読する。同著作はニーチェの中期思想から後期思想への橋渡しとして位置づけられるが、その第5書は1887年になって増補されたものである。ニーチェ後期の重要思想が凝縮されたアフォリズム群である。(昨年度の続き)									
【授業計画と内容】									
今年度においては、とくに以下のトピックに留意して、考察を進めたい。 1. 「ドイツ的」なるものの本質について 2. 科学と誠実性の問題 3. 「芸術家」と「俳優」の問題について 4. ロマン主義の問題 5. 「ディオニュソス的」とはいかなるものか 6. 遠近法主義の問題 7. 「よきヨーロッパ人」とは誰か 8. 「大いなる健康」の問題									
授業は毎回担当者を指定し、ドイツ語原文の訳読と思想内容上の問題提起を求め、その提起に基づいてディスカッションを展開するという形で進める。									
【履修要件】									
ドイツ語初等文法を履修済みであること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末レポート評価									
【教科書】									
テキストはプリントして配布するが、ニーチェに興味のある人は、どの版でもよいので、原本を入手することが望ましい。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学(演習) Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 邦武 文学研究科 准教授 出口 康夫				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4,5	授業形態	演習
題目	哲学の諸問題(大学院演習)								
【授業の概要・目的】									
<p>大学院生による研究成果の発表演習。卒業論文、修士論文の成果を発表するほか、各種の学会口頭発表、雑誌掲載論文の準備、その他の研究成果をもちより、専修(大学院)の構成員全員で討論しあい、批判的に検討しあう。個々の大学院生の専門的研究成果発表の場であるとともに、さまざまな主題と手法による哲学探究の可能性を共同で学ぶことで、哲学という知的営みの学問的深さを体得する場ともなることを目的としている。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>年度初めに一年間の発表スケジュールを決定し、それに沿って毎週一人ずつ発表する。代表的質問者のリストも作成し、質問者はあらかじめ与えられた発表内容を吟味するための用意を行う。発表者は代表質問者のみならずすべての構成員に前もって資料を配布する必要があるため、少なくとも発表二日前までに原稿または資料を用意する。</p>									
【履修要件】									
哲学専修大学院生									
【成績評価の方法・基準】									
発表、質問、その他平素よりの演習への参加姿勢を評価して、年度末に成績を決定する。									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
(参考書) 特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学(演習) Philosophy (Seminars)	担当者氏名	産業技術総合研究所 システム検証研究センター 特別研究員 矢田部 俊介						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	論理学 (最小論理の自然演繹)								
【授業の概要・目的】									
<p>我々は「論理的」という言葉をよく使う。哲学においても、もちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。これは、現代の哲学の大きな問題である。というのも、古典論理の体系以外にも、20世紀以降、多くの異なる論理体系が提案されているからである。それらの非古典的な体系が論理と呼ばれるなら、ある体系が「論理」と呼ばれるためには、どんな性質を満たしていることが必要だろうか。</p> <p>本演習では、数学における定理の証明がシミュレートできる、「論理」と呼ばれうるような、記号を処理する体系（「形式的体系」）を紹介する。具体的には、最小述語論理の自然演繹の体系の解説から始め、最小論理・直観主義論理・古典論理での論理式の証明とそのモデルを使った議論が出来るようにすることを目的とする。その中で、単なる記号の処理を行なう体系が「論理」と呼ばれるにはどんな性質を満たす必要があるかを考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>最小述語論理は、論理結合子の導入規則と除去規則のみを持つ、基本的な論理体系の一つである。前期の前半は、まず最小述語論理の自然演繹の体系を紹介する。問題演習を通じ、各自が自然演繹の証明が出来るようになることが目標である。</p> <p>また、前期の後半には、最小論理上で算術の体系「最小算術 Q」を例に、数学における多くの証明が最小論理で遂行可能であることを示す。同時に、原始再帰法など計算の基本概念を紹介する。</p> <p>後期の前半では、論理結合子の意味とは何かを、「証明論的意味論」と呼ばれる立場から考察する。具体的には、ベルナップの「トंक」の例を題材に、論理結合子の条件とは何かを考え、保存拡大性や証明の正規化といった論理学の基本概念を理解することを目指す。</p> <p>後期の後半では、最小論理に論理規則を付加し拡張した論理体系を紹介する。つまり、最小論理に矛盾律、排中律と論理規則を加え、直観主義論理、古典論理の体系を得る。これらの例により、論理規則が加わるにつれて、論理式の証明は難しくなるものの、そのモデルは簡単になることを示す。また、その考察により、健全性や完全性といった記号とモデルの関係に関する基本概念の理解を目指す。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。									
----- 哲学(演習)(2)へ続く -----									

哲学(演習)(2)

[教科書]

毎回ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

(参考書)

小野寛晰 『情報科学における論理』 (日本評論社) ISBN:4535608148

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』 (Dover Publications) ISBN:0486446557

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。～とは何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	哲学(語学) Greek	担当者氏名	非常勤講師 堀川 宏						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	語学
題目	ギリシア語文法(2時間コース)								
【授業の概要・目的】									
<p>古代ギリシア語アッティカ方言の基本を習得することを目指す。 語形変化をはじめとする基本文法を逐一学ぶことによって、原典を読んでゆくための基礎を整える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1回の授業で、教科書を1～2課すすむ。教科書記載の文法事項を簡単に解説したあと、次回に練習問題を読解する。出席者に練習問題の和訳をしてもらいながら、文法事項の復習と解説をおこなう。</p> <p>また、古典ギリシア語は語形変化が極めて重要なので、毎回の授業時に小テストによる反復練習をおこなう。(したがって、授業時間外の練習がつよく求められる。)</p> <p>教科書を修めたあと、学年末の3,4回は、平易なテキストを講読する予定である。テキストは、参加者の希望を考慮するが、方言の少ない平易なものを選択する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と平常点(授業時に実施の小テストによる)を重視する。その他、必要に応じて年度末に筆記試験をおこなう。									
【教科書】									
水谷智洋『古典ギリシア初歩』(岩波書店)ISBN:4000008297									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
参加者には教科書の復習と練習問題の準備が要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	哲学(語学) Latin	担当者氏名	非常勤講師 仲川 章						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	語学
題目	ラテン語(2時間コース)								
【授業の概要・目的】									
ラテン語の基礎的読解能力を養成すること、それがこの授業の目的である。ラテン語の知識は西洋文化および西洋現代諸語の理解を深めるのに役立つ。									
【授業計画と内容】									
<p>基本的な文法事項を教科書の順序に従って漸進的に学習してゆく。教科書にはない解説も適宜加えるつもりである。</p> <p>初回は第一課のみ。あとは毎回二課ずつ進む(一つの課は平均すると五頁程度である)。各課の末尾に設定されている練習問題(ラテン文の和訳)は受講者にあてて答えていただく。</p> <p>基本的な文法事項の具体例を幾つか挙げると、動詞の活用変化(第一~第四変化)/名詞の活用変化(第一~第五変化)/名詞の格(主格、属格、与格、対格、奪格、呼格)の用法/動詞の法(直説法、不定法、命令法、接続法)・相(能動相、受動相)・時称(現在、未来、未完了過去、完了、未来完了、過去完了)/分詞・動名詞・動形容詞の用法/接続詞(関係詞を含む)とさまざまな従属文。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および学年末定期試験(筆記)。									
【教科書】									
松平千秋・國原吉之助『新ラテン文法』(東洋出版)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
予習・復習が必要。理屈ぬきの暗記という局面も多々あるので、忍耐強い学習態度が求められる(ちなみに、習得目標語彙は約2500である)。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

西洋哲学史専修

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 中畑 正志				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	自己、自己知、自己意識								
【授業の概要・目的】									
昨年度に引き続いて、理論的分析と歴史的探究の両面から自己および自己知、自己意識をめぐる問題群を考察する。									
【授業計画と内容】									
昨年度に引き続いて、自己および自己知、自己意識などの概念理解をめぐる諸問題を取りあげ、現代の哲学的分析の動向（一人称言明の特異性、自己と意識、自己理解と物語性など）を参照しながら、アリストテレスから古代後期に至るまでの自己にかかわる思考をたどり、自己をめぐる諸問題の歴史的な性格も見届けたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート（詳細については授業で説明する）。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)		担当者氏名	首都大学東京 都市教養学部 准教授 金子 善彦					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	アリストテレス哲学における個体の認識								
【授業の概要・目的】									
<p>「個体（たとえばソクラテス）は、感覚を通じて認識される」。この見方は、知の問題を扱う「分析論」から、魂（心）の本質に迫る「魂論」、さらには人間の生き方を問う「倫理学」の問題領域まで、アリストテレスの哲学全般に幅広く浸透していると言っていよい。ところが、不思議なことに、この見方自体を主題的に扱い、踏み込んだ議論を展開した箇所は、現存する著作集のどこにも見当たらない。そのため、私たちに残されるのは、「個体の認識」ということで果たしてアリストテレスは正確に何を意味していたのかという、根本的な疑問である。</p> <p>本講義では、このような事情を考慮して、アリストテレス哲学のさまざまな場面に点在する「個体の認識」を、その場面場面に即しながら、できるだけ正確に照らし出すことを目的とする。そのことを通じて、アリストテレスの哲学的思考そのものについて理解を深めたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>基本的に講義形式で進めるが、必要に応じて関連テキストのコピーを配布し、一緒に検討するなど、演習の要素も取り入れる。各回の内容は以下の通り（進行状況により一部変更の可能性もある）。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 第2-5回 『分析論』における個体認識（エパゴーゲー（帰納推論）の問題） 第6-9回 『魂について』における個体認識（個体についての知、付带的感覚、思惟のはたらきと個体） 第10-11回 アイデア論批判と個体認識（純然たる個体としてのアイデア） 第12-14回 『ニコマコス倫理学』における個体認識（実践的推論と感覚・思惟） 第15回 全体のまとめと結論</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび出席状況により評価するが、授業中の積極的な姿勢も考慮に入れる。レポートのテーマは、最終回に通知する。									
【教科書】									
関連するテキストのコピー（抜粋）や資料を適宜配布する。なお、『西洋思想における「個」の概念』（中川・田子山・金子編、慶応義塾大学出版会、2011年）も時間内に参照するが、コピー（抜粋）を配布するので購入の必要はない。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>必須ではないが、古典ギリシア語の知識があることが望ましい。</p> <p>集中講義のため、特別にオフィスアワーは設けないが、講義の合間に講師控室などで随時質問を受け付ける。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	関西大学 外国語学部 教授 加藤 雅人				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	分析トミズムとエッセの意味論								
【授業の概要・目的】									
「分析トミズム」と称する現代の分析哲学の影響を受けた中世哲学（とくにアキナス）のエッセ(esse)研究と、ジルソン等に代表される歴史的なエッセ研究の両方のアプローチを視野に、後期スコラ哲学におけるエッセの意味の分析を試みる。									
【授業計画と内容】									
以下の諸テーマについて、1テーマあたり2～3週の授業をする予定である。									
1．「分析トミズム」とは？									
2．「存在は述語ではない」をめぐって									
3．分析トミズムのエッセ解釈									
4．歴史的アプローチによるエッセ解釈									
5．エッセの意味の文脈的分類									
6．エッセの二区分									
7．エッセの意味論と語用論									
受講者の理解度に応じて、変更される場合がある。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点により評価する。									
【教科書】									
使用しない 資料はコピーして配布する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)		担当者氏名	慶應義塾大学 文学部 教授 山内 志朗					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	イスラーム哲学と西洋中世の存在論								
【授業の概要・目的】									
<p>アヴィセンナの『治癒の書』の代表的な箇所がどのようにラテン語に訳されたかを調べながら、アヴィセンナの存在論の基本的枠組みと、それがどのように誤解されて伝わったかを考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>アヴィセンナの『治癒の書』の形而上学の部分のラテン語訳『形而上学』の一部を解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アヴィセンナの存在論 ・ドゥンス・スコトゥスのアヴィセンナ理解 ・アヴィセンナ『形而上学』第1巻ラテン語訳について ・アヴィセンナ『形而上学』第2巻ラテン語訳について ・アヴィセンナ『形而上学』第6巻ラテン語訳について ・「存在」と「もの」をめぐる考察 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート（具体的なテーマについては授業の時に指示する）									
【教科書】									
山内志朗 『普遍論争』（平凡社）ISBN:978-4-582-76630-1									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 福谷 茂				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	特殊講義
題目	17世紀の形而上学								
【授業の概要・目的】									
2004年度から2008年度まで継続された特殊講義（「形而上学」研究）の成果と観点を踏まえた「17世紀の形而上学」研究の第2年度目として、本年度は17世紀の形而上学をより具体的に考察する。伝統的な形而上学のツールに加えて新しい概念や方法が陸続と登場したのが17世紀である。デカルト、マルブランシュ、スピノザ、ライプニッツが交錯し火花を散らす現場で形而上学のポテンシャルを確認したい。									
【授業計画と内容】									
講義の前提として昨年の成果をコンパクトに概観した上で、形而上学の歴史において17世紀がいかなる意味で重要な時期であるのか、という点を論ずる。中心となるのは、スピノザ、ライプニッツ、マルブランシュであるが、彼らは異なる背景と目的をもちながらも共通したタームを用い、共有する問題意識の圏内で濃密なインタラクションを行ないながら思考した。真理、原因、自己原因、世界、可能世界、創造、自由といった概念が切り開く近世形而上学の独自の性格を探求する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 上野 修				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4,5 隔週	授業形態	特殊講義
題目	十七世紀の哲学 様相の観点から								
【授業の概要・目的】									
デカルト、ホッブズ、スピノザ、ライプニッツを取り上げ、十七世紀の哲学を様相の観点から比較考察します。									
【授業計画と内容】									
「理性の世紀」と言われる西洋十七世紀は激動の時代でした。神とは、人間とは、世界とは何か。相次ぐ内乱や近代科学の台頭を背景に自明性は喪失し、すべてが問い直されねばなりませんでした。この時代の哲学はそれに見合うスケールの大きさがあります。この講義ではデカルト、ホッブズ、スピノザ、そしてライプニッツにスポットを当て、彼らのラジカルな思考を比較し考察します。様相（必然・偶然・可能・不可能）という視点から彼らの哲学を特徴づけ、四人の哲学の位置関係を考えます。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポート（講義との関連を重視し、評価します。）									
【教科書】									
とくにありません。ハンドアウトを出します。									
【参考書等】									
（参考書） 授業時間内に適宜指示します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	早稲田大学 文学学術院 教授 御子柴 善之				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	『永遠平和のために』の再検討								
【授業の概要・目的】									
カントの『永遠平和のために』を検討する。このテキストは、<9.11>後、さまざまに取り上げられることが多い。この授業では、特に、その倫理的「背景」に着目しながら検討する。									
【授業計画と内容】									
『永遠平和のために』というテキストには、カント哲学全体の中にその位置を定めづらいという特色があります。すなわち、三批判書はもとより、形而上学にも歴史哲学にも回収できない内容をもっているのです。このような特色が、2001年の<9.11>後の国際情勢の中で、このテキストを読み返すことを可能にしているのでしょうか。この授業では、このテキストの多面性を、一方で、カント哲学全体に結び付けつつ、他方で、今日的なテーマと関連させることで、明らかにしたいと思えます。後者からは、「信頼（回復）」や「連帯（形成）」という、今日の日本社会の倫理的根本問題に対する展望が得られるでしょう。そのための視点として、権利の問題として執筆された『永遠平和のために』を、権利論の基礎にある、カントの批判的倫理学の所説を手がかりに検討します。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート（短いレポートを複数回書いてもらいます。）									
【教科書】									
カント 『永遠平和のために』（岩波文庫）（宇都宮芳明訳）									
【参考書等】									
（参考書） 参考書は、授業中に紹介します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 中畑 正志				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	アリストテレス『形而上学』を読む								
【授業の概要・目的】									
アリストテレスの『形而上学』を読む。今年度は2巻8章からはじめる。議論の内容を明確に理解することとともに、アリストテレスを読むとはどのようなことなのかについての認識も深めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
今年度は『形而上学』 巻8章から読み始める。 巻はアリストテレスの哲学の中心部分を構成する議論であるが、同時に難解できわめて議論の多いテキストである。授業では、担当者による訳と説明の報告を受けた上で参加者による議論をおこない、問題の明確化と説得的な解釈の追求につとめる。 報告担当者は、担当する週の前半までに担当範囲の翻訳や説明を参加者全員に配布できるように準備すること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（報告の担当と議論への参加にもとづいて評価する）									
【教科書】									
W. Jaeger 『Aristotelis Metaphysica』 (Oxford Classical Text)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
参加者は、報告担当者から配布された翻訳と説明を、テキストや諸注解を参照して事前に検討しておくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 中畑 正志				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4,5 隔週	授業形態	演習
題目	古代哲学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
西洋古代哲学にかかわる諸問題について、毎回一人あるいは二人がそれぞれの研究成果を発表し、参加者全員によって検討する。哲学的に重要な問題を平明なかたちで分析し討論する能力を養う。									
【授業計画と内容】									
西洋古代哲学にかかわる諸問題について、毎回一人あるいは二人がそれぞれの研究成果を発表し、参加者全員によって検討する。 話題の選択は自由であるが、発表者には授業参加者が共有できるような明晰な議論が求められる。また発表者は、発表する週の月曜日までに参加者に発表要旨を配布しなければならない。参加者には発表要旨を事前に読み、授業では積極的に議論に参加することが求められる。なお修士論文提出予定者は、この授業で必ず論文の構想を発表すること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（発表と議論への積極的な貢献の両方にもとづいて評価する）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 早瀬 篤				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	演習
題目	プラトン『パイドロス』を読む								
【授業の概要・目的】									
プラトンの『パイドロス』の原典を精読する。古典ギリシャ語文献を日本語に訳読する能力、およびプラトンのテキストを明晰な仕方で分析し、議論する能力を身につけることを目指す。									
【授業計画と内容】									
<p>プラトンの『パイドロス』を冒頭から丁寧に読んでいく。この対話篇は、イデア論を神話の形で描写するソクラテスの恋(エロース)を主題とするスピーチ、真の技術を獲得するために必要な哲学的方法論など、プラトン哲学の要素が詰まっている。授業では、そのひとつひとつを丹念に読み解いていく。</p> <p>毎時間、3ページ程度のテキストを、事前に担当者を決めずに、参加者全員が少しずつ訳読するという形式をとる(ただし、ギリシャ語に慣れていない学生は、前期は毎回の範囲の最初の部分の訳を担当する)。そして、注釈書や論文を参照しながら、内容についても議論を行う。</p>									
【履修要件】									
必須ではないが、初級ギリシャ語を習得していることが望まれる。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
J. Burnet 『Platonis Opera』 (Oxford Classical Text) ISBN:9780198145417									
J. Burnet 『Platonis Opera』 (Oxford Classical Text) ISBN:9780198145417									
【参考書等】									
(参考書)									
H. Yunis 『Plato: Phaedrus』 (Cambridge University Press) ISBN:97805216129593									
H. Yunis 『Plato: Phaedrus』 (Cambridge University Press) ISBN:97805216129593									
Ch. Rowe 『Plato: Phaedrus』 (Aris&Phillips) ISBN:9780856683145									
Ch. Rowe 『Plato: Phaedrus』 (Aris&Phillips) ISBN:9780856683145									
藤沢令夫 『藤沢令夫著作集IVプラトン『パイドロス』註解』 (岩波書店) ISBN:4000924141									
藤沢令夫 『藤沢令夫著作集IVプラトン『パイドロス』註解』 (岩波書店) ISBN:4000924141									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業に参加するためにはかなりの予習が必要である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 川添 信介				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	演習
題目	トマス・アクィナス『対異教徒大全』精読								
【授業の概要・目的】									
トマス・アクィナス中期の著作である『対異教徒大全』をラテン語原文で精密に理解し、その体系的哲学の全体像についての理解を深めることを目的とする。また、主著『神学大全』の併読も課することによって、2つの体系的著作の異同の意味を考えることも目指す。									
【授業計画と内容】									
本年度は昨年度に引き続き、神論である第1巻末尾から第2巻冒頭部分を丁寧に読解する。具体的なトピックは以下のようなものとなる。									
(1)神における生命と至福の意味(以上第1巻末尾)									
(2)被造物を神との関係で論じることの意味と方法(以下第2巻)									
(3)神の創造作用とはいかなるものであるのか									
【履修要件】									
ラテン語の初級文法を修得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
数種の現代語訳を併読することが求められる。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 川添 信介				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	トマス・アキナスの法思想								
[授業の概要・目的]									
<p>中世スコラ哲学において詳細な法論を残したトマス・アキナスの『神学大全』の該当箇所を精読することによって、その法についての考え方、とりわけその自然法思想、自然法と実定法の関係、宗教的法（律法）と自然法の関係などについて、その現代的意義について考察することを目的とする。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>本年度も昨年度に引き続き『神学大全』第2部の1の法論の部分を精読する。法一般の本質、永遠法、自然法、人定法に関するアキナスの思想を前提として、旧約の律法のうち「道徳的命令」と自然法の関係について考察する。より具体的なトピックとしては、次のようなものが挙げられる。</p> <p>(1)旧法（旧約の律法）とは何か (2)旧法の含む命令の種類 (3)旧法の道徳的命令と自然法の関係</p>									
[履修要件]									
ラテン語の初級文法を修得していること。									
[成績評価の方法・基準]									
平常点									
[教科書]									
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
数種の現代語訳を併読することが求められる。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 横田 蔵人				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	演習
題目	ウィリアム・オッカムの徳論を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>ウィリアム・オッカムの『さまざまな問題集』から、第7問題「徳どうしのつながりはどうなっているのか」をとりあげ、ていねいに読み進める。これによって、中世後期の道徳心理学の概要を学び、あわせて、この時代特有の用語や議論に親しみたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>ウィリアム・オッカムの『さまざまな問題集』から第7問題を中心に精読する。このテキストは、四つの枢要徳のあいだの関係、特に、道徳的な知識をもつことと道徳的な性格をもつこととの関係についての古典的な問題を論じるものである。</p> <p>1.最初に、第6問題第10項「徳と悪徳」から読み始め、オッカムが四つの主要な徳についてどのような理解を抱いていたのかの基本を押さえる。</p> <p>2.次に、トマス・アクィナスの『神学大全』から第1-2部65問題「徳どうしのつながりはどうなっているのか」を読み、問題の歴史的なあらましを学ぶ。</p> <p>3.以上を踏まえて、第7問題をていねいに読んでゆく。必要や学生の要望に応じて、アウグスティヌス、トマス、スコトゥス、オッカムの関連するテキストを平行して読む。</p>									
【履修要件】									
ラテン語初等文法の既習者であること									
【成績評価の方法・基準】									
授業参加度									
【教科書】									
Guillelmus de Ockham, Opera Theologica, t.8, ed. G. I. Etzkorn et al., NY: St. Bonaventura, 1984.									
【参考書等】									
(参考書)									
Rega Wood, Ockham on The Virtues, IN: Perdue University Press, 1997.									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業中に指示する									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 川添 信介				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3,4 隔週	授業形態	演習
題目	中世哲学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
中世哲学史を専攻している学生を中心とした参加者が自分の関心あるテーマについて発表を行い討論を行うことを通じて、中世哲学史のさまざまな領域の論点についての歴史的知識を深め、哲学的分析力を高めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
隔週の開講とし、1回あたり参加者1名が発表を行い、その後担当教員や他の参加者との討論を行うこととする。発表の内容は参加者が自分で自由に選ぶことができるが、発表内容の梗概を事前に他の参加者に配布することが求められる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とするが、最低1回の発表を行うことが前提となる									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
中世哲学史を専攻している学生は必修とする。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 福谷 茂				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	カント『判断力批判』演習								
【授業の概要・目的】									
『判断力批判』を精読する。『判断力批判』はカントが三批判書の体系化をはかった書であるという点でカント解釈上重視されねばならないだけでなく、近年では社会哲学や政治哲学にとっても重要なテキストになっている。これらの点を総合的に把握するのが目的である。									
【授業計画と内容】									
Philosophische Bibliothekに入っているHeiner Klemme編の新版を読みすすめる。この版に付されたPietro Giordanettiの注釈は新機軸を打ち出したものであり、古典テキストの注解のあり方という点からも学ぶところが多い。参加者はかならずこの版を用意すること。授業のやり方は、毎回一人の訳読担当者とプロトコル担当者を組み合わせ、討論による徹底した検討を重視する。プロトコル作成の回 プロトコル報告の回 訳読担当の回という流れですすむので、参加者は各自3回連続で担当してもらうことになる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
Heiner Klemme編 『Kritik der Urteilskraft』									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 福谷 茂				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	カント『純粋理性批判』演習								
【授業の概要・目的】									
引き続きカントの主著であり近世哲学の根底でもある『純粋理性批判』を精読する。授業の狙いはカントを通して哲学史の展望を持つこと、および哲学のテクストの読み方を稽古する場とすることである。									
【授業計画と内容】									
昨年度に引き続き、本年度は「超越論的原則論」の「経験的思惟一般の要請」から読む。「超越論的原則論」は自然学の基礎を論じるとともにカントの「経験」概念が具体化される点で『純粋理性批判』全体の山場ともいえるべき位置にある。過去の研究成果の蓄積も膨大なものがあるので、それらに学ぶ作業も要求される。頻繁なクロス・レファランスを行ないながらの読解作業となるので、参加者はかならずPhilosophische Bibliothek版のKritik der reinen Vernunftを用意すること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による									
【教科書】									
Jens Timmermann編『Kritik der reinen Vernunft』									
【参考書等】									
(参考書) 福谷 茂『カント哲学試論』(知泉書館、2009)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 福谷 茂				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4,5 隔週	授業形態	演習
題目	近世哲学史の諸問題								
[授業の概要・目的]									
研究室在籍者が順番に研究発表をおこない、それに関して全員で討論を行なって論文作成ないし学会発表のためのステップとする。また議論や質問の技術を身につける場ともしたい。西洋近世哲学史専修の大学院生は必修。									
[授業計画と内容]									
司会者と発表者のほか毎回特定質問者をおき、研究発表に関し疑問点の明確化と改善の方向性を探るために徹底した討論を行なう。教員および研究室在籍者のほかゲストの話聞く回も予定している。卒業論文作成予定者は春の構想発表と秋の中間発表の2回担当しなければならない。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点による(少なくとも一回は発表することが条件)									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)			担当者氏名	高野山大学 文学部 准教授 山脇 雅夫				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	『精神の現象学』 「良心」論を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>ヘーゲルは、『精神の現象学』の「良心論」で同時代のドイツ哲学を対象としています。この部分を精読することで、ヘーゲルと同時代の思想家たち、とくに初期ロマン主義とのヘーゲルの関係について理解を深めることを目指します。またそこで展開されている、良心と社会的行為との関係についてのヘーゲルの見解を考察します。</p> <p>授業方法は、参加者による訳読・発表を中心にした演習形式です。</p>									
【授業計画と内容】									
『精神の現象学』 「良心」論を精読します。一回につき、1～2ページを参加者が訳読し、それをもとにした検討を行います。ヘーゲル哲学と同時代の思想についての知識もあわせて解説します。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中の訳読・報告、議論に対する参加によって評価します。									
【教科書】									
G.W.F.Hegel 『Phänomenologie des Geistes』 (Felix Meiner)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

日本哲学史専修

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 藤田 正勝				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	田辺元の「種の論理」								
【授業の概要・目的】									
西田幾多郎の後継者でもあり、批判者でもあった田辺元（1885-1962）の独自の哲学、いわゆる「種の論理」の内容と意義について検討する									
【授業計画と内容】									
田辺元の思索は多岐にわたったが、その中心に位置するのは、1934年以降発表されたいわゆる「種の論理」である。この「種の論理」がどのようにして形成されたのか、それはどのような内容をもつのか、それはどのような意義をもったのか、あるいはその現代的な意義はどこにあるのか等々の問題について、この時期に書かれた田辺の諸論文の読解を通して明らかにしたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートにより評価する。									
【教科書】									
田辺元 『田辺元哲学選 種の論理』（岩波文庫）ISBN:978-4-00-336941-8									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 藤田 正勝				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	経験と言葉、および日本語の論理をめぐって								
【授業の概要・目的】									
経験と言葉との関わりを中心に、言葉（日本語）がどのような意味で哲学の問題になりうるのかを考察したい。									
【授業計画と内容】									
経験と言葉ないし表現との関わり、日本語の論理的構造、日本語で思索する意義など、哲学と言葉との関わりについてさまざまな観点から考察を加えたい。さらに哲学的文献の翻訳の問題についても考えてみたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートにより評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	日本女子大学 人間社会学部 教授 田中 久文				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	京都学派の諸問題								
【授業の概要・目的】									
京都学派の哲学（西田、田辺、九鬼、和辻、三木、西谷、高山、戸坂ら）を、テーマ別に取り上げ、その現代的意義を探る。									
【授業計画と内容】									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生きる根拠（「絶対無」とニヒリズムの克服） ・ 創造の論理（「ポイエシス」と「構想力」） ・ 他者とどう向き合うか（疎隔と交通） ・ 新たな共同体の原理（「間柄」の倫理と「種」の論理） ・ 多元的な歴史の捉え方（文化相対主義と世界史の哲学） ・ 自然との共生（「自然史」の思想と環境倫理） 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートで評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	大阪市立大学 大学院文学研究科 教授 高坂 史朗				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	近代日本哲学史と東アジア								
【授業の概要・目的】									
近代日本の哲学史を全体として考察する。また東アジアの比較の中で吟味する。 1. 日本の近代化がどのようになされたか 2. 西周によってPhilosophyが「哲学」と翻訳された意義 3. 明治の時代に西洋哲学がどのように移植されたか 4. 日本の哲学がどのように展開されたか 5. 日本と東アジアとの思想史・哲学史的連関性 以上のことをを明らかにする。									
【授業計画と内容】									
1 西洋近代と東アジア世界 2 西周と「哲学」 3 東アジアと「哲学」 4 三宅雪嶺・井上哲次郎の日本国家 5 清澤満之の精神主義 6 西田幾多郎『善の研究』の成立の意義 7 昭和6年の思想史的意義 8 和辻哲郎の『人間の学としての倫理学』 9 植民地帝国大学に立つ二人の哲学者 10 東アジア間の思想的対話									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび平常点評価									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水5	授業形態	特殊講義
題目	パーティシペーションの思想								
【授業の概要・目的】									
<p>田辺元の種の論理における「種と個の関係性」の発想の源泉は、フランスの思想家、リュシアン・レビ＝ブリュールの分有（participation mystique）の概念と、それに関連するマックス・シェーラーの知識社会学における teilhaben（参加）の概念であったことが、最近の田辺史料研究により明らかになっている。シェーラーとブリュールの親密性をもったパーティシペーションを、田辺は絶対弁証法的葛藤関係に置き換えた。それが種の論理の誕生をもたらしたのである。</p> <p>これらの社会思想から、約一世紀を経た現在、それに極めて類似した思想がネットの世界を、そして実世界の動かしている。WEB 2.0 の中心概念「パーティシペーション」である。Facebook や Twitter は、すべてこのパーティシペーションの思想を基にしており、それは政治体制にさえ影響を持つまでになっている。</p> <p>なぜ、そして、どの様に一世紀前の社会思想は、現代のネット・ヴァーチャル社会の思想に「生まれ変わった」のだろうか。それを解明する。</p>									
【授業計画と内容】									
次の項目を、それぞれ 1 - 2 回講義する。									
A. 導入部									
A1. ビル・オライリーの「参加」：集合知、Yahoo知恵袋、SNS、ジャスミン革命...									
A2. 個がネットに飲み込まれ「融即」する時代									
B. 20世紀初頭の思想群									
B1. 田辺元の類・種・個 種の論理									
B2. レビ＝ブリュールの participation 融即									
B3. シェーラーの teilhaben 参加と社会哲学									
C. 21世紀の「融即」									
C1. ビル・オライリーのWeb2.0の思想と「参加」									
C2. 参加型エンタープライズの登場									
C3. 参加型エンタープライズとネット社会									
C4. 再魔術化の時代のリアリティとしての「融即」									
毎回最後の 5 分程度に質問票を書いてもらう時間をとる。次回に、その主なものに答える。									
【履修要件】									
特になし									
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----									

日本哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・基準]

数回の小レポートを実施し、それにより採点する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

パートBについては、田辺元「種の論理」(岩波文庫)、レビ=ブリュール「未開社会の思惟」(岩波文庫、現在版切れ、古書として手に入る)、シェーラー全集(白水社)などが参考となる。

パートCは、関連する文書の殆どがWEB上の文書や最近の論文である。WEBのものは、適宜URLを紹介する。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

KULASIS以外に講義用のサイトを開設し、講義資料、特にパートCの参考文献などを掲示する。そのサイトのURLは最初の講義の際に伝える。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(演習) Japanese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科 教授 秋富 克哉				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	西田幾多郎『一般者の自覚的体系』を読む								
【授業の概要・目的】									
西田哲学の展開にとって決定的となった「場所」の思想は、『働くものから見るものへ』所収の論考「場所」において明確な一歩をしるす。しかし、それは直ちにこの画期的な思想の確立を意味するものではない。本演習の目的は、論考「場所」の立場を踏まえながら、その後の発展過程を、テキスト読解を通して吟味し考察することである。主に『一般者の自覚的体系』所収の論考を取り上げながら、西田哲学の運動そのものに立ち向かいたい。									
【授業計画と内容】									
前期は、「場所」思想成立の過程を確認するため、純粹経験/自覚との連関を押さえながら、『働くものから見るものへ』所収の「左右田博士に答ふ」から出発し、次いで『一般者の自覚的体系』所収の論考に進む。後期も、引き続き『一般者の自覚的体系』を読み進めていく。取り上げる予定の論考は、「述語的論理主義」「自己自身を見るものの於いてある場所と意識の場所」「叡智的世界」「一般者の自己限定」であるが、進度を踏まえながら適宜調整していきたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートによる。平常点は、年間何度かのプロトコルと報告の担当によるが（回数は出席者の数次第）、原則として毎回しっかり出席することを求める。									
【教科書】									
西田幾多郎『西田幾多郎全集 第4、5巻（旧版）、第3、4巻（新版）』（岩波書店）（テキストはこちらでも準備する。）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎時間、プロトコルと報告の担当者は、レジュメの用意が必要である。また、テキストを読んでいることを前提に授業を進めるので、参加者は最低限該当箇所を予習して臨むこと。質問等は、講義後あるいはメール（アドレスは、授業中に指示）で行う。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(演習) Japanese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 芦名 定道				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	演習
題目	日本・アジアのキリスト教 波多野精一(5)								
【授業の概要・目的】									
日本・アジアのキリスト教の歴史を振り返りつつ、その新しい思想的可能性を探ることは、日本におけるキリスト教思想研究にとって重要な意味を有している。今年度取り上げられる波多野精一は近代日本を代表するキリスト教思想家であるが、この演習では、波多野のテキストを精読することを通して、波多野の宗教思想についての理解を深め、キリスト教的宗教哲学の可能性について考える。									
【授業計画と内容】									
本年度は、昨年度まで完了した、波多野宗教哲学三部作（『宗教哲学』『宗教哲学序論』『時と永遠』）それぞれの個別的な内容から、波多野宗教哲学の体系的理解へと考察が進められる。宗教哲学の方法論、体系構成、事実・経験概念、哲学的人間学、宗教類型論といった宗教哲学の基礎に関わる事項、あるいは、神秘主義と擬人観、愛、死、象徴、他者、永遠、創造、救済などの個々のテーマとについて、三部作を縦横に用いた分析を行いたい。それによって、波多野宗教哲学を、トレルチ、ハイデgger、ティリッヒ、レヴィナス、西田幾多郎らとの本格的な比較が可能になるものと思われる。合わせて、これまでの演習で扱えなかった文献（「西洋宗教思想史（希臘の巻）」）についても精読を行いたい。演習は、テキストの精密な読解に基づいて、関連事項について考察し、波多野研究を参照しつつ進められる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。（受講者には、前期後期に最低一回ずつの発表担当を課するが、その発表内容と、演習への参加度とから総合的に判断する。）									
【教科書】									
テキストはコピーして配付する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講者は、毎時間のテキストの予習と演習への積極的参加が求められ、特に前期後期各一回以上の発表担当が課せられる。演習に関わる質問は、オフィスアワー（木2・金3）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(演習) Japanese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	田辺元を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>手稿・日記などの一次資料を通して過去の偉大な思索者の思想を読み解く。今年度の対象は、哲学者田辺元の種の論理が誕生した昭和9年の特殊講義「認識の形而上学」の講義準備ノートである。これは田辺の読みにくい筆跡のため、田辺元没後約50年間、哲学の専門家にも読めなかった史料だが、史料分析用ITツールを利用することにより、田辺哲学を理解していない学部学生でも十分解読ができている。演習を通して、まだ誰も読めていない史料を始めて読むことの面白さを経験してもらおう。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>まず史料の背景を説明する講義を行い、その準備のもとで演習を行う。史料読みの演習では、史料のオリジナルではなく、その電子画像を使ひ、難解な崩し字を読むために、歴史史料研究用のツール SMART-GS を使う。出席者の知識や能力に応じて、講義と演習の比重は変化する。史料2枚（原稿用紙2枚）程度を、2名のチームで担当し、1チームが2、3週を担当することを計画しているが、参加者の人数などで変化する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
担当箇所の報告資料と発表の様子で評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
<p>手稿分析などに史料分析用ソフトウェアSMART-GSを多用する。講義参加者用のノートPCを数台用意しているが、自習などを考慮し自分のPCを持ってくるとよい。データなどは、外付けハードディスクに入れて貸与する。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	日本哲学史(演習II) Japanese Philosophy (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 藤田 正勝				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3,4 隔週	授業形態	演習
題目	日本哲学史の諸問題								
【授業の概要・目的】									
参加者の発表を中心に、日本哲学史上の諸問題について討議を行う。									
【授業計画と内容】									
参加者の発表と討議を中心に行う。参加者それぞれが研究するテーマについて発表を行い、それをもとに日本哲学史上の諸問題について議論する。日本哲学史専修大学院生は必修。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点により評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

倫理学専修

授業科目名 <英訳>	倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 水谷 雅彦				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	会話の倫理学IV								
【授業の概要・目的】									
熟議や討議ではなく、会話や社交の概念に基づいた倫理学の構築の可能性について探求する。									
【授業計画と内容】									
本年度は会話や社交の概念に基づく倫理学の構築にあたって、それに対する批判的見解をもつであろう理論のいくつかを検討する。例としては、シャンタル・ムフの「闘技民主主義」やジャック・デリダ晩年の「政治哲学」が考えられる。ただ本シラバス執筆時から開講まで3ヶ月以上あるため、担当者のその間の研鑽により、予定が大幅に変更される可能性がある。実際の講義計画は、最初の授業でお話しする。いずれにせよ、昨年度の講義を受講していない者にとっても、なんらかの予備知識を要求するような講義にはしないつもりである。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポート。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)	担当者氏名	大阪府立大学 高等教育研究機構 教授 亀喜 信						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	市民という在り方と道徳								
【授業の概要・目的】									
<p>昨年度に引き続き、ハンナ・アレントの思想を手がかりに、公共性と道徳について考える。規範の基礎付けというような問題設定ではなく、道徳や政治といった規範との緊張のうちに生きる人間とはどういう存在なのか、という問題意識で考えていく。</p> <p>途中、適宜アレントなどのテキスト（英語）を読む。テキストはこちらで用意する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のテーマについて授業をする予定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．互恵性 2．共有すること 3．共に在るということ 4．思考と道徳 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>毎回授業の終わりに、簡単なレポートを書いてもらう（出席点を兼ねる、40点程度）。それに加えて、1200字程度のレポートを2回課する（60点程度）。</p>									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>ハンナ・アレント 『人間の条件』（ちくま学芸文庫）</p> <p>亀喜 信 『ハンナ・アレント - 伝えることの人間学』（世界思想社）</p> <p>上記のほか、授業中に適宜参考文献を紹介する。</p>									
<p>（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））</p> <p>アレントの『人間の条件』を、翻訳でもいいから、どんどん読むこと。</p>									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)		担当者氏名	南山大学 社会倫理研究所 研究員 鈴木 真					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	情動 (emotions) とその評価								
[授業の概要・目的]									
道徳と情動の関係について考えながら、情動とは何かという問に関する哲学理論と、情動の評価についての議論を概観し、理解を深める。									
[授業計画と内容]									
以下のような課題について検討する予定である（内容を状況に応じて変えるかもしれない）。									
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 情動とは何かという問に関する主要な哲学理論 2 . 情動に関する経験的知見 3 . 諸々の情動に共通の本性はあるのか 4 . 情動、ムード、衝動、生理的反応 5 . 情動の対象、志向性、fittingness 6 . 情動の（諸）機能と、情動に関する様々な評価方法 7 . 道徳と情動：情動主義とその後（Williams' "Morality and the Emotions"） 8 . ギバードのプログラム 9 . 情動に関する認知主義に対する批判 10 . マクダウェルとウィギンズの立場とその批判 11 . ダームズとジェイコブソン：（1）情動の評価と道徳 12 . ダームズとジェイコブソン：（2）Neosentimentalismの擁護 13 . 虚構に対する情動とその評価 14 . 道徳的情動、道徳的直観、エンパシー <p>* 上に挙げたトピックの代わりに扱うかもしれないものを下に記しておく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 責任に関するストローソンの反応的態度説 ・ 情動に対する責任 ・ The comparative fittingness of emotions ・ 良心と情動 									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点とレポート。									
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----									

倫理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
授業で扱う論文のコピーを入手できるようにする。
解説用のプリントを授業で配布する場合がある。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	倫理学(演習) Ethics (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 水谷 雅彦						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	倫理学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。									
【授業計画と内容】									
出席者が自分の研究内容について報告し、討論を行う。報告者は、発表の一週間前にレジюмеを提出すること。他専修の参加も歓迎するが、倫理学専修の大学院生は必修。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
報告と討論への参加によって評価する。但し報告しなかった3回生については平常点による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	倫理学(演習) Ethics (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 水谷 雅彦						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	応用倫理学演習								
【授業の概要・目的】									
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。									
【授業計画と内容】									
生命倫理・環境倫理・ビジネス倫理・工学倫理などの応用倫理学に関する諸問題を検討する。若干の予備的講義の後、毎週出席者による発表と討論を行う。他学部、倫理学専修以外の出席者も歓迎する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
最低一回の発表と毎週の討論の参加によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	倫理学(演習) Ethics (Seminars)	担当者氏名	立命館大学 文学部 教授 北尾 宏之						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	カント倫理学								
【授業の概要・目的】									
カント倫理学の重要著作 Kritik der praktischen Vernunft(『実践理性批判』)の精読。カント倫理学についての知見を深めることを目的とする。あわせてドイツ語テキストの読解力の養成をめざす。									
【授業計画と内容】									
Kant:Kritik der praktischen Vernunftを、Von der Deduktion der Grundsätze der reinen praktischen Vernunft(純粋実践理性の原則の演繹について)の部分から精読する。毎時間、あらかじめ担当者を決めることなく、全員に訳読してもらい、解説を加える。進度は、毎時間1ページ～1ページ半を予定しているが、受講者の語学力も勘案する。ドイツ語未習者については、英語訳の利用も可とする。必要に応じて、カントのその他の著作(たとえば『純粋理性批判』や『道徳形而上学の基礎づけ』など)にあたりたりすることもあるが、まずは上記テキストを詳細に検討する。									
【履修要件】									
今年度はテキストの途中から読み始めることになるので、そこまでの部分を邦訳でよいからあらかじめ読んでおくことが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(60%)と年度末レポート(40%)									
【教科書】									
Kant 『Kritik der praktischen Vernunft』 テキストの入手方法は、初回の授業時に指示する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
毎時間の進度は多くはないが、難解なテキストであるので、それなりの予習時間が必要となるであろう。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	倫理学(演習) Ethics (Seminars)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	演習
題目	レヴィナスを読む								
【授業の概要・目的】									
<p>レヴィナスは倫理の問題を手がかりに、旧来の哲学の根本的革新を企て、思想界に大きな影響を残した。授業では彼の第二の主著とされる1974年のAutrement qu' être ou au-delà de essence. (『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方へ』)の仏語原文をテキストとして、彼の思想を理解する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>上記の著作はレヴィナスの思想のひとつの到達点である。前期授業はこの著作の中から「身代わり」等、第一の主著とされる『全体性と無限』の倫理観を先鋭化した主要概念を詳述する箇所を抜粋、熟読することで、彼の特異な倫理思想の大枠の理解を試みたい。</p> <p>後期においては前期の基本的倫理思想の理解をふまえて、彼のこの時期の言語論に焦点を合わせる。言語は彼にとりつねに核心的テーマのひとつであり、学問の可能性自体を問い直すものでもある。具体的には「語ること」・「語られたこと」などの諸概念に関連する箇所を抜粋し熟読する。</p>									
【履修要件】									
仏語原文で読むので、フランス語の最低限の読解力は不可欠である。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
上記著作の一部をプリントで配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

宗教学専修

授業科目名 <英訳>	宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 氣多 雅子				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	西田幾多郎の歴史的世界の思索								
【授業の概要・目的】									
西田幾多郎の場所の思想において、自己と他者の問題、歴史的世界の問題がどのように探究されているかを、理解する。西田の思想の宗教哲学的意義を考察することが最終的な目的である。									
【授業計画と内容】									
『無の自覚的限定』において西田は、絶対無の自覚がそのノエマ的限定において客観界を基礎づける意義をもつことを明らかにしようとする。その考察から出発して、環境が個物を限定し個物が環境を限定するということをめぐる西田の思索をたどって、人格的自己の自己統一が社会という意義をもつと考える西田の立場を考察する。さらに、その立場が後期の著作においてどのような広がりや深まりをもつに至ったかを、具体的テーマに即して考えてゆく。特に注目するテーマは、西田の弁証法論理とはどのようなものであるか、彼の身体の見方はどのような特質をもつか、ということである。これらの考察を通して、西田後期の思想がどのような意義をもち、またどのような課題をもつかを共に考えてゆく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポートによる。									
【教科書】									
教科書は使用しないが、西田幾多郎のテキストを傍らにおくと、わかりやすいであろう。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 杉村 靖彦				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	身体・社会・歴史 西田・田辺の哲学と現代フランス哲学(2)								
【授業の概要・目的】									
<p>1930年代から40年代にかけて、西田幾多郎と田辺元は、たがいに対する暗黙の批判をばねにしてそれぞれの哲学をダイナミックに展開させたが、両者が共通して目指していたのは、行為的身体性を根本的な形成因として組み込んだ独自の社会哲学・歴史哲学を形成することであった。こうした側面は、戦後の京都学派の宗教哲学では後景に退いてしまったが、現代の思想的状況において再検討に値する豊かな可能性を秘めているように思われる。その点に光を投ずるために、本講義では、身体性・社会性・歴史性の絡み合いを独特の仕方でも考察した20世紀中盤から後半のフランス哲学者たち(コジェーヴ、メルロ＝ポンティ、レヴィナス、デリダ、アンリ等)を経由することによって、西田の「歴史的な身体」論や田辺の「種の論理」を新たな視点から批判的に読み解いてみたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>本講義は昨年度からの続きである。まず最初の2回ほどの授業で、昨年度の考察を要約し、1930年代から社会哲学・歴史哲学的な色合いを濃くしていく西田と田辺の絶対無の哲学が、共に身体弁証法的性格に立脚しつつ、ポイエシス(西田)とプラクシス(田辺)を対立軸としていることを確認する。その上で、彼らの思索が同時代の西洋哲学の最前線の問題を共有している様子を、ハイデガーやベンヤミン、コジェーヴや初期レヴィナスなどの思索との突き合わせを通して明らかにしていく。その際、労働や交換、贈与という問題系を参照し、当時の人類学や社会学の理論にも目配りすることによって、西田の歴史的な身体論や田辺の種の論理の中に、上記のフランス哲学者たちの思索との新たな交流可能性を切り開いていきたい。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>授業中に紹介する参考文献を手掛かりに、授業内容から自らの関心につながる問題群を引き出すように心掛けてほしい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)			担当者氏名	舞鶴工業高等専門学校 吉永 進一 人文科学部門 准教授				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	心身論から見た日本近代思想								
【授業の概要・目的】									
第二次大戦前においては、さまざまな宗教的な傾向を持つ心身技法が盛んに行われた。たとえば、禅を生理学で再解釈したもの、催眠術から生まれたもの、近世養生法の腹式呼吸法を用いるものなどがある。その実践者には多くの知識人も含まれ、とりわけ岡田式静坐法は教師、学生のあいだに広まった。また、その多くには、民衆宗教では生命主義救済観と呼ばれ、近代仏教では汎神論と呼ばれる一元論的な世界観が付随し、心、身、社会を視野に収めていた。この授業では、前期を具体的な心身技法の紹介、後期を近代宗教思想史との関係にあて、日本における宗教的遺産の近代化や変容、同時代に多発した世界的な心身技法の近代化などを論じる。これによって近代思想や近代仏教史の語られてこなかった面をこの講義で明らかにしたい。									
【授業計画と内容】									
前期は具体的な心身技法を紹介し原テキストを順に読んでいく。後期は心身技法の思想史を試みる。									
1 原坦山の生理学的禅 2 川合清丸と腹式呼吸 3 催眠術、脱呪術化と再呪術化 4 桑原俊郎と精神力 5 岡田式静坐法と自発性 6 静坐法と医療 7 太霊道と国家論 8 鎮魂帰神の法 9 お手当て療治と超国家主義 10 汎神論思想 11 仏教の国際化 12 禅と神秘主義 13 大拙とスウェーデンボルグ 14 リチャール夫妻 15 心身技法のグローバル化 (1課題あたり1～2週の授業を予定している)									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期、後期のレポートによって評価する。									
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----									

宗教学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
プリントを配付。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
プリント、電子データなどを利用。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 氣多 雅子				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	M. ハイデッガー 『ニーチェ』を読む								
【授業の概要・目的】									
昨年度に引き続き、ハイデッガーの『ニーチェ』をテキストとして演習を行う。哲学のテキストの読み方を訓練するとともに、ハイデッガーのニヒリズムの思索について理解を深める。									
【授業計画と内容】									
ハイデッガーは1936～41年に断続的に「ニーチェ講義」を行い、それにいくつか論文を付け加えて1961年にネスケ社から『ニーチェ』全2巻を出版している。その後もハイデッガーが推敲を重ねたことは、全集版の『ニーチェ』全2巻から読み取ることができる。この長い過程は、ハイデッガーにとってニーチェが非常に重要な対決の相手であったことを知らしめる。今年度の演習では第7部「ニヒリズムの存在歴史的規定」を扱い、ハイデッガーがニーチェ解釈を通してニヒリズムをどのような課題として受けとめていったか、その過程で存在歴史という観点をどのように熟成させていったかを読み解いてゆく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と、年度末のレポートによる。									
【教科書】									
Martin Heidegger, Gesamtausgabe Bd.6-2, Nietzsche II, VII Die seinsgeschichtliche Bestimmung des Nihilismus, Klostermann, Frankfurt am Main.(コピー配布)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 杉村 靖彦				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	P・リクール 「エマニュエル・レヴィナス、証言の哲学者」(1989) を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>この論文は、リクールの主著『他者としての自己自身』(1990)の前年に発表されたものであり、後期レヴィナスの「証言」概念に的を絞ったレヴィナス論であると同時に、「自己の証し」を軸とする晩年のリクールの「自己の解釈学」の立場を簡潔明確にうち出している。また、レヴィナスだけを論じるのではなく、証言という問題系をめぐってハイデガー、ナベール、レヴィナスの三者の思索がいかなる関係に立つかを整理した上で、リクール自身は自らの立場をナベールの系譜上に位置づけている。リクールの哲学に関心をもつ人だけでなく、ハイデガーの影響を強く受けたフランス哲学者たちが共有する問題構成を理解したい人にとっても、必読の論文である。この授業では、必要な哲学的知識を教師が補いながら、半期で論文全体を通読し、その内容について出席者間で充実した議論が行えるように工夫したい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>最初の授業で、論文全体の構成、およびリクール、レヴィナス、ハイデガー、ナベールについての最小限の予備知識を与えるべく、教師が解説を行う。その後の授業では、訳読および要約の担当者を決め、1回2-3頁ほどのペースで読み進めていく。単なる原典講読にとどまらず、テキストを出席者間での議論と哲学的考察の材料として最大限利用できるように、毎回授業終了時にその回進んだ分の模範訳を配布するなど、さまざまな工夫を試みたい。</p>									
【履修要件】									
<p>第二外国語としてフランス語を履修していることを絶対条件とするわけではないが、フランス語初心者には、できるだけ早いうちに訳読作業を行う上で最低限必要な語学力を身につけるように努めてほしい。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点（担当箇所訳読・議論への参加）と学期末のレポートによる。</p>									
【教科書】									
<p>Paul Ricoeur, "Emmanuel Lévinas, penseur du témoignage", in Paul Ricoeur, Lectures 3 (Paris, Seuil, 1994). (テキストはコピーして配布する)</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>									
【その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）】									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 杉村 靖彦				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	シモーヌ・ヴェイユ 『デカルトにおける科学と知覚』 を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>昨年度の演習に引き続いて、ヴェイユが高等師範学校に提出した学位論文『デカルトにおける科学と知覚』(1930)の第二部を読む。箴言のように研ぎ澄まされた晩年のテキストに比べれば、この学生時代の論文は、文章はなお生硬で論述も理路の辿りにくいものである。だが、とくに「もう一人のデカルト」に仮託して独自の思索を展開した第二部は、身体や労働といったモチーフを知覚論や科学論に織り込むことによって、その後の彼女の政治思想・宗教思想へと光を投げかけている。この論文を同時期の幾つかの小論とあわせて精読することによって、ヴェイユ思想全体の哲学的可能性をさまざまな角度から探っていきたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>最初の2回ほどの授業で、このテキストの論構成と昨年読んだ箇所 の概略を教師が解説する。その後の授業では、訳読および要約の担当者を決めて、1回2頁程度のペースで精読していく。読んでいる箇所 の理解に資すると思われる場合には、ヴェイユの他のテキストや他の思想家たちのテキストを紹介し、授業の材料として取り込んでいきたい。</p>									
【履修要件】									
<p>第二外国語としてフランス語を履修していることを絶対条件とするわけではないが、フランス語初心者 は、できるだけ早いうちに訳読作業を行う上で最低限必要な語学力を身につけるように努めてほしい。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点（担当箇所 の訳読・議論への参加）と年度末のレポートによる。</p>									
【教科書】									
<p>Simone Weil, "Science et perception dans Descartes", in Simone Weil. Oeuvres complètes I : premiers écrits philosophiques (Gallimard, 1988).</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	宗教学(講読) Religion (Seminars)			担当者氏名	非常勤講師 鶴 真一				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	講読
題目	Mackie, The Miracle of Theismを読む								
【授業の概要・目的】									
<p>・この授業は宗教学関連の原典を読むことを目的とするものです。原典に当たる経験を積んでもらうだけでなく、とりわけ宗教哲学における議論や知識を学んでもらうことを企図しています。</p> <p>・テキストとして、マッキーの『有神論の奇蹟』を読み進めていきます。マッキー（John Leslie Mackie, 1917-1981）はオーストラリアの倫理学者として有名ですが、この著書は「神の存在証明」に関する議論を一通り解説した上でマッキーの独自の解釈が平易な英語で記述されており、宗教哲学の入門書として最適なものとなっています。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>・事前に担当者を決め、自分の担当箇所を発表してもらいます。担当者は自分の担当箇所を責任をもって訳出し、質問された場合に回答できるよう内容についても十分に理解しておいてください。</p> <p>・発表内容にもとづいて、読解に関する指摘や考え方について講師から解説を加えます。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
「出席」「発表内容」「課題提出状況」の三つを総合的に考慮して評価を行います。第一回目の授業で詳しい説明を行うので、必ず出席してください。									
【教科書】									
J.L.Mackie 『The Miracle of Theism - Arguments for and against the Existence of God 』（Oxford University Press）ISBN:019824682X 注）コピーを配布するので、必ずしも購入する必要はありません。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	宗教学(演習II) Philosophy of Religion (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 氣多 雅子 文学研究科 准教授 杉村 靖彦				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3,4 隔週	授業形態	演習
題目	宗教学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
演習参加者が、宗教学の諸問題のなかで各人の研究するテーマに即して発表を行い、その内容をめぐって、全員で討論する。研究発表の仕方と討論の態度を訓練するとともに、各人の研究を進展させることが目的である。									
【授業計画と内容】									
最初の授業で、参加者の発表の順番とプロトコールの担当者を決定する。各人の発表は二回にわたって行う。即ち、発表者は1時間以内の発表を行い、続いてそれについて討論する。発表者はその討論を受けて自分の発表を再考し、次回にその再考の結果を発表して、それについてさらに踏み込んだ討論を行う。したがって、1回の授業は前半と後半に分かれ、前半は前回発表者の二回目の発表と討論、後半は新たな発表者の一回目の発表と討論となる。									
【履修要件】									
宗教学専修の大学院生は必修である。									
【成績評価の方法・基準】									
発表等の内容、および議論への参加の状況によって、判断する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

キリスト教学専修

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 芦名 定道						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	キリスト教と社会理論の諸問題(3)								
【授業の概要・目的】									
現代世界において宗教は、深刻な対立要因の一つと見なされている。この対立図式自体の問題性は別にしても、キリスト教がこうした文脈で問われていることは否定できない。講義では、キリスト教と社会理論との関係という視点から、この問題領域にアプローチしたい。									
【授業計画と内容】									
本講義は、数年前より開始した「キリスト教と社会理論の諸問題」をテーマとした講義計画(今後5年程度をかけ、体系的な議論を展開することを予定)に位置づけられるものであるが、今年度は、昨年度の講義内容(近現代における宗教哲学の可能性についての考察、聖書学から社会科学への接続の問題)を簡単に確認した上で進められる。前期の講義では、昨年度の議論において残されていた、聖書学から政治思想・政治哲学への展開について、イデオロギーとユートピアという問題を中心に考察を行う(マルクス、マンハイム、ティリッヒ、リクールら)。後期の講義では、「経済と環境」をめぐる諸問題が取り上げた後に、再度、宗教哲学構想を再考する予定である。 以上が、本年度の講義内容の中心となるが、時間が許す範囲で、具体的な聖書テキストの解釈に即した考察も行いたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。(講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う。)									
【教科書】									
講義では、毎回プリントを配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 毎回の授業にて配付される資料を参照。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加(参考文献による復習を含め)を期待したい。質問は、オフィスアワー(木2・金3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者氏名	非常勤講師 手島 勲矢						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	ユダヤ思想史研究の基礎 タナッハからスピノザまで								
【授業の概要・目的】									
<p>本講義は、ヘブライ語聖書（タナッハ）を基礎にして展開されるユダヤ思想史の入門的解説である。各時代のユダヤ人の著作あるいは説話や聖書解釈のサンプルに基づき、古代から中世にかけてのユダヤ思想の基本問題、特長となる思想や時代背景などの基礎的知識について講義していく。そのため学生は、ユダヤ思想研究上の諸問題、その基本用語、諸文献の入門的知識などを習得することができる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1．導入：ユダヤ学の文脈 ユダヤ・アイデンティティと特殊性と普遍性 2．聖書研究の問題 旧約学・新約学とユダヤ学のテキスト観 3．第1神殿時代 思想としての「律法」「預言」「知恵」 4．第2神殿時代 口伝律法と預言の終焉 5．ラビ・ユダヤ教と原始キリスト教の分岐 改宗原理と多数決原理 6．イスラーム哲学とユダヤ知性 サアディア・ガオン、イツハク・ハイスラエリー 7．歴史と伝承と文法 ユダ・ハレヴィ、イブン・エズラ 8．マイモニデスの時代 カバラーと理性の緊張 9．ルネッサンスと宗教改革期のユダヤ思想 科学と言語 10．スピノザとユダヤ思想 受容と反発 *各講は1から3回程度の授業時間を要する。今年度の講義では、特に13世紀から16世紀の展開（ナフマニデス、イツハク・アヴァルバネル、アザリヤ・デロッシなど）に注目する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（期末レポート70%とクイズ30%）で評価。									
【教科書】									
適宜プリントを配布。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>基本的に本講義は、聖書解釈とユダヤ思想・哲学の思考の関係に興味の中心をすえている。その中で、ユダヤ教から見たキリスト教についても考える。ユダヤ教とヘブライ語の知識がない受講者を前提としている。講義の計画は、受講者の要望や問題意識に応じて一部修正する場合がある。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)	担当者氏名	西南学院大学 国際文化学部 講師 津田 謙治						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	「ヘレニズム哲学とキリスト教思想」								
【授業の概要・目的】									
<p>ヨーロッパ思想の根幹となって西洋文化を築いてきた根源的な思潮が二つあるといわれる。それは、ヘレニズム（ギリシア思想）とヘブライズム（ユダヤ・キリスト教思想）である。この両者はその発生の時と所および基本的な思想態度を異にしながらも、古代末期において出会い、以後の西洋の歴史において対立・融合を繰り返して西洋の思想の歴史を織り成してきた。本講義はこの両者の基本的な思想態度の相違をその源泉、すなわちギリシアの文学・思想的文献（プラトン、アリストテレス、ストア主義等）およびユダヤ・キリスト教文献（旧・新約聖書、教父文献等）に遡って考察し、西洋思想の歴史における両者の対立と融合の過程とを古代から中世にわたって跡付ける。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>・本講義では以下に挙げるような課題について扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．ヘレニズム哲学概論 2．キリスト教教父概論 3．個別テーマ「無からの創造」 4．個別テーマ「ロゴス論」 5．個別テーマ「神霊・天使・悪魔」 <p>・また同時に、外国語文献（英語）の講読を行う。テキストはラテン教父に関するもので、次のものを扱う予定である。</p> <p>Hans von Campenhausen, “ The Fathers of the Latin Church ”, translated by Manfred Hoffman, California, 1964.</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>・平常点（授業への取り組み・参加など）・・・ 50点</p> <p>・レポート・・・ 50点</p>									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史 上 使徒教父からニカイア公会議まで』（一麦出版社）</p> <p>J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史 下 ニカイア以後と東方世界』（一麦出版社）</p> <p>A.H. アームストロング 『古代哲学史』（みすず書房）</p>									
【その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）】									
<p>・初回の講義では、細かい注意事項を伝えますので、必ず出席してください。</p> <p>・外国語文献講読は、参加者全員で和訳しながら進めていくので、予習を必ずしておくこと。</p> <p>・テキストについては事前もしくは第一回目の講義で配布します。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 芦名 定道						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	演習
題目	日本・アジアのキリスト教 波多野精一(5)								
【授業の概要・目的】									
日本・アジアのキリスト教の歴史を振り返りつつ、その新しい思想的可能性を探ることは、日本におけるキリスト教思想研究にとって重要な意味を有している。今年度取り上げられる波多野精一は近代日本を代表するキリスト教思想家であるが、この演習では、波多野のテキストを精読することを通して、波多野の宗教思想についての理解を深め、キリスト教的宗教哲学の可能性について考える。									
【授業計画と内容】									
本年度は、昨年度まで完了した、波多野宗教哲学三部作（『宗教哲学』『宗教哲学序論』『時と永遠』）それぞれの個別的な内容から、波多野宗教哲学の体系的理解へと考察が進められる。宗教哲学の方法論、体系構成、事実・経験概念、哲学的人間学、宗教類型論といった宗教哲学の基礎に関わる事項、あるいは、神秘主義と擬人観、愛、死、象徴、他者、永遠、創造、救済などの個々のテーマとについて、三部作を縦横に用いた分析を行いたい。それによって、波多野宗教哲学を、トレルチ、ハイデッガー、ティリッヒ、レヴィナス、西田幾多郎らとの本格的な比較が可能になるものと思われる。合わせて、これまでの演習で扱えなかった文献（「西洋宗教思想史（希臘の巻）」）についても精読を行いたい。演習は、テキストの精密な読解に基づいて、関連事項について考察し、波多野研究を参照しつつ進められる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。（受講者には、前期後期に最低一回ずつの発表担当を課するが、その発表内容と、演習への参加度とから総合的に判断する。）									
【教科書】									
テキストはコピーして配付する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
受講者は、毎時間のテキストの予習と演習への積極的参加が求められ、特に前期後期各一回以上の発表担当が課せられる。演習に関わる質問は、オフィスアワー（木2・金3）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 芦名 定道						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	新約聖書とその思想 政治思想の観点より(3)								
【授業の概要・目的】									
<p>新約聖書は、キリスト教思想の基盤であり、キリスト教思想研究を志す者には、聖書原典を読む能力(語学・聖書学・聖書神学など)が求められる。本演習ではギリシャ語原典の講読を通して現代聖書学の基礎の習得を目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>本年度は、多岐にわたる新約聖書の思想の内から、昨年度に引き続き、政治思想に関わるテキストを講読する。特に、使徒言行録とヨハネ黙示録を中心に、聖書テキストに即して思想へと迫ることを試みたい。本演習では、各種の辞書の使用法から、聖書注解書の扱い方といった、聖書テキストを読解する上で必要となる基礎的作業の習熟を目指す。</p> <p>また、新約聖書の政治思想の理解を深めるために、Richard A. Horsley(ed.), Paul and the Roman Imperial Order, Trinity Press, 2004.の講読を並行して行う予定である。受講者には、ギリシャ語原典の読解のほかに、このテキストの読解が求められる。</p>									
【履修要件】									
ギリシャ語初級文法を習得していること(必要があれば、個別的に相談)。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。(受講者には、数回の発表担当を課するが、その発表内容と、毎回の演習への参加度とから総合的に判断する。)									
【教科書】									
聖書ギリシャ語原典(Nestle-Aland)の関連箇所と、英語(あるいは日本語)テキストのコピーを配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>受講者は、毎時間のテキストの予習と演習への積極的参加が求められ、特に数回の発表担当が課せられる。演習に関わる質問は、オフィスアワー(木2・金3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者氏名	非常勤講師 堀川 敏寛						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	ヘブライ語聖書(旧約聖書)における語義と思想の解釈								
【授業の概要・目的】									
<p>本授業では、マルティン・ブーバーの独語テキストの購読を通して、ヘブライ語聖書(旧約聖書)で使われる語義(主にトーラーから)と、聖書の各書における思想を、それらが書かれた時代背景を参照しながら解釈する。ブーバーの独語テキストを読むと同時に、ヘブライ語聖書原典とその翻訳文を参照する。</p> <p>著作は、主に、ブーバー著作集第2巻『WERKE Zweiter Band -Schriften zur Bibel』に収録されている日本語訳のない小論文を用いる。</p> <p>本授業では、独語テキストの訳出を主に、ヘブライ語や、聖書物語とその歴史に関して、随時、講師による補足講義を行う。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、該当テキストを読む予定である。</p> <p>昨年度の講義では、トーラー(律法)における「燔祭、素祭、祭壇、宥めの香り、感謝と和解の捧げ物、至聖所、不純さ、臨在の幕屋、過越祭、安息日の祈り、免除年」らの語義解釈と、「ヤコブ物語における祝福、アブラムの割礼とサライの出産、ハガルの逃亡、出エジプト3章における神名、モーセのファラオとの交渉に見られる祭司文書の特徴、レビ記における寄留者と隣人、バラムの託宣、サムエル記におけるサウルの選びと失脚、ホセアとエレミヤにおける立ち帰り、黙示思想の時代におけるコヘレトの説いた知恵」らの思想解釈を行った。今年度も語義解釈はトーラーを主に、思想解釈ではネビーイム(預言書)・ケトゥビーム(諸書)らにも広げていきたい。</p>									
【履修要件】									
<p>毎回の課題(独語テキストの訳)を前もって準備できる受講生のみ履修可能である。聴講のみを目的とする受講生は受け付けない。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価(授業での訳出)									
【教科書】									
Martin Buber 『WERKE Zweiter Band -Schriften zur Bibel』(Verlag Lambert Schneider)(ブーバーのドイツ語著作集第2巻『聖書論文集』1964年)									
【参考書等】									
(参考書)									
Martin Buber and Franz Rosenzweig 『Die Schrift』(Deutsche Bibelgesellschaft)ISBN:3438014912(本書はブーバーとローゼンツヴァイクが独訳したヘブライ語聖書「Die Schrift」である。)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ヘブライ語(語学) Hebrew			担当者氏名	非常勤講師 手島 勲矢				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	古典ヘブライ語初級文法								
【授業の概要・目的】									
<p>聖書テキストおよびラビ文献を声に出して読むことができることを達成目標に初級ヘブライ語文法を概説する。声に出して読めるための基礎情報（文字と母音記号）および言葉の種類と形態認識の能力の獲得を目指す。テキストをベースに文法情報から意味を引き出す解釈基礎の習得にも努力する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前半は、アルファベットと母音記号などのマソラ記号を学ぶことから始めて、名詞、形容詞、前置詞、動詞の分詞形について学ぶ。次に、名詞や前置詞につく人称接尾辞の変化、規則動詞のカル形の人称変化、動詞の態などについて学ぶ。後半は復習から始めて、不規則動詞の形態変化を学びながら、聖書およびユダヤ教文献から選んだテキストをベースにして文法情報を確認しながら解釈の可能性の思考に慣れ親しむ。読解テキストは、創世記、出エジプト記、申命記、ヨシュア記、詩篇、コヘレト等からのもの数節、またミシュナー・アボット他から選んだ数節。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点評価（前半小テスト(20%)と小クイズ（10%）と後半レポート（70%）の合計）狙いは、アレフベートと母音記号を組み合わせて読める能力、品詞を分類理解できる能力、辞書でテキストの言葉の意味を見つける能力、意味の可能性（複数）を見出す能力などの目標達成度を見るもの。</p>									
【教科書】									
<p>授業中に指示する 教科書に加えて補助的プリントを配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>特になし。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 芦名 定道						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4,5 隔週	授業形態	演習
題目	キリスト教学の諸問題								
[授業の概要・目的]									
<p>大学院生らが自らの研究に関して、毎回報告して行き、それに対する質疑応答、討論を通して、自他の理解の地平を広げて行くことを目的とする。キリスト教学専修の大学院生は必修、学部生その他の聴講も可。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>キリスト教学専修所属の大学院生（修士課程、博士後期課程）は、この演習で、前期後期、各一回ずつの研究発表を行うことが求められる。研究発表は、1時間程度の発表と、その後30分～1時間程度の質疑応答によって、進められるが、発表者は、レジュメなどを含む必要な準備を行うこと。</p> <p>発表内容は、学年に応じて、次のような内容が考えられる。M1：修士課程での研究テーマに関する研究。M2：修士論文の内容に関わる研究（修士論文の指導は、この演習で行われる）。D：学会での口頭発表や論文執筆に関わる内容（D3の学生には、合わせて、博士論文の構想についての発表が求められる）。</p>									
[履修要件]									
キリスト教学専修所属の大学院生。									
[成績評価の方法・基準]									
前期後期、一回ずつの研究発表について、総合的に判断する。									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
（参考書） 特になし。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>演習に関わる質問は、オフィスアワー（月3・4）と指定の研究指導日を利用するか、あるいはメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 芦名 定道						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	宗教と科学の関係論構築に向けて キリスト教と環境論(2)								
【授業の概要・目的】									
<p>「宗教と科学」の関係を現代世界の新しい問題連関において解明することは、現代キリスト教思想研究の中心的テーマの一つに他ならない。本年度は、こうしたキリスト教思想研究の動向について、「キリスト教と環境論」(キリスト教的環境論あるいは環境神学)の観点から、アプローチしたい。使用するのには、昨年度に続き、Dieter T. Hessel and Rosemary Radford Ruether(eds.), Christianity and Ecology, Harvard University Press, 2000.である。この論集は、キリスト教と環境論という多面的で錯綜したテーマの全体を論じた大部のものであるが、本年度は、第三部以降の諸論文を取り上げ、精読してみたい。この演習を通じて、キリスト教思想の現代の動向について、理解を深めることが出来るであろう。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>初回のオリエンテーションは、テキストの概要の紹介、「キリスト教と環境論」というテーマの説明、そして担当分担などの演習の進め方の詳細を確認する。毎回の授業では、まず担当者が、担当箇所のレジメを準備し、それに基づいて内容の説明あるいは問題提起を行い、続いて、参加者全員で、内容などをめぐり討論する。また、必要に応じて、必要事項の講義や、受講者の研究発表も実施する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。(受講者には、前期後期に最低一回ずつの発表担当を課するが、その発表内容と、演習への参加度とから総合的に判断する。)									
【教科書】									
テキストはコピーして配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>受講者は、毎時間のテキストの予習と演習への積極的参加が求められ、特に前期後期各一回以上の発表担当が課せられる。演習に関わる質問は、オフィスアワー(木2・金3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

美学美術史学専修

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉岡 洋				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	芸術・テクノロジー・言語								
【授業の概要・目的】									
<p>芸術、テクノロジー、言語の相関をめぐって考察する。まずは昨年物故したメディア理論家フリードリヒ・キッター（Friedrich A. Kittler, 1943 - 2011）の批評的実践を手がかりにしつつ、文化的事象を語る際にメディア環境やテクノロジー的条件をどこまで決定的要因と考えるべきかを検討する。その上で、芸術活動および芸術作品について「語る」とはいかなることか、そもそも現代においてそれは可能なのか、可能であるとすればその「言語」はどのようなものであるべきなのかについて考える。過去の規範的な批評言語を振り返りつつ、それが現代の芸術活動や芸術作品に対して持ちうる有効性と限界とを探り、新たな批評言語の可能性を模索することが目的である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>主として20世紀後半以降の芸術的発展、しばしば「現代美術」「現代アート」等と呼ばれてきた領域、また「コンピュータアート」「テクノロジーアート」「ビデオアート」「メディアアート」等の名で呼ばれてきた領域をめぐって、それらがどのように語られてきたか（あるいは語られてこなかったか）を考察する。その際、過去の美学・芸術学や批評的言説の理解を通して、しばしば特権なものとして語られがちな「現代」「テクノロジー」「メディア」といった観念を相対化するような視野を獲得する必要がある。その上で、「メディア芸術」という問題的概念についても検討する予定である。可能な限り現代美術やメディアアートに関わる展示などにも足を運び、現地においても講義することを試みる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。ここで言う平常点とは出席日数のことではなく、講義中に与える課題等の評価を指す。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業時に適宜指示する。必要資料はコピー配布する。</p>									
<p>（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））</p> <p>授業関係の即時的情報については次のTwitterアカウント： http://twitter.com/yoshioka_office を参照してください。 「オフィスアワー」は特に設けませんが、面談希望の人は下に連絡： hysyk56@me.com 基本的に、水・木・金は大学に多いです。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 根立 研介				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	運慶研究再考								
【授業の概要・目的】									
<p>前期は主に昨年度の授業の「仏師快慶の基礎的研究」を継承して、快慶の法眼時代の事績とその作品研究を行う。これが終了したら、運慶・快慶次世代の慶派仏師の事績とその作品研究についての考察を行う。対象となる仏師は、運慶子息の湛慶、康勝、康弁らと、快慶の弟子の行快等である。これにより、13世紀前半の慶派仏師の活動の様相の把握を試み、彼らの作風変遷や、造像背景などの問題を考察する上での基礎的な作業を行うことにしたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>快慶の研究については、今年度は二カ年目で法眼時代の作品研究を進めるとともに、長谷寺再興造仏事業などの事績の分析を行う。これが終了したら、湛慶、康勝、康弁ら運慶子息と、快慶弟子の行快らの作品分析と事績を検討する。主な内容は以下の通りであるが、1課題について原則1～3週間の授業をおこなう予定である。</p> <p>西方院阿弥陀如来像 光台院阿弥陀三尊像 大行寺阿弥陀如来像 大報恩寺十大弟子像 長谷寺再興造仏 雪隠寺毘沙門天像 蓮華王院再興造仏 西園寺阿弥陀如来像をめぐって 法隆寺金堂阿弥陀三尊像 東寺弘法大師像 興福寺天燈鬼竜燈鬼像 阿弥陀寺阿弥陀如来像 大報恩寺釈迦如来像 極楽寺阿弥陀如来像</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。(論述の内容について、分析の仕方、使用した資料の取り扱いなどを含め総合的に判断する。レポートが100%)									
【教科書】									
なし。毎回、資料配付を行う。									
【参考書等】									
(参考書)									
水野敬三郎、根立研介他編『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇2～8巻』(中央公論美術出版社) ISBN:4-8055-1021-8,978-4-8055-1022-3									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
かなりの量の資料を配布するが、これらの読解については相当程度に予習復習が要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 平川 佳世						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	収集室の誕生と発展 絵画芸術との関連に着目して								
【授業の概要・目的】									
西洋における収集室の誕生と発展について、とりわけ、15,16世紀の絵画芸術との関連を中心に、考察する。									
【授業計画と内容】									
ヨーロッパにおいては、中世後期、宝石や聖遺物、工芸品など貴重な品々を保管する収集室が王侯貴族の館に設置されるようになり、やがて15,16世紀には裕福な市民の間にもこうした習慣が広まることになる。カビネ/キャビネット (cabinet)、ストゥディオオーロ (studiolo、書斎)、ヴンダーカマー (Wunderkammer、驚異の間) 等様々な名前と呼ばれる収集室の誕生と展開、およびその存在がとりわけ15,16世紀の絵画芸術に与えた影響について、現存する関連作品や財産目録の分析等を通じて、考察する。									
【履修要件】									
特になし。芸術や歴史に興味ある人の受講を歓迎します。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と定期試験									
【教科書】									
特になし。適宜、プリントを配布します。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
西洋美術一般について幅広い関心を持ち、展覧会や美術館等で実作品を鑑賞する機会を持つよう、心がけて下さい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 中村 俊春				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	17世紀オランダの風俗画および肖像画研究								
【授業の概要・目的】									
<p>1609年にスペインからの事実上の独立を達成したオランダ共和国は、海運業と貿易等により、「有り余る富embarrasment of riches」とも呼ばれる、未曾有の経済的發展を達成した。ヨーロッパの他の国々とは異なり、君主制を廃した、この新興国では裕福な市民階級が、政治的にも経済的にも国の中心的な存在となり、美術の分野でも彼らの趣味を強く反映した作品が制作された。</p> <p>本講義では、風俗画、肖像画を中心にこの時代のオランダ絵画を取り上げる。それにより、オランダ絵画に関する知識を得るとともに、美術史的な考察方法についての理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>17世紀オランダ絵画の特徴は、その写実性にある。しかし、一見したところ、身の回りの日常生活を描いたように見える風俗画には、実は、さまざまな虚構の要素が組み入れられており、それにより、道徳的な教訓が込められていることが多い。また、肖像画でも、人物の相貌の再現という目的を越えて、人格、社会的役割、身分、家族観などのさまざまな価値観が表現されている。</p> <p>本講義では、風俗画、および肖像画の代表的な作品を、それぞれ15点、計30点取り上げて、毎回の講義でそれぞれ1点の作品について、関連作品と比較しながら、その様式的な検討を行い、さらに、オランダ社会の道徳観、価値観、画家による作品のマーケティング戦略などに着目して、その図像学的な解釈を試みる。</p>									
【履修要件】									
<p>少なくとも英語で書かれた専門文献を読みこなす語学力を有していること。また、あまり頻繁に欠席する学生の受講は難しい。芸術や歴史に関心のある学生を特に歓迎する。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に行った発表とレポートによる総合評価。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書) 美学美術史学研究室や文学部図書館所蔵のオランダ美術関連の書籍を参照すること。</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>おのこの受講生に、担当する作品あるいは論文が課題として与えられ、担当者の発表に基づきながら、出席者全員で議論するという形式で授業を行う。そのために、毎回、準備としてかなりの量の欧文文献を読んでおく必要がある。</p>									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 宇佐美 文理				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	文献学研究								
【授業の概要・目的】									
<p>清朝の代表的な蔵書家である黄丕烈の讀書記『士禮居蔵書題跋記』を読みながら、清朝の文献学ならびに学術全般についての理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>黄丕烈の讀書記『士禮居蔵書題跋記』は、彼が購入したり譲り受けたりした書物に関して、そのテキストの来歴あるいは他のテキストとの校勘の記録、さらには購入時のさまざまな逸話的記録などが示されており、当時の蔵書家達の書物に対する意識を知るには格好の書物である。基本的に講者が読んでいくこととするが、出席者のメンバーから希望があれば、一部を学生諸氏に読んでもらうことも考えている。今年度は、潘祖蔭の序文から始めて、經部、史部と進む予定。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。(論述の内容について、使用した資料の読解、分析の仕方を含めて総合的に判断する。レポートが100%。)									
【教科書】									
こちらで『士禮居蔵書題跋記』のコピーを準備する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>中国の文献学を理解するためには、広く漢籍に対する理解と、唐本(中国刊線装本)に対する視覚、触覚等の感覚的な「慣れ」が必要となるので、授業外に出来る限り文学研究科図書館の書物を手に取ることが必要となる。中国哲学史と共通。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 篠原 資明				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	稲垣足穂と美学								
【授業の概要・目的】									
思想家としての稲垣足穂（1900～1977）を哲学的美学的観点から検討する。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり4～5週の授業をする予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．フロイトと足穂 2．ドゥルーズの欲望論と足穂の快樂論 3．芸術作品の根源　ハイデガーとの関係 4．ベルクソンと足穂 5．未来派と未来仏 6．足穂と20世紀 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 岡田 暁生				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	西洋音楽史とモダン・ジャズ								
【授業の概要・目的】									
<p>モダン・ジャズがアメリカ音楽（とりわけポピュラー音楽）の文脈で語られることはあっても、西洋音楽の歴史との関連に言及されることはほとんどない。むしろジャズ批評の多くは「クラシック音楽」を仮想敵として設定することにより成立してきたところがあり、クラシックとの差異化をはかるべく、「アメリカ」「黒人」「大衆（民衆）」といった要素を強調することで、むしろ二〇世紀初頭の西洋音楽モダニズムからの連続性が見えなくなってきたとすらいえる。この講義では、1. 西洋音楽にとってのジャズ（例えば一九二〇年代におけるラヴェルらのジャズ受容） 2. モダン・ジャズにとっての西洋モダニズム（和声などにおけるアナロジー） 3. 「芸術音楽」としてのモダン・ジャズおよびクラシック双方の歴史の並行関係（とりわけ独創性の概念） に焦点を当てる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>とりあげる主要なテーマは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：調性音楽からの出口の模索：ドビュッシーとエクゾチズム 2：西洋モダニズムとしてのジャズ受容：ストラヴィンスキーとラヴェル 3：「自由」のシンボルとしてのスイング 4：実験的調性音楽としてのバップ 5：ヨーロッパ戦間期の前衛とモダン・ジャズの連続性 6：即興とは何か 7：ジャズにおける和声とヨーロッパ・モダニズム 8：旋法（モード）とフォルムの危機 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>油井正一『ジャズ歴史物語』（アルテス）</p> <p>音楽理論やジャズの歴史についての予備知識はなくともよい。二〇世紀モダニズムに何らかの関心をもつ者を歓迎する。マイルス・デイヴィスの歴史的な名盤『カインド・オブ・ブルー』だけは録音を聴いておくこと。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	愛知教育大学 教育学部 准教授 安田 篤生				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	江戸の狩野派 狩野探幽を中心に								
【授業の概要・目的】									
江戸時代の狩野派について、江戸前期を代表する絵師の一人である狩野探幽を中心に考察する。江戸時代に著された画史や画論などの記述と作品を対照させ、江戸時代における狩野派のあり方や探幽について理解を深めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
室町時代後期から江戸時代、とりわけ江戸前期にかけて画壇の中心に位置し続けたのが狩野派である。従って、当該時期の日本における絵画制作のあり方を知るためには、狩野派についての理解が不可欠である。本講義では、まず、江戸前期に狩野派の絵師によって著された『画道要訣』や『本朝画史』、『画筌』などの画史・画伝、画論を精読し、作品と対照させつつ、江戸時代における狩野派の絵画観や絵画制作のあり方を明らかにする。それを踏まえた上で、江戸前期を代表する狩野派の絵師である探幽を取り上げ、時代を画したと評される画風の成立や変遷について作品に即して講述する予定。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（発表）及びレポート（作品や文献資料、社会的背景などに対する分析を踏まえた記述の論理性など、論述内容を総合的に評価する）による。									
【教科書】									
使用しない。必要な資料は適宜配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
配付資料についての予習が必要。また、附属図書館に配架されている美術全集や市販の書籍、展覧会などを通して、特に室町時代後期から江戸時代前期にかけての絵画史の展開などについて自習しておくことが望ましい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	名古屋大学 大学院文学研究科 准教授 伊藤 大輔				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	中世形成期における日本絵画の思想的深層								
【授業の概要・目的】									
<p>中世形成期としての院政期は絵巻物の制作が最高潮を迎えると同時に、肖像画が新たに発展した時期でもある。絵画の制作がこれほど活発になったのは、時代の変革期において、まがりなりにも社会との円満な調和を保っていた古代的な人々の生活感覚がいよいよ動揺し、新たな安定に向けて思想的な模索が行われたからであろう。言葉だけではなく、視覚的に対象化を試みることで、新たな思想はおぼろげであったものから確固たるものとなり、旧来の思想は新たな時代にふさわしいものへと作り直される。そして新旧の思想がぶつかり合い、お互いを鍛え合って新たな思想的段階へと上昇するのである。</p> <p>この講義では中世形成期における絵画に表れた思想的葛藤の軌跡をあとづけることを通して、変革期における絵画の思想的深層について分析的に理解することを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1～2回の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 似絵の始まり 最勝光院御所障子絵の史料を読む 2. 藤原兼実の似絵忌避について 3. 赤松俊秀の呪詛論の検討 4. 呪詛と肖像の関係の検討 5. 平安時代の身体観について 6. 似絵の起源としての尚齒会図 7. 尚齒会図の実例についての様式的検討 8. 似絵制作の思想的背景としての「似絵詞」を読む 9. 似絵の時期区分の検討 九条道家の徳治思想を中心に 10. 徳治の思想と絵画の関係について 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>レポートにより評価します。</p> <p>中世形成期の美術について、自らが取り扱う具体的な作品を選定する選択眼、それを的確に記述する文章表現の能力、また選択した作品を歴史的な文脈に置くための作品比較の手腕、最終的に中世形成期美術に対する創見を提示しているか等の点を総合的に判断して評価いたします。</p>									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>伊藤大輔 『肖像画の時代』 (名古屋大学出版会) ISBN:9784815806828 (予習、復習に利用して下さい。)</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習Ⅰ) Aesthetics and Art History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 中村 俊春 文学研究科 教授 根立 研介 文学研究科 准教授 平川 佳世				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	美学美術史学の实地指導								
【授業の概要・目的】									
美術作品が所在する現場に実際に足を運び、美術作品に触れ、作品の分析等、美学美術史学の研究方法の实地指導を行う。									
【授業計画と内容】									
京都、大阪、奈良などに所在する美術館や博物館で開催される日本美術、西洋美術、現代美術等をテーマとした展覧会、あるいは優れた仏像や障壁画などの日本・東洋美術を所蔵する寺社が、指導の現場となる。見学の詳細については、美学美術史学研究室前に適宜掲示されるので、各々確認すること。作品に対する鑑定眼は美学美術史学研究の基礎であり、多くの作品を実際に目にすることによって養われる。そのため、出来るだけすべての見学会に参加することが望ましい。また、対象作品については各自事前に専門文献等を参照しつつ学習し、明確な目的意識をもって見学に参加できるよう、入念に準備すること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
見学時における口頭発表およびレポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 大学の蔵書を適宜参照すること									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
作品保存の観点から、メモを取る際は鉛筆のみ使用可。また寺社見学に際しては、節度ある服装で参加すること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 中村 俊春 文学研究科 准教授 平川 佳世				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	諸芸術の優劣比較論争								
【授業の概要・目的】									
美術および芸術学に関するドイツ語文献の講読を通じて、専門の研究書を読解する力を養うとともに、美術史および芸術学の諸問題について理解を深めることを目指す。今年度は、諸芸術の優劣比較論争に関する文献を読む。									
【授業計画と内容】									
Ekkehard Mai und Kurt Wettengl (hrsg.), Wettstreit der Künste: Malerei und Skulptur von Dürer bis Daumier, München, 2002をテキストに、15世紀以降のヨーロッパで行われた絵画と彫刻、音楽、文学等諸芸術の優劣比較論争について考察する。適時、取り上げられている作品について詳しい議論も行うので、受講生諸君は、毎回必ずテキストを予習しておき、授業に参加することを求めます。									
【履修要件】									
特になし。芸術や歴史に興味があり、意欲的に授業に参加する人の受講を歓迎します。									
【成績評価の方法・基準】									
前期と後期それぞれに、平常点および筆記試験により成績を評価し、これらの合算により最終的な成績評価を行う。									
【教科書】									
テキスト等は授業中に配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
ラジオやテレビ、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のドイツ語能力の向上にも努めて下さい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 平川 佳世				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	ルネサンスにおける芸術家と注文主								
【授業の概要・目的】									
美術史に関するイタリア語文献の講読を通じて、イタリア語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を深めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
本年度は、Salvatore Settis, <i>Artisti e committenti fra Quattro e Cinquecento</i> , Torino, 2010の講読を通じて、ルネサンスの芸術制作において注文主が果たした役割について考察する。イタリア語の習得度や美術史の知識の有無は問いませんが、受講生の皆さんには毎回予習を行い、積極的に授業に参加することを希望します。									
【履修要件】									
特になし。芸術や歴史に興味ある人の受講を歓迎します。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と定期試験									
【教科書】									
講読箇所についてはプリントで配布します									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
ラジオやテレビ、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のイタリア語能力の向上にも努めて下さい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)			担当者氏名	京都工芸繊維大学院 永井 隆則 工学科学研究科 准教授				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	演習
題目	モダン・アートの社会学								
【授業の概要・目的】									
近年、再評価の高まっている、フランスの美術史家、ピエール・フランカステル(1900-1970)の以下の印象派論を講読しながら、芸術社会学の可能性を講じる。									
Pierre Francastel, L'Impressionnisme Manet・Monet・Cezanne・Renoir・Gauguin・Van Gogh・Degas・Seurat, Denoel/Gonthier, Paris, 1974									
【授業計画と内容】									
Pierre Francastel, L'Impressionnisme Manet・Monet・Cezanne・Renoir・Gauguin・Van Gogh・Degas・Seurat, Denoel/Gonthier, Paris, 1974									
を毎回、逐語訳しながら、社会的印象派論の可能性を論じる。									
【履修要件】									
フランス語中級以上の知識を身につけている事。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートの総合評価。									
【教科書】									
永井隆則 『モダン・アート論再考 - 制作の論理から』 (思文閣出版、2004年) 永井隆則 『フランス近代美術史の現在』 (三元社、2007年)									
【参考書等】									
(参考書) 履修学生の専門をアンケートで事前に調査し、専門に応じて、適宜、有用な情報を提供する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
メールで適宜、質問に回答したり指示を出す。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(演習III) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者氏名	文学研究科	教授	中村	俊春
						文学研究科	教授	根立	研介
						文学研究科	教授	吉岡	洋
						文学研究科	准教授	平川	佳世
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	美学美術史学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
修士論文および学位論文の作成に向けて、受講者全員が各自設定した美学美術史学に関する問題について口頭発表を行い、研究を進展させることを目指す。									
【授業計画と内容】									
受講者各自が修士論文及び学位論文を視野に研究テーマを設定し、作成した原稿に基づき、1時間程度の発表を行う。発表に際しては、必要に応じて、パワーポイント等で画像資料を提示する、ビデオ等で映像資料を映写する等、各自工夫すること。発表後は全員で内容についての討論を行い、問題意識を共有することとする。各自の研究の根幹をなす重要な演習なので、出来るだけ早目にテーマを決定し、常時問題意識を念頭において研究を進め、充実した研究発表を行うことが求められる。また、関連する芸術作品に直接触れる機会を有するよう、常に努力してほしい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による評価									
【教科書】									
特になし									
【参考書等】									
(参考書)									
特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
研究テーマの選定や参考書籍について疑問がある場合は、出来るだけ早目に教員に相談すること。また、画像資料、映像資料の処理法に関しては、美学美術史学研究室で常時相談を受け付けている。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

《歴史文化学専攻》 日本史学専修

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 横田 冬彦				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水1	授業形態	特殊講義
題目	近世書物文化史の研究								
【授業の概要・目的】									
近世の書物文化を、出版の側からだけでなく、読者の側から考察する。主として17世紀末～18世紀初の元禄・享保期を対象とする。									
【授業計画と内容】									
1、問題の所在 （出版・作者ではなく、読書・読者を問題にする意味を述べる） 2、民衆社会における読者と蔵書の形成 （村や町における読者の実態、書物の流通構造と蔵書の形成過程を明らかにする） 3、書物と読書 （軍書・歴史書、医学・本草書、農書、仏書などをとりあげ、それらが読者によって読まれ、あらたな思想形成をうながす過程を明らかにする） 4、書物知と権力 （書物知が近世民衆社会に広がることの意味を考える）									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期・後期末のレポート。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉川 真司				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	律令体制史研究								
【授業の概要・目的】									
<p>7世紀中葉～10世紀中葉の日本(倭)王朝は、律令体制という中央集権的国家体制を形づくって列島社会に君臨し、400～500万の人民を強力に支配した。その統治システムは、前方後円墳体制下の伝統的の制度に唐から直輸入された体系的法制を接ぎ木したもので、後世にも大きな影響を与えることになった。</p> <p>本授業では、研究史をトレースした上で、律令体制の特質と変遷について大観を試み、日本古代史全般に関する理解を深めたい。その際、硬直した「律令制」研究に絡めとられないためにも、列島内外の政治・社会の実態把握に力を注ぎ、国家体制との関わりを論じようと思う。遺跡見学・踏査を授業の一環としているのも、そのような意図に基づくものである。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>下記テーマについて、それぞれ3～4回の授業を行なう予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)律令体制の研究史 (2)律令体制の諸段階 (3)律令官僚制 (4)律令公民制 (5)律令租税制 (6)律令体制と国際関係 <p>これに加えて、前期・後期に1回ずつ、律令体制期の遺跡見学・踏査を実施する。</p>									
【履修要件】									
見学・踏査のため、学生教育研究災害傷害保険への加入が必要									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポートによる									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 谷川 穰				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	近代国家と仏教								
【授業の概要・目的】									
日本近代史研究、そして仏教史の研究においても、近代仏教は圧倒的にマイナーな位置におかれてきた。しかし昨今、その研究状況が大きく変わりつつある。思想、社会事業などの面以外にも、政治権力との濃密な関係、教育制度への関与、戦争協力、そして学知や国際交流など、決して無視できない多様な側面を有している。本研究では、とりわけ明治期における浄土真宗の動向を中心に、神道やキリスト教との関連も視野にいれつつ、知られざる政治/社会史について論じる。									
【授業計画と内容】									
以下のテーマについて論じる予定。 廃仏毀釈・上地/信教の自由と日本型政教分離/大遠忌と記念事業/皇室との関係/教団自治と議会制度/地域社会と寺院/東アジアへの開教/若者文化としての仏教/教育・医療・慈善/従軍布教と戦没者法要/女性と仏教/「仏教史学」の形成/万国宗教会議、など。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末のレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 元木 泰雄				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	『吾妻鏡』文治元年を読む								
【授業の概要・目的】									
『吾妻鏡』文治元年を取り上げ、源平争乱の推移、義経と頼朝との対立、守護地頭問題を検討する。また、『玉葉』や『平家物語』諸本とも対比する。これらを通して、当該期の正常に関する認識を深めるとともに、中世政治史の方法論と、史料読解力の練成を図る。									
【授業計画と内容】									
『吾妻鏡』の記述を読みながら、解釈するとともに、合戦や政治情勢の実態を解明する。 序論 源平合戦の概要 1. 範頼の平氏追討と頼朝書状。 2. 屋島合戦。義経出撃と合戦の実態。 3. 壇ノ浦合戦。合戦の実態と意味。 4. 頼朝と義経の対立。無断任官問題、梶原景時の讒言。 5. 義経の鎌倉下向。腰越状の真偽。 6. 義経に対する抑圧。 7. 義経の挙兵。 8. 地頭設置と実態。国地頭論。 9. 廟堂改革とその意味。 概ね以上のテーマを2, 3回に分けて説明する。 毎回、史料を配布し、出席者に読み下してもらう。									
【履修要件】									
漢文読解力を前提とする。									
【成績評価の方法・基準】									
試験、平常点も加味する。									
【教科書】									
毎回プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 元木泰雄 『源義経』(吉川弘文館)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 岩城 卓二				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	畿内社会論								
【授業の概要・目的】									
<p>畿内社会からみた日本近世社会の特質について講義する。具体的には、まず大坂の政治・経済的位置、所領配置について講義し、次に畿内社会に生きた人びとの視点から、17世紀の経済成長と、18世紀以降の「安定」について考え、近世日本の「平和」と「安定」についての理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<ol style="list-style-type: none"> 1．幕府軍事拠点大坂の誕生と徳川大坂城 2．所領配置論 3．大坂町奉行所の広域支配 4．尼崎藩の領国支配 5．畿内農村と労働力移動 6．米穀流通 7．幕末期の畿内社会 <p>各テーマについて、4～5週の講義をする。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポート。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>授業中に紹介する</p> <p>特になし。</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p> <p>特になし。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	総合博物館 教授 岩崎 奈緒子				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	近世後期日本における世界認識の転換とその影響								
【授業の概要・目的】									
天明期から寛政期にかけての時期は、近世日本の世界認識が大きく変わる時期にあたる。世界認識の変化が何を契機として起こり、その転換が日本人の意識にどのような影響を与えたのかを、幕末のウェスタンインパクトとそれへの対応を視野に入れながら、考察する。									
【授業計画と内容】									
以下の各課題について、5～6週の授業をする予定である。									
1 世界認識の転換の契機 ロシアの出現 日本の国家意識の変化									
2 世界認識の転換の実相 新井白石『采覧異言』 山村才助『増訳采覧異言』									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる（論述の内容について、総合的に判断する）。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	佛教大学 歴史学部 教授 原田 敬一				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	日本近代都市史研究の再検討								
【授業の概要・目的】									
日本近代都市史研究は若い学問である。1980年代に始まり、ようやく30年の研究蓄積をもった。それらを振り返りながら、現代の研究課題に迫っていく。授業は資料プリントを多用して行うので、欠席者は自らプリント入手に努力してほしい。									
【授業計画と内容】									
1．日本近代都市史研究の現在 2．近世都市から近代都市へ、さらに現代都市へ 3．近代都市の政治史 4．近代都市社会について 5．近代都市の文化について 以上の各テーマにつき、5，6回程度の講義を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポートによる。授業を踏まえた課題提出になる。その前提で自由に叙述したレポートを求める。									
【教科書】									
使用しない 近代都市史に関する研究書を読み、授業中に質問することを歓迎する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	関西大学 文学部 教授 原田 正俊				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	中世仏教の再編と東アジア								
【授業の概要・目的】									
<p>日本の中世社会において仏教と寺社勢力は大きな社会的影響力を持っており、これまで様々な角度から研究が進められてきた。しかし、中世仏教の展開は一国内での展開を中心に論じられてきた傾向があり、本講義では大陸仏教の影響も含めながら鎌倉時代末以降に顕著となる中世仏教の再編過程を論じていく。思想・儀礼・仏事法会・国家との関係・寺院組織・修道生活・寺院景観などの論点から中世後期仏教の在り方を明らかにしていく。受講生には中世仏教と社会の関係性を理解してもらうことを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の課題について、1課題あたり3～4週の講義をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 中世仏教史研究の動向 2, 東福寺・泉涌寺と九条家 3, 渡来僧と鎌倉・京都の禅林 4, 女性と仏教の関係の変化 5, 死生観と禅宗 6, 南北朝期の寺社勢力と公武政権 7, 天龍寺・鹿王院文書に見る禅寺の展開 8, 五山官寺体制と大陸仏教 9, 禅宗の仏事法会と顕密仏教 10, 戦国・織豊期の寺社 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポートで評価する。									
【教科書】									
参考資料は適宜コピーして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 飯塚 一幸				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	自由民権運動の再検討								
【授業の概要・目的】									
自由民権運動は戦後日本近代史研究の中心的テーマの一つであった。その研究方法は、発展図式論から諸潮流の相互関係論へ、さらには政治文化の変容論へと変化してきたが、その過程で政治史からの自由民権運動研究は沈滞状況に陥って久しい。本講義では、自由民権運動史の原点である『自由党史』の文献批判を交えながら、主に政治史の視点から自由民権運動の再検討を行い、近代日本の政治史・社会史に関する基礎的知識を養うと同時に、研究史への批判的態度を身につけることをめざす。									
【授業計画と内容】									
1. 愛国公党と民撰議院設立建白書 2. 愛国社の創立と大阪会議 3. 地方官会議と地方民会 4. 都市民権派の成立と展開 5. 西南戦争と自由民権運動 6. 政府内の憲法構想 7. 国会期成同盟と私立国会論 8. 私擬憲法の諸相 9. 明治十四年の政変と自由党の成立 10. 自由党広域蜂起派と激化事件 11. 激化事件とモラル・エコノミー論 12. 大阪事件 以上のテーマについて講義を行う予定である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。具体的には授業で指示する。									
【教科書】									
教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
板垣退助監修 『自由党史・上』 (岩波書店) ISBN:4-00-331051-9									
板垣退助監修 『自由党史・中』 (岩波書店) ISBN:4-00-331052-7									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)		担当者氏名	山口大学 人文学部 教授 橋本 義則					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	日本古代宮都をめぐる諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>日本の古代宮都（宮室・都城）は、律令を基本とした日本における古代統一国家の「首都」である。その構造には古代国家の政治体制が直接的に反映していると考えられることから、宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都を概観するとともに、そこから生じる宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げ、古代宮都の実態をできる限り明らかにし、さらに日本の古代社会についても考えを及ぼしてみたい。また、日本の古代宮都を東アジアの都城と比較する試みについても考えてみたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>主として以下のテーマについて、おのこの1～3回の授業を予定している。ただし授業の個別テーマは今後変更・追加の可能性があり、また授業の進行は以下の順によるとは限らない。</p> <p>(1) 日本古代宮都の研究史と研究法 (2) 日本古代宮都展開（概要） (3) 古代宮都と天皇制 (4) 古代宮都と女性 (5) 古代宮都と氏・家 (6) 日本古代宮都と東アジアの都城 (番外) 東アジア都城遺跡の現状（PPTによるスライドを予定）</p>									
【履修要件】									
ノートパソコン必携。									
【成績評価の方法・基準】									
試験（授業内容の理解力を見るための試験）。									
【教科書】									
<p>使用しない 必要なレジュメは電子ファイルで配布の予定。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 岸 俊男 『日本古代宮都の研究』（岩波書店）ISBN:4000016652（日本古代宮都研究の基本文献） 岸 俊男 『日本の古代宮都』（岩波書店）ISBN:4000016989（日本古代宮都に関する基本的概説） 今泉隆雄 『古代宮都の研究』（吉川弘文館）ISBN:4642022716（日本古代宮都研究の基本文献） 橋本義則 『平安宮成立史の研究』（塙書房）ISBN:482731134X 橋本義則 『古代宮都の内裏構造』（吉川弘文館）ISBN:4642024816 橋本義則（編） 『東アジア都城の比較研究』（京都大学学術出版会）ISBN:4876989907 ここに掲げたものは一例。授業中に随時紹介する。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	近代古都論								
【授業の概要・目的】									
帝都東京に対して、古都として「歴史」「伝統」を体現する奈良・京都の歩みを、近代天皇制との関わりにおいて考察する。明治維新时期から1945年の敗戦までを見通したい。									
【授業計画と内容】									
奈良・京都といった古都の近代を中心としながら、東京遷都後の皇室の宗教や文化における近世との連続や断絶、天皇と「文明開化」をめぐるあらわれ方、博物館や文化財が持つ政治性、陵墓や正倉院御物のもつ天皇家の「財」としての役割、修学旅行や観光における歴史都市がはたす役割、皇室と古都の祭礼や年中行事との関係の変容、といった問題群を考察したい。近代天皇制をたんなる政治過程ではなく文化や社会から考察し、日本近代の普遍性や固有性を考えたい。前期と後期に、公家社会の痕跡を見る京都御苑、京都の周縁（六波羅・豊臣史跡・花街など）としての東山、古典文学と史跡復興の場としての嵯峨野、黒谷掃苔などの巡見も行いたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。									
【教科書】									
使用しない プリント等を配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年） 高木博志 『陵墓と文化財の近代』（山川出版社、2010年）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
レポートの内容について個別相談に応じる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(演習) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 勝山 清次				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	東寺学衆方引付の研究								
【授業の概要・目的】									
春秋二季伝法会を勤める学衆方の評定記録である学衆方引付を精読し、史料読解力を習得するとともに、中世史研究の進め方を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
学衆方引付は現在、康永3年(1344)から残っており、東寺の法会・寺僧社会や寺領支配に関する基本的な文献であるばかりでなく、南北朝・室町時代の政治・社会の様相を生々しく語ってくれる好史料でもある。出席者はそれぞれの担当箇所を翻刻し、内容を精査したうえで、発表し、それにもとづき全員で議論する。 本年度は永和元年(1375)9月から始める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年末のレポート。									
【教科書】									
テキストは前もって配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(演習) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 横田 冬彦				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	「法隆寺日次記」を読む								
【授業の概要・目的】									
法隆寺が所蔵する多くの近世史料の中から、写真版で「年会日次記」「沙汰衆日次記」などを読むことによって、法隆寺の寺内、門前境内、領地村落、全国的勸化活動など、さまざまな事柄を社会史として読み解く。									
【授業計画と内容】									
今期は元禄期を中心に読むが、受講者は、それぞれ担当分の翻刻を作成し、読解して、報告する。「日次記」のみならず、次第に関連諸史料へ広げる。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
個人報告と年度末レポート。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(演習) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉川 真司				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	貞観格の研究								
【授業の概要・目的】									
『類聚三代格』に収められた貞観格を年代順に精読し、奈良平安時代史への理解を深めるとともに、古代史研究法について考える。									
【授業計画と内容】									
貞観格は貞観十一年(869)に撰進された法令集で、弘仁十一年(820)から貞観十年までの詔勅・論奏・太政官符を官司別に編成し、これに雑格・臨時格を付して全十二巻とする。律令体制の変容を考える上で重要な史料であり、現在は大部分が『類聚三代格』に内容別に分類されて伝わっている。本演習では、貞観格の法令を年代順に精読する。毎週一通を基本とし、担当者は研究史を把握し、関係史料を網羅した上で、適切な解釈と評価をなすことが求められる。他の出席者も必ず予習・発言しなければならず、沈黙に終始する者は参加資格を失う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による									
【教科書】									
『新訂増補国史大系 類聚三代格』（吉川弘文館）（必ず購入すること）									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(演習) Japanese History (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 吉川 真司						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月1	授業形態	演習
題目	総合博物館所蔵文書の研究								
【授業の概要・目的】									
総合博物館に所蔵される古文書・古記録の調査・整理を行ない、史料調査の基本的技術を身につける。									
【授業計画と内容】									
<p>京都大学総合博物館には、五万点をこえる文献史料が所蔵されている。その大部分は日本史（国史）研究室が創設以来たゆまず収集してきた古文書・古記録類である。時代は古代から近代に及び、旧蔵者は公家・武家・寺社などきわめて多様であって、国内有数のコレクションとすることができる。</p> <p>本演習では、これらの古文書・古記録から適切なものを選び、整理・調書作成などの作業を行なう。それによって史料原本に親しみ、知見を深めるとともに、他機関における史料調査において必要な知識・技術を獲得することを目的としている。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(演習) Japanese History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 谷川 穰				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	演習
題目	『松方正義関係文書』を読む								
【授業の概要・目的】									
『松方正義関係文書』の輪読をつうじて、近代日本の形成と展開の諸相を考察・討議すること、単なる言説分析や制度形成のトレースととどまらず、探索した関連史料とあわせて深く掘り下げていくこと、これらを主たる目的とする。									
【授業計画と内容】									
第1回はガイダンスと担当の決定、第2回からは参加者による報告。今年度は主に明治10年代までの諸史料をとりあげる予定。 なお担当教員はあくまで補助的な役割を担うのみであり、発表者および出席者の十分な予習と積極的な発言、議論によって進めてゆく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（毎回の発表と議論参加）とレポート。									
【教科書】									
『松方正義関係文書』（大東文化大学東洋研究所）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	日本史学(博士論文指導) Japanese History (Dissertation Guidance)				担当者氏名	文学研究科	教授	勝山	清次
						文学研究科	教授	横田	冬彦
						文学研究科	教授	吉川	真司
						文学研究科	准教授	谷川	穰
配当学年	博士	単位数	0	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	
題目	博士論文指導								
【授業の概要・目的】									
博士論文執筆者に対し、論文の進行状況に応じて、適宜指導するとともに、論文完成に向けて、様々な助言をする。									
【授業計画と内容】									
博士論文執筆者と相談しながら、実施する。									
【履修要件】									
博士論文執筆者									
【成績評価の方法・基準】									
発表および討論を聞き、その内容をもとに評価する。									
【教科書】									
使用しない 特になし。									
【参考書等】									
(参考書) 特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

東洋史学専修

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 夫馬 進				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	中国明清時代における訴訟と社会								
【授業の概要・目的】									
<p>近年、前近代中国では訴訟が多かったとする議論がしばしば行われている。授業ではこれまでの数年間、「中国訴訟社会」と題して国家のどのような制度が訴訟を多発させてきたのかを論じたが、本年度はさらにとくに「社会」の面からこれを検証する。さらに訴訟の少ない社会についても取りあげ、全体として中国史における訴訟の特色を明確にする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業ではまず、国家の訴訟制度を税役の負担制度や司法制度との関連で概観する。さらに、主に官箴書と地方档案を中心資料として訴訟の実態を考察する。この場合、同じ制度のもとで、訴訟の比較的少ない社会と多い社会における実際の訴訟と裁判の流れを考察する。地方档案としては『巴県档案』『順天府档案』『淡新档案』『太湖庁档案』などを用い、全国地域間での比較を行う。さらに『巴県档案』『太湖庁档案』をもとに、時代的な比較を行う。官箴書をもとに、国家と地方官との訴訟に対する考え方と対処の仕方を考察する。以上をより明確にするため、しばしば日本江戸時代との比較を行う。</p>									
【履修要件】									
<p>多少なりとも、漢文（訓読でよい）が読める必要がある。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>レポートを中心とする。</p>									
【教科書】									
<p>使用しない</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 夫馬進『中国訴訟社会史の研究』（京都大抱く学術出版会）ISBN:978-4-87698-992-8（とくに夫馬進「中国訴訟社会史概論」）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉山 正明				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	特殊講義
題目	『集史』 「チンギス・ハン紀」の根本的検討								
【授業の概要・目的】									
13-14世紀のモンゴル世界帝国の時代に出現したペルシア語史書の『集史』 Jami' al-Tavarikhは文字通りの世界史であり、各地に蔵される複数の写本を利用しつつ、他の多言語史料とつきあわせて精読する。									
【授業計画と内容】									
モンゴル世界帝国を構成する四大部分のひとつ、西アジアに展開したフレグ・ウルスでは、第七代君主ガザンと宰相ラシードウッディーンのもと、かつてない世界史の編纂がおこなわれ、カザン没後も弟オルジェイトゥにひきつがれ、1310-11年に成った。その結果、ひとくちに『集史』とはいうものの、ガザン主導の「幸いなるガザンのモンゴル史」という前半と、それを踏まえつつ改訂・増補して「世界諸族志」もくわえたいわゆる『集史』という二段階の合成物となった。そこには、かなりの改文・修正が見られる。トプカプ・サライ蔵本を底本に、タシュケント蔵本、大英図書館蔵Or.2927、Or.7628などを参照しつつ、幾つかの東方史料ともひきくらべ検討する。									
【履修要件】									
できれば、初歩でもよいのでペルシア語を学習しておいてほしい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とその時々レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	東北アジア古代中世史の研究								
【授業の概要・目的】									
10世紀以前の内蒙古・東北の諸民族につき、中国文献を主な素材として通時的に概観する。この時期の歴史的推移、中国文献の批判的分析の方法論、考古学的資料の利用法などを理解する。									
【授業計画と内容】									
10世紀以前の内蒙古・東北の諸民族は、基本的に自らの文字記録をもたず、かれらについての情報は、中国文献の記述から獲得するしかないが、記述の絶対量は零細で、かつ「華夷思想」に基づく偏見も少なくない。昨年度扱った3世紀以前の推移を整理したのち、4世紀以後の鮮卑ついで契丹の推移を概観しつつ、関連する正史四夷伝などの中国文献を、文献学的方法および考古学的資料を全面的に援用することによって批判的に分析し、この時期のユーラシア東部の歴史的推移を再構築する。韓半島・日本列島の状況をも見渡し、ナショナル・ヒストリーとしての「中国史」を相対化した「東洋史」的視点を再確認する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる（受講生は授業の感想を中心とした小レポートを毎回提出する。期末レポートと小レポートを総合的に評価する）。									
【教科書】									
講義資料は担当者が準備する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 中砂 明德				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	バタヴィア上空からアジアを俯瞰する								
【授業の概要・目的】									
<p>オランダ東インド会社の記録のうち、バタヴィア総督府から本社に送られるた「一般報告 (Generale Missiven)」の1640年代後半の部分を読む。アジアの各地域の状況を個別に見るのではなく、西はアラビアのモカから東は長崎に至るまでの各地からバタヴィアに集まってくる情報を並行的に掌握することで、この時代の俯瞰図を描きたい。また、オランダ語以外の欧語史料(ポルトガル、フランス、スペイン語)を同時に紹介し、オランダ語史料の個性を浮かび上がらせるとともに、欧語史料の可能性と限界性を提示する。授業冒頭では、関連図書を紹介する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期 まず、1640年代のアジア諸地域(ペルシア、インド亜大陸、東南アジア、中国、日本)の歴史を欧州諸国の進出状況とともに概観する(1~3回)。その後、とくにオランダの進出についてももう少し細かく見る(4、5回)。そして、1645年からの一般報告を読む(6回以降)。</p> <p>後期 1648年以降の一般報告を読む(1~9回)、その他の文書(各地からの書簡、日誌など)を読み、いくつかの地域(中国・台湾・日本)に焦点を合わせる(10回以降)。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
ほぼ毎回授業で紹介する関連書籍から、欧語なら1冊、日本語なら3冊以上を使って書評を作成してもらい、それを評価する。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>近世インド史のサンジャイ・スブラフマニヤムやスペイン・カトリック王国史のセルジュ・グリュジンスキらが提唱する「接続された歴史 (connected history)」の可能性と困難について考える材料にしてほしい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 高嶋 航				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火1	授業形態	特殊講義
題目	軍隊とスポーツの比較社会史								
【授業の概要・目的】									
軍隊とスポーツの関係を、日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、中国、フィリピンの事例を比較しつつ明らかにする。									
【授業計画と内容】									
アジア・太平洋戦争中、日本国内で軍部は「外来スポーツ」を弾圧したといわれている。しかし一方で、日本軍内部では広くスポーツが行われていた。この矛盾をどう考えればよいのか。いち早く軍隊にスポーツを採り入れたイギリスやアメリカを中心に、他のヨーロッパ諸国や中国、フィリピンの軍隊におけるスポーツのあり方と比較するなかで、この問題に迫ってみたい。軍隊の性質、スポーツのあり方、男性性の観念などが軍隊スポーツを規定した要因として問題となるであろう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 高嶋航 『帝国日本とスポーツ』(塙書房)									
特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 松浦 茂				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	特殊講義
題目	キャフタ条約交渉の研究								
【授業の概要・目的】									
<p>1727年にロシアと清朝が締結したキャフタ条約は、その後100年以上にわたり両国の関係を安定させた。本年の講義では、ヨーロッパ・キリスト教主義外交と中華主義外交の対立という観点から両国の外交交渉を説明して、さらにキャフタ条約の締結によってロシアが目指したものを明らかにする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の内容について講義する。</p> <p>1726・27年のロシアと清朝の交渉とその問題点（7～8週） ロシアの中国研究と中国趣味について（7～8週） 18世紀ロシアの東方政策（中国・インド・北太平洋）（7～8週） ロシアと清の経済交流（7～8週）</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによって判定する。									
【教科書】									
<p>使用しない 必要な資料は、プリントして配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
とくになし。									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 浅原 達郎				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	説文解字								
【授業の概要・目的】									
清代の学者による説文解字の注釈を読みながら、古文字学の基礎となるべき説文解字の読み方を探る。									
【授業計画と内容】									
ひたすらていねいに読むことを心がけるが、ただ、出土文字資料との関連には留意したい。説文解字のどの文字を読むかは、受講者の希望を聞いて決める。テキストには、段玉裁『説文解字注』（経韻楼本）を用いる。おのおの持参することが望ましいが、持ち合わせないひとは、無理に準備する必要はない。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） なし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 岩井 茂樹				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	東アジア近世の通商と外交								
【授業の概要・目的】									
1684年に清朝は海禁令を解除し、開放的な通商政策を採用した。官側と民間との協調を通じて、各地の貿易港市では安全を確保するとともに商務を規範化する制度がしだいに形成された。本年度は広州における「保商」制度成立の過程、いわゆる「公行」による貿易独占の問題について、先行研究を紹介しながら、基本的な資料を提示して講述する。同時代人が「互市」と呼んだ貿易の仕組みを、市舶司貿易、朝貢貿易、条約体制などの歴史理解の枠組みのなかに位置づけることを試みる。									
【授業計画と内容】									
1) 「保商」制度の導入 2) 「公行による独占」の問題 3) 海外華人と互市 4) 互市諸国と朝貢国 5) イギリス東インド会社と地方商人									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる									
【教科書】									
なし。資料を配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 籠谷直人/脇村孝平編 『帝国とネットワーク』(世界思想社 2009年)									
(関連URL)									
http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/zinbun/members/private/iwai_list.htm (岩井の研究業績一覧です)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 富谷 至				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	特殊講義
題目	漢簡資料の研究								
【授業の概要・目的】									
漢代史研究には必須の資料である木簡・竹簡の取り扱い方、読み方を解説する。同時に日本木簡との比較研究をも視野に入れる。									
【授業計画と内容】									
居延漢簡を対象にする。図版を参考に積読を行い、内容を検討する。授業の進め方は、演習形式をとり、受講者に担当、発表をしてもらう。初回の受講者により、それ以後の授業の進めかた、つまり初歩的な知識を解説するかどうか判断したい。本年度は、肩水金關出土の木簡を読む。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
未定									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 富谷 至 『木簡・竹簡の語る中国古代』 (岩波書店)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 矢木 毅				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	朝鮮後期政治外交史の研究								
【授業の概要・目的】									
朝鮮後期（17～19世紀）における政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高め、朝鮮と東アジア世界との連関についての理解を深めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
（前期）前期は清朝に服属して以降の朝鮮王朝の歴史、特に国内における党争の展開と、対清意識の変遷について考察する。主な話題は次のとおり（各テーマについて3～4週の授業をする予定）。 ・礼訟の展開 ・党争と土禍 ・蕩平政治 ・奎章閣 （後期）後期は実学思想の展開、及び郷村社会の変動について考察する。主な話題は次のとおり（各テーマについて3～4週の授業をする予定）。 ・西学と西教 ・黄嗣永帛書 ・勢道政治 ・三南の民乱 なお、毎回の講義において典拠となる史料を例示し、講読・演習の要素を加味する。『朝鮮王朝実録』などの官撰史料、及び『我我録』などの野史史料が対象となる。									
【履修要件】									
中国古典文（漢文）の基礎的な読解能力を身につけていることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
成績評価は平常点によって行う。平常点は出席状況、理解度、および小テスト（漢文読解）の成績によって評価する。									
【教科書】									
講読史料、レジュメ等のプリントを事前に配布する（一週間前の授業時に配布）。									
【参考書等】									
（参考書） 武田幸男 『朝鮮史』（山川出版社）ISBN:9784634413207 李成茂 『朝鮮王朝史 上』（日本評論社）ISBN:9784535582989 李成茂 『朝鮮王朝史 下』（日本評論社）ISBN:9784535582996									
（関連URL）									
http://sillok.history.go.kr/ (朝鮮王朝実録（電子版）)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 准教授 辻 正博				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	唐宋時代の法制								
【授業の概要・目的】									
<p>本年の講義は、前期の「唐代律令概論」、後期の「唐宋法制概論」の2部構成で行う。</p> <p>前期の概要・目的：唐律・唐令について知ることは、唐朝の官僚制度を理解する上できわめて重要である。この講義では、その概要を理解することを目的とする。中国中世史のみならず、日本古代史に関心を持つ学生にとっても意義ある講義としたい。</p> <p>後期の概要・目的：8世紀から11世紀にかけての中国社会の激変は「唐宋変革」と呼ばれ、中国史上の画期として注目されてきた。この講義では、この変革期に行われた法制について概観し、唐宋変革に対する理解を法制史の面から深めることを目的とする。宋代以降の展開を知ることによって、日本古代国家が導入を試みた「律令制」がどのようなものであったかを感じてほしい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のテーマについて、1テーマあたりおおむね2～3週を目途に講義を進める。 なお、初回の授業において、授業計画および講義で必要とされる事項について説明を行う。</p> <p>〔前期〕</p> <p>0) ガイダンス</p> <p>1) 「唐律」篇</p> <p> a) 構成</p> <p> b) テキスト</p> <p> c) 刑罰</p> <p> d) 性格・特徴</p> <p>2) 「唐令」篇</p> <p> a) 構成</p> <p> b) テキスト 「唐令」の復原について</p> <p> c) 内容紹介</p> <p>3) まとめ</p> <p>〔後期〕</p> <p>1) 唐後半期～五代の法制</p> <p>2) 北宋時代の法制</p> <p>3) 南宋時代の法制</p> <p>4) まとめ</p>									
【履修要件】									
特になし									
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----									

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・基準]

期末レポートによる評価。（前期末と後期末、2度の提出を求めます。）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

滋賀秀三 『中国法制史論集 法典と刑罰』（創文社、2003年）

仁井田陞 『唐令拾遺』（東京大学出版会）（とくに「序説」の部分）

その他については、講義時に適宜指示する。

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

オフィス・アワーについては、特に曜日・時間を定めていません。授業時以外に直接話をしたい学生は、

tsuji.masahiro.4m@kyoto-u.ac.jp

まで連絡して日時を調整すること。（学生番号、氏名を明記してメールしてください。）

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	龍谷大学 文学部 教授 木田 知生				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	宋夏遼金時代の重要史籍について								
【授業の概要・目的】									
中国近世史の重要史籍について概説し、その内容の一部を講読する。とくに宋代と西夏・遼・金時代の重要史籍を対象とし、その内容の詳細と史料(版本)の現状を解説する。									
【授業計画と内容】									
1.前期は宋代の史料文献の解説と部分講読を行う。概説と導入を含め14回程度。 2.後期は西夏・遼・金の史料文献の解説と講読を行う。各時代の解説に各3回もしくは4回を予定。その他は補足解説に充てる。 3.各時代の重要史籍そのものの解説に加え、関連する史料文献、および各種工具書についても論述し、その運用能力を高める。 4.近十年程の史料文献の整理状況とデジタル化の動向に留意し、その解説を行うほか、関連資料文献を講読し、史料文献の現状を把握するように努める。 5.講義形式を導入とするものの、関連史料文献の講読が主軸となる。									
【履修要件】									
本特殊講義では史料文献の講読を伴う予定。その際には現代漢語による講読がもとめられる。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価									
【教科書】									
授業中に指示する 教材が必要となる場合は、当方で用意し配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	関西学院大学 文学部 教授 佐藤 達郎				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	漢六朝時代の官僚制と社会								
【授業の概要・目的】									
前年度に続き、漢代から六朝時代にかけての官僚制を支える規範意識の形成・展開を念頭に置きつつ、前半は当該時代における官僚支配と地域社会・社会通念との関係およびその展開を、後半は官僚制と身分制との関わりをめぐる諸問題を取り上げ、考察する。									
【授業計画と内容】									
以下の内容につき、それぞれ数回ずつに分け、史料読解を進めつつ解説する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 漢六朝期の教について ・ 漢六朝期の地方的規定について ・ 漢代の官秩制とその展開 ・ 漢代の軍事制度と儀礼 ・ 六朝の刑罰をめぐる意識と士庶区分 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席とレポートにより評価する予定。									
【教科書】									
当方でコピーして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)			担当者氏名	東京大学 大学院人文社会系研究科 准教授 吉澤 誠一郎				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	中国ナショナリズムの史的考察								
【授業の概要・目的】									
<p>中国のナショナリズムについて、歴史的に考察する視角を養うことをめざす。 主に清代・民国時代について議論する。それを通じて、中国の特殊な文化的背景によってナショナリズムを説明する論法や安易に何かの理論を適用してわかったつもりになる論法を両方とも批判していくことを意図している。 主に教員による講義の形式で進行させる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>主に次のような話題を扱う予定である。 (一課題あたり半日ほどをあてる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナショナリズムを論じる視角 ・清代の華夷観念はナショナリズムか ・清末における民族と国家をめぐる言説 ・対外ボイコット運動の展開 ・商品宣伝とナショナリズム ・近代中国におけるナショナリズムへの懐疑 ・歴史叙述とナショナリズム 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>授業の最後の部分で時間をとって試験を実施する。 講義の基本的な内容が把握できていることを単位認定の基本とし、加えて自分なりの観点がもてていれば良い評点となるように、設問を工夫するつもりである。</p>									
【教科書】									
<p>使用しない 授業中にプリントを配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 吉澤誠一郎 『愛国主義の創成 ナショナリズムから近代中国をみる』(岩波書店) ISBN: 4000268430</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習I) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 夫馬 進				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	演習
題目	朴齊家『北学議』								
【授業の概要・目的】									
1766年に朝鮮の洪大容が北京で中国知識人と交際し、帰国するやただちに筆談記録『乾浄衕会友録』を公表すると、これは朝鮮知識人と朝鮮史の進展とに大きな影響を与えた。その影響下に書かれたのが、朴齊家『北学議』である。北学とは「北の方、中国に学べ」というスローガンであり、同じ学術グループを実学派の中でも「北学派」と呼ぶ。『北学議』はこの北学派による代表的著作である。『北学議』を訓読で読みながら、古典中国語を解読する訓練を行うとともに、当時の朝鮮知識人の東アジア認識について考える。									
【授業計画と内容】									
まず朴齊家と『北学議』について簡単な解説を加える。おおよそ当時の東アジア国際関係と朝鮮知識人の精神/思想状況を理解しえたところ、『北学議』のうち「通江南浙江商舶議」から始めて重要な議論を読む。もっぱら訓読を中心として読解能力の向上を目指し、時にハングル訳をも参考にする。履修者には、徹底して下調べをしてもらう。									
【履修要件】									
多少なりとも、漢文訓読ができる必要がある。ハングルはとりあえずできなくてもよい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 朝鮮史のみならず、東アジア学術交流史や朝鮮通信使に関心を持つ者の履修を歓迎する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉山 正明				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	演習
題目	アジア諸地域における碑刻・刻文の歴史文献学的研究								
【授業の概要・目的】									
アジア諸地域では、古代イラン・インド、漢代以後の中国などにおいて磨崖刻文や王柱・碑碣類が出現し、以後は中央ユーラシアや韓半島・日本でも見られる。研究室所蔵の拓本も含め、広く利用・解読をめざす。									
【授業計画と内容】									
以下の各テーマのもとに、それぞれ1～3週の割合で、演習方式を採りつつ進める。石に文を刻すという行為の意味とその発生。ヨーロッパを含めた碑刻・刻文・墓誌などの多様な展開と各地域・各時代の特性。東洋史学所蔵拓本の紹介・把握と実際の扱い方や利用・保存。関係する内外各機関とその所蔵拓本ないし拓影、および龐大な石刻目録類や石刻書研究史。中華地域における漢文でしるされた碑碣の類別と展開、とくに神道碑・墓誌銘などの違いや文集。代表的な漢文碑刻のうち、未解読ないし検討不十分のものについての解読・討論。チンギス・カン碑石をはじめ、モンゴル語および蒙漢合刻・複数語合刻碑の読解と習熟。いわゆるモンゴル命令文とその碑刻について。ペルシア語・シリア語・パスパ字碑刻の検討。									
【履修要件】									
未修の言語があるからといって、怖れる必要はありません。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とその時々のレポート									
【教科書】									
使用しない 特になし									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習III) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	『春秋左伝正義』								
【授業の概要・目的】									
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を精読する。漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。									
【授業計画と内容】									
昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による（発表の良否、出席状況などを総合的に評価する）。									
【教科書】									
テキストは担当者が準備する。									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習IV) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 中砂 明德				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	『金石萃編』の唐・五代篇を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>清代の王昶(1725 - 1806)編の『金石萃編』のうち、唐末・五代のものを取り上げて読む。授業のねらいは3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、宋代以後の金石学の流れを把握する。特に清朝の考証家たちの思考回路の癖を理解する。 2、唐末の節度使、五代十国の地方政権の性格を学ぶ。 3、碑文に使われる四六駢儷体に馴染む。 									
【授業計画と内容】									
<p>前期は碑文そのものではなく、それに付された宋～清人のコメントを読み、金石学の流れを把握する。まず『金石萃編』について説明した後、「李晟神道碑」「馮宿神道碑」「圭峰禪師伝法碑」「韓昶自為墓誌銘」「李克用題名」「賜錢鏐鉄券」を取り上げる。</p> <p>後期には、「王審知徳政碑」「鎮東軍牆隍廟記」「羅周敬墓誌銘」「涿州銅柱記」を読む予定である。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。文章の読解に加えて、関連事項の予習ができているかを評価する。									
【教科書】									
プリントして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
データベースを利用すれば、出典調査は随分容易になってきている。そこで節約できる時間を何に使うか、それぞれの工夫を求めたい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習V) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 高嶋 航				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	梁啓超『新民説』								
【授業の概要・目的】									
<p>梁啓超の初期の代表作である『新民説』を精読する。梁啓超の文体は全体的に平易といえるが、近代的な文体・語彙が確立する過程にあるという時代背景のもと、梁啓超が依拠した日本の文献と比較しながら意味を捉えていく必要がある。まずは正確に意味を把握することを目標とするが、テキストから中国と日本、伝統と近代のせめぎあいをぜひ感じて欲しい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>テキストは広く用いられている『飲氷室合集』を採用するが、初出である『新民叢報』版も参照する。今年では四年目であるが、まだ読んでいない前半部（第一節から第九節くらいまで）を読んでいく。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
授業で配布する									
【参考書等】									
<p>（参考書） 狭間直樹編『共同研究 梁啓超』（みすず書房）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>毎回二葉分ほど予習をすること。まずは文意を正確にとることを心がけ、さらに進んで言葉や思想の背景に関心を持ち、自ら探って欲しい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 水野 直樹				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	演習
題目	朝鮮近現代史関係資料の講読								
【授業の概要・目的】									
朝鮮近現代史を学ぶために必要な文献解読の方法を身につけるとともに、資料の探索・調査・収集のための情報・ツールなど（目録類、インターネットリソース）を解説する。									
【授業計画と内容】									
朝鮮近現代史に関わる朝鮮語資料を選んで解読する。後期には、受講者の関心に応じて新聞記事（植民地期から現代まで）を選び、それぞれが解読・解説する形式で進める。									
【履修要件】									
初級程度の朝鮮語を習得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価									
【教科書】									
プリントなどを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://wwwsoc.nii.ac.jp/chosenshi/link/ (朝鮮史研究のためのインターネット利用手引き（朝鮮史研究会）)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 村上 衛				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	演習
題目	在中国イギリス領事報告を読む								
【授業の概要・目的】									
中国近代の社会・経済に関する英文史料を精読する。英文史料を読むことによって外からの目を利用しつつ、中国近代社会経済史に対する理解を深める。さらに、英文史料の扱い方、長所・短所などを理解し、中国近代史を研究するにあたって利用する史料の可能性を広げ、また史料操作能力の向上を図る。									
【授業計画と内容】									
イギリス外交文書のうち、在中国イギリス領事の報告（FO228）を精読する。具体的には、商業紛争、海事関係・華人関係の紛争など、社会・経済に関わる紛争を取り上げる。必要に応じてFO228に含まれている英文史料に対応する漢文史料も読む。なお、史料の内容は非常に細かいものが多いため、講義形式の解説を加え、史料を中国近代史の中に位置づけていく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
テキストはコピーして授業の際に配布									
【参考書等】									
（参考書） 坂野正高・田中正俊・衛藤藩吉編 『近代中国研究入門』（東京大学出版会） 岡本隆司 『近代中国と海関』（名古屋大学出版会） 本野英一 『伝統中国商業秩序の崩壊 不平等条約体制と「英語を話す中国人」』（名古屋大学出版会）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、手書き文書に慣れるまでは予習に時間を要することになるだろう。ただし、扱う英文は主に部下（領事）から上司（公使）への報告であり、特に難解なものではないから、積極的な参加を期待したい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉山 正明				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	演習
題目	『元典章』の精読と関連する諸文献								
【授業の概要・目的】									
モンゴル帝国治下の中華地域にかかわる法制・布告・判例集として名高い『元典章』については、日本・中国などで各種の試みがなされているが、この授業ではひたすらに同書を精読し、事実の鮮明化をはかる。									
【授業計画と内容】									
『元典章』に盛り込まれている内容は、その事項や判例ごとに多様であり、モンゴル治下に包摂されるまでの中華各領域での前史や慣行・あり方によって状況はまちまちとならざるをえない。くわえて、モンゴル国家としての分封・分領体制が基本にあり、それぞれの分領所有王侯の立場によっても、事態はさまざまに変転する。華北と江南のみならず、江淮・陝甘・四川雲南・嶺南・遼東といった地域ユニットごとにも事情は複雑に錯綜し、その時々々の権力構造を十分に把握していないと、益々理解は困難になる。文字の表面だけを追うのは、きわめて危険である。この授業では、そうしたさまざまな要件を踏まえ、さらに同じモンゴル帝国治下のフレグ・ウルスにおける類似の書であるDastur al-Katibの諸写本も参照しながら徹底精読する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) とくにありません									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
とくにありません									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	中国古代史史料学								
[授業の概要・目的]									
楊寛『戦国史料編年輯證』を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討することによって、中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。									
[授業計画と内容]									
従来の戦国史(453-221BC)研究は、戦国後期の秦史に偏しており、戦国前・中期や六国については、資料の絶対量の乏しさに加えて、『史記』紀年の混乱が、歴史的推移の時系列的把握を困難にしてきた。1990年代以降の戦国楚簡の出現は、とりわけ思想史的研究を活発化させているが、かえって文献に対する研究の立ち後れを露呈させている。本演習では、楊寛『戦国史料編年輯證』(上海人民出版社、2001/台湾商務印書館、2002)を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討することによって、中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点により評価する。									
[教科書]									
テキストは担当者が準備する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
演習に並行して受講生の論文作成に向けた研究発表・史料講読をも行う。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	東洋史学(博士論文指導) Oriental History (Dissertation Guidance)			担当者氏名		文学研究科	教授	夫馬	進
						文学研究科	教授	杉山	正明
						文学研究科	教授	吉本	道雅
						文学研究科	准教授	中砂	明德
						文学研究科	准教授	高嶋	航
配当学年	博士	単位数	0	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	
題目	博士論文指導								
【授業の概要・目的】									
博士論文の作成を目指し、このための指導をすることを目的とする。博士後期課程第二年次の学生を主な対象とするが、大学院生あるいは博士後期課程修了者をもできるだけ多く参加させ、より広い知識を習得させ、自らの博士論文作成に活かすことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
博士後期課程第二年次になった学生に、予定している博士論文の構想を述べさせる。四章あるいは五章立ての博士論文になる場合、それらの章の題目とともに論文内容の要旨を述べさせる。かつ重要と考える史料を読ませる。それらをもとに東洋史学専修の全教員がアドバイスを与え、修正すべき所を修正させる。 授業で発表するのは博士後期課程二年次の学生であるが、大学院生および博士後期課程修了者をもできるだけ多く参加させ、自らの論文作成に役立たせる。学生相互間の討論を促し、相互に啓発させるとともにより幅広い知識を習得させる。									
【履修要件】									
発表者はレジュメを用意する。									
【成績評価の方法・基準】									
発表および討論を聞き、その内容をもとに評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
博士論文作成者は、東洋史学専修全教員の誰にでも自由に連絡を取り、それぞれの研究室に質問のために訪れることを歓迎する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

西南アジア史学専修

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉田 豊				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	文献言語学の方法と諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>言語についての記述的な研究の中でも、死語となり文献にだけ資料が残された言語を研究する際の手法や遭遇する問題などについて、講義担当者の日常の研究を例にしながら講義する。また書かれた時代や地域が異なる文献を使って言語の変化を辿る方法についても考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>文献にだけ資料が残された言語の記述的な研究では、残された文献から当該の言語が話されていたときの発音と意味を解明することが、出発点であると同時に到達点でもある。講義担当者が研究している中央アジア出土のイラン系の言語の文献（11世紀以前）を例にして、発音や意味の解明の手法と問題点を解説する。文献を扱う場合には、それが書かれた素材や製本方法、筆記用具や書体の変化に関する配慮も必要になるので、それらが文献の理解とどのようにからんでくるかもテーマになる。また内容を正確に把握するためには文書が書かれた時代の歴史や文化特に宗教に関する知識も必須であり、文書の内容の理解とどのように関わるかについても講義する。</p> <p>講義の中で扱う文献は、主に、ソグド語、コータン語、バクトリア語、中世ペルシア語、パルティア語などであるが、言語接触の問題を考察する場合など必要に応じて、中国語や古代チュルク語など周辺の言語との関係も見ることとする。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期と後期に1回ずつレポートを提出してもらい、それによって評価する。									
【教科書】									
教材はこちらで配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワーは特に設けないが、質問があれば研究室で受け付ける。詳しくは授業のおりに知らせる。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 稲葉 穰				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	特殊講義
題目	イスラームと王権								
【授業の概要・目的】									
近代のイスラーム主義的政治体制のあり方の歴史性と相対性を理解するために、前近代のイスラーム世界における政治権力の実態とその正当化のあり方について歴史的背景を踏まえて理解することをめざす。									
【授業計画と内容】									
前期は講義形式とし、従来の研究を紹介しつつ以下の内容を解説する。 1 ウンマの統治 2 アラブ社会の統治 3 イスラーム社会の統治 4 世俗王権の出現と理論化 後期は、Patricia CroneとLouise Marlowによる研究の会読を基礎に、主要な問題点と研究の進度を理解する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
簡単なレポートおよび平常点にて採点する。									
【教科書】									
P. Crone 『God's Rule』 (Columbia U.P.) L. Marlow 『Hierarchy and Egalitarianism in Islamic Thought』 (Cambridge U.P.) 上記のテキストの関連箇所は別途配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 授業時ハンドアウトを配布する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)			担当者氏名	京都女子大学 文学部 教授 谷口 淳一				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	前近代イスラーム社会における学者と学問								
【授業の概要・目的】									
<p>ウラマー（イスラーム学者）は、イスラーム社会において重要かつ多様な役割を果たしてきた。本講義では、彼らが従事した学問の手法や知識の継承方法および彼らが果たした社会的な役割について、主に16世紀以前の西アジアの事例を通して、理解を深めることを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をおこなう予定である。基本的には講義形式で進めるが、関連文献の読解なども適宜取り入れていきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究史 2. 基本史料 3. イスラーム文化の中の学問 4. ウラマーの起源 5. 学問伝承の方法 リワーヤとイジャーザ 6. マドラサをめぐる諸問題 7. 聴講会 マドラサ外の授業 8. 職業としてのウラマー 9. 地域社会におけるウラマー 10. 支配権力とウラマー 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および年度末のレポートによって評価する。									
【教科書】									
<p>使用しない 必要な資料は適宜配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 谷口淳一『聖なる学問、俗なる人生 中世のイスラーム学者』（山川出版社）ISBN: 9784634474628 上記以外の参考文献については、授業において随時紹介していく。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)			担当者氏名	追手門学院大学 磯貝 健一 国際教養学部 准教授				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	中央アジア・イスラーム法廷文書の研究								
【授業の概要・目的】									
現在ウズベキスタン共和国の領域に含まれる中央アジア各地のイスラーム法廷で、主に19世紀前半～20世紀初頭にかけて作成されたペルシア語、ないし、チャガタイ語の法廷文書の書式と内容を検討する。									
【授業計画と内容】									
【授業の内容】 本講義で使用する文書は、ソ連崩壊後にウズベキスタン各地で収集された各種のイスラーム法廷文書であり、その多くは元々民間に所蔵されていたものを各地の博物館に移送したものである。文書の使用言語はペルシア語、ないし、チャガタイ語であり、一部の文書ではさらにアラビア語が併記される。また、種別の上ではこれらの文書は売買、譲渡担保、権利放棄、ワクフといった契約文書と、訴状、判決文、ファトワなどの裁判関連文書とに大別される。今年度は前期は譲渡担保文書、後期は金銭ワクフ文書、および、権利放棄文書をそれぞれ購読する。									
【授業の目標】 本講義の目標は、手書きの文書を読解する力を身に付けることである。									
【授業の方法】 文書の原文講読にあたっては、新たな種類の文書に取り掛かるたびに、まずは磯貝が活字体に翻刻した文書のテキストを受講生に示し、その書式と内容を説明する。そのうえで、次の週から同種の文書の手書きテキストを受講生に読解させるという方式を採用する。									
【授業計画】									
《前期》									
<ul style="list-style-type: none"> ・中央アジアのイスラーム法廷文書について(1週) ・譲渡担保文書の書式、内容の説明(1週) ・ブハラ、サマルカンドの譲渡担保文書(4週) ・フェルガナ盆地の譲渡担保文書(4週) ・ホラズムの譲渡担保文書(4週) 									
《後期》									
<ul style="list-style-type: none"> ・金銭ワクフ文書の書式、内容の説明(1週) ・ホラズムの金銭ワクフ文書(4週) ・権利放棄文書の書式、内容の説明(1週) ・ブハラ、サマルカンドの権利放棄文書(4週) ・ホラズムの権利放棄文書(4週) 									
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----									

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

文書の原文講読を主たる内容とするので、ペルシア語、チャガタイ語、アラビア語の内いずれか一つの基礎を身に付けていることが望ましい。但し、これらの言語を習得していなくとも、歴史文書に興味のある者であれば受講を歓迎する。特に、国史、東洋史、西洋史を専門とする受講生には、原文講読を担当させることはしないかわりに、各自の専門分野に即した意見を求めたい。

【成績評価の方法・基準】

通常の授業での講読担当回数、ないし、授業中の発言内容を勘案して平常点を決定する。さらに、毎学期末にレポートを課し、評価の決定材料とする。評価における平常点とレポートの比重は1:1とする。

【教科書】

授業中に配布するレジюмеを教科書とする。

【参考書等】

(参考書)

小杉泰・江川ひかり(編)『イスラーム 社会生活・思想・歴史』(新曜社) ISBN:4-7885-1005-7 (本書163-170頁にイスラーム法廷の裁判についての簡単な解説がある。)

柳橋博之(著)『イスラーム財産法の成立と変容』(創文社) ISBN:4-423-73087-1 (各種契約文書を購読する際、参考とすべき文献。)

Joseph Schacht 『An Introduction to Islamic Law』(Clarendon Press) ISBN:0-19-825473-3 (イスラーム法全般に関する古典的な教科書。)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

毎回の講読は担当者を決めて行うが、担当者はもとより、それ以外の者も自身の語学力に応じて予習をしておくこと。上記シラバスの内容からは相当に厳格な授業であるかのような印象を受けるかと思うが、実際の授業は楽しい雰囲気のもとで行いたい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)			担当者氏名	京都女子大学 文学部 教授 川瀬 豊子				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	アカイメネス朝ペルシア帝国								
【授業の概要・目的】									
<p>前6世紀半ば古代オリエン特世界を統一し、史上初の「世界帝国」を実現したアカイメネス朝ペルシア帝国を取り上げる。同時代のギリシア人は、この帝国を「自由の敵」と喧伝、その主張は以後も無批判にヨーロッパ世界で踏襲されてきた。本講義では、「世界帝国」としての統治システムの実態を明らかにするとともに、ギリシアとの「交流」も含め、「多文化共生」の可能性について考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
第1週：	オリエンテーション&アカイメネス朝研究史料								
第2週：	オリエン特史外観&文字の考案								
第3週：	アカイメネス朝ペルシア帝国の成立								
第4～5週：	ダレイオス1世の諸改革 1) 税制改革・サトラプ制								
第6～7週：	2) コミュニケーション・システムの整備・拡充								
第8週：	スライド：ペルセポリス								
第9～11週	王室管轄下の女性労働者								
第12週	宮廷の女性～政治抗争の場としてのハーレム～								
第13～14週	ギリシア人とアカイメネス朝ペルシア帝国								
第15週	定期試験								
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験では、因果関係を正しく理解し、対象を比較・相対化することができるかを問う。定期試験80%、レポート20%。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)			担当者氏名	東海大学 文学部 教授 菟原 卓				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	ファーティマ朝史の研究								
【授業の概要・目的】									
<p>シーア派の一分派であるイスマーイール派が建設したファーティマ朝（909～1171年）の歴史を講述する。王朝初期の北アフリカ支配時代については、カリフ権力や宮廷に焦点をあて、エジプトに本拠を移して以後については、行政制度に焦点をあてる。これは、同王朝の歴史の主役が初期においてはカリフであり、エジプト時代は制度であったと見ることができるからである。</p> <p>従来のいわゆるイスラム世界史はスンナ派を中心に叙述されるため、受講生がファーティマ朝の歴史についての情報に接する機会は少ないと思われる。本授業を通じて受講生の知見の空白を埋めることを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
第1回	ガイダンス								
第2回	シーア派とイスマーイール派について								
第3回	王朝成立直後の教宣の一齣								
第4回	カリフ=マフディーによるアブー・アブドッラーの粛清								
第5回	Al-Majalis wa al-Musayaratに見られるカリフ=ムイッズ								
第6回	ジャウザルの伝記に見るファーティマ朝宮廷の内情								
第7回	ファーティマ朝貴顕の商業活動								
第8回	エジプトにおけるファーティマ朝前半期のワズィール職								
第9回	エジプトにおけるファーティマ朝後半期のワズィール職								
第10回	ファーティマ朝のディーワーン 1								
第11回	ファーティマ朝のディーワーン 2								
第12回	ファ・ティマ朝前半期の書記規範								
第13回	ファーティマ朝時代の書記の分類と職掌								
第14回	ファーティマ朝国家論								
第15回	まとめ								
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 井谷 鋼造				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	演習
題目	ペルシア語古典史料研究								
【授業の概要・目的】									
<p>モンゴル帝国支配時代のアナトリア（ルーム）で1280年頃に書かれたペルシア語史料である、イブン・ビービーの作品を写本の写真版と冒頭部分から始まる全体の約3分の1の内容を含んだ校訂テキストを精読・検討し、歴史研究の普遍の基礎である文献学的研究をおこない、内容を歴史的に検討する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Ibn Bibi, al-Awamir al-Ala'iyā fi al-Umur al-Ala'iyā, Ankara, 1956. ルーム・セルジューク朝の宮廷で書かれた本書は、13世紀を中心としたアナトリアの歴史を研究するための最も重要な史料である。モンゴル支配時代の西アジアの歴史を正確に把握するためにも必ず参照しなければならない文献である。トルコ共和国イスタンブール市内の図書館に所蔵される、現存唯一の写本の写真版が1956年に出版されており、冒頭部分から始まる全体の約3分の1の校訂テキストが1957年に刊行されている。この演習ではこれらの原文を精読していく。韻文やアラビア語資料からの引用も多く、解読には時間がかかるが、同時代の歴史資料を扱って歴史研究を行なう際のモデルとなるように、演習の授業を行ないたい。</p>									
【履修要件】									
<p>近世ペルシア語文法の基礎を習得していること。アラビア語史料、文法についての基礎知識があることが望ましい。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>参加者の出席状況と講読担当の内容によって評価する。</p>									
【教科書】									
<p>Ibn Bibi; 『al-Awamir al-Ala'iyā fi al-Umur al-Ala'iyā』 (Ankara, 1956.)</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 授業中に紹介する 必要な情報は授業中に指示する。</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p>									
<p>特になし。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 久保 一之				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	演習
題目	チャガタイ・トルコ語文献入門								
【授業の概要・目的】									
ティムール朝後期に確立された中央アジアの古典トルコ語、チャガタイ語の文献を扱う技能を高めることを目的とする。トルコ語文献やトルコ語語彙全般に習熟することも目的としている。									
【授業計画と内容】									
まずは、現代トルコ語との違いに注意しながら、文法を解説する（受講生の顔ぶれによっては省略）。ついで著名なチャガタイ・トルコ語作品（バーブル著『バーブル・ナーマ』、ムハンマド・サーリフ著『シャイバーニー・ナーマ』、アブルガーズィー著『トルコ族の系譜』、ナヴァーイーの散文作品など）の読み易い部分を講読する。その際、古典ペルシア語の影響や語句の類似性に注意する。余裕があれば、オスマン・トルコ語文献との比較も行いたい。									
【履修要件】									
現代トルコ語とペルシア語の基礎的知識を持ち合わせていること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と平常点による。									
【教科書】									
授業の際にプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） J. Eckmann 『Chagatay Manual』（Indiana University, Bloomington）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	京都女子大学 文学部 教授 谷口 淳一				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	演習
題目	アラビア語古典史料演習								
【授業の概要・目的】									
本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。活字本校訂テキストだけでなく写本（写真版）を活用して史料を読む能力を養う。また、固有名詞や用語、引用について調査し、史料の記述内容を深く理解することを目指す。									
【授業計画と内容】									
Zayn al-Din al-Ma`bari al-Malibari (1583年以降没) 著、Tuhfat al-mujahidin fi akhbar al-Ultghaliyinを読む。本書の内容の中心は、15世紀末のポルトガル人のインドへの到来とその後に生じた事件の1583年に至るアラビア語年代記であるが、マラバル地方へのイスラームの伝播に関する説話やヒンドゥー教徒の慣習についての記録も含まれる。テキストとしては、1898年にDavid Lopesが出版した校訂本を用い、写本の写真版を参照しながら読み進める。初回にテキストの解説をおこない、第2回より読解を進めていく。									
【履修要件】									
アラビア語（フスハー）文法を習得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点により評価する。									
【教科書】									
Zayn al-Din al-Ma`bari (Ed. David Lopes) 『Historia dos Portugueses no Malabar』 (Lisboa: Imprensa nacional) 授業で直接扱う部分については、複写物を配布する。その他の部分については、受講生各自で適宜参照されたい。テキストに指定した文献は、下記のURLで参照することができる。 http://www.archive.org/details/historiadosport00lisbgoog									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
予習に際しては、テキストのアラビア語を日本語に訳すだけでなく、そこに含まれる固有名詞や用語、引用の出典についても調べてくること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉田 豊				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	演習
題目	古代・中世イラン語文献演習								
【授業の概要・目的】									
<p>古代及び中世のイラン語文献を読みながら言語研究上の諸問題，および文献に書かれた内容（歴史宗教）について議論する．古代語としては主にアヴェスター，中世語としてはソグド語文献を読む文献言語学の手法を体得するとともに，イラン系の言語の構造と，イスラム化以前のイランの文化や歴史に触れることが本授業の目的である．</p>									
【授業計画と内容】									
<p>最初にイラン系の言語や文献の概要について解説する．その後は隔週で古代語と中世語を交互にとりあげる．アヴェスターでは，文法事項を確認するとともに，当該の文法事項を含む少し長めのパッセージを読んでいく．その際，宗教的な内容についても考察する．ソグド語文献では，マニ教文献や仏教文献を，文法を確認しながら解読していく．これらは8世紀から10世紀にかけて書かれた文献であるが，内容の理解にはマニ教や仏教についての知識も必要になってくるので，その方面についても解説する．さらに文献を使った言語研究の方法についても論じる予定である．</p>									
【履修要件】									
<p>事前にこれらの言語について一定の知識を持っているか，授業とは別に独習しながらそれらの知識を補う用意のある学生を対象とする．</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>出席と授業への貢献など平常点で評価する．</p>									
【教科書】									
<p>授業中に配布する．</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワーは特に設けないが，質問があれば研究室で受け付ける．詳しくは授業のおりに知らせる．</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 井谷 鋼造				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	講読
題目	現代トルコ語文法・講読								
【授業の概要・目的】									
現代トルコ語文法の基礎を学び、その後現代トルコ語の文献の講読をおこなう。									
【授業計画と内容】									
トルコ語は西暦7世紀以降現代まで長い歴史を有し、ウイグル語やウズベク語などユーラシアの広範囲で使用されるテュルク系諸語中の代表的で、最も話者数の多い言語である。この授業では単に現代トルコ語の文法を学ぶだけでなく、歴史資料としてのオスマン・トルコ語の文献を読解できる能力を身につけられるような講読をおこなう。歴史資料が書かれたオスマン・トルコ語は現代トルコ語とは大きな違いがあり、アラビア語やペルシア語の語彙をふんだんに用い、文法的にも大きな影響を受けている。こうした歴史資料を解読するためには、トルコ語以外の言語の知識が不可欠であり、実際の歴史資料を材料にトルコ語以外の言語についても知識を深めていきたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
参加者の出席状況と講読担当の内容をもとに評価する。									
【教科書】									
勝田茂 『トルコ語文法読本』 (大学書林)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する 必要な情報は授業中に指示する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 久保 一之				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	講読
題目	ペルシア語講読								
【授業の概要・目的】									
現代ペルシア語文法を終えた者を対象に、中・上級のペルシア語講読能力をやしなう。現代ペルシア語だけでなく、様々な時代の近世ペルシア語テキストを取り上げ、時代による語彙・文体の違いを実感することも、重要な目的である。									
【授業計画と内容】									
現代ペルシア語ならびに近世ペルシア語のテキストを取り上げ、以下の講読を行う。 (1) 文法の復習をかねた初級現代ペルシア語講読 (2) 中・上級現代ペルシア語講読 (3) 近世ペルシア語(古典ペルシア語)選読 受講生は毎回予習が必要である。									
【履修要件】									
現代ペルシア語文法の学習を終えていること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と平常点による。									
【教科書】									
授業の際にプリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) A.K.S. Lambton 『Persian Grammar』(Cambridge University Press) 黒柳恒男 『ペルシア語四週間』(大学書林)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)		担当者氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖					
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	講読
題目	アラビア語講読								
【授業の概要・目的】									
スーフイズム・タリーカ・聖者信仰研究に必要な資料について、基礎的な知識を得るとともに、それらを読みこなす訓練をする。									
【授業計画と内容】									
上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、年に1～2点程度の資料を取り上げ、丹念に読み込む訓練を行う。 講読の対象としては、以下のような書目が挙げられる。 スラミー『スーフィー列伝』（著名なスーフィーの生涯を述べたもの） ガザリー『宗教諸学の再興』（代表的なスーフイズム理論書） アブドゥルカーヒル・スフラワルディー『修行者たちの作法』（スフラワルディー教団の修行規則を書いたもの） 1回目の講義において、こういった書籍のなかから何を選んで読むかを、相談して決める。									
【履修要件】									
アラビア語の初級文法を習得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点によって評価する。									
【教科書】									
テキストは当方で用意し、教室で配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 佐藤次高編『イスラームの歴史1』（山川出版社）ISBN:978-4-634-43141-6（（第5章 東長靖「スーフイズムの成立と発展」参照。）） 小杉泰編『イスラームの歴史2』（山川出版社）ISBN:978-4-634-43142-3（（第3章 東長靖「スーフィー教団の革新と再生」参照。）） 山内昌之・大塚和夫編『『イスラームを学ぶ人のために』』（世界思想社、1993年、69-85頁）（（I-4 東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。）） ティエリー・ザルコンヌ『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』（創元社）ISBN:978-4-422-21212-8（（豊富な写真が特徴。東長靖監修。））									
（関連URL）									
http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/tonaga/ (東長靖のHP) http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kias/ (京都大学イスラーム地域研究センターはこちら)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用なども、必ず出典を確認してくること。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アラブ語（初級）（語学） Arabic			担当者氏名	国立民族学博物館 教授 西尾 哲夫				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	語学
題目	アラブ語								
【授業の概要・目的】									
現代アラビア語（アラブ語）の初級程度の文法を習得することを目標にする。また基本的な会話ができることをめざす。									
【授業計画と内容】									
アラビア語の歴史やアラビア語を使用する社会ならびにイスラームとの関係について簡単にふれたのち、アラビア語を学習する上で必携すべき辞書等の参考文献について紹介する。アラビア文字の習得から初級文法について講義する。またアラビアンナイト等のアラブ文学についてもアラブ文化理解の一環として紹介する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況ならびに平常点による。									
【教科書】									
こちらで配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 西尾哲夫・師岡カリマ・エルサムニー 『CD版エクスプレス エジプト・アラビア語』（白水社） 西尾哲夫 『アラビアンナイト 文明のはざまに生まれた物語（岩波新書）』（岩波書店） 西尾哲夫 『世界史の中のアラビアンナイト』（NHK出版）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	イラン語（初級）（語学） Iranian			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 教授 森 茂男				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	語学
題目	イラン語（初級）								
【授業の概要・目的】									
イラン諸語の中でもっとも多くの人々によって用いられている現代ペルシア語の文法の基礎を習得する。基礎とはいえペルシア語の読解には必要十分な内容である。同時に古典ペルシア語文献を読みこなす基礎力を身につける場としたい。									
【授業計画と内容】									
授業は、教科書にしたがって授業一回につき一課半ほど進む。10月の半ばには文法を終了し、その後は古典をも含む平易なテキストを使って読解力の基礎を身につける。予定している読解用のテキスト：現代語による説話の再話から二話、『タバリーの歴史（ペルシア語訳）』からイスカンダル（アレキサンダー）の章、アッタール『神秘主義者列伝』の一部。古典ペルシア語文献は語彙、文法のいずれも平易な部分を選読する。なお、テキストは受講者の希望によって変更することもある。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
原則として、試験は特に行わず、出席点と平常点によって評価する。									
【教科書】									
森茂男『ペルシア語初級文法』（最初の授業時に配布する。） 後期途中から始める読解用のテキストは10月のはじめにプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 黒柳恒男『現代ペルシア語辞典』（大学書林）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

【大学院共通科目】

授業科目名 <英訳>	シュメール語（初級）（語学） Sumer			担当者氏名	総合地球環境学研究所 森 若葉 上級研究員				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	語学
題目	シュメール語（初中級）								
【授業の概要・目的】									
<p>古代メソポタミアで話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末から三千年間にわたる数多くの資料を残している。この言語は、楔形文字で記され、複雑な接辞体系で知られている。本授業は、まだあきらかになっていない部分もあるシュメール語文法について概説をおこない、その古代の資料を実際に講読することを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期は、シュメール語文法の概説およびその書記体系である楔形文字の成立としくみについて解説を行う。その間、適宜簡単なシュメール語資料を読む予定である。 後期は、シュメール語資料の講読を中心におこない、資料ごとに文法の解説、問題点の指摘を行う。また死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点、系統不明の古代のシュメール語の解読がどのようにおこなわれたのかについてもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキスト等である。なお、後期後半に楔形文字実習を予定している。</p>									
【履修要件】									
楔形文字実習の際、粘土等を用意してもらう必要がある。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および学年末レポートを予定。									
【教科書】									
なし。プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ヘブライ語(語学) Hebrew			担当者氏名	非常勤講師 手島 勲矢				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	古典ヘブライ語初級文法								
【授業の概要・目的】									
<p>聖書テキストおよびラビ文献を声に出して読むことができることを達成目標に初級ヘブライ語文法を概説する。声に出して読めるための基礎情報（文字と母音記号）および言葉の種類と形態認識の能力の獲得を目指す。テキストをベースに文法情報から意味を引き出す解釈基礎の習得にも努力する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前半は、アルファベットと母音記号などのマソラ記号を学ぶことから始めて、名詞、形容詞、前置詞、動詞の分詞形について学ぶ。次に、名詞や前置詞につく人称接尾辞の変化、規則動詞のカル形の人称変化、動詞の態などについて学ぶ。後半は復習から始めて、不規則動詞の形態変化を学びながら、聖書およびユダヤ教文献から選んだテキストをベースにして文法情報を確認しながら解釈の可能性の思考に慣れ親しむ。読解テキストは、創世記、出エジプト記、申命記、ヨシュア記、詩篇、コヘレト等からのもの数節、またミシュナー・アボット他から選んだ数節。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点評価（前半小テスト(20%)と小クイズ（10%）と後半レポート（70%）の合計）狙いは、アレフベートと母音記号を組み合わせる能力、品詞を分類理解できる能力、辞書でテキストの言葉の意味を見つける能力、意味の可能性（複数）を見出す能力などの目標達成度を見るもの。</p>									
【教科書】									
<p>授業中に指示する 教科書に加えて補助的プリントを配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	現代インド語（ヒンディー）(語学) Hindi	担当者氏名	北海道大学 スラブ研究員センター 研究員 小松 久恵						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	語学
題目	現代インド語（ヒンディー語）								
【授業の概要・目的】									
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初頭文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通してインド社会に触れ、急激に変化を遂げる現代インド社会への理解を深める。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。									
【授業計画と内容】									
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。幸い、ヒンディー語は文法が簡単で、日本語に極めてよく似ているので、日本人学習者にとり習得することはそれほど困難ではないであろう。教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語に触れ、同時にインドの社会風俗に対する知識を深める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（40％）と筆記試験（期末30％、年度末30％）によって評価する。									
【教科書】									
町田和彦『ニューエクスプレス、ヒンディー語』（白水）ISBN:ISBN978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）									
【参考書等】									
（参考書） 辞書については初回の授業で紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit (2H)			担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	語学
題目	サンスクリット初級文法(2時間コース)								
[授業の概要・目的]									
<p>古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけさせることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>文法事項の解説と練習問題による読解演習とを平行して授業を進める。扱う主な文法事項は：</p> <p>サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3週) 名詞・形容詞曲用(第4-9週：母音語幹、第10-15週：子音語幹) 複合語、代名詞、数詞(第16-17週) 動詞現在活用(第18-19週：第1種活用、第20-23週：第2種活用) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞ほか(第24-28週) まとめ(第29-30週)</p> <p>授業の進行は学習の理解度に応じて調整する場合がある。</p>									
[履修要件]									
予備知識は必要ない。幅広い専攻からの受講を歓迎する。									
[成績評価の方法・基準]									
平素の成績と筆記試験による。特に平常点(出席率および宿題)を重視する。									
[教科書]									
上村勝彦・風間喜代三『サンスクリット語・その形と心』(三省堂) ISBN:978-4-385-36465-0									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
毎回宿題を課す。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(博士論文指導) West Asian History (Dissertation Guidance)	担当者氏名	文学研究科 教授 井谷 鋼造 文学研究科 准教授 久保 一之						
配当学年	博士	単位数	0	開講期	通年集中	曜時限	集中講義	授業形態	
題目	博士論文作成のための指導と助言								
【授業の概要・目的】									
授業として特定の曜日・時限に開講しない。博士論文を作成しようとする大学院学生が教員との相談の上、適宜論文作成上の指導と助言を受ける。									
【授業計画と内容】									
年度中1回ないし2回、博士論文を作成しようとする大学院生は、教員と相談の上、適宜論文の内容、及び形式に関して、教員の指導や助言を受けること。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
成績評価はしない。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

西洋史学専修

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 南川 高志				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	特殊講義
題目	ローマ帝国衰亡史の総合的研究								
[授業の概要・目的]									
<p>世界史上において、大国の興亡、とりわけその衰退について最もよく語られてきたのは古代のローマ帝国の場合であろう。ローマ帝国は後の西洋史上の帝国のモデルとされたと同時に、その衰亡をめぐって数多くの叙述や原因考察がおこなわれてきた。それらは、単に学者の見解にとどまらず、語る者の時代を反映した結果でもあった。この講義では、そうした各時代、とりわけ20世紀後半以降のローマ帝国衰亡史に関する叙述や見解を紹介・検討し、21世紀初めの現在における『衰亡史』を語る見地を確認することから始める。そして、帝国の最盛期に関する独自の分析を踏まえて、5世紀初めにおけるローマ帝国の西方支配の崩壊までを論じつつ、「ローマ帝国の衰亡」とは何であったのかという古くて新しい問題に解答を与えたい。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>本講義では、以下のテーマについて、2週～4週程度の講義をする予定である。</p> <p>(1) 「ローマ帝国衰亡史」論の歴史 (2) 21世紀の「ローマ帝国衰亡史」とは如何にあるべきか (3) 最盛期のローマ帝国 (4) 紀元3世紀のローマ帝国 (5) コンスタンティヌス大帝の時代 (6) 「背教者」ユリアヌスのローマ帝国 (7) テオドシウス大帝のローマ帝国 (8) ローマ帝国の西方支配の終焉</p> <p>本講義の担当者は、ローマ帝国を安易に地中海帝国と同一視する一般の見解を批判して、アルプスの北の広大な世界を重視しながらローマ帝国の歴史と本質を見直す研究を進めてきたが、その成果を生かした新しい「ローマ帝国衰亡史」を説明することが、本講義の第1の課題である。しかし、それにとどまらず、イタリアの事情の解説も組み込み、またヨーロッパ中世史との連関も説明できるように試みたい。</p>									
[履修要件]									
<p>受講生が古代ローマ史に関する専門的な知識や古典語の読解力を持っていることを受講の前提とはしていません。歴史の見方、語り方、解釈に関心のある方の受講を歓迎します</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>定期試験(筆記)で評価します。</p> <p>ただし、筆記試験にレポート的な要素も組み込み、講義内容の理解度だけでなく、講義に基づいて受講生各自が調査検討した成果の報告の両方を評価の対象としたいと考えています。</p> <p>試験方法の詳細は授業で説明します。</p>									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
<p>(参考書)</p> <p>参考書については、授業中に随時紹介します。</p> <p>なお、ローマ帝国がどのような歴史的存在であったかを、近年の研究成果を踏まえて要点をごく簡</p>									
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----									

西洋史学(特殊講義)(2)

――に、しかしきわめて興味深く書いた下記の書物を、本講義の全体にわたる参考書としてあげておきます。

クリストファー・ケリー(藤井崇訳)『ローマ帝国』(1冊でわかるシリーズ)、岩波書店、2010年刊行。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

授業では、資料については、古代ギリシア語やラテン語の文書は和訳して紹介し、考古学的な遺物や遺跡の紹介のために適宜パワーポイントスライドを使用します。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 小山 哲				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	複合国家としての近世ポーランド・リトアニア共和国 ルブリン合同からポーランド分割まで								
【授業の概要・目的】									
<p>19世紀に国民国家が成立する以前のヨーロッパにおいては、歴史的背景や法・政治制度を異にする複数の地域が、それぞれの自立性を保ちながら、一人の君主または特定の王朝の権威のもとに結びついているような複合的な国家形態がむしろ一般的であった。近世のポーランド・リトアニア共和国もまた、ポーランド国王がリトアニア大公を兼ねる典型的な複合国家であったが、貴族の主導する議会が共和国全体を統合するうえで重要な役割を果たした点に特徴がある。</p> <p>本講義では、ルブリン合同（1569年）以降の時代を中心に、ポーランド・リトアニア合同にかんする研究史上の論点を整理し、制度と実態について解説する。本講義をつうじて、ヨーロッパ東部における国家形成にかんする歴史的な理解を深めることを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>本講義では、下記の内容について、2～4時限ずつ講述する。(1)複合国家論とポーランド・リトアニア史研究 研究史概観 (2)「両国民の共和国」 ルブリン合同（1569年）とその帰結 (3)リトアニア側からみた「合同」（その1） オジェホフスキ＝ロトウンドウス論争 (4)リトアニア側からみた「合同」（その2） A.S. ラジヴィウの日記から。(5)18世紀後半の国制改革における「合同」問題。前期には、ポーランド・リトアニア合同の研究史を整理し、「ルブリン合同」の成立の過程と、その前後の「合同」をめぐる議論について考察する。後期には、17世紀における「合同」の実態と、18世紀後半のポーランド・リトアニア関係の変化について解説する予定。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
講義内容の要点にかんする理解度を確認するために筆記試験を行ない、その結果によって評価する。									
【教科書】									
使用しない 授業中にプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 金澤 周作				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	近代イギリスにおける海事史の諸問題								
【授業の概要・目的】									
近年、新たに研究が進んできた近代イギリスの海事史（maritime history）の成果に学び、イギリスと海の関係を経済史や歴史とはやや異なる視点からとらえ直す。									
【授業計画と内容】									
よく知られているように、16世紀以来、イギリスは海洋帝国として繁栄した。ところが、軍事的勝利や世界貿易、植民地獲得といった「栄光」の光陰には、海と結びついたさまざまな難問と苦闘する人々がいた。この講義では、もうひとつの歴史を紡いできたかれらの営為とその意味を検討する。前々年度、前年度の講義の続編になるが、今年度から受講しても理解に支障はきたさないよう配慮する。前年度は海軍と私掠の問題に焦点を当ててきたが、今年度はとくに海難に着目していきたい。									
以下の諸論点について、それぞれ2～3回の講義を使って論じる。 (1) 海事史研究の意味と射程 (2) 海軍 (3) 私掠 (4) 海運 (5) 海難 (6) 海難救助 (7) 海難予防 (8) 衝突回避 (9) 国際海難予防規定 (10) 海と港 (11) 海と科学 (12) まとめと展望									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（40％）と学年末の筆記試験（60％）。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
内容に関する質問は講義後の時間に受け付ける。別の日時に面談等を希望する者は講義の際に申し出てほしい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	グルジア人と戦争								
【授業の概要・目的】									
<p>19世紀後半から第一次世界大戦までの帝政ロシア支配下のザカフカス(トランスコーカサス)史を、グルジア中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やグルジア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。ザカフカスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出し、それはグルジア人などの現地住民にもフィードバックされた。治安の悪さで悪名高いザカフカスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では戦争・反乱とグルジア人の関わりを主軸に、帝国統治と暴力について考えたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の内容について、各2-3回の講義を行う予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション：日露戦争と匪賊 ・クリミア戦争 ・ヴォロンツォフ改革 ・チェチェン反乱 ・住民移動 ・グルジア文学の興隆 ・露土戦争 ・社会主義運動の浸透 ・「ムスリム・グルジア人」 ・義賊から革命家へ ・1905年革命と民族衝突 ・イラン立憲革命と義勇軍 ・バルカン戦争の余波 ・第一次世界大戦 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートおよび中間レポートによる。									
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----									

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワーは、金曜4限とする。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 王寺 賢太				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	特殊講義
題目	ルソー 『人間不平等起源論』を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>今年、生誕三百年を迎えるジャン＝ジャック・ルソーの『人間不平等起源論』（正式な題名は『人間観の不平等の起源と基礎についての論考』1755）は、自然状態と社会状態の対比を通じて、人間の自己自身への関係（自己愛）、性関係（性愛、家族）、経済的關係（所有・労働・分業）、政治的關係（国家・統治・支配／被支配）の存在条件を問いただそうとする著作である。社会はどのように成立し、また社会のなかにあるとはどのような事態なのか。またその社会全体の変動としての歴史はどのように成立し、どこに向かうのか。そうした大きな問題設定のなかで、ルソーは、経済的・政治的な不平等を、社会状態と切り離せない問題として提起する。本講義では、この『人間不平等起源論』を精読し、まずこの著作を18世紀の思想史のなかで理解することを心がける。また、現代政治哲学におけるルソーの思想の受容も踏まえつつ、その現代的な意義についても議論したい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業では、ルソーの『人間不平等起源論』の叙述にそって、順時、以下のようなテーマをあつかう。 自然状態の仮説（ホッブズ、プーフェンドルフ、ロック、モンテスキュー、ルソー） 動物と人間、人間の身体的な素質（自己保存、あわれみ、完成可能性）、情念と愛、家族の成立、自己愛の成立、道徳の成立、農業社会における労働の成立、所有権と利害の起源、戦争状態、社会の成立、国際関係、統治関係の成立、不平等の拡大。また、適宜、現代のルソー研究や、現代政治哲学（マルクス主義、全体主義批判、シュトラウス、ロールズ、共和主義、フランクフルト学派、フェミニズム）におけるルソー受容について紹介する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
評価は授業への出席と発表に基づいて行なう。									
【教科書】									
Jean-Jacques Rousseau 『Discours sur l'origine et les fondements de l'inegalite parmi les hommes』（G）（Blaise Bachofen et Bruno Bernardi (ed).）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	関西大学 文学部 朝治 啓三				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	中世英仏関係史								
【授業の概要・目的】									
<p>従来の一国完結史観やイングランド中心史観に基づいて、イングランドがガスコーニュを支配したために、百年戦争が生じたと説明したり、そこを失ったために、却ってイングランドは身軽になり発展した、という説明が、我が国の教科書ではまかり通ってきた。本講義ではこのような説明の問題点を指摘し、欧米の研究成果に基づいて、より合理的な歴史像を描くことを目的とする。史料購読を含む。受講生は、通説を疑うことの重要性を学ぶであろう。アンジュー帝国とその遺産が持つ歴史的意義、百年戦争の英仏関係史の中での意義を史料に基づいて確認できる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1．最初に、イングランド中世国制史を基軸にして英仏関係史を、ノルマン征服から百年戦争終結まで概説する。</p> <p>2．ノルマン朝4代のノルマンディとイングランド統治の歴史的意義を史料に基づいて確認する。</p> <p>3．アンジュー帝国の歴史的意義を、英仏関係史の視点から論点を抽出して詳述する。</p> <p>4．マグナ・カルタの成立がプランタジネット家によるイングランド統治を如何に基礎づけたかを、史料購読を通して詳述する。</p> <p>5．13世紀前半の英仏関係を、カペー家とプランタジネット家による領有と統治の構造解明により解説する。</p> <p>6．ヘンリ3世時代の英仏関係を1259年のパリ条約を中心に解説する。</p> <p>7．エドワード1世によるブリテン島統一事業の国制史的意義、英仏関係史の中で考察する。</p> <p>8．百年戦争前半の英仏関係史を論点ごとに詳述する。</p> <p>9．百年戦争後半の英仏関係史を、ヘンリ6世による英仏王国統合問題を中心に論じる。</p> <p>10．百年戦争終結の英仏関係史上の意義を論じる。</p> <p>各テーマ3回を割り当てる予定。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業中に間欠的に実施する小レポートおよび、期末レポートによって成績評価する。英文史料を購読するので、出席して訳す作業が必須であり、その点も成績評価に加味する。									
【教科書】									
<p>朝治啓三他編 『中世英仏関係史』（創元社）（2012年4月刊行予定）</p> <p>川北稔編 『世界各国史 イギリス史』（山川出版社）（既刊 第9刷）</p> <p>『中世英仏関係史』は4月刊行の予定です。授業中に購読用のプリントを配布します。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>朝治啓三他編 『西欧中世史 下』（ミネルヴァ書房）</p> <p>朝治啓三 『シモン・ド・モンフォールの乱』（京都大学学術出版会）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>高校世界史を履修していなくても履修は可能です。英語力は必須です。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 小関 隆				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	イギリス史における第一次大戦(その4) : 「未完の戦争」とアイルランド								
【授業の概要・目的】									
2008年度以来の継続となるが、今年度もイギリス史における第一次大戦について考える。第一次大戦は多くの意味で「未完の戦争」「うまく終わりそこなった戦争」であり、この戦争を理解するうえでは、戦間期や第二次大戦との連続性の視点がきわめて重要になる。大まかには、前期の授業で戦後の新しい国際秩序の構築過程を概説し、この概説を踏まえて、後期の授業で大戦中から1920年代にかけてのアイルランド問題の展開を検討する。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、各々1～4回程度の授業を行う予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「未完の戦争」としての大戦 2. パリ講和会議 3. ヴェルサイユ条約 4. 国際連盟 5. ロカルノ条約 6. イースター蜂起 7. アイリッシュ・コンヴェンション 8. 独立戦争 9. アイルランド自由国と内戦 10. その他 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
試験ないしレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
授業中に紹介する 小関隆『徴兵制と良心的兵役拒否：イギリスの第一次世界大戦経験』（人文書院、2010年）をはじめ、人文書院刊のシリーズ「レクチャー：第一次世界大戦を考える」全6冊から、1冊でも2冊でも読むことが望ましい。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
予習よりも復習をお願いします。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	立命館大学 文学部 准教授 森永 貴子				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	近世・近代の商品と流通								
【授業の概要・目的】									
本講義では世界の市場が接近していった重要局面である近世から近代（16 - 19世紀）を対象とし、北ヨーロッパ、ロシアから清朝中国を含むユーラシア地域の商品流通と、それを担った商人たちが同時代の社会と国家に及ぼした影響を中心に解説する。具体的にはオランダの穀物貿易とバルト海貿易、ロシアと清朝中国の毛皮貿易、茶の世界商品化の過程を追い、貿易が果たした役割について考える。									
【授業計画と内容】									
第1週 オリエンテーション・導入 第2 - 3週 母なる貿易と近代経済（近世のオランダ） 第4 - 6週 「バルト海帝国」の形成（スウェーデンと軍事財政国家） 第7週 フランスの植民地物産（カリブ海と奴隷貿易） 第8-9週 英露貿易（白海とバルト海） 第10-11週 露清貿易（毛皮貿易の変化） 第12-14週 世界商品としての茶（アジア・ヨーロッパ間貿易） 第15週 帝国主義時代の英露市場競争（綿織物製品） 学生の要望によってはスケジュール変更もありうるが、テーマは基本的に変わらない。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験50%と平常点50%（出欠）で評価する。									
【教科書】									
使用しない 広い領域を扱うため、特定の教科書は使用しない。参考になる文献については授業中に適宜紹介する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)		担当者氏名	千葉商科大学 商経学部 教授 師尾 晶子					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	古代ギリシアの碑文習慣とその周辺								
【授業の概要・目的】									
<p>文字を石やブロンズなど耐久性のある素材に刻むという習慣は、地域および時代による相違は顕著に存在したものの、総じて古代ギリシア世界に幅広く見られた文化現象であり、その文化的特徴の一つであった。碑文習慣は公私のさまざまな場で展開され、人々の生活とも深くかかわっていた。本講義では、碑文習慣をめぐる議論を整理するとともに、数多くの碑文を具体的に取り上げることから、古代ギリシアの碑文習慣の展開についての理解を深めたいと思う。</p> <p>アルカイック期からヘレニズム時代まで扱うが、古典期から前3世紀にかけてのアッティカ碑文にとくに焦点をあて、テキストにとどまらず建立された場(トポグラフィ)、モニュメンタリティにも注意を払いながら、碑文習慣と政治・社会・文化との関係をさぐりたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の話題について取り上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 碑文習慣 ・ アルファベットと方言 ・ 奉納碑 韻文碑と散文碑 神々にむけて言葉を書き記すこと ・ エヴェルジェティズムと碑文習慣 記念碑と奉納碑 ・ 建築碑文とエヴェルジェティズム ・ 権力の表現と碑文習慣 法と行政 ・ デロス同盟と碑文習慣 ・ 記憶・記録・再刻・再利用・偽作 歴史の創出 ・ 古典史料と碑文 ・ グラフィティと碑文 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業最終時の筆記試験もしくは初回時に指示するレポートによる。									
【教科書】									
教科書は使用しない。初回時に参考文献とあわせて必要な資料を配付する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	非常勤講師 山下 修一				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	ヘーロドトスの『歴史』								
【授業の概要・目的】									
ヘーロドトスの『歴史』を精読することで、古代ギリシア語の読解力を養成するとともに、誕生したばかりの歴史叙述がもつ特徴と問題を考察しながら、その豊かな作品世界に触れる。									
【授業計画と内容】									
この授業では、昨年に続き、『歴史』の第1巻60章から読みすすめる。 『歴史』の重要な主題部を形成する「クロイソス・ロゴス」に続いて、キューロスを大王に戴くペルシアの勃興の様子が描かれる。リュディア王クロイソスとキューロスの対決以後、『歴史』は、歴代ペルシア大王の事績を軸に記述されることとなる。ヘーロドトスの筆は、各地の自然や風習の特異な記述を含みながら、キューロスの生い立ち、ペルシアの興隆、小アジアやバビロニアの征服、さらに、エジプト史へと流れるように進む。 初回の授業では、テキストのコピーを配布し、参照すべきコメントリーを指示する。また、ヘーロドトスのテキストは、古代ギリシア語の授業で学習したアッティカ方言ではなく、イオニア方言で書かれているため、このイオニア方言についての解説をおこなう。毎回の授業では、出席者に訳読をしてもらいながら、約3～4ページの割合ですすむ予定である。									
【履修要件】									
古代ギリシア語の初級文法を既修のこと。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価。（必要に応じて学期末テストを行う予定である。）									
【教科書】									
Carolus Hude 『Herodoti Historiae Libri - 』（OCT）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
出席者には、ある程度の予習が必要とされる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 法学部 教授 力久 昌幸				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	現代イギリス政治：歴代政権のリーダーシップに注目して								
【授業の概要・目的】									
この講義では、第二次世界大戦後から今日に至るまでのイギリスの歴代政権について、ヨーロッパ諸国との関係やEUに見られるような欧州統合への対応などに注目しながら、内政・外交のさまざまな側面から検討します。特に、戦後の衰退に歯止めをかけ、再び活力を取り戻すためにイギリスの歴代政権が実施したさまざまな改革について、首相の政治的リーダーシップのあり方に焦点をあてて検討します。戦後のイギリスが直面した内外の課題、および、それに対処するための首相のリーダーシップについて理解を深めてもらうことがこの授業の目的です。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマに関して、1テーマあたり1～2週の授業をする予定です。									
1 イントロダクション：イギリス現代政治の基本枠組 2 戦後政治の開幕：アトリー労働党政権 3 帝国後のイギリス：チャーチル保守党政権 4 スエズ危機：イーデン保守党政権 5 豊かな社会：マクミラン/ダグラス＝ヒューム保守党政権 6 現代化をめざして：ウィルソン労働党政権 7 Uターンの：ヒース保守党政権 8 労働組合の時代：ウィルソン/キャラハン労働党政権 9 戦後コンセンサスの破壊：サッチャー保守党政権 10 新自由主義的改革の継続：メージャー保守党政権 11 「大統領型首相」とニュー・レイバー：ブレア/ブラウン労働党政権 12 連立の時代：キャメロン保守自民連立政権									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末レポート評価（80％）、平常点評価（20％） 平常点評価については、不定期（3～4回程度）に行う小テストにもとづいて行います。									
【教科書】									
梅川正美・阪野智一・力久昌幸（編）『イギリス現代政治史』（ミネルヴァ書房）ISBN: 9784623056477									
【参考書等】									
（参考書） 細谷雄一（編）『イギリスとヨーロッパ：孤立と統合の二百年』（勁草書房）ISBN:9784326351442 力久昌幸『イギリスの選択』（木鐸社）ISBN:9784833222334 高安健将『首相の権力』（創文社）ISBN:9784423710708 その他、適宜授業中に紹介します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 法学部 教授 力久 昌幸				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	現代イギリス政治：統治機構，政党，政策を中心に								
【授業の概要・目的】									
この授業では，1990年代以降，急速に変化しつつあるイギリス政治の現状について，議会や政府などの統治機構，スコットランド，ウェールズ，北アイルランドに対する分権改革，選挙制度と政党システム，そして，外交，経済，福祉など各種政策を取り上げて検討します。グローバル化や欧州統合の動きを受けて変化しているイギリス政治の現状に対する理解を深めることが，この授業の目的です。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業をする予定です。									
1 現代イギリス政治の概観 2 議会と君主制 3 政府：首相と内閣を中心に 4 行政機構 5 分権：スコットランド，ウェールズ，北アイルランド 6 外交政策 7 経済政策 8 福祉政策 9 選挙制度 10 保守党 11 労働党 12 自由民主党									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末レポート評価（80％），平常点評価（20％） 平常点評価については，不定期（3～4回程度）に行う小テストにもとづいて行います。									
【教科書】									
梅川正美, 阪野智一, 力久昌幸（編）『現代イギリス政治』（成文堂）ISBN:9784792332129									
【参考書等】									
（参考書） 梅川正美 『イギリス政治の構造』（成文堂）ISBN:9784792331439 小堀眞裕 『サッチャリズムとブレア政治』（晃洋書房）ISBN:9784771016399 近藤康史 『左派の挑戦』（木鐸社）ISBN:9784833223147 その他，適宜授業中に紹介します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)			担当者氏名	立命館大学 文学部 教授 高橋 秀寿				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	映像と記憶 - - 戦争・暴力・表象								
【授業の概要・目的】									
20世紀の歴史は、ドキュメンタリーであれ、フィクションとしての映画であれ、映像を通して深く現代人の脳裏に刻まれ、歴史的現実を作り上げ続けている。この講義では、20世紀、特に第二次世界大戦後に戦争と暴力の歴史がどのように映像を通して表象され、国民国家と国民を形成してきたのかを明らかにしていく。その際に、授業担当者の専門分野であるドイツ現代史を中心に講義を進めていくが、日本やほかの国々の映像・映画も取り上げていく。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業をする予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション 2．史料としての映像・映画 3．映像・映画の歴史的機能と役割 4．第二次世界大戦前における映画と記憶 5．第二次世界大戦後における映画と記憶 - - 戦争の記憶 6．第二次世界大戦後における映画と記憶 - - ホロコーストの記憶 7．戦後の終わりとは映画と記憶 8．総括 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートの内容によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
基本的に最小限度の基礎知識があれば理解できるような授業内容にするが、レポートでは欧米だけではなく、日本に関する戦後史と記憶の関係の叙述を求めるので、講義の流れとともに日本戦後史の自主的な学習が要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(演習Ⅰ) European History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 南川 高志				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	西洋史学演習Ⅰ (西洋古代史演習)								
【授業の概要・目的】									
この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。外国語で書かれた研究文献を用いて、欧米学界の水準や史料の扱い方を学ぶとともに、欧米の研究の問題点をも理解し、受講者自身の研究の深化に繋げたい。大学院生にとっては、基礎を確認しつつ研究課題の深化を図るとともに、論文作成の具体的な進展をも図ることができる。									
【授業計画と内容】									
本年度の西洋古代史演習の第1の課題は、古代ギリシア・ローマ時代とその社会の重要な点について、学界の最前線を踏まえた知識を獲得することであるが、さらに重要な問題点に関して学界の定説を塗り替えるような画期的解釈を提示した研究やその後の学説の変化を理解することも重視したい。演習参加者の関心あるテーマを勘案しながらも、古代ギリシア史とローマ史の分野における英語で書かれた重要な論文を主たるテキストとして、課題の検討をおこなう。初めて西洋古代史研究を開始する学部生の受講者に配慮して、まず第1～3週は、日本人研究者が発表した関連研究論文を読んで、予備知識を得る。その上で、第4週から英語で書かれた論文を毎週1編ずつ検討する(参加者の人数により、1冊の書物を順次読む方式に変える可能性もある)。後期の後半からは、受講者の研究報告とそれをめぐっての討論に移る。									
【履修要件】									
古典語読解能力や西洋古代史の専門的知識を受講の前提とはしない。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点で評価する(出席と報告、討論参加を重視する)。西洋古代史研究のための基本的な手続きと問題発見能力を身につけることができたかどうか、評価の目安である。									
【教科書】									
テキストとなる研究書や論文は、第1回の授業で紹介し、授業の進行にあわせて準備する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
西洋史学の時代別演習はすべて、研究書や論文を精読して参加することが前提であり、相当量の予習をとらなう。後期についても、報告者のテーマにあわせて、報告者以外の参加者も事前に関係文献に目を通すことが望まれる。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(演習II) European History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 服部 良久				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	西洋史学演習 (西洋中世史演習)								
【授業の概要・目的】									
西洋中世史に関する新しい英語研究文献(研究書)を読み、中世史研究の最近の動向や問題点について学ぶ。専門研究文献を正確に読むための訓練でもある。									
【授業計画と内容】									
第1回～4回は、予備的な知識を得るためにヨーロッパ中世史に関する邦語の参考文献を読む。 第5回～22回は論文集、Why The Middle Ages Matter. Medieval Light on Modern Injustice, London/New York 2011 に所収の、今日の世界の具体的な問題関心から中世史にアプローチする諸論文を読む。毎回1人が一篇の論文について内容を要約し、論点を指摘、出席者で議論する。 第23回～29回は、出席者の個人研究テーマについて報告を行い、議論する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席(平常点)とレポートにより評価する									
【教科書】									
Chazelle, C. etc. (eds.) 『Why the Middle Ages Matter』 (Routledge) ISBN:9780415780650 (出席者には教員が用意する(費用は自己負担)) その他の参考書目については授業中に指示する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
関連文献を並行して読み進めることが、理解の前提となる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(演習III) European History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 小山 哲				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	西洋史学演習 (西洋近世史演習)								
【授業の概要・目的】									
近世(16～18世紀)のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献を読解し、また、個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。									
【授業計画と内容】									
次の研究書を取りあげ、その内容を正確に理解するとともに、研究の視角や手法の特徴について議論する。 Philip Benedict and Myron P. Gutmann (eds.), Early Modern Europe: From Crisis to Stability, Newark: University of Delaware Press, 2010.									
参加者全員による討論をつうじて、ヨーロッパ史における近世とはどのような時代か、近世史を研究する手がかりとなる史料にはどのような特徴があるか、この時代を理解するためにはどのような視点や研究の手法が有効か、といった問題を、さまざまな角度から検討する。なお、後期には、参加者がそれぞれ興味をもつテーマについて研究発表を行い、それにもとづいて全員で討論を行う機会を設ける予定である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業への出席、テキストの内容要約と論点の提示、研究発表、討論への参加の度合いなどを総合的に評価する。試験は行なわない。									
【教科書】									
使用するテキストの入手については、別途指示する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
とりあげたテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(演習IV) European History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 金澤 周作				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	西洋史学演習 (西洋近代史演習)								
【授業の概要・目的】									
この演習では、西洋の近代(18世紀半～20世紀初頭)を学び深める。欧米の研究文献の精読や個別の自由発表に立脚して、歴史的な論点をおさえた上で立論し、議論をリードする術を身につけることを主たる目的としている。									
【授業計画と内容】									
近代史研究は、対象とする場所(国や地域)と時期とテーマに応じて専門化と細分化が非常に進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、演習の前半では、大きくまた斬新なテーマを多方面から詳細に扱っている研究文献(英語)を、分担を決めて読んでいく。広い視野を学び、さまざまな方法論に触れ、同時に西洋史研究に不可欠な、英語文献を正確に読解する力を養う。さらに、内容について活発な議論がなされることを期待している。演習の後半では、各受講者に、日ごろの研究成果を報告してもらおう。全体を通じて、積極的に議論を主導してほしい。学部生への教育的配慮に、大いに期待している。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
演習内報告(回数は人数によって異なる)が80%、演習内での議論での貢献が20%。									
【教科書】									
テキストについては第1回の演習日に指定し、コピーして配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
受講者に対するこの演習の効果は、文献を事前にどれだけしっかり読み込んだかに左右される。ただ読むだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(演習) European History (Seminars)				担当者氏名	文学研究科	教授	服部	良久
						文学研究科	教授	南川	高志
						文学研究科	教授	小山	哲
						文学研究科	准教授	金澤	周作
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	演習
題目	大学院演習								
【授業の概要・目的】									
<p>院生の専門研究の成果を発表し、院生・教員全員がこれを聞いて問題点を指摘し議論することにより、各院生の研究の発展に資するとともに、西洋史における様々な時代、地域の研究テーマ、研究方法、史料とその利用などについて相互に理解を広め、また深める場とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>各院生は原則として2回（前期・後期に各1回）、個人研究の成果を発表する。研究報告は、修士課程の院生には修士論文作成のための中間報告であり、博士後期課程の院生には、学位論文作成の節目となる。それ以外にも、その都度、興味を持ったテーマや、新しい研究動向などについて報告し、時代と地域を越えた議論の機会を提供することも重要である。また院生全員、教員全員が参加して議論することにより、オープンで集团的、客観的な研究指導を行う場としての意味を持つ。</p>									
【履修要件】									
大学院生のみ。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への出席、討論への参加、2回（前期・後期各1回）の報告にもとづいて総合的に評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 特になし。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
なし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	西洋史学(博士論文指導) European History (Seminars)				担当者氏名	文学研究科	教授	服部	良久
						文学研究科	教授	南川	高志
						文学研究科	教授	小山	哲
						文学研究科	准教授	金澤	周作
配当学年	博士	単位数	0	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	
題目	博士論文の作成指導								
【授業の概要・目的】									
博士論文の作成のために、それぞれの研究テーマに即して、指導教員を中心に進捗状況を報告させ、様々な助言を与える。									
【授業計画と内容】									
博士論文のテーマの選択、章構成、各章の内容をなす実証的な研究作業の問題点などについて提出予定者から報告を受け、指導教員を中心に助言を与える。それにより博士後期課程1年次の「論文作成計画書」、1、2年次の「研究報告書」、3年次の「資格申請書」が適切で充実した内実をとまうものとなり、論文作成に繋がるように指導する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
幾度かの報告と「研究報告書」の内容等で評価する。									
【教科書】									
使用しない 特になし。									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

考古学専修

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 上原 真人						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	古代寺院資財帳の考古学								
【授業の概要・目的】									
<p>考古学的に日本古代寺院を研究する際には、建物跡・工房跡などの遺構、土器・瓦などの出土遺物が主な分析対象となる。しかし、そこから寺院の外見的構造や、創建・再建・廃絶などの情報を獲得できても、古代寺院の中で何をしていたのかイメージするのは難しい。古代寺院資財帳には、建物施設や仏像・経典・墾田地や庄園などの基本財産ばかりでなく、官大寺ならば正倉院宝物に匹敵するような豊かな備品・消耗品が記録されている。建物施設に関わる記録は建築史が、仏像・経典に関わる記録は美術史や仏教史が、墾田・庄園に関わる記録は土地制度史が、それぞれの立場で研究を深化している。しかし、供養具・荘厳具をはじめとする備品や銭貨・地金をはじめとする消耗品は、意外と看過されている。これらの備品や消耗品は古代寺院の宗教活動や社会活動、あるいは僧尼の日常生活を理解する上で見逃すことができない物的資料である。数は少ないながらも、各時代の各ランクの寺院の資財帳が残っている。それらを比較しつつ、正倉院宝物や出土遺物、絵画資料などを参照しつつ、古代寺院がどのように経営され、その中でどのような活動が行われていたのかを考えることは、ある程度まで可能である。本特殊講義ではそうした試み等を行う。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>いくつかの古代寺院資財帳を材料にして、記載内容を吟味する。</p> <p>具体的には、大安寺伽藍縁起並流記資財帳(747年)、法隆寺伽藍縁起並流記資財帳(747年)、法隆寺東院縁起資財帳(761年)、阿弥陀悔過料資財帳(767年)、西大寺資財流記帳(780年)、多度神宮寺伽藍縁起並流記資財帳(788年)、安祥寺縁起資財帳(867年)、広隆寺縁起資財帳(873年)、観心寺縁起資財帳(883年)、広隆寺資財交替実録帳(890年)、観世音寺資財帳(905年)などを取り上げる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末にレポートを提出すること									
【教科書】									
使用しない 適宜プリントを配付する。									
【参考書等】									
(参考書) その他の参考書は、講義中に紹介する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>オフィスアワーはとくに設けないが、講義内容に関わる質問は常時、受け付ける。電話やメールでアポをとること。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 泉 拓良				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	先史考古学								
【授業の概要・目的】									
縄文考古学通論。講義者がこれまでに発表してきた報告書や論文について、その背景を説明し、学史的な位置付けをおこない、今日のテーマへの見解を述べる。この講義は、西日本縄文時代研究の展開と個人史とを重ねて表現するもので、西日本縄文時代研究史の基礎となる。									
【授業計画と内容】									
1 課題あたり、1～3週 of 授業を予定している。 縄文時代への興味(泉靖一・芹沢長介：多元的文明起源論) 様式論と縄文土器(小林行雄：一乗寺向畑遺跡の整理：土器への興味) 京都大学構内遺跡の発掘調査(北白川上層式と北白川C式) 岡山県福田遺跡の整理(後期) 鹿児島県武貝塚の発掘調査(後期、災害と考古学) 滋賀県粟津湖底遺跡の整理(粟津SZ1群、船元式の細分) 滋賀県安土遺跡の整理(前期) 押型文土器研究(矢野健一) 滋賀県相谷熊原遺跡(縄文開始期の停滞) 和歌山県瀬戸遺跡の発掘調査(家根祥多：縄文から弥生) 石川県真脇遺跡(後晩期西日本集落) 奈良県観音寺・本馬遺跡(平地住居) 京都市上里遺跡(縄文晩期農耕) 南米・中東に於ける発掘調査 発掘調査と考古学									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末試験(レポート)。授業内容を理解し、それを研究に生かせるかをレポート採点の基準とする。									
【教科書】									
授業中に配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
質問は授業終了後に受ける。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 吉井 秀夫						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	朝鮮考古学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
中国や日本との関係に留意しつつ、朝鮮半島における考古学的研究の現状を概観し、いくつかの具体的な問題について検討をおこなう。									
【授業計画と内容】									
今年度は、三国時代を中心とする墓制の比較研究を大きなテーマとする。具体的には、概ね以下の順で講義を進めていく予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1 研究史と時期区分論 2 考古学からみた墓制・葬制の再検討 3 墳丘と埋葬施設の構築パターン 4 棺・槨・室をめぐる諸問題 5 墓制からみた朝鮮半島の地域性ととの変遷 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況および年度末のレポートにより成績を評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 韓国考古学会 『韓国考古学講義(改訂新版)(韓国語)』(社会評論)(2010年) 吉井秀夫 『古代朝鮮 墳墓にみる国家形成』(京都大学学術出版会) ISBN:9784876988471 (2010年)									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
講義で紹介・検討した文献について、可能な限り目を通すように努力して欲しい。特別にオフィスアワーは設けないが、質問などは適宜受け付ける。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)			担当者氏名	文化財総合研究センター 准教授 清水 芳裕				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	古代窯業技術の諸問題								
【授業の概要・目的】									
古代の土器や陶器などの窯業製品における装飾技術について、考古資料から復元されてきた成果を解説し、資料の材質調査や技術の復元方法についての理解を深めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
窯業製品の要素のひとつである装飾には、先史時代から顔料の使用、焼成による着色などがおこなわれ、のちには施釉の技術によってさまざまな陶器や磁器が生み出された。講義では、古代の土器や陶器の装飾技術について、顔料や釉の材質調査によって明らかにされてきた成果を、ガラスの技術と比較しながら紹介するとともに、その復元過程における問題点などを考察する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポートによる。									
【教科書】									
使用しない。適宜プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 岡村 秀典				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	漢鏡の研究(7)								
【授業の概要・目的】									
漢代の中国鏡について、考古学の型式学的研究法、図像や銘文の研究法、鏡にたいする観念、銅鏡の鑄造方法、銅鏡の理化学的分析などをめぐる研究の現状をふまえ、今年度はおもに後漢鏡の変遷と文化史的背景、日本列島への漢鏡の流入と国家形成について論じる。									
【授業計画と内容】									
前期は宋代以来一千年におよぶ古鏡の研究史を回顧し、研究の課題と展望を示す。後期は後漢中後期の銅鏡をおもな対象として、以下の内容について講述する。 古鏡研究一千年 中国・日本・欧米におけるパラダイム 型式学とその問題点 考古学的研究法と美術史的研究法 分布論とその問題点 作家論の構築 後漢鏡の図像について 後漢鏡の銘文について 後漢時代の社会と文化 日本列島から出土する漢鏡 鏡からみた日本の国家形成									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末試験。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
京都大学総合博物館をはじめ、各地の博物館や美術館に展示されている銅鏡の図像文様をよく観察しておくこと。また、漢鏡の図像や銘文を理解するには、中国古代史はもとより、文学や言語学、思想史などにかんする幅広い知識が必要であるから、あわせて関連する講義を履修することが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者氏名	立命館大学 文学部 教授 矢野 健一						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	縄文社会のしくみ								
【授業の概要・目的】									
<p>縄文時代の社会とはどのような社会であるのか？この課題に対して、(1)縄文土器型式分布圏、(2)縄文集落、という2つの側面から縄文社会特有の性格を描き出し、縄文社会の特質を明らかにしたい。最終的には、この縄文社会の特質を日本の歴史、および人類の歴史の中に位置づけることを目的とする。</p> <p>(1)の縄文土器型式分布圏については、西日本の縄文草創期～晩期に関する矢野の土器編年の成果に基づき、分布圏の流動性と通時的变化を指摘する。(2)の縄文集落、については、特に近年の西日本縄文集落に関する議論をふまえ、東日本縄文集落に関する議論との関連を指摘し、集落の小規模性と継続性および通時的变化を指摘する。さらに、土器型式分布圏と集落を関係させて理解することで、縄文社会の諸現象が統合的に理解できることを述べる。</p>									
【授業計画と内容】									
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の概要説明 2 西日本縄文土器編年の概要 3 縄文草創・早期土器分布圏変化 4 縄文前・中期土器分布圏変化 5 縄文後・晩期土器分布圏変化 6 縄文土器分布圏変化のまとめと補足 7 縄文集落論の研究史と論点 8 住居・墓・貯蔵穴からみた縄文集落の規模 9 小規模集落の継続性 10 縄文時代の人口変化 11 人口・集落・土器分布圏 12 農耕社会への変化 13 (補足)日本文化論における縄文文化論 14 試験 <p>* 各テーマは必ずしも1回の授業に対応するわけではない。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
最終講義日に試験を行い、その成績で評価する。									
【教科書】									
プリント配布。									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>小杉康ほか編 『縄文時代の考古学』(同成社)(全12巻。第1・2・8・12巻が講義と関係する。)</p> <p>『縄文土器総覧』(アム・プロモーション)(土器型式についての参考図書)</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)	担当者氏名	九州大学 総合研究博物館 教授 岩永 省三						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	青銅器から見た弥生時代の諸問題								
【授業の概要・目的】									
弥生時代は、稲作農耕および金属器生産・使用の定着に伴い、社会の複雑化・階層化が進行した時代である。青銅器に関する様々な問題を概観したうえで、当該期における社会変動の様相を青銅器を中心素材として検討する。									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような項目で授業を構成する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 弥生時代社会像の成立と金属器 弥生時代青銅器概説 - 時間的变化・空間的変異 <ul style="list-style-type: none"> 分類・編年 分布とその評価 対外交渉の展開と青銅器 青銅器の生産 <ul style="list-style-type: none"> 製作技術 原料論 青銅器から見た弥生時代の時間的位置 青銅器から見た弥生時代社会の動態 <ul style="list-style-type: none"> 青銅器の機能とその変容 集団の階層分化と青銅器 集団祭祀の変容と首長の成長 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業終了後のレポートで評価する。									
【教科書】									
使用しない 適宜プリントを配布する。									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>授業中に紹介する 弥生時代・青銅器関係はもちろん、それ以外の関連分野の参考図書も多く紹介する。</p> <p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p> <p>授業後に質問等を受け付ける。集中講義終了後は勤務先へのメールも可。 授業中に紹介した遺跡や遺物を、自分の目と足で確認してほしい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)			担当者氏名	地球環境学堂 教授 小方 登				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	地理情報処理の考古学への応用								
【授業の概要・目的】									
地形データ（DEM）や空中写真・衛星画像の遺跡探査や歴史景観復原などへの応用事例を取り上げ、説明する。									
【授業計画と内容】									
1) 1995年に公開された米国偵察衛星写真の仕様について説明し、応用可能性を検討する。 2) 中東地域に典型的にみられるテル（遺丘）の景観について検討する。 3) 地中海地域におけるフェニキア・ポエニ文化に基づく都市の立地とプランについて検討する。 4) 中央アジアのオアシス周辺に見られる灌漑施設（用水路）の痕跡のあり方について検討する。 5) 渤海国の都城を事例として、7～9世紀の東アジア都城に見られる共通の特徴について検討する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(演習IV) Archaeology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 上原 真人 文学研究科 教授 泉 拓良 文学研究科 准教授 吉井 秀夫				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	修士論文指導								
【授業の概要・目的】									
修士論文作成に向けての演習。									
【授業計画と内容】									
各自の研究テーマに関連して、研究史の整理と研究目的の設定、データの収集と整理、分析と考察を、年間を通じて3回程度の発表で提示する。各々の手続きが適切に行われるように指導する。									
【履修要件】									
修士論文の作成・提出が前提となる									
【成績評価の方法・基準】									
演習時の発表内容と修士論文を合わせて評価する									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーはとくに設けないが、修士論文作成に関する相談には、常時、対応する。電話やメールなどで、教員にあらかじめアポを取ること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	考古学(博士論文指導) Archaeology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 上原 真人 文学研究科 教授 泉 拓良 文学研究科 准教授 吉井 秀夫			
配当学年	博士	単位数	0	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態
題目								
[授業の概要・目的]								
博士論文の作成を目的とする。								
[授業計画と内容]								
論文の進行状況にしたがい、適宜、指導する。								
[履修要件]								
特になし								
[成績評価の方法・基準]								
研究報告および資格申請書の提出								
[教科書]								
使用しない								
[参考書等]								
(参考書)								
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))								
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。								

《行動文化学専攻》 心理学専修

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	神戸学院大学 人文学部 清水 寛之						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月1	授業形態	特殊講義
題目	人間の記憶の諸相								
【授業の概要・目的】									
<p>認知心理学の立場から、人間の認知過程に関する諸問題のうち、とくに記憶に関連した基本的テーマを取り上げ、これまでの主要な研究成果を概説する。また、記憶の発達の側面および文化・社会的側面についても言及する。授業を通して、人間の記憶に関する認知心理学的研究への理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．認知心理学的記憶研究の概観（研究史、研究対象、研究方法論） 2．人間の記憶の諸側面（記憶の構造とプロセス） 3．刺激情報の一時的保持（感覚記憶、ワーキングメモリ） 4．刺激情報の永続的保持（エピソード記憶、意味記憶） 5．記憶方略の諸相（リハーサル、体制化、精緻化） 6．記憶と意識（顕在記憶と潜在記憶） 7．個人的経験の記憶（日常認知、日常記憶、目撃証言） 8．将来のための記憶（展望記憶、予定の記憶） 9．記憶能力の個人差（写真的記憶、超記憶力者） 10．メタ認知とメタ記憶 11．記憶の生涯発達 12．記憶と社会・文化 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と試験									
【教科書】									
<p>使用しない 教科書はとくに用いない。授業内容（概要）については毎回プリントを配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 清水寛之（編著）『メタ記憶』（北大路書房）ISBN:9784762826276 J.ダンロスキー&J.メトカルフェ『メタ認知』（北大路書房）ISBN:9784762827143 太田信夫・多鹿秀継（編著）『記憶の生涯発達心理学』（北大路書房）ISBN:9784762825910 金児暁嗣・結城雅樹（編）『文化行動の社会心理学』（北大路書房）ISBN:4762824305 このほかにも授業中に適宜指示する。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>本講義のテーマについて自分自身の研究課題との関連性を意識しながら積極的に授業に参加してもらいたい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	カリフォルニア州立大学サンバールディーン校 心理学部 教授 越野 英哉						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	認知神経科学								
【授業の概要・目的】									
<p>認知神経科学は脳と認知機能の関係を理解することを目的とする。つまり、脳のどのような領域がどのように機能することで我々の認知機能が実現されているかということである。この授業では、知覚、注意、記憶、言語、思考、社会的認知などの機能の神経基盤を脳機能画像法(主にfMRI)を中心とした研究に基づいて検討する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前半は認知神経科学の基礎について下記のような課題について講義をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション 2．認知神経科学の方法 3．知覚 4．空間認知 5．運動・行為 6．記憶 7．思考・実行系 8．社会的認知と感情 <p>後半はそれに基づいてセミナー形式の授業をする。そこにおいては学生は論文を選んで発表し、論文についての討論をリードする。発表する論文は配布される論文のリストから選んでもいいし、自分で選択することもできる。</p>									
【履修要件】									
認知心理学の基礎知識と脳の構造に関する基礎知識									
【成績評価の方法・基準】									
論文発表、討論への参加、および学期末のレポート									
【教科書】									
講義の資料は毎回配布する。発表のための論文のリストは第一回に配布する。									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>Jamie Ward 『The student ' s guide to Cognitive Neuroscience (2nd Ed.)』 (Psychology Press) ISBN:978-1848720039</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
<p>オフィスアワーは火曜日18時 - 19時</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	NTTコミュニケーション科学基礎研究所 協創情報研究部 研究主任 小林 哲生						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金1	授業形態	特殊講義
題目									
【授業の概要・目的】									
本講義では、乳幼児期に焦点を当てて人間の言語および認知の発達について解説する。特に、語彙/文法の発達および数認識の精緻化に関するプロセスとメカニズムについて考究する。									
【授業計画と内容】									
<p>具体的には、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達研究の方法論（選好注視法、馴化・脱馴化法、期待背反法など）を実例に基づいて解説する。 ・前述の方法により得られた知見から、乳幼児期における言語および認知の発達について論じる。 ・乳幼児期の認知発達/コア知識（物理法則、数、空間、社会性）について詳しく論じる。中でも、数認識についてはその発達（個体発生）と進化（系統発生）を深く掘り下げて論じる。 ・乳幼児期の言語発達（初語、育児語、語彙爆発、名詞バイアス、統語的ブートストラッピング）について解説し、言語を学習する仕組みを深く掘り下げて論じる。 ・これらの発達科学研究の知見をふまえた応用可能性（特に育児/教育支援の可能性）を議論し、実際の社会的問題につなげるトレーニングも行う。 									
【履修要件】									
発達心理学の基礎を学んでいることが望ましいが必須ではない。									
【成績評価の方法・基準】									
出席、討論、時間内に行う課題で評価。									
【教科書】									
特に用いない。必要な資料は準備する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	生理学研究所 感覚認知情報研究部門 教授 小松 英彦						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	視覚と質感の脳内メカニズム								
【授業の概要・目的】									
視覚の神経機構の基本原則として受け入れられている概念を学び、視覚と質感の脳内メカニズムについての研究の最先端に触れる									
【授業計画と内容】									
認知神経科学の重要な目的は、外界で起こる物理現象と知覚を結びつける生体の働きとして脳内の情報処理過程を理解することである。本講義ではそのような試みがうまくいった例である色覚を中心にすえて、視覚の脳内メカニズムについての研究を概観する。一方視覚は他の感覚とも密接に関係している。我々は物を見ただけで、その素材や表面の状態を知ることができ、更に触った時の手触りや温度すら想像することができる。このような知覚は物の質感の基礎となる認知機能である。この講義では近年活発に研究が進められている質感認知の研究の現状も紹介したい。									
【履修要件】									
中枢神経系（特に視覚神経系）の構成について基本的な知識を持つことが望ましい									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 視覚情報処理の概要については下記URLも参照してください									
（関連URL） http://www.nips.ac.jp/scinfo/kaisetsu.htm									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	大阪大学社会経済研究所 田中 沙織 特任准教授						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	脳神経科学特論								
【授業の概要・目的】									
<p>脳の複雑な機能を解明するには、脳の構造だけではなく、分子、細胞、回路レベルでの働きをシステムとして理解する「システム神経科学」のアプローチが必須となる。本授業の目的は、神経科学の基礎を理解したうえで、システム神経科学の分野で近年特に研究が進んでいる「意思決定」および「社会性」に関わる神経機構について学び、これらの分野で用いられている、医学、生物学、心理学、工学、さらには経済学といった様々な分野からの複合的なアプローチについて理解を深めることである。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のようなテーマについて、各テーマ1～2週の授業を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 神経科学の基礎 <ol style="list-style-type: none"> 1.1 脳の構造を知る 2 システムとしての脳 <ol style="list-style-type: none"> 2.1 脳の機能を知る 2.2 脳の機能を測る 2.3 脳の数理モデル 3 意思決定の神経科学 <ol style="list-style-type: none"> 3.1 報酬に基づく意思決定の神経機構 3.2 脳の数理モデルとしての強化学習 3.3 神経経済学: 経済行動を神経科学で記述する試み 4 社会性の神経科学 <ol style="list-style-type: none"> 4.1 社会効用の神経機構 4.2 社会的感情の神経機構 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況および期末レポート。									
【教科書】									
毎回資料を配布する									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>Paul W. Glimcher, Colin F. Camerer, Ernst Fehr, and Russell A. Poldrack 『Neuroeconomics: Decision Making and the Brain』 (Academic Press)</p> <p>サンドラ・アーモット, サム・ワン 『最新脳科学で読み解く 脳のしくみ』 (東洋経済新報社)</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学大学院人間科学研究科 足立 浩平 教授				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	心理・教育測定特論								
【授業の概要・目的】									
心理学の研究で必要となる多変量解析の諸方法をのエッセンスをできるだけ平易に講義する。時間に余裕があれば多変量解析の基礎になる線形代数や目的関数の最適化，そして，項目反応理論のようにサイコメトリックス特有の統計解析法に言及する。									
【授業計画と内容】									
1：基本統計法 【キーワード】多変量データ行列・共分散・標準化 2：クラスター分析 【キーワード】距離・分類・階層的クラスター分析・非階層的クラスター分析 3：主成分分析(その1) 【キーワード】主軸・主成分得点・多次元の世界を鏡に映す・重み付け合計 4：重回帰分析 【キーワード】分散説明率・偏回帰係数・多重共線性 5：パス解析 【キーワード】因果モデル・構造方程式モデル・共分散構造・モデル間比較 6：確認的因子分析 【キーワード】潜在変数・測定方程式・モデルの識別性・パラメータの制約 7：構造方程式モデリング 【キーワード】測定・構造方程式モデル・共分散構造分析の体系 8：探索的因子分析(その1) 【キーワード】直交解・古い方法から新しい方法へ 9：探索的因子分析(その2) 【キーワード】単純構造・回転・主成分分析と因子分析は似て非なる方法 10：数量化分析 【キーワード】カテゴリカルデータ・多重対応分析・等質性分析・対応分析 11：多次元尺度法 【キーワード】距離から地図を描く・多次元尺度法・多次元展開法 12：判別分析 【キーワード】多変量正規分布・線形判別分析・交差検証法・正準判別分析 13: 線形代数 【キーワード】行列・ベクトル・特異値分解 14: 目的関数の最適化 【キーワード】最小二乗法・最尤法・反復計算 15: サイコメトリックス 【キーワード】尺度構成論・古典的テスト理論・項目反応理論									
----- 心理学(特殊講義)(2)へ続く -----									

心理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・基準】

レポート 約50% , 平常点 約50%

【教科書】

足立浩平 『多変量データ解析法 - 心理・教育・社会系のための入門 - 』（ナカニシヤ出版）ISBN: 4-7795-0057-5

【参考書等】

（参考書）

足立浩平・村上隆 『非計量多変量解析法 主成分分析から多重対応分析へ 』（朝倉書店）
ISBN:978-4-254-12829-1

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	慶応義塾大学文学部 教授 山本 淳一						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	発達心理学特論								
【授業の概要・目的】									
<p>自閉症スペクトラム障害（乳幼児から青年まで）について、「診断基準」、「発達と障害のアセスメント方法」、「発達と障害のメカニズムを明らかにするための実験的研究」、「発達支援の効果評価のための介入研究（無作為対照化研究）」、「発達支援の実際」などについて、包括的に概説する。自閉症スペクトラム障害研究における実験心理学的手法（知覚・認知・コミュニケーション評価など）、エビデンスレベルの高い事例研究法の詳細な解説も行う。また、実際の発達支援の様子のビデオ視聴を通じて、アセスメントから発達支援につなげていく発達臨床の実践を具体的に学ぶ。基礎研究、臨床研究とも、受講生の興味に応じて、授業内容を多方面に発展させていく。本授業を通して、最先端の研究トピックス、研究方法、支援方法を修得する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>(1) 神経科学的基盤と可塑性：脳の過剰発育（brain overgrowth）をめぐって (2) 早期発達アセスメント：1歳からの早期スクリーニングは可能か？ (3) 発達メカニズム研究：発達領域ごとの特徴と最新の研究成果 運動発達、知覚発達、認知発達、言語発達、社会性発達、情緒発達 (4) 発達支援研究：エビデンス・ベース研究 応用行動分析学モデル、発達モデル、環境整備モデル、統合モデル (5) エビデンスにもとづいた発達支援の実際：新しいサービスモデルの提案 (6) 他の発達障害との関係 （精神遅滞、発達性協調運動障害、学習障害、注意欠陥・多動性障害など）</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点とレポートにより評価する。									
【教科書】									
プリントなどを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	一橋大学大学院社会学研究科 村田 光二 教授						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	社会認知論								
【授業の概要・目的】									
<p>主として社会心理学の分野で行われてきた社会認知 (social cognition) 研究の基本的考え方と近年の発展について講義する。特に、他者の心的状態の推論、自己に関わる将来の推論、自己認知と他者認知との関連、認知と感情のダイナミズム、選択に伴う感情プロセス、認知過程の自動性と意識的プロセス、ステレオタイプの判断の功罪などの話題を取り上げたい。可能であれば、社会的認知が社会的行動を引き起こしたり、制御したりするプロセスの問題にもふれたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>集中講義で実施するので、1コマずつの区分けを明確にするよりも、あるまとまった話題を順次お話しすることを考えている。当面は以下のような話題群をお話しするつもりであるが、受講生についての情報を得ながら、今後内容を精選するつもりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．対人認知の古典的研究 2．帰属という推論の考え方 3．ステレオタイプ化研究 4．二過程モデルの考え方 5．他者の心的状態の推論 6．自己の感情予測 7．社会的推論を支える自己知識と自尊感情 8．自己と動機づけ 9．自己制御過程の諸問題 									
【履修要件】									
社会的認知研究に関心を持っていること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席点と最終試験。試験は授業の最終回にいくつかのテーマについて論述をしてもらう予定。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>村田光二(編) 『『社会と感情』(日本認知心理学会(監修)「現代の認知心理学」第6巻)』(北大路書房)(翻訳文献の中によいものがあるので、授業内で紹介する。)</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p> <p>暑い時期の3日間の集中講義ですので、実験をデモンストレーションするなど工夫して実施することを考えています。(2012.1.13.記)</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 山梨 正明						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	言語と認知のメカニズム								
【授業の概要・目的】									
言語主体の認知能力からみた言葉の記述と分析を通して、日常言語の論理と伝達のメカニズム、異文化間の言葉と認識の違い、発想の違い等を考察していく。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業を行う。 言語学の基本的な考え方と分析の方法 認知科学からみた言語研究と関連領域の概観 認知言語学の基本的な枠組と研究の方法 一般的認知能力からみた言語能力の分析法 認知能力からみた言語現象の諸相の具体的分析									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験と平常点による評価									
【教科書】									
山梨正明 『認知言語学原理』（くろしお出版）									
【参考書等】									
（参考書） 山梨正明 『ことばの認知空間』（開拓社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業中に指示されたテキストの予習をしておくこと オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 藤田 和生						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	心理学特殊講義：比較認知科学特論								
【授業の概要・目的】									
比較認知科学の最先端研究を学び、知性と感情の進化を考究する									
【授業計画と内容】									
十種の動物がいれば十の心がある。心はいかに進化したのか、ヒトの独自性はどこにあるのか、といった問題を、比較認知研究における最新のトピックスについて解説しながら考察する。基礎知識として「比較認知科学への招待」（藤田著、ナカニシヤ出版、1998）を一読しておいてもらいたい。毎時間、討論の時間を設ける。そこでは、過去の研究への批判よりも、新たな仮説や新たな問いの導出とその検証方法の模索といった発展的で建設的な討論をおこないたい。討論への積極的な参加を期待する。									
【履修要件】									
心理学・比較認知科学の基礎を学んでいることが望ましいが必須ではない									
【成績評価の方法・基準】									
出席と毎回の討論、及び討論による試験									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 藤田著 『比較認知科学への招待』（ナカニシヤ出版、1998） 藤田著 『動物たちのゆたかな心』（京都大学学術出版会、2007） 藤田編著 『感情科学』（京都大学学術出版会、2007） 藤田著 『比較行動学 - ヒト観の再構築』（放送大学教育振興会）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 櫻井 芳雄						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	心理学特殊講義：認知神経科学特論								
【授業の概要・目的】									
<p>脳の情報処理を担う神経回路網のメカニズムについて、最新の実験的研究に基づき解説する。特に脳の情報表現とブレイン-マシン・インタフェースに焦点を当て、神経回路網の活動とその可塑性について考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>テーマ毎に資料を配付し、映像など視覚教材も多用する。予定するテーマは下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳の情報表現（認識細胞仮説の矛盾、集団的な情報表現、セル・アセンブリ仮説、セル・アセンブリの実験的検出法） ・ブレイン-マシン・インタフェース（研究の現状、神経科学的な意義、情報表現の検出、脳の個性） 									
【履修要件】									
心理学の基礎を学んでいることが望ましい									
【成績評価の方法・基準】									
レポート									
【教科書】									
使用しない 資料を配付する									
【参考書等】									
<p>（参考書） 櫻井芳雄 『脳の情報表現を見る』（京都大学学術出版会、2008）ISBN:978-4-87698-830-3（講義以前あるいは講義と平行して通読しておくことが望ましい）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワーは特に設けていない。質問は随時受け付ける。研究内容については次のウェブサイト参照のこと。http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/sakurai/</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 板倉 昭二						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	心理学特殊講義：発達認知科学特論								
[授業の概要・目的]									
<p>本講義では、人間の発達を、乳幼児期に焦点を当てて解説する。特に、物理的世界の認識および社会的世界の認識の発達のプロセスとメカニズムについて考究する。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>具体的には、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達研究の方法論について理解を深める。選好注視法、馴化・脱馴化法、期待背反法について実例をあげながら詳細に論じる。 ・前述の方法により得られた知見から、新生児期から乳幼児期における外界の認識について論じる。 ・乳幼児期の物理的世界の認知発達について論じる。コア知識に関する具体的な事例を参考に、討論を行う。 ・乳幼児期の社会的世界の認知発達について論じる。乳児期初期の社会的刺激に対する反応バイアスから、二項関係、三項関係のシフト、目標帰属や意図理解、心の理論について言及する。 									
[履修要件]									
発達心理学の基礎を学んでいることが望ましいが必須ではない。									
[成績評価の方法・基準]									
出席、討論、時間内に行う課題で評価。									
[教科書]									
特に用いない。必要な資料は準備する。									
[参考書等]									
(参考書)									
特になし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 蘆田 宏						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	視覚神経科学特論								
【授業の概要・目的】									
視覚に関する心理物理学・神経科学的研究について考察する．前半では基礎的事項についての講義を中心とし，後半では最近の研究動向について参加者の発表を交えて進める．視覚科学の基礎を習得するとともに，知見や方法をそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする．									
【授業計画と内容】									
前半では，以下の内容について各1～2週をかけて講義を行う． <ul style="list-style-type: none"> ・線形モデルの基礎 ・時空間特性 ・運動視 ・運動検出とモデル ・空間視 ・MRIによる脳機能計測 後半には，毎回できるだけ最新の研究論文を読んで議論する．参加者は各自論文を読んで概要を報告することが求められる．									
【履修要件】									
視知覚，実験心理学，神経科学いずれかの基礎知識があることが望まれる．									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価（発表と議論への参加）．									
【教科書】									
必要に応じて配布する．									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
なし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 齋木 潤				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	視覚認識論								
【授業の概要・目的】									
<p>視覚による外界の認識の過程、特に注意の機能に焦点を当て研究方法論と最新の知見を解説する。行動実験、fMRIや脳波、遺伝子多型解析などを取り上げる。心的現象を科学的に探求する方法論を学び広く視覚科学認知科学的研究に応用できる知識を身につけることを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>注意研究に関する5つの手法を取り上げ、1回を講義、1回を参加者の論文紹介とする。発表する論文は担当者が予め用意したリストから選択する。</p> <p>1．イントロダクション、 2．心理物理学的測定法と信号検出理論（講義）、 3．心理物理学的測定法と信号検出理論（論文発表）、 4．心理物理学的逆相関法（講義）、 5．心理物理学的逆相関法（論文発表）、 6．反応時間分布解析（講義）、 7．反応時間分布解析（論文発表）、 8．機能的脳イメージング（fMRI, 脳波）（講義）、 9．機能的脳イメージング（fMRI, 脳波）（論文発表）、 10．認知神経遺伝学（講義）、 11．認知神経遺伝学（論文発表）、 12．予備日</p>									
【履修要件】									
心理学、認知科学の基礎的な知識があるとよいが必須ではない。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と論文発表									
【教科書】									
教科書は用いない。論文のリストを第1回に配布する。									
【参考書等】									
（参考書） なし。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
第1回の講義で論文発表者の割り当てを決めるので必ず出席すること（出席できない場合は履修希望の旨を必ず連絡すること）。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 松村 道一						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月5	授業形態	特殊講義
題目	行動神経科学								
【授業の概要・目的】									
運動や行動の発現・制御に関わる筋 - 神経系の働きについて、統合されたシステムの観点から講義を行う。									
【授業計画と内容】									
Kandel ら編集 "Principles of Neural Science 第4版" の講読を行う。 この本は神経科学の教科書として、世界中で最も広く使われている。									
18～20章	ニューロンから大脳連合野までの認知と運動機能の概略								
21～22章	感覚情報処理のメカニズム								
23～24章	体性感覚の情報処理のメカニズム								
25～29章	視覚情報処理の神経機構								
30～31章	聴覚の神経機構								
33～43章	運動と行動の神経機構								
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期間中の発表回数によって評価する。									
【教科書】									
Eric R. Kandel, James H. Schwartz, Thomas M. Jessell 『PRINCIPLES OF NEURAL SCIENCE, Fourth Edition』 (McGraw Hill) ISBN:0-8385-7701-6 (コピーを配布する)									
【参考書等】									
(参考書)									
Michael S. Gazzaniga, Richard B Ivry, George R. Mangun 『Cognitive Neuroscience, The Biology of the Mind, Third Edition』 (W. W. Norton & Company) ISBN:978-0-393-92795-5									
特になし									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは月曜日18時～19時(於：研究室)									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)	担当者氏名	情報学研究科 教授 乾 敏郎 情報学研究科 講師 水原 啓暁						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	認知科学基礎論								
【授業の概要・目的】									
<p>視覚認知、言語理解、記憶などを中心に認知機能の脳内メカニズムを学ぶ。特に、身体性、身体化による認知という視点で講義を進める。具体的には、初期視覚系の情報処理、2つの視覚系、恒常性と身体性、失語・失行・失認、運動イメージングと模倣、言語理解、記憶の分類などについて述べる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>神経生理学(1)【ニューロン,受容野,イオンチャンネルと可塑性】 神経生理学(2)【シナプス,小脳,LTP,LTD,ヘブ学習】 2つの視覚系(1)【コロラリ放電,座標変換,受容野再考】 2つの視覚系(2)【左頭頂葉と右頭頂葉,空間知覚,立体視とその障害】 脳機能計測法【一次信号(EEG,MEG),二次信号(PET),三次信号(fMRI)】 注意【注意の認知モデル,注意の脳機能イメージング研究】 内部モデルと学習【順逆モデル,誤差学習,予測,ミラーニューロン】 実行系機能【記憶の制御,反応抑制,パフォーマンスモニタリング】 コミュニケーション機能(1)(2)【言語・非言語機能の神経基盤】 ワーキングメモリー【記憶の分類,空間性作業記憶,言語性作業記憶】 意味記憶・エピソード記憶【イメージング研究,海馬と認知地図】</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席点とレポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書) 『『運動と言語』「認知科学の新展開」 第3巻』(岩波書店) 『『イメージングと認知』「認知科学の新展開」 第4巻』(岩波書店)</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
なし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	心理学(演習) Psychology (Seminars)				担当者氏名	文学研究科 教授 藤田 和生			
						文学研究科 教授 櫻井 芳雄			
						文学研究科 教授 板倉 昭二			
						文学研究科 准教授 蘆田 宏			
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	心理学演習：現代心理学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>受講者のオリジナル研究に基づく研究発表と、それを題材とした討論をおこなう。 これにより、研究発表技術の向上、討論力の向上を図るとともに、多様な視点からの議論を通して、 研究の洗練と展望を支援する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>各人の研究テーマとその進捗状況について発表し、発表内容及びそれに関連した内容について、博士後期課程の大学院生も含め、全員で討論する。前期後期、1回ずつの研究発表を課す。発表者はレジュメを配布する。研究発表では、コンピュータを使用したプレゼンテーションをおこなうことが推奨される。積極的な討論への参加が求められる。</p>									
【履修要件】									
原則として、心理学専修所属の大学院生であること									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 必要に応じて指示する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

言語学専修

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉田 和彦				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	印欧語史的形態論研究								
【授業の概要・目的】									
<p>インド・ヨーロッパ系諸言語がさまざまに分岐する以前の共通基語であるインド・ヨーロッパ祖語は紀元前4,000年ごろにさかのぼると考えられている。本年度は、インド・ヨーロッパ祖語に再建される形態組織がどのようなものであるのか、またその体系が分派諸言語においてどのような変化を遂げたのかという問題について考える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>取り扱うトピックは以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション 2) 語形成の概要 3) 名詞の母音交替をめぐる諸問題 4) 名詞語尾をめぐる諸問題 5) 動詞形態論の概要 6) 各語派にみられる諸特徴 7) 動詞範疇にみられる諸問題 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
アサインメント、授業時の発表などで総合的に評価する。									
【教科書】									
教科書は使用しないが、参考書や参考文献を授業時に随時指示する。									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>Benjamin W. Fortson IV 『Indo-European Language and Culture: An Introduction』 (Blackwell) ISBN: 9781405188951</p> <p>吉田和彦 『比較言語学の視点』 (大修館書店) ISBN:4469212954</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
<p>授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉田 豊				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	文献言語学の方法と諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>言語についての記述的な研究の中でも、死語となり文献にだけ資料が残された言語を研究する際の手法や遭遇する問題などについて、講義担当者の日常の研究を例にしながら講義する。また書かれた時代や地域が異なる文献を使って言語の変化を辿る方法についても考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>文献にだけ資料が残された言語の記述的な研究では、残された文献から当該の言語が話されていたときの発音と意味を解明することが、出発点であると同時に到達点でもある。講義担当者が研究している中央アジア出土のイラン系の言語の文献（11世紀以前）を例にして、発音や意味の解明の手法と問題点を解説する。文献を扱う場合には、それが書かれた素材や製本方法、筆記用具や書体の変化に関する配慮も必要になるので、それらが文献の理解とどのようにからんでくるかもテーマになる。また内容を正確に把握するためには文書が書かれた時代の歴史や文化特に宗教に関する知識も必須であり、文書の内容の理解とどのように関わるかについても講義する。</p> <p>講義の中で扱う文献は、主に、ソグド語、コータン語、バクトリア語、中世ペルシア語、パルティア語などであるが、言語接触の問題を考察する場合など必要に応じて、中国語や古代チュルク語など周辺の言語との関係も見ることにする。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期と後期に1回ずつレポートを提出してもらい、それによって評価する。									
【教科書】									
使用しない 授業中にプリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>オフィスアワーは特に設けないが、質問があれば研究室で受け付ける。詳しくは授業のおりに知らせる。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 山梨 正明				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	言語と認知のメカニズム								
[授業の概要・目的]									
言語主体の認知能力からみた言葉の記述と分析を通して、日常言語の論理と伝達のメカニズム、異文化間の言葉と認識の違い、発想の違い等を考察していく。									
[授業計画と内容]									
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業を行う。 言語学の基本的な考え方と分析の方法 認知科学からみた言語研究と関連領域の概観 認知言語学の基本的な枠組と研究の方法 一般的認知能力からみた言語能力の分析法 認知能力からみた言語現象の諸相の具体的分析									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
レポート試験と平常点による評価									
[教科書]									
山梨正明 『認知言語学原理』（くろしお出版）									
[参考書等]									
（参考書） 山梨正明 『ことばの認知空間』（開拓社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業中に指示されたテキストの予習をしておくこと オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 梶 茂樹				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	バンツー諸語研究								
【授業の概要・目的】									
<p>アフリカに話されるバンツー系諸語を例に、現地調査法、分析法、比較研究のあり方などを解説する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期は、現地録音データを用い、聞き取りの練習をしつつデータの分析を行う。後期は、Field Linguistics入門書の講読を行う。</p>									
【履修要件】									
<p>言語学の基本を学んでおくことが望ましい。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>出席点とレポート評価で成績を決める。</p>									
【教科書】									
<p>by Claire Bower, Palgrave Macmillan, 2008. 『Linguistic Fieldwork : A Practical Guide』</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 特になし</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p>									
<p>授業外での質問は随時受け付けるが、前もってアポを取っておくこと。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者氏名	神戸松蔭女子学院大学 郡司 隆男 言語科学研究所 教授						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	現代統語論入門								
【授業の概要・目的】									
<p>現代統語論の分析方法の基本を演習問題を解くことによって身につけることをめざす。新しい現象に対して仮説を立て検証していくという近代科学の方法論にのっとり、英語をはじめとして数多くの言語の実例を分析していく。</p> <p>あらかじめ統語論の既存の知識をもっている必要はなく、必要な概念は、そのつど説明されていく。</p> <p>統語理論の枠組としてミニマリズムだけでなく、語彙機能文法、主辞駆動句構造文法もとりあつかう。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下は大体の日程。学生の理解度に応じて調整することがある。</p> <p>第1-4週: 統語論の基本的な概念---統語論とは、統語論のデータ、仮説 第5-11週: 統語範疇と下位範疇化---品詞と語彙範疇、機能範疇、下位範疇化、 時制・アスペクト・態・法、助動詞の下位範疇 第12-19週: 構成素、併合と句構造木---構成素、補語、指定部、併合、句構造木 第20-25週: 移動とコントロール---受動文、不定詞、コントロール、繰り上げ、主要部間移動 第26-28週: まとめ--次のステップ</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>教科書中の練習問題は、授業中に解くものと、宿題にするものに分ける。単位取得には宿題の提出は必須。 成績評価は、授業中不定期に課せられるこれらの課題（および学年末のレポート）による。</p>									
【教科書】									
Andrew Carnie 『Modern Syntax: A Coursebook』 (Cambridge University Press, 2011) ISBN:978-0-521-68204-6									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>Andrew Carnie 『Syntax, 2nd ed.』 (Blackwell, 2007) ISBN:978-1-4051-3384-5 Andrew Carnie 『Constituent Structure, 2nd ed.』 (Oxford University Press, 2010) ISBN:978-0-19-958346-1 Bas Aarts 『English Syntax and Argumentation, 3rd ed.』 (Palgrave, 2008) ISBN:978-0-230-55121-3 その他、授業中に適宜紹介する。</p>									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
教科書は各自入手し、あらかじめ読んでおくこと。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 教授 上田 功				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	音韻論研究								
[授業の概要・目的]									
音韻論の入門コース。音韻分析の基本的な考え方を修得する。諸言語のデータの分析により、事象の一般化、規則性の発見、複数の仮説間での妥当性の判断など、経験科学としての言語学の思考法を培う。音韻理論の発展を辿りつつ、分節音、音節、フット等の音韻単位がどのように分析されてきたかを概観する。									
[授業計画と内容]									
講義に演習を織り交ぜた形式で授業をすすめていく。扱うトピックは、構造主義音素論、初期生成音韻論、非線状音韻論、依存音韻論、素性未指定理論、素性階層論、語彙音韻論等であり、最新の最適性理論は、最後に垣間見るにとどめる。									
[履修要件]									
概論程度の言語学・音声学の知識をもっていることが望ましい。									
[成績評価の方法・基準]									
授業への貢献度や課題等の平常点と期末のproblem-solving形式のレポート等で総合的に評価する。									
[教科書]									
使用しない ハンドアウトを用意する。									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者氏名	奈良教育大学 教育学部 教授 前田 広幸
---------------	---	-------	----------------------

配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
------	-----	-----	---	-----	----	-----	----	------	------

題目	言語理論と日本語音韻史研究
----	---------------

[授業の概要・目的]

日本語音韻の史的研究をおこなうに際し、次のo)~iv)のような諸方面に関するごく基礎的な知識をそなえ、それらを適所でいかしながら、各自が興味を持つテーマについて、データ分析をすすめられるようになることが本授業の目標である。

o) 内外における日本語音韻史分野の主要先行研究。i) 発話の音声化と関連する、音韻論・形態論・統語論等、諸部門における言語理論。ii) 日本語音韻史にかかわる資料の文献学的処置。iii) 日本語諸方言発話の音響音声学的分析。iv) 歴史コーパス言語学研究。

ただしー授業でo)~iv)の広範な領域をカバーすることはもちろん無理であり、本授業ではそれぞれ次のような下位領域を中心にとりあげ、o)、ii) '、iv) 'を主として前期、o)、i) '、iii) 'を主として後期にとりあつかう予定である。

i) ' 言語部門間の相互作用、最適性理論。ii) ' 平曲譜本、近松浄瑠璃譜本。iii) ' 各種音韻単位への発話のセグメンテーション、F0曲線。iv) ' 対応分析、分散分析。

なお本授業は、講義に演習を織り交ぜた形式で進めていく。

[授業計画と内容]

それぞれ約3週をかけ、以下のトピックを順次とりあつかう予定である。ただし、受講者の関心・理解度により、あつかう内容や進度について調整をおこなうことがある。

- ・アクセントの地理的変異と歴史的変遷
- ・平曲譜本における発音注記と節博士
- ・分節的、超分節的側面からみた近松浄瑠璃譜本における掛詞の表記と胡麻章
- ・各種音韻単位の構造仮説と字余り句分布
- ・連濁、連声濁の生起語彙と日本語音韻レキシコンの層別化
- ・各種“音便”をめぐる音韻論的解釈
- ・上代語母音体系をめぐる諸論
- ・音変化、借用、および最適化を通じた文法化と類推の分析

[履修要件]

特になし。「授業の概要・目的」のi)~iv)にあげた諸方面を網羅的に取り扱うわけではなく、授業を理解する上で必要と思われる事項については、授業中に解説し必要に応じ参考書を紹介する。ただし、授業で出す課題の一部に関しては、手順について授業中に説明をおこない、PCを用いて各自で授業外に作業をおこなうことが前提となっている。PC利用環境を持たない受講生が万一あれば手だてを考えますので相談ください。

----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・基準]

授業における貢献度（30％）、学期中に数回課す課題（30％）、および期末レポート（40％）をもとに成績評価をおこなう。

[教科書]

授業中に必要な指示をおこない、プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

学外非常勤ですが、質問、相談に応じることが可能です。日時は相談して決めたいと思います。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)	担当者氏名	神戸大学 大学院国際文化学研究所 教授 定延 利之						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	特殊講義
題目	言語コミュニケーション研究								
【授業の概要・目的】									
日常のことばや音声コミュニケーションを主たる題材として、「伝達一辺倒のコミュニケーション観」「目的論的な発話観」「道具的な言語観」という相互につながる3つの前提の効果とその問題点を考え、言語とコミュニケーションの研究枠組みについて理解を深めたい。									
【授業計画と内容】									
具体的には、言語とコミュニケーションのつながりについて、そして、文と発話の関係について、私自身の比較的最近の研究から例を挙げて考えてみたいと思います。必要に応じて他言語の例を挙げますが、なただけ現代日本語の自然会話の実データ(音声映像データ)をとりあげるつもりです。具体的にとりあげるのは、たとえば「えーと」「あー」「さー」のようなことば、「さ、坂本さんですか」のようなつかえ、「これ1個で百万円」と言われて「はあー」と感心してみせるようになりきんだ声、「なにとぞよろしく願います、スー」のような空気すすり、あるいは「ウソだよぴょん」の「ぴょん」のようなことばなど、さまざまな「話しことば」的な現象です。昨年度に行った類似の授業よりも、若干理論的な色彩を強める予定です。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートを考えていますが、受講者数や理解度(授業中に適宜、理解度や授業の進め方について意向を問う調査をおこなう予定)によっては試験にするかもしれません。授業への貢献はもちろん考慮します。									
【教科書】									
授業中にプリントを配布する予定です。									
【参考書等】									
(参考書) 定延利之(2005)『ささやく恋人、りきむレポーター：口の中の文化』(岩波書店) 定延利之(2008)『煩惱の文法』(ちくま新書) 定延利之(2011)『日本語社会のぞきキャラくり』(三省堂)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
学外非常勤ですが、予約をとってもらえば相談に乗ることは可能です。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	広島大学 大学院文学研究科 准教授 五十嵐 陽介				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	実験音韻論入門								
【授業の概要・目的】									
<p>文字に書かれた言語データだけではなく、録音された音声データの分析ができれば、言語研究の可能性は大きく開ける。近年の分析機器の技術的な発展のおかげで、音声の音響分析は従来考えられてきたほど敷居の高いものではなくなっている。</p> <p>この授業の目的は、実験音声学的手法を用いて音韻論上の仮説を検証していく手法（実験音韻論的手法）を習得することにある。具体的には、実験音韻論の理論的背景を学び、必要最低限の音響音声学の知識を得るとともに、音響分析ソフトウェアの基本操作を覚え、録音された言語データの分析ができるようになることを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1-2回. 実験音韻論とは何か 第3-4回. 音声波形を記述するための諸概念 第5-6回. 演習: 分節音長・ポーズ長の計測 第7-8回. 演習: フォルマントの計測 第9-10回. 演習: 発声開始時間(VOT)の計測 第11-12回. 演習: 基本周波数（アクセント・イントネーション）の分析 第13-15回. 演習: 総合問題</p> <p>学習の理解度に応じて変更される場合がある。</p>									
【履修要件】									
調音音声学（IPAの体系）の基礎的な知識があることを前提とする。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席・授業での発言）40%、演習問題（授業中の課題、および宿題）60%									
【教科書】									
適宜プリント等を配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 音声データ（.WAV）等を配布する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>学生ひとりひとりがPCを使える環境を確保してください。（すべての学生にPCが提供されない教室で授業が行われる場合は、個人のPCを授業に持参してください。） 初回授業までに個人PCに音声分析ソフトPraat（無料）をインストールしておいてください。Praatのダウンロードは http://www.fon.hum.uva.nl/praat/ からできます。 また、下記サイトでPraatの基本操作について解説しているので、初回授業までに必ずひととおり目を通しておいてください。 http://www009.upp.so-net.ne.jp/y_igarashi/praatmaster/</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	言語学（特殊講義） Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 齋藤 治之				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	トカラ語入門								
【授業の概要・目的】									
<p>トカラ語とは現在の中国新疆ウイグル自治区でかつて使用されていた言語で、系統的にはインド・ヨーロッパ語族に属し、しかも多くの点で同じケントゥム語群に分類される西方のケルト語やラテン語との類似性を示している。東の端に位置するトカラ語がケントゥム語群に属する理由として、この言語の話者たちが西ヨーロッパから中央アジアに至る長い道のりを移動したことが考えられる。トカラ語の言語資料は西暦6世紀から8世紀頃にかけて書かれた仏教の経典の翻訳を主とし、それらの文書は20世紀初頭ドイツ、フランス等の国々が派遣した中央アジア探検隊の発掘調査によりもたらされた。その出土地はシルクロード天山南路に沿った東からトルファン、カラシャル、クチャ等のオアシス諸都市で、東トカラ語（トカラ語A）と西トカラ語（トカラ語B）の2つの方言に区別され、6世紀から8世紀にかけての主に仏典の翻訳を中心とした写本が残されている。トカラ語は10世紀にはウイグル族に征服され死語になったと考えられている。</p> <p>本講義ではインド・ヨーロッパ比較言語学の方法に基づいて、トカラ語の発音から始めて、形態、統語、そしてトカラ語Aおよびトカラ語Bのテキストを講読するレベルまで力をつけることを目指している。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回授業から第3回授業：トカラ語について。トカラ語の発音について。 第4回授業から第6回授業：トカラ語の名詞の格変化について。 第7回授業から第9回授業：トカラ語の形容詞および分詞の変化について。 第10回授業から第12回授業：トカラ語の代名詞の変化について。 第13回授業から第17回授業：トカラ語の動詞の変化について。 第18回授業から第23回授業：トカラ語Aによるテキスト講読。 第24回授業から第28回授業：トカラ語Bによるテキスト講読。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期・後期学期末レポートと出席点に基づいて評価する。									
【教科書】									
<p>Krause, Wolfgang/ Thomas, Werner 『Tocharisches Elementarbuch』 (Carl Winter) 1960年出版でISBNはありません。 上記教科書のプリントをこちらで準備して授業中に配布。</p>									
【参考書等】									
(参考書)									
【その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 外国人教師 VINE, Brent Harmon				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	Introduction to Mycenaean Greek								
【授業の概要・目的】									
The course will introduce the Linear B writing system and the grammar and vocabulary of Mycenaean Greek.									
【授業計画と内容】									
The course has two main goals: (1) to explore the contribution of Mycenaean Greek to our understanding of first-millennium Greek and its dialects (including the language of Homer) (2) to read a broad range of texts in Mycenaean Greek, thereby illuminating the interest of the Linear B documents for Greek cultural history and enabling students to make use of this material on their own.									
【履修要件】									
Knowledge of Classical Greek grammar and vocabulary is a prerequisite.									
【成績評価の方法・基準】									
Regular attendance and oral presentation; details provided later.									
【教科書】									
J. T. Hooker 『Linear B: An Introduction』 (Bristol) ISBN:0-906515-62-0									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Office hour is available by appointment. オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 吉田 豊				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木1	授業形態	演習
題目	古代・中世イラン語文献演習								
【授業の概要・目的】									
<p>古代及び中世のイラン語文献を読みながら言語研究上の諸問題，および文献に書かれた内容（歴史宗教）について議論する．古代語としては主にアヴェスター，中世語としてはソグド語文献を読む文献言語学の手法を体得するとともに，イラン系の言語の構造と，イスラム化以前のイランの文化や歴史に触れることが本授業の目的である．</p>									
【授業計画と内容】									
<p>最初にイラン系の言語や文献の概要について解説する．その後は隔週で古代語と中世語を交互にとりあげる．アヴェスターでは，文法事項を確認するとともに，当該の文法事項を含む少し長めのパッセージを読んでいく．その際，宗教的な内容についても考察する．ソグド語文献では，マニ教文献や仏教文献を，文法を確認しながら解読していく．これらは8世紀から10世紀にかけて書かれた文献であるが，内容の理解にはマニ教や仏教についての知識も必要になってくるので，その方面についても解説する．さらに文献を使った言語研究の方法についても論じる予定である．</p>									
【履修要件】									
<p>事前にこれらの言語について一定の知識を持っているか，授業とは別に独習しながらそれらの知識を補う用意のある学生を対象とする．</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>出席と授業への貢献など平常点で評価する．</p>									
【教科書】									
<p>使用しない 教材はこちらで配布する．</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワーは特に設けませんが，質問があれば研究室で受け付ける．詳しくは授業のおりに知らせる．</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 田窪 行則						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	琉球諸語研究：宮古池間方言を中心として								
[授業の概要・目的]									
[授業のテーマ]琉球宮古語池間方言の単語、文章の聞き取りなどを行い、未知の言語を調査記述する方法を学ぶ。									
[授業の目的]日本語の姉妹語である琉球諸語に関する知識を深め、ひいては日本語の歴史に関する知識を深める。記述言語学の基本的な知識を身につける。									
[授業計画と内容]									
琉球宮古池間方言を中心に、未知の言語を記述する方法を学ぶ。琉球列島で話されている言葉は、日本語の姉妹語であり、唯一、同じ祖語を有する姉妹語であることが証明されている。しかし、両者の差は大きく、互いに意思疎通は不可能である。また、琉球諸語は5つの言語に分類される(奄美、沖縄、宮古、石垣、与那国)が、これらの言語間でも意思疎通が不可能なほど違っている。琉球諸語はいわゆる危機言語(消滅の危機に瀕した言語)であり、宮古語もその例外ではない。母語話者は60代であり、すでに次の世代への継承を行っていない。宮古語池間方言はそのなかでも比較的若い世代でもよく使われており40代の話者でも流暢に話す。しかしこの方言でも次世代への継承はほぼ途絶えており、30年後には消滅する可能性が高い。そこで、この授業では、同時に消滅の危機に瀕した言語を記録、保存する方法についても学ぶ。									
前期予定									
1回目：導入 琉球諸語、危機言語、言語の記述と記録									
2回目～4回目：池間方言の概説、語彙調査による音素の設定									
5回目～6回目：主題の形式、対格形式の形態音素論									
7～9回目：基本的な例文の書き取りと動詞形態論の基礎									
10～14回目：談話の書き取り 書き取りソフト、映像記録ソフトの使い方									
後期予定									
1回目～2回目：アクセントの弁別									
2回目～4回目：談話の書き取りと動詞、形容詞形態論の整理									
5回目～10回目：談話の書き取りと接続語尾の整理、文法体系の整理									
11回目～14回目：琉球の他の言語、方言の概説、									
[履修要件]									
課題、その解答例、講義資料はWikiのページに挙げるのでネットに接続できることが必要である。音声学の基本的な知識がある方が望ましい。									
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----									

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・基準]

出席40%、課題の提出40%、授業内での発言20%

池間方言の書き取りができるようになることが最終的な目的であり、課題、授業内での発言はその書き取り能力、聞き取り能力によって評価する。

[教科書]

授業中に指示する

プリント類、書き取り用音声はすべてWikiのページにアップする。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

他の方言に関する記述も適宜紹介する。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

課題があるので必ず締め切り前に提出すること、課題の解答で授業が進行する場合も多い。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)			担当者氏名	大阪学院大学 情報学部 准教授 笹間 史子				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	演習
題目	調音音声学								
【授業の概要・目的】									
言語音産出のしくみを理解するとともに、実習をとおしてさまざまな言語音の発音および聞き取り・表記を習得することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
前期は、音声器官について紹介したのち、IPAの表を用いて子音・母音の発音練習をおこなう。後期は、録音を用いて皆でいくつかの言語における子音・母音の聞き取り・表記の練習をしたのち、さまざまな言語の音声について担当者を決めて発表をしてもらう。発表にあたっては、短い録音資料を選び、そこで観察される音声をIPAを用いて表記、ハンドアウトを配布して解説してもらい、それについて皆で議論する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と授業の準備状況、発表、発音・聞き取りテスト、年度末に提出してもらう小レポートによって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 田窪 行則				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
題目	韓国語韓国社会実地研修								
【授業の概要・目的】									
ソウル大学において、ソウル大学言語教育研究所（LEI）および国際研究大学院（GSIS）の協力を得て実施する。韓国語の習得および韓国の社会と文化の概要を学ぶことを目的とする。授業は原則として英語により実施する。									
【授業計画と内容】									
(1) 文学部で渡航前のオリエンテーション（昨年度参加者の体験報告など）									
(2) 8月6～24日 ソウル大学言語教育研究所（LEI）において、3週間、週5日間、毎日午前9時から午後1時まで（1日あたり4時間）、韓国語の授業を受講。クラス分けテストにより、各人の能力に応じたクラスに所属。初心者も可。詳細は以下を参照。 http://lei.snu.ac.kr/site/jp/klec/3Week-Intensive/course.jsp 国際研究大学院（GSIS）において、韓国の社会と文化についての講義を受講（12時間）。および各人テーマを決めてソウル市内においてフィールドワークを行う（約18時間）。									
(3) 帰国後、韓国語能力試験と韓国社会研究の成果発表を実施する。									
【履修要件】									
履修志望者はTOEFL・IELTS等による語学能力証明書を提出すること。英語での受講に十分な学力をそなえていることが求められる。その他費用負担等、詳細については1回目のガイダンスで説明する。									
【成績評価の方法・基準】									
ソウル大学言語教育研究所（LEI）が発行する修了証および成績証明書と、帰国後に実施する韓国語能力試験および研究成果発表の結果を総合して担当教員が評価し、単位を認定する。									
【教科書】									
ソウル大学で購入する。									
【参考書等】									
（参考書） ソウル大学で購入する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

【大学院共通科目】

授業科目名 <英訳>	シュメール語（初級）（語学） Sumer			担当者氏名	総合地球環境学研究所 森 若葉 上級研究員				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	語学
題目	シュメール語（初中級）								
【授業の概要・目的】									
古代メソポタミアで話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末から三千年間にわたる数多くの資料を残している。この言語は、楔形文字で記され、複雑な接辞体系で知られている。本授業は、まだあきらかになっていない部分もあるシュメール語文法について概説をおこない、その古代の資料を実際に講読することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
前期は、シュメール語文法の概説およびその書記体系である楔形文字の成立としくみについて解説を行う。その間、適宜簡単なシュメール語資料を読む予定である。 後期は、シュメール語資料の講読を中心におこない、資料ごとに文法の解説、問題点の指摘を行う。また死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点、系統不明の古代のシュメール語の解読がどのようにおこなわれたのかについてもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキスト等である。なお、後期後半に楔形文字実習を予定している。									
【履修要件】									
楔形文字実習の際、粘土等を用意してもらう必要がある。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および学年末レポートを予定。									
【教科書】									
なし。プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（初級）（語学） Swahili	担当者氏名	非常勤講師 井戸根 綾子						
配当学年	全回生	単位数	1	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	スワヒリ語初級								
【授業の概要・目的】									
スワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。名詞クラスなどスワヒリ語の初級文法の理解を基本とし、語彙、基本文型、実際の会話表現なども学ぶことで、初級に相当する読解力の習得を目指す。									
【授業計画と内容】									
第1週はオリエンテーションを行なう。 第2週より、以下の項目について学習する。 あいさつ表現、自己紹介、動詞を使わない文（コピュラ・存在・所有）、現在時制・過去時制・未来時制・完了時制の表現、名詞クラスなど。 なお、授業の進度は適宜調整する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、平常点、定期試験の結果により、総合的に判断する。 なお、3分の2以上の出席を必須とする。									
【教科書】									
竹村景子『ニューエクスプレス スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08527-1									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://el.osaka-gaidai.ac.jp/flc/swa/index.html (スワヒリ語独習コンテンツ)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。 各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（中級）（語学） Swahili	担当者氏名	非常勤講師 井戸根 綾子						
配当学年	全回生	単位数	1	開講期	後期	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	スワヒリ語中級								
【授業の概要・目的】									
スワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。スワヒリ語の標準文法の理解をさらに深め、新たな語彙や慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力の習得を目指す。									
【授業計画と内容】									
第1週は初級で学習した文法の復習を行なう。 第2週より、以下の項目について学習する。 接続形、動詞の派生形（受身形・相互形・使役形・状態形など）、指示詞、条件節、関係節、ことわざ・格言など。 なお、学習の進度は適宜調整する。									
【履修要件】									
「スワヒリ語初級」受講者に限る。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、平常点、定期試験の結果により、総合的に判断する。 なお、3分の2以上の出席を必須とする。									
【教科書】									
竹村景子 『ニューエクスプレス スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08527-1									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://el.osaka-gaidai.ac.jp/flc/swa/index.html (スワヒリ語独習コンテンツ)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。 各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	言語学(演習) Linguistics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 田窪 行則 文学研究科 教授 吉田 和彦 文学研究科 教授 吉田 豊				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4,5	授業形態	演習
題目	言語学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
修士論文および課程博士論文の質の向上を目的とする。大学院生が自らの研究について報告を行い、それに対する質疑応答、討論を通して、思考力や分析力を培う機会にする。									
【授業計画と内容】									
大学院生は、各自の研究の進捗状況と成果について、少なくとも年1回の発表を行う。修士論文提出予定者は前期と後期にそれぞれ1回ずつ発表を行う。発表の後に、質疑・討論を行い、さまざまな言語学的問題についての理解を深める。発表者は発表の数日前に、自らの研究成果が反映されているハンドアウトを用意しなければならない。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業時での発表と出席状況など、平常点で評価する									
【教科書】									
ハンドアウトを使用する									
【参考書等】									
(参考書) 特になし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
大学院博士後期課程修了者の参加も歓迎する									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

社会学専修

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 公雄				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木5	授業形態	特殊講義
題目	現代社会とジャーナリズム								
【授業の概要・目的】									
ジャーナリズムの現場からの生の声を聞くとともに、実際に自分たちで取材活動を行い、記事の作成を実践することで、ジャーナリズムの世界を体験してもらうことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
京都新聞総合研究所との協力により授業を進める。前期は、新聞、テレビ、雑誌など、現場のジャーナリストやディレクター、編集者などによる講義形式の授業を行なう。後期は、いくつかのグループに分かれそれぞれのテーマを設定した上で、実際に、新聞の紙面や雑誌の記事を作成する。授業計画の詳細は、最初の授業時に提示する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
通常の授業態度（適宜レポートを書いてもらう）および最終的に作成する記事によって評価を行う。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 適宜配布します									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 落合 恵美子				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	東アジア社会研究								
【授業の概要・目的】									
<p>京都大学、国立台湾大学、ソウル大学の社会学科・社会学専修が共同で実施する授業である。今年度は台湾大学で実施する。東アジア社会についての理解を深めると共に、英語での研究発表を経験することを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>(1) 渡航前に東アジア社会に関する講義および学生の研究発表指導を数回実施。 (2) 9月中旬 国立台湾大学にて5日間のプログラムを実施。1~3日目は、参加3大学教員による講義(英語)とフィールドワーク。4・5日目は3大学学生による研究発表(英語)。</p>									
【履修要件】									
<p>履修志望者はTOEFL・IELTS等による語学能力証明書を提出すること。英語での受講と研究発表に十分な学力をそなえていることが求められる。その他費用負担等、詳細については1回目のガイダンスで説明する。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>3大学の教員が合議して、平常点50%・研究発表50%で成績を評価し、それを参考にして京都大学の担当教員が京都大学の学生の単位を認定する。</p>									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 落合 恵美子				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義
題目	社会調査入門 (社会調査士資格認定科目 A)								
【授業の概要・目的】									
本講義では、社会学的実証研究すなわち社会調査の意義と限界、さまざまな方法、およびそれらに関する基本的事項を学ぶ。質的調査と量的調査の両方を含む。									
【授業計画と内容】									
1.社会調査とは何か 2.社会調査と調査倫理 3.質的調査と量的調査 4.インタビュー調査とその事例(1) 5.インタビュー調査とその事例(2) 6.図像・映像分析による調査とその事例(1) 7.図像・映像分析による調査とその事例(2) 8.歴史史料分析による調査とその事例(1) 9.歴史史料分析による調査とその事例(2) 10.既存統計の利用法とその事例(1) 11.既存統計の利用法とその事例(2) 12.質問紙調査とその事例(1) 13.質問紙調査とその事例(2) 14.社会調査の設計(1) 15.社会調査の設計(2)									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
各自の問題関心に応じて簡単な社会調査を実施して、レポートを提出する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 適宜配布する。									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 田中 紀行				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	支配の社会学								
【授業の概要・目的】									
Andrea Maurer, "Herrschaftssoziologie. Eine Einführung" (2004) の精読を通して、社会学のドイツ語文献の読解力を習得するとともに、マックス・ヴェーバーによって基礎づけられた「支配の社会学」の基礎概念と支配の類型論、支配の正当化などについての基本的な考え方を学ぶ。									
【授業計画と内容】									
テキストを冒頭から毎回2~3ページ程度ずつ読み進める予定である(ただしペースは受講者の学力を考慮して調整する)。毎回報告者をあらかじめ決めておき、報告者の作成したテキストの日本語訳を検討しながら内容について討論する。報告者は正確な訳文を作成するのみならず、テキストに登場する学説や用語、人名等について必要に応じて注釈することが求められる。									
【履修要件】									
原則として、前年度までにドイツ語を中級まで履修しているか同程度のドイツ語の知識があること									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
Andrea Maurer 『Herrschaftssoziologie. Eine Einführung』 (Campus Verlag) ISBN:3-593-37240-1 (コピーを配布する。)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 太郎丸 博						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	基本的な資料とデータの分析 (社会調査士資格認定科目 C)								
【授業の概要・目的】									
官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるようになることをが、この授業の目的である。基礎的な計算法やテクニックについて講義する。また、それとあわせて、実際のモノグラフや調査報告書も講読していく。									
【授業計画と内容】									
1課題あたり1~2週の授業をする予定									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 単純集計表・クロス集計表の作成と読み方 2. 代表値の計算と使い方・読み方 3. 分散・標準偏差 4. 分位点、ジニ係数 5. グラフの作り方と読み方 6. 順位相関係数 7. 因果関係と相関関係 8. 多重クロス表と疑似相関 9. 質的データの読み方とまとめ方 10. 文献購読 									
【履修要件】									
四則演算と平方根(ルート)の計算ができること									
【成績評価の方法・基準】									
出席(15%)・宿題(15%)・試験+レポート(70%)									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書)									
盛山和夫, 2004 『社会調査法入門』(有斐閣) ISBN:978-4641183056 (読み物としてもおもしろい)									
轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社) ISBN:978-4589032577 (最近の調査環境をふまえた新しいタイプのテキスト)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは授業時に指示。 練習問題を解くなどの授業外学習が必要。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 太郎丸 博				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	社会階層と不平等								
【授業の概要・目的】									
<p>社会の中には、生まれ育ちや性別、人種、階級などによってさまざまな不平等がある。このような不平等の実態はどのようなもので、それは歴史的にどのように変化してきたものなのか、あるいは国や地域によってどのように異なるのか、そして、そのような不平等の生じるメカニズムはどのようなものか、といった問題についての理解を深めることがこの授業の目的である。</p>									
【授業計画と内容】									
1 課題あたり1～2週の授業を予定									
1 社会階層とは？ 2 マルクス主義階級理論 3 世界システム理論 4 分析的マルクス主義 5 ヴェーバー派階級理論 6 学歴と不平等 7 ジェンダーと不平等 8 人種・エスニシティと不平等 9 階層構造の歴史的変容 10 階層構造の国際比較									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点30%、筆記試験70%（ただし受講人数や受講者の状況を勘案して若干修正する可能性あり。詳細は初回の授業時に決定する）									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 富永 茂樹				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	公共性と親密性の弁証法								
【授業の概要・目的】									
18世紀における家族の規模の縮小と内部の関係の親密化の過程を検討したPh.アリエスは最後に「家族の感情と社交性とは相容れないもので、一方が他方を犠牲にしてでしか発達しないのではないかと、深刻な問題を提起する。この命題が正しければ、近代社会で成長したとハバーマスのいう「公共圏」にかかわる議論には全面的な疑問が付されなくてはならなくなるであろう。他方で同じ時期における「公共人の衰退=親密性の暴政」に注目するセネットは、アリエスと軌を一にし、ハバーマスと対立するかに見えるが、しかしその議論もまた必ずしも説得力をもつとはいえない。この授業では、こうした親密性と公共性の複雑な絡まりを解きほぐすことによって、現代の家族社会学にとってもコミュニケーション論にとっても基本的な概念の整理と総合とを試みる。									
【授業計画と内容】									
前期ではまず問題のありかの確定と基本的な概念の整理を行ったうえで(1-5)、サロン、クラブ、フランス革命期の民衆協会など、社会のさまざまな局面での社交や公共空間の展開と挫折の過程を検討する(6-14)。 後期に入ってから、前期で検討した中間的諸集団の衰退と並行して進む活字メディアの拡大と近代的主体の関係に目を向け(1-5)、さらに前期に見てきた諸集団を取り囲むかたちで都市に成長する「群集」の姿をとおして、自己と社会集団いずれもの困難ないし不可能性を見たうえで(6-10)、それが現代社会にまで持ち込まれることで生じるいくつかの問題を確認する(11-14)。 以上の過程を経過するうえで、社会と主体とを見るための基本的視点を提供してくれるのは、文学作品をはじめとするさまざまなテキストであり、これらがたんなる材料というよりは、われわれ自身の思考そのものをかたちづくることになるであろう。									
【履修要件】									
特別な知識は必要ではないが、18世紀以後今日にいたるまでのコミュニケーションや社交、家族をめぐる問題、広くは公共性と親密性という主題に関心があることが望ましい									
【成績評価の方法・基準】									
学年末に試験を実施して、1年間の授業内容をどれだけ理解しているかを判定して、これにもとづいて成績評価を行う。									
【教科書】									
使用しない 授業で解読するテキストについては、適宜コピーを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 富永茂樹 『理性の使用 ひとはいかにして市民となるのか』(みすず書房) Ph・アリエス 『子どもの誕生』(みすず書房) J・ハバーマス 『公共性の構造転換』(未来社) R・セネット 『公共人の衰退』(晶文社) その他必要と思われるものについては、適宜授業中に紹介する予定。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 高橋 由典				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	行為論と社会分析								
【授業の概要・目的】									
体験選択概念を社会分析のツールとして精練する可能性を探る。今年度は「動機としての体験選択について考えることを通して、体験選択概念の経験的事象への応用可能性を見極めたい。									
【授業計画と内容】									
最初に体験選択概念の意味を確定したのち、この概念を用いた現実分析の可能性を探る。体験選択は人間の経験の動性に注目した概念だが、この動性への着目は、遊びや芸術、宗教といった現象の分析に大きな寄与をなす。本講義では動機カテゴリーとしての体験選択について考察を進めることを通して、この概念が、遊びについての社会学的研究や宗教社会学あるいは戦後日本社会論に対してどのような貢献を果たしうるかを考えてみたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期中のレポートおよび期末のレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 高橋由典 『行為論的思考 - 体験選択と社会学』 (ミネルヴァ書房、2007年)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
人間・環境学研究科、総合人間学部と共通									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 教授 吉田 純					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	情報ネットワーク社会論								
【授業の概要・目的】									
ハーバーマス、ギデنز、ベックらの社会理論を基本的な枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。									
【授業計画と内容】									
以下の順序で、各項目について1～3回の講義をおこなう。									
<ol style="list-style-type: none"> 1 情報ネットワーク社会への視点 2 日本社会/アメリカ社会における 情報化 3 CMC (Computer Mediated Communication) 空間の展開 4 生活世界のリアリティの再編成 5 再帰的近代化としての 情報化 6 監視社会論 7 リスク社会論 8 社会空間の再編成 9 親密圏・公共圏の再編成 									
【履修要件】									
社会学関係の全学共通科目または学部での概論科目を履修していることが望ましい									
【成績評価の方法・基準】									
中間・期末の2回のレポートによる（配点は中間30点・期末70点とする）									
【教科書】									
使用しない プリントを配布する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
https://socio.k.kyoto-u.ac.jp/sis (授業専用サイトで、資料配付、レポート提出、質問受付、その他の各種連絡をおこなう(ログインパスワードは初回の授業で通知する))									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	教育学研究科 准教授 佐藤 卓己				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	メディア文化論								
【授業の概要・目的】									
<p>メディア論を中心に、現代社会のなりたちを世界システムとの関連で考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 都市基盤の上に成立した大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
第1-3回 メディア社会とは何か 第4回 メディア史としてのコミュニケーション研究 第5回 メディア都市の成立 第6章 出版資本主義と近代精神 第7回 大衆新聞の成立 第8回 視覚人間の国民化 第9回 宣伝のシステム化と動員のメディア 第10回 ラジオとファシスト的公共性 第11回 トーキー映画と総力戦体制 第12回 テレビによるシステム統合 第13回 情報化の未来史 第14回 脱・情報化社会へ 第15回 試験									
【履修要件】									
メディアに関心があり、情報感度が高いこと。									
【成績評価の方法・基準】									
試験を行う。評価基準については、講義中に説明する。									
【教科書】									
佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス・1998）									
【参考書等】									
（参考書）									
佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店・2009年）（メディア史＝メディア論の発想									
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----									

社会学(特殊講義)(2)

法について、参照のこと。)

佐藤卓己『輿論と世論 日本的民意の系譜学』(新潮選書・2008年)(「ヨロン」と「セロン」の区別について、参照のこと。)

佐藤卓己『現代史のリテラシー 書物の宇宙』(岩波書店・2012)

(関連URL)

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

メディア論の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』(岩波新書・2006年)を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』(岩波新書・2009年)を、事前に読んでおくことが望ましい。

なお、テキストの中国語訳に佐藤卓己『現代伝媒史』(北京大学世界伝播学經典教材中文版)北京大学出版社2004年がある。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	教育学研究科 教授 岩井 八郎				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	社会調査の意義と作法 (社会調査士資格認定科目 B)								
【授業の概要・目的】									
社会学における実証研究の作法を概説する。各種の方法を用いた代表的な実証研究例を紹介しながら、社会調査の意義、量的データと質的データの収集、整理、分析などの基本的な考え方と方法を説明する。									
【授業計画と内容】									
序論：データのタイプ、議論のタイプ 1．質的調査と量的調査：研究例の紹介 2．調査のタイプと研究課題 3．調査票の構成 4．質問文の作成(1)：より質問、悪い質問 5．質問文の作成(2)：作成の実習 6．サンプルの選び方：全数調査と標本調査 7．サンプリングの方法 8．サンプル数と標本誤差 9．量的調査の実施方法とデータの整理 10．コーディングの実際 11．基本統計量を読む 12．推定と検定 13．相関と回帰 14．調査データの分析入門 15．まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
中間でレポート + 最終のレポート試験 + 出席									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 社会調査関係の多くの教科書が出版されている。授業中に紹介する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
表計算ソフトを利用する。マニュアルを配布するので各自で実習をする予定。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	教育学研究科 教授 岩井 八郎				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	社会調査における多変量解析の利用 (社会調査士資格認定科目 E)								
【授業の概要・目的】									
量的な社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、考え方とその利用方法について学習する。3変数の関係について、3次元のクロス表と2元配置の分散分析を理解することからスタートし、重回帰分析と一般線形モデルが利用できるように説明する予定。									
【授業計画と内容】									
1. 社会調査データの多様性と分析手法 2. 3変数の関係の分析(1): 3次元のクロス表 3. 3変数の関係の分析(2): 分散分析の考え方(1次元と2次元) 4. 3変数の関係の分析(3): 交互作用について 5. 調査データの分析実習(1): 3次元のクロス表と2元配置の分散分析 6. 重回帰分析の考え方 7. 重回帰分析の利用(1): 研究例 8. 重回帰分析の利用(2): ダミー変数の利用 9. 調査データの分析実習(2): 重回帰分析 10. 一般線形モデルの考え方: 分散分析と重回帰分析の関係 11. 一般線形モデルの利用: 研究例 12. 主成分分析と因子分析の考え方 13. 主成分分析と因子分析の利用: 研究例 14. 調査データの分析実習(3): 一般線形モデル 15. 分析モデルとレポートの作成について									
【履修要件】									
社会調査士科目 A B C D を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
中間レポート + 最終レポート + 出席									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 岩井紀子・保田時男 『調査データ分析の基礎』(有斐閣)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業で調査データの分析実習を行い、課題を出す予定。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	法学研究科 教授 新川 敏光				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	前期	曜時限	月4,水4	授業形態	特殊講義
題目	福祉国家の政治経済学								
【授業の概要・目的】									
本講義では、福祉国家発展の成立・危機・変容について、資本主義経済と民主主義政治のダイナミズム、相互作用から理解し、今日の社会保障をめぐる問題を、日本を中心に歴史的比較論的理論的に考察する。									
【授業計画と内容】									
<p>第一部 福祉国家の理論 福祉国家の前提 福祉国家の成立条件 福祉国家の発展理論 福祉国家の類型論 福祉国家の危機論 福祉国家の新しい政治：歴史的制度論 福祉国家再編の政治：福祉レジーム論の射程</p> <p style="text-align: center;">第二部 比較の中の日本型福祉レジーム</p> <p>戦前日本の福祉レジーム 占領下の政治過程 55年体制下の家族主義福祉レジーム 家族主義福祉レジームの強化：福祉見直しI 家族主義レジームのゆらぎ：福祉見直しII 構造改革以後の福祉レジーム：労働と福祉の見直し</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
試験による									
【教科書】									
新川敏光 『日本型福祉レジームの発展と変容』（法律文化社） 新川敏光 『幻視のなかの社会民主主義』（法律文化社）									
【参考書等】									
（参考書） 新川・井戸・宮本・眞柄 『『比較政治経済学』』（有斐閣）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	経営管理大学院 教授 若林 直樹				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	経営組織論								
【授業の概要・目的】									
<p>日本企業は、組織として活動している。その組織の経営管理を考えていく上では、組織のメカニズムを理解する必要がある。組織論は、経営学の中で組織管理についての基本的な考え方を提供しようとするものである。組織とは、専門的には、企業という人的組織の協働活動システムとしての側面を持っている。人的組織としての独自のメカニズムがあり、意思決定、動機付け、リーダーシップ、組織文化、企業間協力、組織改革において、経済的な面だけではなく、社会的な面、心理的な面を含めての動き方をする。この点を理解したい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>この授業では、特に企業組織についてその全体構造や企業間ネットワークというマクロな次元に焦点を絞り、経営環境と組織構造の相互作用、官僚制組織とネットワーク組織、イノベーションと学習を行う組織能力、日本的経営の組織特性などについてふれて行きたい。こうした点を通じて、日本企業の意思決定、知識管理、イノベーションなどの活動での人的組織としての特性が明らかになる。さらに、日本企業は、グローバル化、情報化、高齢化という経営環境変化で、組織自体も大きく変容しつつある。</p> <p>下記の項目について1～2週間で講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．組織論の視点 2．意思決定 3．動機付けと成果主義 4．経営環境と組織構造 5．基本的な組織デザイン 6．ネットワーク組織 7．組織デザインに影響する要因 8．組織文化 9．イノベーションと組織学習を行う組織能力 10．戦略的な組織変革 11．日本的経営の組織特性と現代の経営環境 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>組織論の諸概念についての理解ができているかを基準に成績評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間レポート(40%) ・最終試験(55%) ・小テスト(5%) 									
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----									

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

田尾雅夫他 『はじめて経営学を学ぶ』(ナカニシヤ出版) ISBN:97848888489942
若林直樹 『ネットワーク組織』(有斐閣) ISBN:9784641163423

[参考書等]

(参考書)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

ぜひ履修すべき科目としては経済学部経営学原理、経営学入門がある。また、履修が望ましいもの経営戦略がある。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 森本 一彦				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	質的調査法の可能性 (社会調査士資格認定科目 F)								
【授業の概要・目的】									
質的調査を概説することを通して、データの収集能力を涵養することをめざす。状況によっては質的調査を実体験し、それを報告してもらうこともある。									
【授業計画と内容】									
1 質的調査法とは何か 2～3 報告書を読む 4～5 面接法 6～7 参与観察 8～9 ライフヒストリーを書く 10～11 文献資料を読む 11～12 フィールドワークのすすめ 13～14 質的分析と量的分析の交流 15 まとめ									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート提出と平常点によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 適宜配布する。									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者氏名	文学研究科 准教授 安里 和晃					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	グローバリゼーションと人の国際移動								
【授業の概要・目的】									
この講義ではアジアや欧州の人の国際移動について取り上げ、グローバリゼーションや少子化・高齢化・人口減少といった人口構成の変化が及ぼす人の国際移動の再編に焦点をあてる。そこでは構造変化を受け、受け入れ国の出入国管理政策・定住者に対する社会統合政策・送り出し国における送り出し政策が大きく変化していることを具体的に明らかにする。その際、人の国際移動が国内の労働政策、女性政策、人口政策にも大きく影響を受けているという諸政策の関連についても留意する。									
【授業計画と内容】									
講義ではグローバリゼーションや人口構成の変化に関連する概念や現象について確認し、それが人の国際移動に及ぼす影響について検討する。主に以下の諸点について論じることとする。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．人口構成の変化 2．経済成長戦略と移民政策 3．労働政策と移民 4．人口政策と移民 5．福祉政策と移民 6．結婚移民 7．各国の事例 8．定住者の社会統合(教育、就労、福祉) 9．ダイバーシティと移住者 10．地域統合 11．シチズンシップ 									
人は国境を超えるとどういったことが起きるのか。そういったことが具体的にわかるように授業を進めていきたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席、講義毎に書いてもらう感想文とレポート。レポートのウエイトは50%となります。									
【教科書】									
使用しない テキストは指定しませんが、授業で適宜論文を配布します。									
【参考書等】									
(参考書) 授業で適宜論文を配布します。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者氏名	関西学院大学 社会学部 教授 中野 康人					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	社会調査データ分析のための基礎統計学 (社会調査士資格認定科目D)								
【授業の概要・目的】									
社会調査によって得られたデータを分析するために必要となる統計手法について、その原理と利用方法を修得することが本講義の目的である。基本的な統計量（一変量の記述、二変量間の関係）、確率論の基礎（確率と分布）、推測統計（推定と検定）を中心に概説する。									
【授業計画と内容】									
<p>・1週～5週：基本的な統計量(5) 調査結果をまとめ、調査者の問題関心を把握するのに必要な基礎的な統計量について、その考え方と計算方法を概説する。具体的には、一変量の記述（代表値、分散、標準偏差）、二変量の関係の記述（各種相関係数、オッズ比、クロス表とモザイクプロット、回帰分析）、第三変数の導入（偏相関、三重クロス表）などを取り上げる。</p> <p>・6週～8週：確率論の基礎(3) 推測統計の基盤となる、確率と分布の概念について社会調査データの実例をふまえて概説する。確率や確率変数と分布の意味、社会調査における推測統計の必要性、標本抽出と中心極限定理などを取り上げる。</p> <p>・9週～11週：推定(3) 標本統計量から母集団の統計量を推定する手法について、その考え方と計算方法を概説する。具体的には、母平均の点推定ならびに区間推定を取り上げる。</p> <p>・12週～15週：検定(4) 統計的検定、つまりは調査者の問題関心（仮説）の正しさを統計的に判定する方法について、その考え方と計算方法を概説する。具体的には、平均値の差の検定、比率の差の検定、独立性の検定、無相関の検定などを取り上げる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験									
【教科書】									
授業中に指示する 毎回資料を配布する。参考文献はその都度指示する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	立命館大学 大学院先端総合学術研究科 准教授 天田 城介				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	老いの現代史								
【授業の概要・目的】									
<p>本年度の講義は、主に時代を明治期～昭和初期まで、戦時体制～終戦まで、被占領下～1950年代まで、1950年代以降～1970年代まで、1980年代～現在までの5つに区分したうえで、それぞれの時代における労働雇用システムと社会保障システムがどのように形成されてきたのか、それはいかなる歴史的ダイナミズムのもとで形成されてきたのかについて考える。特に、本講義では戦前/戦後の体制的連続性に照準した上で、戦時体制～被占領下の労働システムと社会保障システムがいかにして形作られてきたのか、それらがその後の戦後日本型労働・雇用システムと社会保障システムをいかにして形作ってきたのかに絞って検討していくものとしたい。</p> <p>ただし、本講義では、最初にいくつかの事例を紹介・参照していく中で、上記のような歴史的・時代的な見取り図が描けるように授業を展開していくことにしたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業の形式は、受講生による報告と全体討議を中心に進める予定である。</p> <p>授業計画は以下のとおりである（ただし、受講生の人数や問題関心を踏まえながら、一部変更することもありうる）。</p> <p>第1回 ガイダンス、文献紹介、全体概要の説明 第2回～第4回 老いの現代史の講義（5つの時代ごとの歴史的ダイナミズムを概説） 第5回～第12回 老いの現代史に関連する文献の輪読と講評 第13回～第15回 戦後日本社会における老いの現代史の分析（事例分析も含む）</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点評価。</p> <p>講義における報告（60%）と学期末レポート（40%）などによって評価する。</p>									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>天田城介 『老い衰えゆくことの発見』（角川学芸出版）ISBN:4047034959 天田城介・北村健太郎・堀田義太郎編 『老いを治める 老いをめぐる政策と歴史』（生活書院）ISBN:4903690733</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>講義と参加者による報告・討議。参加者の希望に応じて研究会などの形式にて発表・報告を行うことも検討する。また、必要があれば、個別面談による指導などで受講生の授業・研究をサポートする。</p> <p>講義に関して不明な点などがあれば、気軽に天田のメールアドレス（josuke.amada@nifty.com）まで連絡をしてください。</p> <p>なお、オフィスアワーについては講義中に指示します。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)		担当者氏名	非常勤講師 ジャンクリーヌ・ベルント					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4,5 隔週	授業形態	特殊講義
題目	マンガ論								
【授業の概要・目的】									
<p>近年、日本マンガは主にグローバル化とローカル化、さらにオタクと腐女子などの情動的共同体といった観点から、つまり、二重の意味で「社会」から逸脱する文化として注目を浴びつつある。それを念頭に、本講義は、マンガを改めて「社会」と関連づけることによって、マンガが受ける社会的影響というよりも、マンガおよびマンガ研究が果たしうる社会的役割に焦点を当てる。社会学者でない者の視野から、マンガ文化を手がかりに「社会」とは何かを追究しながら、日本国内外におけるマンガ言説についての基礎知識を身につけると同時に（表現に限らない）マンガの特質に注目することの可能性と限界を検討する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>(1-2)はじめに：ドイツにおけるマンガ、マンガにおける「ドイツ」（パロディ論を含む） (3-4) 日本国内外における「マンガ」の諸定義；日本マンガ論の動向：「社会反映論」と「表現論」；「社会」の彼方としての「サブカルチャー」という視点？ (5-6) 「社会」の彼方としての日本マンガのグローバル化？（欧米とアジアの相違、翻訳版と外国人マンガ家、プロの制作とファン・アート、新種のメジャーとマイナー） (7-8) 「女性マンガ」（少女／マンガ論、非実在青少年問題；マンガ・スタイルを採用しない女性作家；「女性的エクリチュール[文体]」の問題） (9-10) 「社会」とマンガを媒介するミュージアム（正当化、起源説、マンガ芸術論；国内外の相違；フランスでの「第9の芸術」） (11-12) アンダーグラウンド・コミックス、オールタナティヴ・コミック、グラフィック・ノベル：社会的批評力から見た北米における主流と個性派 (13-14) マンガの歴史、マンガと「歴史」</p>									
【履修要件】									
隔週の講義であるため、全7回となる。									
【成績評価の方法・基準】									
<p>（講義の70%への）出席・積極的参加 40%、 小レポート 60%； 課題 選択肢1：2012年に初めて単行本化されたマンガ作品を推薦する。その際、「サブカルチャー」に限らない読者層を想定して「社会」の観点を重視する。さらに、参考文献を活かす。 選択肢2:京都国際マンガミュージアムを「マンガと社会」の観点から分析する。 2000字程度、横書き、活字、A4（脚注、引用元の出典、作品の書誌的データの表記、論証の明確な根拠などにご注意） 提出：最終講義時；教室にて、直接ベルント宛</p>									
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----									

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

表智之他共著 『マンガとミュージアムが会うとき』(臨川書店、2009)

大城房美他編 『マンガは越境する』(世界思想社、2010)

J・ベルント編 『世界のコミックスとコミックスの世界/Comics Worlds and the World of Comics』(和英2巻)』(2010)(ダウンロード：<http://imrc.jp/lecture/2009/12/comics-in-the-world.html>)

T・グルンステン 『マンガのシステム：コマはなぜ物語になるのか』(青土社、2009)

J・ベルント編 『『美術フォーラム21』24号、特集「漫画とマンガ、そして芸術」』(醍醐書房、2011)

オーレ・フラーム 『「不気味な記号 コミックのパロディ的表現特性について」、『東北ドイツ文学研究』、第48号、2004年、pp.143-160』

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワーを開かないが、メールの形で対応する予定。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	立教大学 大学院21世紀社会デザイン研究科 教授 内山 節				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	ローカリズムと共同体								
【授業の概要・目的】									
コミュニティ、共同体とは何かを多様な視点から考察し、これからの社会のかたちとローカリズムの可能性を探る									
【授業計画と内容】									
1. コミュニティのとらえ方について 2. 日本と欧米の伝統的な社会観について 3. 個人と共同性の関係について 4. 多層的共同体について 5. 日本の近代化と共同体 6. 資本制市場経済、国民国家、市民社会 7. 風土論について 8. 主体と関係 9. 存在とき何か 10. 社会デザインとは何か									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
最終日の授業時間内にレポートを執筆し、提出する。評価はレポート100パーセント。評価基準は、自分の意見で書かれているか、それにどの程度の説得力があるか、です。									
【教科書】									
内山 節 『『ローカリズム原論』』 (農文協) (2012年2月末刊行予定) 参考文献として、内山 節著 『共同体の基礎理論』 農文協									
【参考書等】									
(参考書) 授業は講義と討論でおこないます									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 社会学部 教授 立木 茂雄				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	災害社会学								
【授業の概要・目的】									
<p>災害は理学や工学の研究対象と思われがちである。しかしながら地震や津波，あるいは洪水・土砂の崩落などの自然現象に対して社会の防災力が万全に対応できれば被害は発生しない。言い換えるなら，被害の発生を抑止するための予防的な備え，被害が万一発生してもそれを最小限にとどめるための事前の備え，それにも関わらず災害が発生した場合の効果的な緊急対応，そして被害が拡大した後に社会を復元させていくための努力，といった社会の側の対応（防災力）いかにによって災害の規模は大きく左右されるのである。つまり，災害因は理学・工学的現象であるのに対し，災害は社会的現象として考えることができる。災害が社会的現象であるならば，社会の側の対応によってその被害を合理的に制御することもできる。災害による生命や財産の被害を軽減するために社会学者はどのような問題に取り組んでいるのかについて、東日本大震災における新たな知見を交えて講じる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>学生が，社会現象としての災害を理解し，災害による被害を軽減するために求められる知識や技能を習得し，それらを実践できる態度を身につけられるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.災害とは何か：これまでの災害研究を俯瞰し社会現象としての災害理解の系譜を理解する。 2.リスク社会，災害因，災害脆弱性について知る 3.災害過程を知る（1）：発災から復旧期までの社会の動きを学ぶ 4.災害過程を知る（2）：復興期における社会の動きを学ぶ 5.災害と組織（1）：災害対応組織論（DRCモデル）について学ぶ 6.災害と組織（2）：災害ボランティア組織・活動の諸相について学ぶ 7.災害と組織（3）：行政とボランティア・NPO組織との協働について学ぶ 8.災害と組織（4）：防災マネジメントサイクルと緊急対応組織について学ぶ 9.災害と人間行動（1）：災害ストレス・トラウマについて学ぶ 10.災害と人間行動（2）：災害と家族について学ぶ 11.災害と人間行動（3）：災害スキーマと被害抑止・軽減行動の関係について学ぶ 12.災害とコミュニティ（1）：生活再建の諸課題を学ぶ 13.災害とコミュニティ（2）：災害復興におけるソーシャルキャピタルの重要性について学ぶ 14.災害とコミュニティ（3）：災害時要援護者問題とその解決策について学ぶ 15.全体のまとめ 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>授業について毎回フィードバックシートを提出する。 平常点、中間・期末試験によって評価する。</p>									
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----									

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

参考文献を読み、まとめる。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	非常勤講師 Koikari Mire 非常勤講師 Lan Pei-Chia				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3,4 不定期	授業形態	特殊講義
題目	Reconstruction of the Intimate and Public Spheres								
【授業の概要・目的】									
この講義は、2人の海外からの招聘教員による英語のリレー講義です。「親密圏と公共圏の再編成」に関する理論的実証的な検討を各国の事例をもとに行います。									
【授業計画と内容】									
Mile Koikari(University of Hawaii, Associate Professor) 【Title】 Rethinking Nation,Culture and Domesticity in Asia and the Pacific 【Description of Lecture (strictly within 40 words)】 Lectures will explore historical, cultural and geographical dimensions of domesticity in order to deepen our understandings of the public vs. private spheres. Taking Japan as a starting point, lectures will explore transnational dynamics of domesticity in the Asia-Pacific region more generally. Pei-Chia Lan (National Taiwan Universtiy・Professor) 【Title】 Parenthood and Childhood in the Context of Globalization 【Description of Lecture】 This lecture series will discuss three major topics in the domains of parenthood and childhood to highlight the changing family dynamics under the impacts of globalization, immigration and transnationalism. We will use important Western literature to compare with the Asian experience; I will discuss my research findings based on the case of Taiwan and class participants are encouraged to compare with the situations in Japan.									
【履修要件】									
英語による授業。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
日程・詳細は、後日掲示します。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者氏名	非常勤講師 Korhonen Ari Pekka 南京大学 社会学院 准教授 Yang Der-Ruey						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3,4 不定期	授業形態	特殊講義
題目	Reconstruction of the Intimate and Public Spheres								
【授業の概要・目的】									
この講義は、2人の海外からの招聘教員による英語のリレー講義です。「親密圏と公共圏の再編成」に関する理論的実証的な検討を各国の事例をもとに行います。									
【授業計画と内容】									
Ari Pekka Korhonen (University of Jyväskylä ・ Professor) 【 Title 】 The Concept of Asia 【 Description of Lecture 】 History of the concept of Asia during the past 2500 years from classical Greek to contemporary East Asian conceptions, from the point of view of geopolitics, name theory and narrative theory. Der-Ruey YANG (Nanjing University ・ Associate Professor) 【 Title 】 Re-Configuring Public and Intimate Space via Religion: Four Cases from Rural China 【 Description of Lecture 】 This lecture aims to illustrate how humble villagers may strive to reconfigure public and intimate space by means of folk religions in against to the State ' s authority. It ' s based on the fieldworks of the lecturer during the past three years.									
【履修要件】									
英語による授業。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
日程・詳細については適宜掲示します。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 公雄				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	GCOE提供科目 親密圏と公共圏の再編成								
[授業の概要・目的]									
この講義は、リレー講義です。「親密圏と公共圏の再編成」に関する理論的実証的な検討をそれぞれゲストスピーカーが最新の研究成果をもとに行います。									
[授業計画と内容]									
1回目 オリエンテーション(伊藤公雄) 各回の内容の紹介とともに授業の進め方をガイダンスする。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
レポートによる。									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
(参考書) 授業内で配布する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 公雄				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	GCOE提供科目 親密圏と公共圏の再編成								
[授業の概要・目的]									
この講義は、リレー講義です。「親密圏と公共圏の再編成」に関する理論的実証的な検討をそれぞれゲストスピーカーが最新の研究成果をもとに行います。									
[授業計画と内容]									
1回目 オリエンテーション(伊藤公雄) 各回の内容の紹介とともに授業の進め方をガイダンスする。									
[履修要件]									
とくになし									
[成績評価の方法・基準]									
レポートによる。									
[教科書]									
使用しない									
[参考書等]									
(参考書) 授業内で配布します。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
とくになし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 小林 致広				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	生物・文化資源利用の地理学								
【授業の概要・目的】									
<p>生物多様性と文化の多様性は相関関係にあるといわれることがある。 新自由主義的なグローバル化はそのような多様性を破壊するともいわれる。 先進国は自然を資源として微分化し、略奪的に開発しているのに対し、先住民族は自然と調和的に生活しているという神話、あるいは言説がある。 この授業では、「自然」と共生しながら生きてきたとされる先住民族の資源利用の在り方を事例にして、従来の枠組みとは違った資源利用の地理学が構築できるか、考えてみたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のテーマについて、4～5回程度取り上げる予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．自然・文化の多様性 2．自然・文化の資源化 3．自然と調和した？生活様式 4．環境保全、保護、利用 5．掠奪的な自然開発 6．代替的な自然利用 									
【履修要件】									
特にありません									
【成績評価の方法・基準】									
<p>基本的には、授業における平常点（80％）を尊重します。適宜課すかもしれないレポートや発表報告（20％）も考慮する。</p>									
【教科書】									
特になし。適宜教材をコピーして配布します。									
【参考書等】									
<p>（参考書） 特になし。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィス・アワー：火曜日12時～12時30分、水曜日11時30分～12時30分</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 客員准教授 福間 良明				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	後期	曜時限	水4,5	授業形態	特殊講義
題目	「戦争の記憶」のメディア史								
【授業の概要・目的】									
戦後日本のメディアにおける「戦争の語り」を検証しながら、戦後の戦争観の変容プロセスやその社会背景について考察する。授業では、研究紹介や戦後思想を適宜扱うほか、メディア（映画・ドラマ・ドキュメンタリー・新聞・戦記・マンガ・観光・博覧会・博物館等）の分析・批評に重点を置く。									
【授業計画と内容】									
<p>授業の形式は、受講者による発表とディスカッションを主とする予定である。</p> <p>授業計画は以下の通り（ただし、履修者の数や要望も踏まえながら、一部変更の可能性もある）。</p> <p>第1回：ガイダンス，文献・映像資料の紹介</p> <p>第2回：事例紹介と分析視角の紹介（映像資料等を用いながら）</p> <p>第3～5回：「記憶のメディア学」に関連する文献紹介の批評（輪読）</p> <p>第6～14回：メディア資料（映画・新聞・雑誌等々）の分析・批評</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表と期末レポートで評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>野上元・福間良明編 『戦争社会学ブックガイド』（創元社）（2012年3月刊行予定）</p> <p>福間良明 『焦土の記憶：沖縄・広島・長崎に映る戦後』（新曜社）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<ul style="list-style-type: none"> ・関連する文献や映画等については、初回授業時に紹介するので、自学自習に努めること。 ・特定の時間帯にオフィスアワーを設けることはしませんが、申し出があれば、授業後の時間に質問・相談等々に対応します。 <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	国立民族学博物館 池谷 和信 民族社会研究部 教授				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	後期	曜時限	木1,2	授業形態	特殊講義
題目	アフリカ地域と地球								
【授業の概要・目的】									
<p>授業では、アフリカ地域を自然、社会、文化などから総合的に捉えるとともに、アフリカ地域の研究をとおして地球の歴史や地球環境問題の根源について考えることを目的とする。地理学は、フンボルトやダイヤモンドの研究にみられるように、地球全体をくまなく対象にした学問である。ここでは、アフリカを中心とした世界のフィールドワークの経験を通して、地域と地球とのかかわり方、21世紀における「地球学」への地理学からの貢献のあり方について言及する。この授業から、地球的視野と特定地域の理解の仕方を同時に習得することができるであろう。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業は、自らが撮影に関与した映像や写真を使用しておこない、以下の3部から構成される。毎週、1課題あたりの授業をする予定である。</p> <p>第1部 どうして、アフリカ地域研究が必要であるか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地球的な視野からの位置づけ：地理・歴史・社会 2) 「地球学」の系譜 3) 野外科学の方法 <p>第2部 アフリカでのフィールドワーク</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ドレミとは異なる音文化 2) 多様なビーズ細工からみた社会 3) スイカの来た道：アフリカから日本へ 4) アフリカの動物保護区と社会 5) アフリカの岩絵と動物観 6) ソマリ社会とディアスポラ 7) アフリカの都市：ケープタウンとキンシャサ 8) アフリカの地域的多様性 <p>第3部 アフリカから世界へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 狩猟採集民からみた人類環境史 2) 自然保護思想のグローバル化と地域社会 3) 先住民運動の展開と国家 4) 途上国と先進国とのかかわり方：東日本大震災とアフリカ <p>以上のような授業を通して、特定の地域の理解を深め、地域間比較の研究を併用する方法を習得することから地球的視野でものごとを考えることができるようになるであろう。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート。									
【教科書】									
授業中に指示する									
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----									

社会学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	慶應義塾大学経済学部 准教授 ノッター デビッド				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	教育社会学特論Ⅰ								
【授業の概要・目的】									
<p>「近代家族」と呼ばれる家族形態とはいかなるものなのか、そして、それはいわゆる「伝統家族」とどのように異なるのか。さらには、欧米の事情と比較した場合、日本の「近代家族」の特性として浮かび上がるのはいかなるものなのか。この授業ではこれらの問題をふまえながら、近代という時代における家族の特徴とあり方に対する理解を深めることを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の課題について授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近代家族の誕生 2. 近代における子ども期の特性と子どもイメージの歴史的変容 3. 近代家族と「青年期」というライフ・ステージ 4. 近代家族とジェンダーおよび性別役割分業の制度化 5. 配偶者選択・コートシップ 6. 結婚・離婚 7. ロマンティック・ラブ・イデオロギー 8. 近代家族と親密性およびセクシュアリティ 9. 近代家族の崩壊および「脱近代」という時代がもたらす家族・結婚・親密性の新たなあり方 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、討論への積極的な参加、小テスト、出席状況により評価する。									
【教科書】									
ノッター デビッド 『純潔の近代：近代家族と親密性の比較社会学』（慶應義塾大学出版会） ISBN:9784766414233									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業前の予習として、教科書を読んでくること。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(演習II) Sociology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 田窪 行則				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
題目	韓国語韓国社会実地研修								
[授業の概要・目的]									
ソウル大学において、ソウル大学言語教育研究所（LEI）および国際研究大学院（GSIS）の協力を得て実施する。韓国語の習得および韓国の社会と文化の概要を学ぶことを目的とする。授業は原則として英語により実施する。									
[授業計画と内容]									
<p>(1) 文学部で渡航前のオリエンテーション（昨年度参加者の体験報告など）</p> <p>(2) 8月6～24日 ソウル大学言語教育研究所（LEI）において、3週間、週5日間、毎日午前9時から午後1時まで（1日あたり4時間）、韓国語の授業を受講。クラス分けテストにより、各人の能力に応じたクラスに所属。初心者も可。詳細は以下を参照。 http://lei.snu.ac.kr/site/jp/klec/3Week-Intensive/course.jsp 国際研究大学院（GSIS）において、韓国の社会と文化についての講義を受講（12時間）。および各人テーマを決めてソウル市内においてフィールドワークを行う（約18時間）。</p> <p>(3) 帰国後、韓国語能力試験と韓国社会研究の成果発表を実施する。</p>									
[履修要件]									
履修志望者はTOEFL・IELTS等による語学能力証明書を提出すること。英語での受講に十分な学力をそなえていることが求められる。その他費用負担等、詳細については1回目のガイダンスで説明する。									
[成績評価の方法・基準]									
ソウル大学言語教育研究所（LEI）が発行する修了証および成績証明書と、帰国後に実施する韓国語能力試験および研究成果発表の結果を総合して担当教員が評価し、単位を認定する。									
[教科書]									
ソウル大学で購入する。									
[参考書等]									
<p>（参考書） ソウル大学で購入する。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 教授 吉田 純				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	社会情報学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
情報と社会との関係を軸として、現代社会の思想的・理論的あるいは経験的な諸問題について、内外の最新の研究文献に基づき、受講者各自の問題関心に沿った研究報告と批判的検討を行う。									
【授業計画と内容】									
演習形式を取り、各回につき1~2名の担当者の研究報告と、それに基づく質疑応答・討論をおこなう。スケジュールは、原則として初回の授業で受講者の希望に基づき調整する。									
【履修要件】									
学部レベルの社会学関係科目を履修していることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による（配点は、研究報告50%、出席25%、質疑応答・討論への参加状況25%とする）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	教育学研究科 教授 稲垣 恭子				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	歴史社会学								
【授業の概要・目的】									
感情の歴史社会学（社会史、文化史を含む）については、理論、実証研究ともにさまざまな角度から研究が蓄積されつつある。本授業では、内外の文献のレビューと検討をした上で、近代日本における教師 学生関係等を事例としながら教育と感情の歴史社会学の可能性を考える。									
【授業計画と内容】									
初回にオリエンテーションと文献の紹介を行なったあと、前半は感情の歴史社会学に関する内外の文献をレビューしながら多様な視点とアプローチについて検討する。それを基に後半では、具体的な事例を用いて近代日本の教育関係を分析する。小説、自伝、日記等の資料の検討も行なう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席および授業時の報告担当とレポートによる総合評価。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 文献については授業時に指示する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーはとくに設定していないので、質問・相談は随時で結構です。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	東南アジア研究所 教授 速水 洋子				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	地域変動論II								
【授業の概要・目的】									
<p>民族、エスニシティ、国家、ナショナリズムなどはグローバリズムが喧伝される今日の世界にあっても、一層日々、議論される問題である。民族とは何か、どのように歴史的に構築されてきたのか、その「実質」は何なのか。地域研究においても不可避の問題である。この授業では、これまでの主要な学説や理論を学び、アジア・アフリカを中心とする事例を検討し、そのうえで多文化主義、伝統の創造、ジェンダー、マイノリティなどに関わる今日の問題についても考える。授業の目的は、従来の民族の議論について批判的に考え、自らの研究の文脈で考察できるようにすること。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>地域研究や文化人類学を中心に、民族論、民族とナショナリズム論を読みながら、その理論的展開の流れを追う。具体的な事例の研究を取り上げながら、各自の調査地域についての議論も歓迎する。授業は講義と受講者の発表との両方によって進める。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業の参加、発表 および 期末レポート									
【教科書】									
教科書、参考書については最初の授業にてリストを配布する									
【参考書等】									
(参考書) 適宜配布します									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 竹沢 泰子				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4,5 隔週	授業形態	特殊講義
題目	人種・エスニシティ論								
【授業の概要・目的】									
<p>今年度は、はじめの数回「混血」に関する理論について入門的な講義を行い、続いて、19世紀後半の科学言説から21世紀初頭におけるアイデンティティ論や社会運動論など、「混血」「マルティレイシャル」「国際結婚」をめぐる代表的な論文や本をゼミ形式で講読する。また「国際養子縁組」についても触れる。後期の後半からは、各自がそれぞれの研究発表を行う。</p> <p>詳細のシラバスは、2回目に配布。1回目は登録者の関心等についてアンケート実施。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1 授業概要</p> <p>2 「混血」研究の概説</p> <p>3 「純血」神話と「混血」問題</p> <p>4 19世紀までの科学言説</p> <p>5 19世紀後半の科学言説</p> <p>6 20世紀前半の科学言説</p> <p>7 DVD鑑賞</p> <p>8 20世紀末のマルティレイシャル運動</p> <p>9 現代における諸社会の事例</p> <p>10 続き</p> <p>11 DVD鑑賞</p> <p>12 移民の国際結婚</p> <p>13 国際養子縁組</p> <p>14 全体討論</p> <p>後期</p> <p>1～7回 現代の「混血」アイデンティティについて</p> <p>8～14 各自の研究発表</p> <p>(このほか、希望者対象の大阪/神戸などへの実地見学あり)</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、発表、出席および討論									
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----									

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

指定された論文を報告担当者がコピー

[参考書等]

(参考書)

第一回において、アンケート回収、第二回各週の課題論文を記した詳細なシラバスを配布予定。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

予約制(利用者が多ければ固定時間を設ける)

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 松田 素二				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	フィールドワーク調査の実際								
【授業の概要・目的】									
<p>本授業は、フィールドワークの手法を用いて、社会調査を企画・実行することにある。調査地は、本研究室が13年間地域調査を継続している、三重県南部東紀州地域である。熊野灘沿いの漁村、吉野山系の山村に独自の文化と社会組織を育み、今日の過疎化・高齢化のなかで新たな実験を試みているこの地域の人々の実践に学びながら、地域社会に対してどのような貢献が行えるのかを問う授業でもある。とくに今年度は、東海東南海、南海地震による甚大な被害が想定される地域が、それに対処するためにどのように過去の災害を記憶し将来にそなえる知恵を作りだしているかについて考察する</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第一期（1回～4回） フィールドワークの手法を学ぶ 第二期（5～8回） 日本の地域社会学の枠組を学ぶ 予備調査を行う 第三期（9～12回） 調査地の概要と研究史を整理する 第四期（13～16回） 現地調査のデザインを行う 本調査を実施する 第五期（17～20回） 現地調査データの整理を行う 第六期（21～24回） 比較すべき他地域の現況について調査する 第七期（25～30回） 報告書を作成し現地に成果を還元する</p>									
【履修要件】									
9月下旬のフィールドワークに参加できること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と報告書によって評価します。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 太郎丸 博				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	社会調査の実際								
【授業の概要・目的】									
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひとつとおり体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。									
【授業計画と内容】									
1課題あたり1~2週の授業をする予定									
前期									
1. データの入力・読み込み									
2. 単純集計表、ヒストグラムの作成									
3. 変数の操作									
4. クロス集計表、帯グラフの作成									
5. 散布図、箱ヒゲ図の作成									
6. データセットの分割・結合									
7. 独立性の検定									
8. 平均値の差の検定									
9. 多重クロス表分析									
10. 回帰分析									
後期									
1. 調査の企画と仮説構成									
2. 調査項目の設定・質問文・調査票の作成									
3. プリテストと調査票の修正									
4. 対象者・地域の選定とサンプリング									
5. 調査の実施（調査票の配布・回収、面接）									
6. エディティング									
7. 集計、分析									
8. データの視覚化									
9. 仮説検証									
10. 報告書の作成									
【履修要件】									
社会調査士科目A~Eをあわせて受講すること。この科目は、社会調査士科目A~Eの知識を基礎として、それらを総合・実践する科目なので、これらの科目もあわせて受講すること									
【成績評価の方法・基準】									
出席(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)									
【教科書】									
授業中に指示する									
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----									

社会学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社) ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』(有斐閣) ISBN:978-4641183056

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)			担当者氏名	農学研究科 准教授 秋津 元輝				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	欧米における農村・農業社会学および農業倫理研究の最前線								
【授業の概要・目的】									
欧米における農村・農業に関する社会学的研究、および農業倫理に関する研究のうちから、最新の注目すべき業績を取り上げて、履修者と討議しながら、講義をおこなう。									
【授業計画と内容】									
おおむねトピックスとしては以下を想定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 先進国農村におけるルーラリティの問題 ・ 農村政策と農村変動 ・ 農業倫理学の体系 ・ Alternative Food Networks ・ 食の倫理と安全性について ・ 食料システムの社会学的分析 ・ 農業技術開発をめぐる倫理問題 ・ など 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
報告や討論への参加などの平常点で評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)	担当者氏名	農学研究科 准教授 秋津 元輝						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	地域社会研究における質的調査の技法（専門社会調査士科目J）								
【授業の概要・目的】									
とくに地域社会研究を対象にして、さまざまな質的調査技法の習得と応用をめざして演習形態の授業をおこなう。質的社会調査に関するテキスト的な文献を利用して授業を進める。									
【授業計画と内容】									
取り上げるテキストによって多少の違いはあるが、おおよその内容は以下のとおりである。 第1から3回 質的調査と量的調査 質的調査法の意義と歴史について 第4から5回 さまざまなデータ収集法 インタビューから文書・映像資料まで 第6から8回 インタビュー調査の方法論 ライフヒストリー、フォーカス・グループなど 第9から11回 質的調査結果の分析法 グラウンデッドセオリー、など 第12から13回 質的社会調査と倫理問題 第14から15回 予備日									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
報告や討論への参加などの平常点で評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業の進行に応じて適宜指示する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 公雄				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	現代社会の理論的考察								
【授業の概要・目的】									
現代社会学理論をふまえたうえで、多様する社会現象をゼミ形式で考察する。									
【授業計画と内容】									
<p>前期は、現代社会学の代表的な著作を幅広く講読し議論することで、社会学の理論枠組みや社会的な考え方について認識を共有する作業を行う。あわせて、現代社会がかかえている諸課題をみえつつ、これを分析するために考案されてきた社会学の諸概念の有効性について検討する。</p> <p>後期は、現代社会における具体的な社会現象を参加者それぞれにとりあげてもらい、報告と討論を行う予定である。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 適宜配布します									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 松田 素二				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月5	授業形態	演習
題目	比較文化行動論の諸問題								
[授業の概要・目的]									
この授業は、社会・文化を調査し、分析し、記述することに関わる根源的な問題について考察することを目的とする。受講生の報告と討論を中心とする形式で実施される。									
[授業計画と内容]									
前期は、2011-2012年度に刊行されたジャーナルのなかから選択された10本の論文を精読する。本年度のテーマは、「Globalization and Beyond」である。対象ジャーナルは、American Anthropologist, Current Anthropology, Ethnology, American Ethnologist, Anthropology and Human Rights, Ethnic & Racial Studies, Social Anthropology, Sexualities, Comparative Sociologyなどである。後期は、投稿論文、修士論文、博士論文の概要報告とそれに関する討論にあてられる。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
報告と討議への参加によって評価する									
[教科書]									
使用テキストのコピーを配布する。									
[参考書等]									
(参考書) 適宜配布します									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
とくになし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 落合 恵美子				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	東アジア社会研究の理論と方法								
[授業の概要・目的]									
日本を含めた東アジア社会について研究するための方法と理論枠組について一緒に考える。									
[授業計画と内容]									
東アジア社会研究のための基礎となる文献を読む。また各人のテーマに沿った研究発表を行う。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
演習での報告や討論によって評価する。									
[教科書]									
授業中に指示する									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 田中 紀行				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	演習
題目	社会学史演習								
【授業の概要・目的】									
19～20世紀のヨーロッパとアメリカの社会学史、とくに各国における社会的伝統の形成と変容をめぐる比較研究に関連する文献の講読を通して、社会学の歴史を知識社会的ないし科学社会的観点から捉えなおす。他のディシプリンとの関係における社会学のアイデンティティ形成、社会学の制度的基盤、社会学におけるカノン形成、社会学の制度化過程と国民国家形成との関連などのテーマを扱う予定である。									
【授業計画と内容】									
上記のテーマを扱った主に日本語および英語の文献を輪読する。受講生の語学力に応じてドイツ語・フランス語の文献を割り当てることもある。取り上げる文献としては、W. レペニース『三つの文化』、A. H. ハルゼー『イギリス社会学の勃興と凋落』、Johan Heilbron, "The Rise of Social Theory"、Peter Wagner (ed.), "Discourses on Society"、Craig Calhoun (ed.), "Sociology in America"、Charles Camic & Hans Joas (eds.), "The Dialogical Turn"、Peter Baehr, "Founders, Classics, Canons"などを予定している。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	社会学(演習) Sociology (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 准教授 太郎丸 博				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	社会調査・データ解析実習								
【授業の概要・目的】									
前期は、社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力を習得することを目的とする。後期は、数理統計学の基礎を踏まえながら、多変量解析に共通する計量モデルを用いた分析法を基本的に理解することを目指す。コンピュータを使ったデータの分析とその結果の解釈に重点を置く。									
【授業計画と内容】									
前期									
1. 調査方法論、調査倫理									
2. 調査企画と設計									
3. 仮説構成									
4. 尺度構成法									
5. サンプルがないし対象者・フィールドの選定									
6～7. 調査票の作成									
8～9. 実査									
10～11. 調査データの整理（コーディング、データクリーニングなど）									
12～13. グラフ作成、仮説の検証									
14～15. 報告書の作成									
後期									
1. 回帰分析の復習									
2. 非線形モデル（対数変換、二乗項の投入）									
3. 交互作用効果の検討									
4. モデルの選択（AIC, BIC, F検定）									
5. モデルの診断（残差プロット、VIF）									
6～7. 二項ロジスティック回帰分析									
8～9. 最尤推定法と尤度比検定									
10～11. 多項ロジスティック回帰分析									
12～13. 順序ロジスティック回帰分析									
14～15. 分析結果のまとめ方とグラフの利用									
【履修要件】									
専門社会調査士H, I科目の単位をすでに修得しているか、今年度修得見込みであること。また、日本語に堪能で、英語も読めること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)									
【教科書】									
授業中に指示する									
----- 社会学(演習)(2)へ続く -----									

社会学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

日本の社会学の平均的な演習と比べると、読書や宿題、レポートなどの課題が多いと考えられるので、自宅学習のために十分な時間をとるように。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	比較社会学(演習) Comparative Sociology (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 客員教授 鵜飼 孝造
---------------	---	-------	------------------

配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	演習
------	-----	-----	---	-----	----	-----	----	------	----

題目	資本主義の社会学
----	----------

[授業の概要・目的]

2011年に世界各地に広がったArab SpringやOccupy Wall Streetの抗議行動は、グローバル化した資本主義がもたらす不平等や不公正を告発するものであったが、同時に資本主義の原点回帰を訴えるTea Partyなど草の根保守主義運動も根強く続いている。この演習では、あらためて各時代の社会運動に注目しながら、特に20世紀におけるアメリカ資本主義の変容(爛熟)に、社会学がどのように取り組んだかを検討する。

前半は、社会主義の台頭に重大な関心を示したデュルケム、ジンメル、ヴェーバーら近代社会学の創始者の議論をまず概観する。20世紀に入って資本主義の中心はヨーロッパからアメリカに移るが、ユダヤ系を中心とするニューヨーク知識人が社会主義の実現を模索してNew Deal政策やGreat Society政策に積極的に関わった。当時の社会学者の研究にそれがどのような影響を与えたのかを次に分析する。

20世紀後半の公民権運動やベトナム反戦運動を受けて、社会学の焦点は階級より資本主義における多文化主義やグローバリゼーションの問題に移り、新保守主義や新自由主義からの反批判も強まった。これに対して新しい世代の歴史社会学者は国家と資本主義の関係を問い直し、あるいは階層に異質性の次元を取り込む社会構造論やネットワーク論が構想された。演習の後半ではこれらアメリカ社会学の展開について考察する。

演習を通じて資本主義への社会的視点について基本的かつ包括的な理解を深めるとともに、日本の事例への適用を試みるなど、各自の比較社会学的研究への刺激となることも目標とする。

[授業計画と内容]

下記の各テーマについて調整しながら1～2週ずつを目処に進める。

I 資本主義の社会学を考える

- 1) 出発点としての『共産党宣言』
- 2) デュルケムとサンシモン主義
- 3) ジンメルの社会圏と『貨幣の哲学』
- 4) ヴェーバー『社会主義』から『根本概念』へ

II ニューヨーク知識人の資本主義との葛藤

- 5) アメリカにおける社会主義の模索
- 6) 冷戦下の社会科学の脱イデオロギー化
- 7) 大衆社会および多文化主義との対立
- 8) 新保守主義の台頭と「民主主義の輸出」

III 歴史社会学のグローバリゼーション

- 9) 近代化の比較社会学
- 10) 民主化と国家化の逆説
- 11) 第三世界研究から世界システム論へ
- 12) 1968年革命の比較社会学

IV 社会構造研究とネットワーク理論

- 13) 近代経済学と機能主義社会学

----- 比較社会学(演習)(2)へ続く -----

比較社会学(演習)(2)

- 14) 不平等と異質性の構造
15) 情報資本主義とネットワーク理論
16) まとめ：「2011年」は歴史の終わりか始まりか

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・基準】

- ・前期と後期にレポートを1回ずつ提出すること。(各50%)
- ・レポートは、授業中に言及した文献の中から各自が選択し(複数でも可)、その内容の要約60%と自分の考察40%の割合で作成することを基本とする。
- ・レポートの分量と締切は授業中に指示するが、教員に直接手渡すこと。
- ・提出されたレポートには評価とコメントをつけて返却する。また早めに提出されたものには再提出を認める。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

授業では各項目の詳しい内容まですべて紹介できないので、各自が興味のある文献をできるだけ直接読んでほしい。また、読んだ内容をレポート(小論文)にまとめる方法も身につけていただきたい。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

地理学専修

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 小林 致広				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	生物・文化資源利用の地理学								
【授業の概要・目的】									
<p>生物多様性と文化の多様性は相関関係にあるといわれることがある。 新自由主義的なグローバル化はそのような多様性を破壊するともいわれる。 先進国は自然を資源として微分化し、略奪的に開発しているのに対し、先住民族は自然と調和的に生活しているという神話、あるいは言説がある。 この授業では、「自然」と共生しながら生きてきたとされる先住民族の資源利用の在り方を事例にして、従来の枠組みとは違った資源利用の地理学が構築できるか、考えてみたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のテーマについて、4～5回程度取り上げる予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．自然・文化の多様性 2．自然・文化の資源化 3．自然と調和した？生活様式 4．環境保全、保護、利用 5．掠奪的な自然開発 6．代替的な自然利用 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>基本的には、授業における平常点（80％）を尊重します。適宜課すかもしれないレポートや発表報告（20％）も考慮する。</p>									
【教科書】									
特になし。適宜教材をコピーして配布します。									
【参考書等】									
<p>（参考書） 特になし。</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィス・アワー：火曜日12時～12時30分、水曜日11時30分～12時30分</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 教授 石川 義孝				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	特殊講義
題目	現代日本における外国人定住化の検討								
【授業の概要・目的】									
<p>本授業では、日本在住の外国人住民の定住化に焦点をあて、関連する各種のトピックについての現状についての講述を踏まえ、外国人関連の諸施策について検討することを目的とする。2005年から日本の総人口の減少が始まったため、この問題は今世紀の日本にとって、きわめて重要な政策課題でもある。公的統計に基づいて、関連する動向について概観した後、諸外国や日本政府、さらに地方自治体によって導入されている様々な施策を紹介し、その意義と問題点について、地理学的視角を念頭に置きつつ論じる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の各トピックあたり、数週の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人定住化の動向 2. 諸外国における事例 3. 日本政府による施策 4. 地方自治体による施策 5. 受講生による発表 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（30％）、発表(30%)、レポート（40％）による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 米家 泰作				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	特殊講義
題目	地理的「知」の歴史地理学								
【授業の概要・目的】									
<p>近世～近代の日本とその周辺を対象として、地理的な表象や言説が果たしてきた政治的・経済的・社会的な役割を、批判的に検討する講義である。</p> <p>近年の歴史・文化地理学における議論を踏まえて、地図・地誌・土地調査・旅行記・史蹟景観といった地理的「知」の諸相と、その受容や理解の具体例を分析する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のようなテーマで、それぞれ1～3週の授業をする予定である。</p> <p>I. 地理的「知」の歴史地理：(1)はじめに、(2)オリエンタリズム論と地理学、(3)近代国民国家と地理学、(4)帝国主義と地理学</p> <p>II. 近世日本の地理的「知」：(1)地図と探険にみる領土の表象、(2)検地と国土空間の計量化、(3)地方行政と村の地理、(4)地誌という文化統治、(5)史蹟空間の創出と経験、(6)旅の経験と紀行文、(7)村と地域の自画像</p> <p>III. 近代日本の植民地と地理的「知」：(1)「近代」概念の空間的含意、(2)近代日本の朝鮮像、(3)植民地の測量と可視化、(4)近代朝鮮と植民地的環境論、(5)近代朝鮮と「知的征服」の諸相、(6)史蹟とコロニアルツーリズム</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期・後期それぞれにおいて小論文試験を行う。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>B・グレアム, C・ナッシュ編 『モダニティの歴史地理』(古今書院) ISBN:4772214704</p> <p>米家泰作 『中・近世山村の景観と構造』(校倉書房) ISBN:4751733508</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 小島 泰雄				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態	特殊講義
題目	中国における生活空間の展開								
【授業の概要・目的】									
<p>中国における生活空間の展開を考えることを通して、地域地理学的アプローチについての理解を深めることをめざす。</p> <p>前期は、中国農村における空間と社会が、どのような関係を形成してきたのかをめぐって、江蘇、河南、四川などで行ってきたフィールド調査に基づいて、実態的に検討を加えてゆく。</p> <p>後期は、現代中国における都市と農村の関係について、截然と分けられてきた歴史とその変容について、具体的に検討してゆく。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のテーマをめぐって授業を行う。</p> <p>一つのテーマについて、2 - 3週の授業をする予定である。</p> <p>前期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．生活空間論 2．中国農村における村落 3．定期市と市場圏 4．通婚圏 5．集落形態の多様性 <p>後期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．都市と農村 2．戸籍制度 3．都市内部構造 4．農村変革 5．郷鎮企業と出稼ぎ 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主に前期と後期の2回の期末レポートにより評価を行い、授業への参加度を加味する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	地球環境学堂 教授 小方 登				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	地理情報・衛星画像の処理・分析の基礎								
【授業の概要・目的】									
地理情報をコンピュータで処理・表示するためのモデル化についてその原理を講じ，地理情報処理の実例として衛星画像の処理・分析を主に取り上げる。コンピュータを利用した実習も含む。									
【授業計画と内容】									
1) 地理情報のモデル化 地表の現実ないし地図の内容をコンピュータで扱うためのモデルとして，ベクトルモデルとラスタモデルの2つを取り上げ，それぞれの特質について説明する。 2) ラスタモデルに基づく地理データの例として，衛星画像を取り上げ，リモートセンシングの原理と応用について説明する。 3) 衛星による地球観測 以前からある地球観測衛星の光学センサー，合成開口レーダーについて説明し，さらに近年利用可能になった高解像度衛星の性能について紹介する。 4) 衛星画像の分析と表示 コンピュータを利用して，衛星画像の複数バンドを用いた合成色表示，植生分布の指標化，最尤法に基づく土地被覆分類を実習する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験による。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(関連URL)									
http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/ (小方研究室ホームページ)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	首都大学東京 大学院都市環境科学研究科 教授 若林 芳樹				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	人間・社会との関わりでみた地理情報科学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>地図をはじめとする地理空間情報のデジタル化にともなって、地理情報システム（GIS）および関連技術はめざましい発達を遂げてきたが、それらの基礎となる地理情報科学(GIScience)では、数理工学的・技術的問題だけでなく、人間や社会との関わりでみた様々な問題が議論されてきた。この授業では、これまで日本のGIS研究ではあまり目が向けられてこなかった、人間や社会との接点で浮上する地理情報科学の諸問題を紹介する。これによって、地理空間情報の分析手法やツールの開発と応用にとどまらないGISの可能性と課題について理解を深めてもらうことを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<ol style="list-style-type: none"> 1．地理空間の概念と地理空間情報の特質 2．地理空間のオントロジー 3．NCGIAのワレニウス・プロジェクトとその成果 4．空間認知とGIS（1）：空間認知モデルとしてのGIS 5．空間認知とGIS（2）：空間的知識の情報源としてのGIS 6．空間認知とGIS（3）：空間認知研究を応用したGISの改善 7．クリティカルGISの問題提起 8．参加型GISの実践 9．質的GISの方法 10．犯罪・監視とGIS 11．GISと空間的思考 12．まとめ 									
【履修要件】									
GISの利用は前提としないが、GISについて基礎的な理解をもっていることが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートの成績（80％）および授業内での発言などを含めた平常点（20％）によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>岡部篤行 『空間情報科学の挑戦』（岩波書店）ISBN:4-00-006581-5</p> <p>村越 真・若林芳樹編 『GISと空間認知』（古今書院）ISBN: 978-4-7722-4115-1</p> <p>村山祐司・柴崎亮介編 『GISの理論』（朝倉書店）ISBN:978-4-254-16831-0</p>									
【その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)		担当者氏名	名城大学 都市情報学部 准教授 杉浦 真一郎					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	現代日本における高齢者福祉サービスの需給空間と介護保険行財政								
【授業の概要・目的】									
<p>本講義は、人口高齢化の進む現代日本が抱える課題の一つである高齢者福祉サービスを主たる対象として、その需要と供給とが結び付くことで形成される地理的構造を「需給空間」として捉え、制度論的側面を重視しつつ、その構造と変容について考察する。また、2000年代以降の日本における高齢者福祉行政の基本的枠組みとなった介護保険制度をめぐり、その運営枠組みとしての広域行政の問題点について、市町村合併とも比較しながら考察し、さらに、最近の同制度が重視するローカルな事業運営との関わりをみていく。本講義では、高齢者向け介護サービスの制度的概要を理解するだけでなく、サービスの供給と利用に関する検討を通して、大都市/郊外/農村部の差異や距離の制約、地域間の結びつき等の地理的な視点を養うことを大きな目標とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～2回の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者福祉政策とその地理的特質 2. 地域的公正と在宅福祉サービスの地域差 3. 施設福祉サービスの立地展開とその地域差 4. 施設福祉サービスの利用をめぐる理想と現実 5. 介護保険運営の広域化をめぐる問題点：負担と給付の不均衡 6. 平成の大合併と介護保険領域の再編：規模拡大と域内格差 7. 介護保険運営の空間スケール：ローカル化，地域包括ケア 8. まとめ 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験の成績（70％） 平常点(出席状況，授業内での発言等) 評価（30％）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>杉浦真一郎 『地域と高齢者福祉 介護サービスの需給空間』（古今書院,2005）</p> <p>神谷浩夫ほか編 『地方行財政の地域的文脈(仮称)』（古今書院,2012）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	大阪教育大学 教育学部 准教授 今里 悟之				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	農村地理学の基礎								
【授業の概要・目的】									
日本農村を対象とした地理学的研究について、広く漁村や山村も含めた形で、これまでの研究史、主な研究テーマ、基礎的文献の批判的な読解方法、調査技法とその諸問題、などについて講義を行い、農村地理学の基礎について理解を深める。集中講義という形式を最大限に生かして、文献の読解演習や野外巡検も適宜取り入れる予定である。									
【授業計画と内容】									
<p>1. 農村地理学の研究史と研究テーマについては、形態論、土地利用研究、資源論、社会空間論、社会-空間弁証法、民俗空間論、過疎・廃村研究、混住化研究などを取り上げる。</p> <p>2. 文献の読解方法については、基礎的事項について教員が解説した後、代表的な論文数編を受講生が分担して読解し、レジュメにまとめて発表したうえで、全員で検討を加える。</p> <p>3. 調査技法については、農業集落カード、地籍図・土地台帳、区有文書、現地調査などについて基礎的事項を解説したうえで、京都市近郊農村にて巡検を行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験（講義内容および野外巡検に関するもの）60％，文献読解演習における発表および討論40％									
【教科書】									
プリントおよび資料を適宜配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
講義題目は「基礎」となっているが、あくまで地理学の専門科目であるため、受講者が高校や大学教養基礎で地理学関係科目を履修していない場合があっても、授業の水準を下げる予定はない。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	奈良女子大学 文学部 准教授 吉田 容子				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	人文地理学におけるジェンダー研究								
【授業の概要・目的】									
<p>1970年代前半、英語圏の人文地理学の領域に「女性」の視点が導入されるようになり、私的空間（家庭）における女性の再生産活動が研究の対象とされるようになった。その後1980年代になると、単なる男女の性差ではないジェンダー関係への着目が、いかに重要か議論されてゆく。こうした議論をつうじて、英語圏を中心に海外の人文地理学研究は、ジェンダーのみならずエイジ、エスニシティ、ディスアビリティ、セクシュアリティなどの多様な差異軸から、空間や場所に埋め込まれた権力、不平等、アイデンティティに焦点を当ててきた。日本の人文地理学においても、1990年代以降ジェンダーへの関心が持たれるようになった。授業では、国内外の人文地理学におけるジェンダー研究の動向、および担当教員が取り組んできた研究を紹介しながら、空間や場所の理解にジェンダーの視点を導入する有効性について理解を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>「通年」の授業で、以下の課題について1課題あたり2～3週間の授業を行う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ジェンダーの視点は必要なのか 2.海外におけるジェンダー研究の系譜 3.国内の研究動向 4.公共空間における女性へのまなざし 5.建造環境と女性 6.都市/郊外とジェンダー 7.経済のグローバル化と女性労働力 8.観光産業と女性 9.米軍基地周辺遊興街の形成とジェンダー、権力 10.高齢者の「生きられた経験」とジェンダー 11.最小空間としての身体 12.質的調査とジェンダー 13.これからのジェンダー研究に必要な視点とは 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
「通年」2回のレポート課題（70%）、毎回の授業の最後に提出してもらおうリアクションペーパー（30%）から評価する。									
【教科書】									
プリント等適宜配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)			担当者氏名	国立民族学博物館 池谷 和信 民族社会研究部 教授				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	後期	曜時限	木1,2	授業形態	特殊講義
題目	アフリカ地域と地球								
【授業の概要・目的】									
<p>授業では、アフリカ地域を自然、社会、文化などから総合的に捉えるとともに、アフリカ地域の研究をとおして地球の歴史や地球環境問題の根源について考えることを目的とする。地理学は、フンボルトやダイヤモンドの研究にみられるように、地球全体をくまなく対象にした学問である。ここでは、アフリカを中心とした世界のフィールドワークの経験を通して、地域と地球とのかかわり方、21世紀における「地球学」への地理学からの貢献のあり方について言及する。この授業から、地球的視野と特定地域の理解の仕方を同時に習得することができるであろう。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業は、自らが撮影に関与した映像や写真を使用しておこない、以下の3部から構成される。毎週、1課題あたりの授業をする予定である。</p> <p>第1部 どうして、アフリカ地域研究が必要であるか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地球的な視野からの位置づけ：地理・歴史・社会 2) 「地球学」の系譜 3) 野外科学の方法 <p>第2部 アフリカでのフィールドワーク</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ドレミとは異なる音文化 2) 多様なビーズ細工からみた社会 3) スイカの来た道：アフリカから日本へ 4) アフリカの動物保護区と社会 5) アフリカの岩絵と動物観 6) ソマリ社会とディアスポラ 7) アフリカの都市：ケープタウンとキンシャサ 8) アフリカの地域的多様性 <p>第3部 アフリカから世界へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 狩猟採集民からみた人類環境史 2) 自然保護思想のグローバル化と地域社会 3) 先住民運動の展開と国家 4) 途上国と先進国とのかかわり方：東日本大震災とアフリカ <p>以上のような授業を通して、特定の地域の理解を深め、地域間比較の研究を併用する方法を習得することから地球的視野でものごとを考えることができるようになるであろう。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート。									
【教科書】									
授業中に指示する									
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----									

地理学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)		担当者氏名	独立行政法人森林総合研究所 関西支所森林生態研究グループ主任研究員 大住 克博					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	人との相互関係から理解する森林景観								
【授業の概要・目的】									
日本列島で最も広い地被である森林について、それがどのような仕組みで形成され、景観を構成しているかを、いくつかの事例を通して学ぶ。森林の分布やその構造は、自然環境要因との関連で整理され理解されることが多いが、実際には歴史的過程における人の活動も大きく深い影響を与えている。本講義では、特にこの点に注目し、日本列島における森林と人の相互関係の諸相を考える。内容は生態学・林学・景観生態学・植生史学などにまたがるものとなるが、それらの分野の基礎的な知識もあわせて紹介する。									
【授業計画と内容】									
以下の各テーマについて1-2回程度の授業を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・国内の森林植生の生態学的な解説 ・森林植生に与える人為影響の概観 ・種レベルでの人為影響 ・群集レベルでの人為影響 ・里山の成立と変遷 ・西日本における温帯性針葉樹の消長 ・人工林と林業 ・文化的景観としての森林の理解 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と年度末のレポート。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	地理学(演習) Geography (Seminars)				担当者氏名	文学研究科 教授 小林 致広			
						文学研究科 教授 石川 義孝			
						文学研究科 教授 杉浦 和子			
						文学研究科 准教授 米家 泰作			
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水5	授業形態	演習
題目	地域の諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>院生それぞれが遂行する研究のプロセス（テーマ設定、既往研究のレビュー、史資料収集、調査・分析、考察と意義付け、執筆に至る一連の段階）に沿って報告を行い、互いに議論を重ねることにより、研究を深めることを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>年度初めに1年間の院生の発表スケジュールを決め、それに従って、院生はレジュメを用意して各自の専門のテーマに関する発表を行う。その後、発表に関する討議を行う。なお、院生は1年間に少なくとも2回の発表をする必要がある。各発表では、半年間の研究成果を報告する。それぞれの発表につき院生1名が書記を務め、討議の内容を記録し、演習終了後に口頭で要約し、さらに1週間以内にそれを印刷して、演習出席者全員に配布する。発表者は討議で指摘されたコメントを踏まえて研究を深めたり修正を加えたりすることによって、修士課程の院生の場合は修士論文の作成に、博士課程の院生の場合は学会誌投稿論文のとりまとめに反映させることが求められる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
演習への参加と発表に基づく平常点で評価する									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

《現代文化学専攻》 科学哲学科学史専修

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行
配当学年	全回生	単位数	2
開講期	前期	曜時限	月3
授業形態	特殊講義		
題目	ニュートンの自然哲学的考察		
[授業の概要・目的]			
<p>アイザック・ニュートンは17世紀科学革命を担った科学者である。彼は「我仮説を作らず」という言葉で知られているように、『プリンキピア』の中では自然哲学的な議論を避けていたが、『光学』の末部にある「疑問」においては、物質粒子や研究方法について論じていた。本講義では「疑問」を講読しながら、彼の物質観や方法論を検討する。</p>			
[授業計画と内容]			
<p>17世紀科学革命，ニュートンの業績について概観してから，ニュートンの「疑問」（英語）を講読する。「疑問」は『光学』の新しい版が出版されるたびに改訂増補されており，その変遷についても合わせて検討する。</p> <p>テキスト：Newton, Opticks . 英語版：第1版（1704），第2版（1718），第3版（1721），第4版（1730） ラテン語版（1706） ・KULINEから電子ブックをダウンロードできます。</p>			
[履修要件]			
特になし			
[成績評価の方法・基準]			
平常点（出席および発表）とレポートによって総合的に評価する。			
[教科書]			
授業中に指示する			
[参考書等]			
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>			
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））			
特になし			
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。			

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	科学随筆 寺田寅彦と中谷宇吉郎								
【授業の概要・目的】									
<p>現在では「科学随筆」という分野はほとんど消滅してしまったと言えようが，大正から昭和にかけて一つの文学領域を形成していた．大正と昭和における科学随筆の代表者である寺田寅彦と中谷宇吉郎を取り上げ，科学随筆と彼らの科学的活動について検討する．</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のトピックにかんして文献を読み，出席者に発表を行なってもらう，</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大正から昭和初期における日本の科学（物理学を中心に） ・科学随筆の歩み ・寺田寅彦 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯と業績・物理学者としての活動・随筆家としての活動 ・中谷宇吉郎 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯と業績・物理学者としての活動・随筆家としての活動 ・現代における科学随筆の行方 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席および発表）とレポートによって総合的に評価する．									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	因果性と確率 (causality and probability)								
【授業の概要・目的】									
因果性の概念は科学哲学においてさまざまな方面から論じられてきた。今回の授業では、その中でも特に確率の概念を使った因果の分析に焦点をあてる。テキストにそった解説とディスカッションを通して、因果性の分析について確率がどのような役割を果たすのかの理解を深めていくことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
本授業では具体的にはサモンの因果の分析とパールのグラフを使った因果的推論の分析を、それぞれのテキストにそって解説していく。 取り上げる内容としては以下のようなものを考えている。									
<ul style="list-style-type: none"> - 決定論と非決定論 - at-at理論 - 因果的傾向性 - 確率的因果 - 因果的ベイジアンネットワーク - グラフを使った因果的推論 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
2回のレポート									
【教科書】									
Wesley C. Salmon 『Causality and Explanation』 (Oxford University Press) Judea Pearl 『Causality: Models, Reasoning, and Inference』 (Cambridge University Press)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは水曜日 15:00-16:30 を予定									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	曖昧性の哲学と論理 (philosophy and logic of vagueness)								
【授業の概要・目的】									
われわれの使う概念は多かれ少なかれ曖昧さを持つ。これは科学においても例外ではない。他方、「砂山のパラドックス」など、曖昧な概念をめぐるはパラドックスが存在することが古来知られている。現代においても、曖昧述語をどのように理解するのか、曖昧性にどのように対処するのかについては、哲学と論理学の双方でさまざまな考察や試みがなされている。本講義を通して、曖昧性について何が問題となっているのか、どのような解決が提案されているのかを理解してほしい。									
【授業計画と内容】									
テキストとして指定しているスミスは多値論理を使った解決を提唱しているが、自分の立場を含めたさまざまな提案を体系的に整理している。その論述を手がかりに曖昧述語の解釈の見取り図を構成していくとともに、スミスの立場（ファジー複付値主義）の批判的な検討も行う。									
<ul style="list-style-type: none"> - 認識主義 - 多値論理を使った解決 - 真理値ギャップを使った解決 - 重付値主義 - 文脈主義 - 直観主義 - ファジー複付値主義 									
【履修要件】									
議論についていくには様相論理、多値論理などについての知識が必要となるが、この授業に必要な範囲での導入は授業内で行う。事前の知識は要求しない。									
【成績評価の方法・基準】									
二回のレポートで評価を行う。									
【教科書】									
Nicholas Smith 『Vagueness and Degree of Truth』 (Oxford University Press)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
水曜 15:00 -16:30の時間をオフィスアワーとする予定。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 特定助教 白井 哲哉				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	生命科学と社会								
【授業の概要・目的】									
<p>近年急速に発展し続けている生命科学では、動物・植物から微生物まで、多数の生物のゲノム（全ての遺伝情報）が研究され、ヒトにおいても個々人のゲノムが解析できるようになった。その成果は医療だけでなく食品、農業、工業そして一般社会にまで及んでいる。一方、生命科学に関するE L S I（倫理的・法的・社会的課題）も増えており、課題に取り組むためには、科学者だけでなく様々な専門家・関係者ととも問題を考える必要がある。本授業では最新の生命科学をトピックに、科学者以外の人々が科学技術をめぐる議論に参加する意義を考察する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>講義で取り上げる主なトピックは以下のものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人ゲノムの解読 ・ オーダーメイド医療 ・ iPS細胞研究 ・ 再生医療 ・ 合成生物学 <p>生命科学の研究が営まれている現状及び、その研究成果を紹介する。またそれらが社会に及ぼす影響について講義し、研究の進め方、技術の利用の在り方についての議論を行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席および発表）とレポートによって総合的に判断する									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>生命科学に関する興味・関心や予備知識は必用ありません。授業及びレポートでは、新たな知識を得るだけでなく、自分の意見・考えをアウトプットするよう努めて下さい。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)			担当者氏名	京都精華大学 人文学部 教授 斎藤 光				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	日本における分子遺伝学・分子生物学・ライフサイエンスの学的展開と社会的展開								
【授業の概要・目的】									
<p>分子遺伝学・分子生物学は、重要な前史はあるものの、1953年の二重らせんモデルの提唱から本格的な展開が開始された。当時日本では、ルイセンコ論争が、遺伝理解をめくり展開されており、この論争が一つの要素となり、日本の研究者の分子生物学研究前線への寄与は、大きいものとはいえなかった。しかし、1970年代以降、遺伝子組み換え技術の移入や科学政策レベルでの支持・介入とともに、日本の分子生物学も、世界的研究前線の一角を担うようになっていった。その後、ヒトゲノム計画の出現や、医療分野への分子生物学の応用の具体化などをへながら、<法>分野や経済・経営分野との連結や、生命倫理という社会装置の設定など、多重な形態で社会と接触しつつ、政策的誘導を受けながら展開している。ただ、その学的展開と社会的展開に関して見取り図が提示されているとはいえない。この講義では、日本語文化圏の科学者と社会に主な場を限定しつつ、その場で、分子遺伝学・分子生物学・ライフサイエンスがどのように展開して来たか、その展開を理解する図式を考えつつ、整理していく予定である。</p> <p>この科目の狙いは、第一に、生命科学の19世紀以来の展開の概要を理解する、第二に、その日本の展開を理解する、そして第三に、現代における科学と社会の関係構造を理解する、ことにある。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のようないくつかのまとまりを論じて行く予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 二重らせんモデル提示以前の遺伝学の特質とおもな内容の確認。 分子遺伝学成立に向けた前史の整理と確認。 日本の状況と日本におけるルイセンコ論争の内容と意味。 60年代の日本における遺伝の分子的理解。 70年代における日本と世界の状況について。 ヒトゲノム計画の提示と、計画実現までの道。 「科学技術基本法」体制下での分子生物学・ライフサイエンス。 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、または/および、試験で評価する予定。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>授業中に紹介する 資料はコピーして配布予定。</p>									
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	「人間とコンピュータとの共生」を考える								
【授業の概要・目的】									
この講義では、コンピューティング史において、システムと人間の関係がどのようにとらえられてきたのかについて考察する。歴史的には、人間はまず人間機械混成系（man-machine system）の一部の要素（human factor）とみなされ、やがて人間による処理への介入（human intervention）の研究を経て、「人間とコンピュータとの共生」概念が提示された後、現在のように、人間はシステムのユーザとみなされるようになっていった。そうした黎明期の概念の変遷を踏まえて、人間とコンピュータの関わりについて考える学問領域（Human Computer Interaction, HCI）の成立と発展の歴史について、当該分野における重要基本文献などを通じて検討する。									
【授業計画と内容】									
授業は基本的には歴史学的方法論で進めるが、必要に応じて、科学技術社会論の論点についても言及する。									
授業概要（各項目について1～3回程度の授業を行う）									
<p>オリエンテーション</p> <p>人間機械混成系（man-machine system）からHuman Factor研究へ</p> <p>入出力装置の開発とシステム概念の変化</p> <p>サイバネティクスとHCI分野の関係</p> <p>HCI基本文献の検討</p> <p>HCI分野黎明期の社会的背景</p> <p>まとめ</p> <p>まとめ</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主レポートによる（ただし、レポートの内容が不十分な場合には平常点評価（出席時の態度等）も加味する）。									
【教科書】									
適宜、授業内にプリント配布、およびウェブサイトにて資料をアップロードなどする。									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>喜多千草 『インターネットの思想史』（青土社）ISBN:4-7917-6021-2</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)	担当者氏名	北海道大学 大学院文学研究科 教授 中戸川 孝治						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	集合、論理、圏：基礎の哲学								
【授業の概要・目的】									
<p>集合論、第1階述語論理、圏論の形成されてくる過程の基底部分を見ることにより、新分野の創造に寄与した研究者達の考え方(方法論および哲学)への理解を深めることを目指す。彼等はどのような方法態度を選択したのか分析する。分析の過程で、上述の三分野の形成・発展が、伝統的哲学の諸問題を考察するうえで、何らかの手がかりや示唆を与えるならば、それらがどのような解決を志向していると考えられるか、検討する。</p> <p>数理思想史の面では、19世紀中葉以降のリーマンとデデキント、ガウス以降の展開に注目する。ガウス曲率が曲面の等長変換で不変であるという「注目すべき定理」から瞥見される、「曲面を立体の境界としてではなく、それ自身1次元下がった個体として考える」新しい着想が、多様体へと展開される経緯を概観する。19世紀末から20世紀初頭にかけての位相数学の展開がかならずしもカントール集合論の枠内で発生したのではないことを見た後、Mannichfaltigkeitと判断における統一作用の関係を、フレーゲ及び西南学派における判断論の展開等を参照し考察する。次に、これらの哲学思潮と、フレーゲ以降の分析哲学との関係を理解するために必要な範囲で、20世紀後半における多様体研究の展開を追い、層の圏、クリプケ・フレーム等について説明する。その後、田邊元「数理の歴史主義展開」の諸見解を、F.W.Lawvereによるトポス哲学、及び、層の哲学への探究のなかで理解を試みる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業は、大きく三つに分けられる。第一部では、カントール素朴集合論、デデキントの貢献、公理的集合論の形成を見る。構成的宇宙、巨大基数の幾つかに言及し、それらの仮定からえられる帰結・応用に言及する。抽象的実体としての集合存在はどのような条件のもとで受け入れ可能となるか、検討する。</p> <p>第二部では、G.フレーゲ以降の論理学の形成の過程を見る。新しい論理学の創出にあたり、論理学の基礎に横たわる諸問題を彼がどのように切り分けたのか、分析する。とりわけ、述語の指示するものはどのような在り方をするかを、関数の在り方を手がかりにて、比較・検討する。証明可能性と論理的導出関係という概念の定式化に内在する方法論の相違をおさえた後で、証明論とモデル理論の方法態度の違いが何処に由来するか、両者の指向する哲学の相違まで敷衍し考察する。</p> <p>第三部では、全射、単射、半順序、モノイドを例にとり、圏論と集合論による表現の相違を比較する。functionの機能、操作といった側面に注目し、集合とどのように在り方が異なるか、探求する。</p> <p>なお、数理思想面に関わる事項については、講義の進行を通して随時、論究する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび出席状況により評価する。									
【教科書】									
使用しない 教科書は使用しない。基礎事項等については講義の中で説明する。									
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----									

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

数理思想史の方面については、講義の進行に応じて随時、文献を紹介する。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	アインシュタイン「物理学と実在」								
【授業の概要・目的】									
アインシュタインは相対性理論の提唱者として知られるが、同時に量子論の誕生期に重要な役割を果たしたことで知られる。彼が今世紀前半の物理学革命について述べた論考を読む。									
【授業計画と内容】									
最初にアインシュタインと量子力学の誕生に関して概括し、それからアインシュタインの次の論文（独語）を読む。 "Physik und Realitat", Journal of the Franklin Institute, Vol. 221, 1936, pp. 313-347.									
【履修要件】									
テキストには英語訳および日本語訳もあるが、演習では独語原典を講読するので、ドイツ語の読解力が必要である。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席および発表）とレポートによって総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する その他必要に応じて、参考書・論文等を紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火3	授業形態	演習
題目	オイラー 『ドイツ皇女への手紙』								
【授業の概要・目的】									
18世紀を代表する数理科学者レオンハルト・オイラーが書簡の形式で書いた『ドイツ皇女への手紙』は一般向けの自然科学および哲学の概説書として広く流布した。その読解を、当時の一級の科学者の自然当時の科学観および自然観を検討する。									
【授業計画と内容】									
オイラーの業績について概括した後、原著（フランス語）を講読する。著作は各テーマに関する234通の書簡からなるので、数編の書簡を選んで読む予定である。 テキストは次のものである。 Lettres a une Princesse d'Allemagne, 2 tomes, 1768, 1772.									
【履修要件】									
テキストには英語訳があるが、演習では仏語原典を講読するので、フランス語の読解力が必要である。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（出席および発表）とレポートによって総合的に評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	科学的实在論論争と自然主義的形而上学								
【授業の概要・目的】									
<p>本授業では、Ladyman and Ross のEvery Thing Must Goを読む。この本は、科学的实在論論争の一つの到達点として、形而上学そのものを自然化するというプログラムを打ち出したレイディーマンらの共著論文をあつめたものである。この本を読み進めていくことで、实在論論争の現状を彼らの議論をとおして理解すると共に、この議論がどこに向かっているのか、一緒に考えていきたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業は基本的に一回の授業でテキスト10ページ程度を読み、それについてディスカッションする形です。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。すべてを読むわけではないが、テキストの章立ては以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> -科学主義の擁護 -科学的实在論、構成的経験主義、構造主義 -存在論的構造实在論と物理学の哲学 -熱帯雨林实在論と科学の統一 -構造的な世界における因果 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表の担当と期末のレポート									
【教科書】									
James Ladyman and Don Ross 『Every Thing Must Go』 (Oxford University Press)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
水曜 15:00 -16:30の時間をオフィスアワーとする予定。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水3	授業形態	演習
題目	心理学と認知科学の哲学								
【授業の概要・目的】									
この演習では、心理学と認知科学の哲学についてのアンソロジーからいくつかの論文を読むことで、哲学的テキストの読解力を身につけるとともに、この分野についての理解を深めることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
授業は基本的に一回の授業でテキスト20ページ程度を読み、それについてディスカッションする形です。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。取り上げる話題としては以下のようなもののうちいくつかを最初の授業で選択することを考えている。									
<ul style="list-style-type: none"> -表象 -心理学的説明 -知覚 -感情 -認知神経科学の理論的基礎 -計算論的神経科学 -進化心理学 -人工知能 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表の担当と期末のレポート									
【教科書】									
Paul Thagard ed. 『Philosophy of Psychology and Cognitive Science』 (Elsevier)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
水曜 15:00 -16:30の時間をオフィスアワーとする予定。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行 文学研究科 准教授 伊勢田 哲治						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	科学哲学科学史セミナー								
【授業の概要・目的】									
<p>発表演習，大学院生必修．修士論文および博士論文，その他の論文作成や学会発表に向けて，プランや途中経過などの発表をしてもらいます．</p>									
【授業計画と内容】									
<p>欠席が多い学生には、発表しただけでは単位を与えないことがあるので注意のこと． またわかりやすくおもしろいプレゼンテーションを要領よくできるように，いろいろなテクニックも習得していこう．</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席と発表による									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

情報・史料学専修

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)		担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月5	授業形態	特殊講義
題目	形式と内容の思想史								
【授業の概要・目的】									
<p>社会学におけるマックス・ウェーバーの形式合理性と実質合理性，数学基礎論におけるダーフィット・ヒルベルトの形式的数学と実質的数学（有限の立場），この二つは，ほぼ同世代のドイツの思想家により提示された社会科学思想と数学思想の対立項である．一見無関連の，この二つの思想を「近代性の思想史」の二つの顕れとして関連付ける．この二つを中心とするが，数学史家 J. Gray のモダニズムとしての現代数学という視点（芸術のモダニズムと現代数学）や，同時代のドイツ語圏における哲学における形式と実質の問題（マックス・シェーラー倫理学）などにも言及する．</p>									
【授業計画と内容】									
<p>次のテーマについて，それぞれ1 - 3回講義する．</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．問題意識の発端：クルト・ゲーデルの歴史観 2．社会学における形式と実質：ウェーバーの合理性の分類と官僚制理論 3．数学における形式と内容：ヒルベルトの人工数学計画と内容的数学 4．ウェーバーの背景：新カント派の哲学 5．ヒルベルトと新カント派？：ミッシングリンクを求めて 6．数学史家ジェレミー・グレイのモダニズム数学論 7．シェーラーの実質的倫理学 8．ドイツ語圏の教育における形式と実質 <p>毎回最後の5分程度に質問票を書いてもらう時間をとる．次回に，その主なものに答える．</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
小レポートを数回出題し，それにより採点する．									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
<p>（参考書） この講義の一部の一般向けに解説である．林晋「ゲーデルと数学の近代」（仮題），岩波新書，を執筆している．これが易しい参考書となるだろう．希望者には，出版前でも試読用原稿を渡す．</p>									
<p>（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋
配当学年	全回生	単位数	2
開講期	後期	曜時限	水5
授業形態	特殊講義		
題目	パーティシペーションの思想		
[授業の概要・目的]			
<p>田辺元の種の論理における「種と個の関係性」の発想の源泉は、フランスの思想家、リュシアン・レビ＝ブリュールの分有（participation mystique）の概念と、それに関連するマックス・シェーラーの知識社会学における teilhaben（参加）の概念であったことが、最近の田辺史料研究により明らかになっている。シェーラーとブリュールの親密性をもったパーティシペーションを、田辺は絶対弁証法的葛藤関係に置き換えた。それが種の論理の誕生をもたらしたのである。</p> <p>これらの社会思想から、約一世紀を経た現在、それに極めて類似した思想がネットの世界を、そして実世界の動かしている。WEB 2.0 の中心概念「パーティシペーション」である。Facebook や Twitter は、すべてこのパーティシペーションの思想を基にしており、それは政治体制にさえ影響を持つまでになっている。</p> <p>なぜ、そして、どの様に一世紀前の社会思想は、現代のネット・ヴァーチャル社会の思想に「生まれ変わった」のだろうか。それを解明する。</p>			
[授業計画と内容]			
次の項目を、それぞれ 1 - 2 回講義する。			
A. 導入部			
A1. ビル・オライリーの「参加」：集合知、Yahoo知恵袋、SNS、ジャスミン革命...			
A2. 個がネットに飲み込まれ「融即」する時代			
B. 20世紀初頭の思想群			
B1. 田辺元の類・種・個 種の論理			
B2. レビ＝ブリュールの participation 融即			
B3. シェーラーの teilhaben 参加と社会哲学			
C. 21世紀の「融即」			
C1. ビル・オライリーのWeb2.0の思想と「参加」			
C2. 参加型エンタープライズの登場			
C3. 参加型エンタープライズとネット社会			
C4. 再魔術化の時代のリアリティとしての「融即」			
毎回最後の5分程度に質問票を書いてもらう時間をとる。次回に、その主なものに答える。			
[履修要件]			
特になし			
----- 情報・史料学(特殊講義)(2)へ続く -----			

情報・史料学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・基準]

数回の小レポートを実施し、それにより採点する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

パートBについては、田辺元「種の論理」(岩波文庫)、レビ=ブリュール「未開社会の思惟」(岩波文庫、現在版切れ、古書として手に入る)、シェーラー全集(白水社)などが参考となる。

パートCは、関連する文書の殆どがWEB上の文書や最近の論文である。WEBのものは、適宜URLを紹介する。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

KULASIS以外に講義用のサイトを開設し、講義資料、特にパートCの参考文献などを掲示する。そのサイトのURLは最初の講義の際に伝える。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 教授 吉田 純						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	情報ネットワーク社会論								
【授業の概要・目的】									
ハーバーマス、ギデنز、ベックらの社会理論を基本的な枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。									
【授業計画と内容】									
以下の順序で、各項目について1～3回の講義をおこなう。									
<ol style="list-style-type: none"> 1 情報ネットワーク社会への視点 2 日本社会/アメリカ社会における 情報化 3 CMC (Computer Mediated Communication) 空間の展開 4 生活世界のリアリティの再編成 5 再帰的近代化としての 情報化 6 監視社会論 7 リスク社会論 8 社会空間の再編成 9 親密圏・公共圏の再編成 									
【履修要件】									
社会学関係の全学共通科目または学部での概論科目を履修していることが望ましい									
【成績評価の方法・基準】									
中間・期末の2回のレポートによる（配点は中間30点・期末70点とする）									
【教科書】									
使用しない プリントを配布する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
https://socio.k.kyoto-u.ac.jp/sis (授業専用サイトで、資料配付、レポート提出、質問受付、その他の各種連絡をおこなう(ログインパスワードは初回の授業で通知する))									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	京都産業大学 経済学部 教授 小田 宗兵衛
---------------	---	-------	-----------------------

配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
------	-----	-----	---	-----	----	-----	----	------	------

題目	実験経済学：ゲーム理論の体験的入門と人文社会科学における経済実験の可能性
----	--------------------------------------

[授業の概要・目的]

実験経済学を講義する。

実験経済学は、人間の経済的意思決定や経済体系の挙動を調べるために、ゲームを作って人間にプレイさせ、個々の人間の行動や相互作用を経済理論に照らして分析する。

経済研究としては半世紀の歴史しかもたないが、いまや分析方法として確立し、世界中で多くの実験研究が行われている。

本講義の目的は、(1)実験を通じて現代の経済と経済学について基礎的理解を得ることと、(2)経済学に限らず人文社会科学における新たな実験研究の可能性を考察することである。

(1)経済は、多くの意思決定主体からなる体系で、各主体の意思決定は複雑な自己言及を含む。受講者は、経済実験に参加して以上のことを体験し、経済学（特にミクロ経済学とゲーム理論）の基礎的知識と基本的方法を学ぶ。

(2)経済実験は、人間の意思決定と人間を要素とする体系の挙動を知るための有力な方法であり、他の分野の研究にも応用可能である。

実験経済学の最近の動向として、制御されているが人工的環境である実験室での実験の反省として最近流行している実験室外実験や、観察される行動だけでなく意思決定時の脳活動の観測に基づく神経経済学に言及するとともに、人文社会科学における新たな実験研究の可能性として、英語圏で盛んになりつつある哲学実験を経済実験にする担当者の試みを述べる。

[授業計画と内容]

受講者が10人程度いれば、競争市場実験や複占市場実験など合計5種類の実験を行う。

これらの解説を含めて10回の授業を予定する。

これによって受講者は、体験的に経済学と経済実験を学ぶ。

これは、ゲーム理論の体験的速習講義として十分なものであり、受講者はゲーム理論の基礎的概念と基本的方法を習得できるであろう。

理論だけでなく実験による検証を意識して講義を進めることで、受講者は、論理実証主義や行動主義心理学と経済学との関連などについて具体的に理解するとともに、各自の研究への応用の可能性を見つけれらるであろう。

残りの授業では、実験哲学の実験と講義、および受講者の希望に応じて話題を選んで講義するか演習（参加者からの発表と議論）を予定している。

受講者は、経済学の視点と方法を、各自の専攻する分野における理論の役割や実験の方法と比較考察することを期待されている。

受講者の積極的な提案や議論を期待する。

情報・史料学(特殊講義)(2)へ続く

情報・史料学(特殊講義)(2)

[履修要件]

なし（経済学の知識を前提にしない）

[成績評価の方法・基準]

レポート

[教科書]

使用しない
参考文献については、授業中に指示する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

経済実験に興味のある受講生には、京都産業大学の経済実験室での実験の便宜をはかる。（受講すべきかどうかも含めて）相談があれば、何でも気楽にoda@cc.kyoto-su.ac.jpに。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	「人間とコンピュータとの共生」を考える								
【授業の概要・目的】									
この講義では、コンピューティング史において、システムと人間の関係がどのようにとらえられてきたのかについて考察する。歴史的には、人間はまず人間機械混成系（man-machine system）の一部の要素（human factor）とみなされ、やがて人間による処理への介入（human intervention）の研究を経て、「人間とコンピュータとの共生」概念が提示された後、現在のように、人間はシステムのユーザとみなされるようになっていった。そうした黎明期の概念の変遷を踏まえて、人間とコンピュータの関わりについて考える学問領域（Human Computer Interaction, HCI）の成立と発展の歴史について、当該分野における重要基本文献などを通じて検討する。									
【授業計画と内容】									
授業は基本的には歴史学的方法論で進めるが、必要に応じて、科学技術社会論の論点についても言及する。									
授業概要（各項目について1～3回程度の授業を行う）									
<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 人間機械混成系（man-machine system）からHuman Factor研究へ 入出力装置の開発とシステム概念の変化 サイバネティクスとHCI分野の関係 HCI基本文献の検討 HCI分野黎明期の社会的背景 まとめ 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主レポートによる（ただし、レポートの内容が不十分な場合には平常点評価（出席時の態度等）も加味する）。									
【教科書】									
適宜、授業内にプリント配布、およびウェブサイトに資料をアップロードなどする。									
【参考書等】									
（参考書） 喜多千草 『インターネットの思想史』（青土社）ISBN:4-7917-6021-2									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)			担当者氏名	情報学研究科 教授 奥乃 博				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	アルゴリズムとデータ構造入門								
【授業の概要・目的】									
<p>プログラムはデータ構造とアルゴリズムから構成される。本講義では、プログラミングについてコンピュータサイエンスの立場から論じる。プログラミング言語 Schemeによりプログラミングの基本概念について学ぶとともに、実際にプログラミングを経験する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>教科書第2章まですべての練習問題も含めて理解することを目指す。http://winnie.kuis.kyoto-u.ac.jp/~okuno/Lecture/ 参照。また、次の項目を講義する。</p> <p>(A) 教科書1章 手続きによる抽象化</p> <p>(B) 教科書2章 データによる抽象化</p> <p>(C) ソーティング(整列)アルゴリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整列アルゴリズムの設計と解析 ・ 挿入ソート・選択ソート・シェルソート ・ クイックソートとピボットの選択法 ・ ヒープソート・マージソート ・ 辞書式順序・バケットソート・基数ソート 									
【履修要件】									
<p>学術情報メディアセンターで、演習する意欲があること。 タイプができ、タイプミスを発見する能力があれば、十分に授業にはついて行くことができます。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>試験70点，レポート30点（随意課題提出者は+）。中間試験を行うことがある。いずれも一切持ち込みはできない。レポートの必修課題は毎週の宿題，および，図形言語である。</p>									
【教科書】									
<p>ジェラルド・サスマン他著（和田英一訳）『計算機プログラムの構造と解釈』（ピアソン・エデュケーション）ISBN:489471163X Gerald Sussman et al 『Structure and Interpretation of Computer Programs』（MIT Press）ISBN:0262510871（http://mitpress.mit.edu/sicp/ に無料本があります） 英語の教科書は Web で公開されています。 教科書としては訳本より原著 "Structure and Interpretation of Computer Programs" (MIT Press) を薦めます。本講義では教科書の前半の話題を取り上げ、後半は「プログラミング言語」（湯淺担当,前期）で取り上げます。</p>									
----- 情報・史料学(特殊講義)(2)へ続く -----									

情報・史料学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

なし

(関連URL)

<http://winnie.kuis.kyoto-u.ac.jp/members/okuno/Lecture/11/IntroAlgDs/>(平成23年度の本講義のHP)
<http://winnie.kuis.kyoto-u.ac.jp/members/okuno/Lecture/>(担当者の講義資料全体のHP(過去の情報あり))
<http://mitpress.mit.edu/sicp/>(オンライン版教科書(無料))
<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/0262510871/photoinfo-22>(英語版教科書)
<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/489471163X/photoinfo-22>(日本語訳の教科書)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

宿題を必ず行ってください。実力が付くことは間違いありません。
教員は夜24時までにはほぼ確実におりますので、面談が必要な場合にはメールで予約をお願いします。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	情報・史科学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	龍谷大学 理工学部 教授 岡田 至弘						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火5	授業形態	特殊講義
題目	文化資源デジタルアーカイブ								
【授業の概要・目的】									
デジタルアーカイブを活用した文化資料・史料解析方法を論じる。シルクロード文化資料（唐代の敦煌文書、トルファン文書）および、元・明代のアジア古地図アーカイブ、現代の文化資料として黒澤明デジタルアーカイブを用いて、新たな資料・史料解析の実際を学ぶ。ここから現在のデジタルアーカイブの機能とデジタルアーカイブシステムの限界を考察し、文化資料・史料研究に必要とされるデジタルアーカイブの新たな機能・方法を見出していくことを目的とする。									
【授業計画と内容】									
1：オリエンテーション＝デジタルアーカイブ実例による講義目的の説明 2：シルクロード資料DBに基づく漢文文書解析からの文化伝播 3：文化伝播を課題としてのワークショップ 4：古地図アーカイブ実例による空間アーカイブ構成 5：黒澤明デジタルアーカイブによるクロスメディアアーカイブ 6：デジタルアーカイブとミュージアム連携の紹介 7：デジタルアーカイブ活用課題としてグループに分かれて取り組む 8：グループ発表 9：まとめ									
【履修要件】									
知識があるに越したことはないが、積極的に発言し、考える態度が欲しい									
【成績評価の方法・基準】									
基本的にレポートの内容による。ごく常識的に、主張の独自性、有用性、説得性を評価する									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報・史科学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)			担当者氏名	花園大学 文学部 講師 師 茂樹				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	コンピュータとナラティブ								
【授業の概要・目的】									
Digital Humanitiesの下位領域のひとつとして、Multivariant NarrativeやDigital Poetryなどと呼ばれる、コンピュータやインターネットを前提とした文学（コンピュータゲームを含む）の創作活動や批評理論などについての研究がある。この領域は、日本の同種の学界ではほとんど関心が持たれていないが、フィクション論やメディア論など、人文学と情報学が交錯する研究分野の方法論全般にかかわる重要な問題をはらんでいると思われる。この講義では、この研究領域に関する入門的な論文をいくつか通読することで、Digital Humanities全般についての理解を深めることができればと思う。									
【授業計画と内容】									
A Companion to Digital Humanities (Blackwell, 2004) や A Companion to Digital Literary Studies (Blackwell, 2008) などに収録された論文をピックアップし、担当者を決めて読んでいく。1論文あたり1～2週で読んでいきたい。 とりあげる論文は受講生と相談のうえ決めたいが、以下のようなテーマのものを予定している。 Multivariant Narratives Fictional Worlds in the Digital Age Interactive Fiction and Storyspace Hypertext Computer Games as Narrative Digital Poetry Robotic Poetics									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
読解担当および出席状況により評価するが、授業中での積極的な姿勢も考慮に入れる。									
【教科書】									
プリントを配布する予定。									
【参考書等】									
(参考書) Susan Schreibman他 『A Companion to Digital Humanities』 (Blackwell) ISBN:978-1405168069 Ray Siemens他 『A Companion to Digital Literary Studies』 (Blackwell) ISBN:1405148640 Marie-Laure Ryan 『Avatars of Story』 (University of Minnesota Press) ISBN:0816646864									
(関連URL)									
http://www.digitalhumanities.org/companion/ (A Companion to Digital Humanitiesのオンライン版) http://www.digitalhumanities.org/companionDLS/ (A Companion to Digital Literary Studiesのオンライン版)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)			担当者氏名	北海道大学 大学院文学研究科 教授 中戸川 孝治				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	集合、論理、圏：基礎の哲学								
【授業の概要・目的】									
<p>集合論、第1階述語論理、圏論の形成されてくる過程の基底部分を見ることにより、新分野の創造に寄与した研究者達の考え方（方法論および哲学）への理解を深めることを目指す。彼等はどのような方法態度を選択したのか分析する。分析の過程で、上述の三分野の形成・発展が、伝統的哲学の諸問題を考察するうえで、何らかの手がかりや示唆を与えるならば、それらがどのような解決を志向していると考えられるか、検討する。</p> <p>数理思想史の面では、19世紀中葉以降のリーマンとデデキント、ガウス以降の展開に注目する。ガウス曲率が曲面の等長変換で不変であるという「注目すべき定理」から瞥見される、「曲面を立体の境界としてではなく、それ自身1次元下がった個体として考える」新しい着想が、多様体へと展開される経緯を概観する。19世紀末から20世紀初頭にかけての位相数学の展開がかならずしもカントール集合論の枠内で発生したのではないことを見た後、Mannichfaltigkeitと判断における統一作用の関係を、フレーゲ及び西南学派における判断論の展開等を参照し考察する。次に、これらの哲学思潮と、フレーゲ以降の分析哲学との関係を理解するために必要な範囲で、20世紀後半における多様体研究の展開を追い、層の圏、クリプケ・フレーム等について説明する。その後、田邊元「数理の歴史主義展開」の諸見解を、F.W.Lawvereによるトポス哲学、及び、層の哲学への探究のなかで理解を試みる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業は、大きく三つに分けられる。第一部では、カントール素朴集合論、デデキントの貢献、公理的集合論の形成を見る。構成的宇宙、巨大基数の幾つかに言及し、それらの仮定からえられる帰結・応用に言及する。抽象的実体としての集合存在はどのような条件のもとで受け入れ可能となるか、検討する。</p> <p>第二部では、G.フレーゲ以降の論理学の形成の過程を見る。新しい論理学の創出にあたり、論理学の基礎に横たわる諸問題を彼がどのように切り分けたのか、分析する。とりわけ、述語の指示するものはどのような在り方をするかを、関数の在り方を手がかりにて、比較・検討する。証明可能性と論理的導出関係という概念の定式化に内在する方法論の相違をおさえた後で、証明論とモデル理論の方法態度の違いが何処に由来するか、両者の指向する哲学の相違まで敷衍し考察する。</p> <p>第三部では、全射、単射、半順序、モノイドを例にとり、圏論と集合論による表現の相違を比較する。functionの機能、操作といった側面に注目し、集合とどのように在り方が異なるか、探求する。</p> <p>なお、数理思想面に関わる事項については、講義の進行を通して随時、論究する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートおよび出席状況により評価する。									
----- 情報・史料学(特殊講義)(2)へ続く -----									

情報・史料学(特殊講義)(2)

[教科書]

教科書は使用しない。基礎事項等については講義の中で説明する。

[参考書等]

(参考書)

数理思想史の方面については、講義の進行に応じて随時、文献を紹介する。

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(演習) Humanistic Informatics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	田辺元を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>手稿・日記などの一次資料を通して過去の偉大な思索者の思想を読み解く。今年度の対象は、哲学者田辺元の種の論理が誕生した昭和9年の特殊講義「認識の形而上学」の講義準備ノートである。これは田辺の読みにくい筆跡のため、田辺元没後約50年間、哲学の専門家にも読めなかった史料だが、史料分析用ITツールを利用することにより、田辺哲学を理解していない学部学生でも十分解読ができている。演習を通して、まだ誰も読んでいない史料を始めて読むことの面白さを経験してもらう。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>まず史料の背景を説明する講義を行い、その準備のもとで演習を行う。史料読みの演習では、史料のオリジナルではなく、その電子画像を使ひ、難解な崩し字を読むために、歴史史料研究用のツール SMART-GS を使う。出席者の知識や能力に応じて、講義と演習の比重は変化する。史料2枚（原稿用紙2枚）程度を、2名のチームで担当し、1チームが2、3週を担当することを計画しているが、参加者の人数などで変化する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
担当箇所の報告資料と発表の様子で評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>手稿分析などに史料分析用ソフトウェアSMART-GSを多用する。講義参加者用のノートPCを数台用意しているが、自習などを考慮し自分のPCを持ってくるとよい。データなどは、外付けハードディスクに入れて貸与する。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	情報・史科学(演習) Humanistic Informatics (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 林 晋				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	合理性・近代性とその反転								
【授業の概要・目的】									
<p>ウェーバー社会学の合理性の理論、近代化、脱魔術化は古典的であるが、これに関連する基本的文書をいくつか読む。テーマは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マクドナルド化とディズニーランド化 2. 色々なモダニティ：リキッド・モダニティ、ポストモダン、再帰的近代、など 3. ウェーバーの近代化理論の古典 									
【授業計画と内容】									
<p>読む文書は参加者のレベルに合わせて決める。初級レベルでは、リッツァのマクドナルド化やブライマンのディズニーランド化の書籍の和訳を使う。語学に自信のある上級者はマックス・ウェーバーのドイツ語原著を是非一度読んでみて欲しい。</p> <p>毎回担当者を決め、報告資料を作成・提出して、それをもとに報告してもらう。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。特に発表や議論の内容・仕方により採点する。									
【教科書】									
<p>参加者のレベルや希望により決めるが、一番の基本（初級）の教科書は次の三つ： ジョージ・リッツァ，マクドナルド化した社会 果てしなき合理化のゆくえ 21世紀新版，早稲田大学出版部，2008 ジョージ・リッツァ，消費社会の魔術的体系，明石書店，2009 アラン・ブライマン，ディズニー化する社会，明石書店，2008</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報・史科学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 教授 吉田 純						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	社会情報学の諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>情報と社会との関係を軸として、現代社会の思想的・理論的あるいは経験的な諸問題について、内外の最新の研究文献に基づき、受講者各自の問題関心に沿った研究報告と批判的検討を行う。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>演習形式を取り、各回につき1~2名の担当者の研究報告と、それに基づく質疑応答・討論をおこなう。スケジュールは、原則として初回の授業で受講者の希望に基づき調整する。</p>									
【履修要件】									
<p>学部レベルの社会学関係科目を履修していることが望ましい。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点による（配点は、研究報告50%、出席25%、質疑応答・討論への参加状況25%とする）</p>									
【教科書】									
<p>使用しない</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures)	担当者氏名	情報学研究科 教授 山本 章博 情報学研究科 准教授 Cuturi Marco						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	知能情報システム特論								
【授業の概要・目的】									
人工知能で重要な技術の一つである機械学習について、それが単なる技術ではなく、計算可能性理論、計算代数、確率論、統計学などに基づいた基礎理論が構築できるような対象であることを講述する。									
【授業計画と内容】									
前半では形式言語や一階述語論理の論理式を対象とした計算論的学習を論じ、後半では実数値など連続データを対象としたおよび統計学的学習を論じる。以下のような課題について1課題当たり1～2週の授業を行う予定である。									
1. 計算論的学習									
* 学習の定式化(計算理論からの準備, 形式概念解析, 例と仮説)									
* 正負データからの学習(極限同定モデル, 質問学習)									
* 正データからの学習(正データからの学習の困難さ, 学習可能性の階層, 数学的公理と学習, 計算代数と学習)									
2. 統計的学習									
* クラス分類問題(研究経過, 分離超平面, パーセプトロン・アルゴリズム)									
* クラス分類の確率的枠組みと統計的学習理論(VC次元, PAC学習, 容量測度)									
* 代表的クラス分類アルゴリズム(LDA, ロジスティック回帰, アンサンブル手法, SVM, カーネル法)									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
成績評価はレポートにより行う。									
【教科書】									
プリント資料を配布する									
【参考書等】									
(参考書)									
授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
プリント資料のPDF版は、担当者のホームページ(アドレスは下記)でも公開する予定である。 http://www.iip.ist.i.kyoto-u.ac.jp/member/akihiro/ オフィスアワーは、火曜3時限～4時限とする。オフィスは、工学部10号館4F401号室にある									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	情報・史料学(演習) Humanistic Informatics (Seminars)	担当者氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3	授業形態	演習
題目	情報技術演習I								
[授業の概要・目的]									
研究には、「材料を集める」「分析する」「考察する」「まとめる」「発表する」というステップがあります。この演習では、「材料を集める」技法のひとつとしてのインタビューについて学びます。									
[授業計画と内容]									
インタビューとは、基本的には「発話から意味のある情報を得る」技法であり、文系・理工系を問わず「人間」に関わるあらゆる研究領域で用いられる、質的社会調査法の一つです。授業では、まず、「社会学」「文化人類学」「歴史学」「コンピュータサイエンス」「心理学」等の学術的インタビューから、ジャーナリスティックなインタビューまで様々な分野の技法について、基礎的な文献から学び、インタビュー技法についての俯瞰を得ます。そして次に、具体的なテクニックの確認と練習を経て、個々にインタビュープロジェクトを実施して報告を行います。									
授業概要									
オリエンテーション									
インタビューの基礎(講義形式)									
基本文献についてのレジюме発表(人数に合わせて数回:発表形式)									
インタビュー技法のポイントについてまとめ(ワークショップ形式)									
インタビュープロジェクト企画会議(ワークショップ形式)									
分析手法の紹介(講義形式およびワークショップ形式)									
インタビュー練習(ワークショップ形式)									
プロジェクト報告(人数に合わせて数回:発表形式)									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
平常点評価(出席点の他、基礎文献レジюмеの制作と発表、インタビュープロジェクトの企画書・報告書などを含む)									
[教科書]									
随時、ウェブサイトを通じての文献配布や、授業内でのプリント配布を行う。									
----- 情報・史料学(演習)(2)へ続く -----									

情報・史料学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

基礎的な文献については、代表的なものの一覧を授業内で配布する。

(関連URL)

<http://www.res.kutc.kansai-u.ac.jp/~ckita/KyotoUnivSeminar2012/>(詳しい講義計画、参考サイトへのリンク、一部配付資料のアーカイブ等)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

インタビュープロジェクトについては、それぞれの論文作成等に合わせて、自由テーマで実施してもらいます。プロジェクトの成果物の様態も、内容に合わせて自由に設定できます。(例: インタビューを分析した結果のモデルを示した考察内容の報告、オーラルヒストリのトランスクリプト、聞き取りによって作成したユーザの要件定義、読み物としてまとめたインタビュー記事、インタビュー記事を載せたウェブサイトなど)

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

二十世紀学専修

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 小野澤 透				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	冷戦とアメリカ外交								
【授業の概要・目的】									
アメリカ外交文書の具体的な分析に即して、冷戦史の諸問題を考察することにより、アメリカ外交史研究の学説史や方法論を修得する。									
【授業計画と内容】									
冷戦を歴史的に理解しようとするとき、それを米ソ対立を基調とする国際政治の枠組みと捉えるだけでは不十分である。冷戦とは、米ソ間の対立・競争の契機と、東西それぞれの陣営内における超大国を頂点とする政治的・経済的・軍事的統合およびシステムを創造・維持・改変しようとする契機が、国際政治のみならず、多くの国々の政治・経済・社会のあり方をも大きく規定する世界秩序の枠組みであった。 以上のような問題意識に立ち、本年度は、昨年度に引き続き、1950年代における、米・中東関係にかかわる諸問題を検討する。おおまかな内容は以下のとおり。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．アメリカと中東（概観） 2．英国の帝國的秩序とアメリカ 3．地域的秩序構想の形成（1950-52） 4．地域的秩序の追求（1953-1957） 5．西側陣営統合政策の挫折（1957-1958） 6．新たな地域的政策の枠組み（1958-1963） 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 五十嵐武士編 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）ISBN:4-8122-0623-5									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 HAYASHI,Brian				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	近代アメリカ史								
[授業の概要・目的]									
This course will cover the political, diplomatic, social, and cultural history of the United States, from the Civil War to the present. It is designed to provide you with a working knowledge of American history.									
[授業計画と内容]									
The course covers a broad range of topics, but in general we will cover the political and diplomatic in one class and alternate with the social and cultural history of the United States in the following class. The lectures are in English but the class discussions, for which I expect all students to participate in, can be done in Japanese or English, depending on the individual student's preference. Assigned readings are to be done before class and some videos/DVDs related to a particular week's lecture topic will be assigned for viewing prior to class. The first half of the course will cover up to the 1930s and the second half will reach the present day.									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
Your grade is based on three things--a written report (English or Japanese), an oral report (English or Japanese), and in-class discussions.									
[教科書]									
紀平英作 『アメリカ史』 (山川出版社) (printed handouts, and some video/DVDs to watch.)									
[参考書等]									
(参考書) Mary Beth Norton 『A People and a Nation』									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Office hours: Fridays, 15:00-16:30 and immediately after class Location: F407 (Yoshida Minami, Dai 3) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 准教授 石川 禎浩						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	中国革命史・中国共産党史の諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>中国革命史をもって中国近現代史に代えるような歴史観は、すでにそれ自体が過去の遺物になっている。しかし、だからといって、中国革命や中国共産党の歩みが歴史的分析の対象から除かれるということとはあり得ない。本授業においては、なお未解明の史実の多い中国革命史や中国共産党史の重要問題を、歴史学的手法により再検討する。そのさい、第一次資料を重視し、歴史の現場に立ち返ることを重視するのにもさることながら、革命叙述や歴史の通説が如何にして形成されてきたのか、という点にも十分な検討を加える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり3-4週の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マルクス主義の伝播と中国共産党の結成 2. 国共合作と中国国民革命の展開（ソ連・コミンテルンの動向） 3. 孫文の死去とその遺書をめぐる確執 4. 中国共産党の農村根拠地における活動 5. 延安整風運動と毛沢東の権力掌握、そして歴史叙述の書き換え 6. 中国共産党における歴史文献・政治文献の編纂 7. 政治と文学のせめぎ合い（小説『劉志丹』事件を例に） 8. 「建国以来の党の若干の歴史問題についての決議」の問題点 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末のレポート									
【教科書】									
関連資料・プリントを授業にあわせて適宜配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 須田 千里				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	日本近代文学の注釈的研究								
【授業の概要・目的】									
<p>山田美妙・泉鏡花の小説を読むことを通じて、明治文学について理解を深めることを目標とする。</p> <p>山田美妙は言文一致の「です・ます」体を創出したことで著名だが、こうした初期以外の文学作品については研究が進んでいない。この講義では、本格的な時代小説や少年文学、滑稽小説が目立つ明治20年代後半の作品を中心に精読する。</p> <p>後期は、泉鏡花の作品中、あまり論文が書かれていない作品をいくつか取り上げて精読する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>下記の内容について1～3週で講義を行う予定。授業の進行に応じて、内容に若干出入りするところがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、山田美妙の経歴、文学的特徴。 2、『雪折竹（利休と太閤）』 3、『猿面冠者』 4、『雨の日くらし』 5、『千里駿馬之助（徳川初年時代小説）』 6、『兜菊』 7、『丸二ツ引新太平記』 8、『家庭教育 園の二葉』 9、『みゝずばれ』 10、泉鏡花の経歴、文学的特徴。 11、『化銀杏』 12、『錦帯記』 13、『柳小島』 14、『X 螻螂鰻鉄道』 15、『怪語』 16、『笈摺草紙』 17、『梟物語』 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
前期末と後期末の各レポートの点数の平均点。単位の数え間違いなどにより卒業が懸かっているも、締め切り後のレポートは受け取らない。									
----- 二十世紀学(特殊講義)(2)へ続く -----									

二十世紀学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

積極的な授業参加、発言を希望する。
オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学（特殊講義） Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	教育学研究科 准教授 佐藤 卓己				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	メディア文化論								
【授業の概要・目的】									
<p>メディア論を中心に、現代社会のなりたちを世界システムとの関連で考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 都市基盤の上に成立した大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
第1-3回 メディア社会とは何か 第4回 メディア史としてのコミュニケーション研究 第5回 メディア都市の成立 第6章 出版資本主義と近代精神 第7回 大衆新聞の成立 第8回 視覚人間の国民化 第9回 宣伝のシステム化と動員のメディア 第10回 ラジオとファシスト的公共性 第11回 トーキー映画と総力戦体制 第12回 テレビによるシステム統合 第13回 情報化の未来史 第14回 脱・情報化社会へ 第15回 試験									
【履修要件】									
メディアに関心あり、情報への感度が高いこと。									
【成績評価の方法・基準】									
試験を行う。評価基準については、講義中に説明する。									
【教科書】									
佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス・1998）									
【参考書等】									
（参考書） 佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店・2009年）（メディア史＝メディア論の発想									
----- 二十世紀学（特殊講義）(2)へ続く -----									

二十世紀学（特殊講義）(2)

法について、参照のこと。）

佐藤卓己『輿論と世論 日本的民意の系譜学』（新潮選書・2008年）（「ヨロン」と「セロン」の区別について、参照のこと。）

佐藤卓己『現代史のリテラシー 書物の宇宙』（岩波書店・2012）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

メディア論の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書・2006年）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波新書・2009年）を、事前に読んでおくことが望ましい。

なお、テキストの中国語訳に佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学經典教材中文版）北京大学出版社2004年がある。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 清水 康次				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	芥川龍之介の文学								
【授業の概要・目的】									
<p>近代文学の研究にはいくつかの方法があり、研究の目的やテーマによって行う作業も発想も異なってくる。芥川龍之介の作品を題材とし、1つ1つの方法にどのような手続きが必要で、何が明らかになってくるのかを理解し、それらの方法に習熟していくことが授業の目的の1つである。</p> <p>芥川は、日本近代文学において、短篇小説という形式を確立し、さまざまな実験を行った作家である。その緊密な作品世界の形成には、西洋文学、中国文学、日本古典文学、日本の同時代の文学が関わる。この大正期を代表する作家と作品にさまざまな方向から光を当て、芥川文学の特質を明らかにしていくことが、もう1つの授業の目的である。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業を行う。受講生の発表する授業も数回組み込みたい。なお、課題は状況に応じて、順序・内容を変更する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「羅生門」の構造と主題 2. 「羅生門」の形成過程 3. 「鼻」の構造と主題 4. 「芋粥」の形成過程と主題 5. 初期作品の創作方法 6. 文壇デビューまでの道のり 7. 「偷盗」という作品 8. 「戯作三昧」の世界 9. 語りの方法の採用 10. 「地獄変」の構造と主題 11. 「奉教人の死」の典拠と主題 12. 語りの方法によるさまざまな実験 13. 「藪の中」の問題 14. 書誌とテキストクリティック 15. 作品論とテキスト論 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
各期末のレポートに平常点を加味する。									
----- 二十世紀学(特殊講義)(2)へ続く -----									

二十世紀学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業はプリントを配布して進めるが、ちくま文庫本『芥川龍之介全集』第1巻、第2巻を購入して、適宜授業に持参することが望ましい。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 法学部 教授 力久 昌幸				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	現代イギリス政治：歴代政権のリーダーシップに注目して								
【授業の概要・目的】									
この講義では、第二次世界大戦後から今日に至るまでのイギリスの歴代政権について、ヨーロッパ諸国との関係やEUに見られるような欧州統合への対応などに注目しながら、内政・外交のさまざまな側面から検討します。特に、戦後の衰退に歯止めをかけ、再び活力を取り戻すためにイギリスの歴代政権が実施したさまざまな改革について、首相の政治的リーダーシップのあり方に焦点をあてて検討します。戦後のイギリスが直面した内外の課題、および、それに対処するための首相のリーダーシップについて理解を深めてもらうことがこの授業の目的です。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマに関して、1テーマあたり1～2週の授業をする予定です。									
1 イントロダクション：イギリス現代政治の基本枠組 2 戦後政治の開幕：アトリー労働党政権 3 帝国後のイギリス：チャーチル保守党政権 4 スエズ危機：イーデン保守党政権 5 豊かな社会：マクミラン/ダグラス＝ヒューム保守党政権 6 現代化をめざして：ウィルソン労働党政権 7 Uターン：ヒース保守党政権 8 労働組合の時代：ウィルソン/キャラハン労働党政権 9 戦後コンセンサスの破壊：サッチャー保守党政権 10 新自由主義的改革の継続：メージャー保守党政権 11 「大統領型首相」とニュー・レイバー：ブレア/ブラウン労働党政権 12 連立の時代：キャメロン保守自民連立政権									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末レポート評価（80％）、平常点評価（20％） 平常点評価については、不定期（3～4回程度）に行う小テストにもとづいて行います。									
【教科書】									
梅川正美・阪野智一・力久昌幸（編）『イギリス現代政治史』（ミネルヴァ書房）ISBN:9784623056477									
【参考書等】									
（参考書） 細谷雄一（編）『イギリスとヨーロッパ：孤立と統合の二百年』（勁草書房）ISBN:9784326351442 力久昌幸『イギリスの選択』（木鐸社）ISBN:9784833222334 高安健将『首相の権力』（創文社）ISBN:9784423710708 その他、適宜授業中に紹介します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 法学部 教授 力久 昌幸				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	現代イギリス政治：統治機構，政党，政策を中心に								
【授業の概要・目的】									
この授業では，1990年代以降，急速に変化しつつあるイギリス政治の現状について，議会や政府などの統治機構，スコットランド，ウェールズ，北アイルランドに対する分権改革，選挙制度と政党システム，そして，外交，経済，福祉など各種政策を取り上げて検討します。グローバル化や欧州統合の動きを受けて変化しているイギリス政治の現状に対する理解を深めることが，この授業の目的です。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業をする予定です。									
1 現代イギリス政治の概観 2 議会と君主制 3 政府：首相と内閣を中心に 4 行政機構 5 分権：スコットランド，ウェールズ，北アイルランド 6 外交政策 7 経済政策 8 福祉政策 9 選挙制度 10 保守党 11 労働党 12 自由民主党									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末レポート評価（80％），平常点評価（20％） 平常点評価については，不定期（3～4回程度）に行う小テストにもとづいて行います。									
【教科書】									
梅川正美, 阪野智一, 力久昌幸（編）『現代イギリス政治』（成文堂）ISBN:9784792332129									
【参考書等】									
（参考書） 梅川正美 『イギリス政治の構造』（成文堂）ISBN:9784792331439 小堀眞裕 『サッチャリズムとブレア政治』（晃洋書房）ISBN:9784771016399 近藤康史 『左派の挑戦』（木鐸社）ISBN:9784833223147 その他，適宜授業中に紹介します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	立命館大学 文学部 教授 高橋 秀寿				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	映像と記憶 - - 戦争・暴力・表象								
【授業の概要・目的】									
20世紀の歴史は、ドキュメンタリーであれ、フィクションとしての映画であれ、映像を通して深く現代人の脳裏に刻まれ、歴史的現実を作り上げ続けている。この講義では、20世紀、特に第二次世界大戦後に戦争と暴力の歴史がどのように映像を通して表象され、国民国家と国民を形成してきたのかを明らかにしていく。その際に、授業担当者の専門分野であるドイツ現代史を中心に講義を進めていくが、日本やほかの国々の映像・映画も取り上げていく。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業をする予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション 2．史料としての映像・映画 3．映像・映画の歴史的機能と役割 4．第二次世界大戦前における映画と記憶 5．第二次世界大戦後における映画と記憶 - - 戦争の記憶 6．第二次世界大戦後における映画と記憶 - - ホロコーストの記憶 7．戦後の終わりとは映画と記憶 8．総括 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートの内容によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
基本的に最小限度の基礎知識があれば理解できるような授業内容にするが、レポートでは欧米だけではなく、日本に関する戦後史と記憶の関係の叙述を求めるので、講義の流れとともに日本戦後史の自主的な学習が要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	金沢大学 国際学類 教授 梶川 伸一				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	レーニン時代の民衆支配								
【授業の概要・目的】									
<p>いわゆる「ロシア革命」の時代から100年近くが過ぎようとしている。アーカイブが開放されて20年が経ち、様々な革命神話からの解放が求められている。この授業では「赤色テロル」をキーワードに、1917-22年に至るレーニン時代の民衆支配の現実を明らかにする。同時に、ネップ成立についての新しい解釈を提示し、ボリシェヴィキ権力の本質に触れようと思う。全体的構造の中から、どのように歴史を解釈するかという方法を学んでほしい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1週 包括的説明 2～4週 「十月革命」は存在したか 5～7週 穀物戦争 8～10週 戦時共産主義からネップへ 11～14週 レーニン支配の意味するもの 学生との対応の中で、このスケジュールは変更する可能性がある。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期筆記試験による									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
<p>(参考書) メリグーノフ 『ソヴェト=ロシアにおける赤色テロル』(社会評論社)(訳者による「解説」を参照してほしい。) 梶川伸一 『幻想の革命』(京都大学学術出版会) 梶川伸一 『ボリシェヴィキ権力とロシア農民』(ミネルヴァ書房)</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	佛教大学 歴史学部 教授 原田 敬一				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	日本近代都市史研究の再検討								
【授業の概要・目的】									
日本近代都市史研究は若い学問である。1980年代に始まり、ようやく30年の研究蓄積をもった。それらを振り返りながら、現代の研究課題に迫っていく。授業は資料プリントを多用して行うので、欠席者は自らプリント入手に努力してほしい。									
【授業計画と内容】									
1．日本近代都市史研究の現在 2．近世都市から近代都市へ、さらに現代都市へ 3．近代都市の政治史 4．近代都市社会について 5．近代都市の文化について 以上の各テーマにつき、5，6回程度の講義を行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポートによる。授業を踏まえた課題提出になる。その前提で自由に叙述したレポートを求める。									
【教科書】									
使用しない 近代都市史に関する研究書を読み、授業中に質問することを歓迎する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)	担当者氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	「人間とコンピュータとの共生」を考える								
【授業の概要・目的】									
この講義では、コンピューティング史において、システムと人間の関係がどのようにとらえられてきたのかについて考察する。歴史的には、人間はまず人間機械混成系（man-machine system）の一部の要素（human factor）とみなされ、やがて人間による処理への介入（human intervention）の研究を経て、「人間とコンピュータとの共生」概念が提示された後、現在のように、人間はシステムのユーザとみなされるようになっていった。そうした黎明期の概念の変遷を踏まえて、人間とコンピュータの関わりについて考える学問領域（Human Computer Interaction, HCI）の成立と発展の歴史について、当該分野における重要基本文献などを通じて検討する。									
【授業計画と内容】									
授業は基本的には歴史学的方法論で進めるが、必要に応じて、科学技術社会論の論点についても言及する。									
授業概要（各項目について1～3回程度の授業を行う）									
<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 人間機械混成系（man-machine system）からHuman Factor研究へ 入出力装置の開発とシステム概念の変化 サイバネティクスとHCI分野の関係 HCI基本文献の検討 HCI分野黎明期の社会的背景 まとめ 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主レポートによる（ただし、レポートの内容が不十分な場合には平常点評価（出席時の態度等）も加味する）。									
【教科書】									
適宜、授業内にプリント配布、およびウェブサイトに資料をアップロードなどする。									
【参考書等】									
（参考書） 喜多千草 『インターネットの思想史』（青土社）ISBN:4-7917-6021-2									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(特殊講義) Twentieth Century Studies (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 小関 隆				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	イギリス史における第一次大戦(その4) : 「未完の戦争」とアイルランド								
【授業の概要・目的】									
2008年度以来の継続となるが、今年度もイギリス史における第一次大戦について考える。第一次大戦は多くの意味で「未完の戦争」「うまく終わりそこなった戦争」であり、この戦争を理解するうえでは、戦間期や第二次大戦との連続性の視点がきわめて重要になる。大まかには、前期の授業で戦後の新しい国際秩序の構築過程を概説し、この概説を踏まえて、後期の授業で大戦中から1920年代にかけてのアイルランド問題の展開を検討する。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、各々1～4回程度の授業を行う予定である。									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「未完の戦争」としての大戦 2. パリ講和会議 3. ヴェルサイユ条約 4. 国際連盟 5. ロカルノ条約 6. イースター蜂起 7. アイリッシュ・コンヴェンション 8. 独立戦争 9. アイルランド自由国と内戦 10. その他 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
試験ないしレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
授業中に紹介する									
小関隆『徴兵制と良心的兵役拒否：イギリスの第一次世界大戦経験』（人文書院、2010年）をはじめ、人文書院刊のシリーズ「レクチャー：第一次世界大戦を考える」全6冊から、1冊でも2冊でも読むことが望ましい。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
予習よりも復習をお願いします。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習 I) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水4	授業形態	演習
題目	現代文化の諸問題 A								
【授業の概要・目的】									
各自が現代文化に関する研究文献（学術書ないし学術論文）を任意で選び、その内容を報告する。その後、全員によるディスカッションをおこなう。現代文化の諸問題を幅広く学ぶことが目的である。									
【授業計画と内容】									
1 回目：テーマの選び方、および、文献調査方法について講述する 2 回目以降：各回とも、1 名ないし 2 名の受講生が、任意で選んだ文献について、著者の経歴、内容、評価、当該テーマの関連文献、について紹介する。そのうえで、全員によるディスカッションをおこなう。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） なし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは火曜 14 時～ 16 時 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習 I) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水4	授業形態	演習
題目	現代文化の諸問題 B								
【授業の概要・目的】									
各自が現代文化に関するテーマを任意で選び、それについてのリサーチ結果を報告する。その後、全員によるディスカッションをおこなう。現代文化に関する研究テーマの幅広い学習と、研究論文執筆につながりうるテーマの選択眼涵養を目的とする。									
【授業計画と内容】									
1 回目：テーマの選び方について講述する 2 回目以降：各回とも、1 名ないし 2 名の受講生が、任意で選んだテーマについて、研究意義、研究史の整理、論旨、関連文献を報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、報告の問題点を洗い出し、研究論文執筆のうえで今後取り組むべき課題を考える。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点による									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは火曜 14 時 ~ 16 時 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 水野 直樹				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	演習
題目	朝鮮近現代史関係資料の講読								
【授業の概要・目的】									
朝鮮近現代史を学ぶために必要な文献解読の方法を身につけるとともに、資料の探索・調査・収集のための情報・ツールなど（目録類、インターネットリソース）を解説する。									
【授業計画と内容】									
朝鮮近現代史に関わる朝鮮語資料を選んで解読する。後期には、受講者の関心に応じて新聞記事（植民地期から現代まで）を選び、それぞれが解読・解説する形式で進める。									
【履修要件】									
初級程度の朝鮮語を習得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
プリントなどを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://wwwsoc.nii.ac.jp/chosenshi/link/ (朝鮮史研究のためのインターネット利用手引き（朝鮮史研究会）)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 客員准教授 福間 良明				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	後期	曜時限	水4,5	授業形態	演習
題目	「戦争の記憶」のメディア史								
【授業の概要・目的】									
戦後日本のメディアにおける「戦争の語り」を検証しながら、戦後の戦争観の変容プロセスやその社会背景について考察する。授業では、研究紹介や戦後思想を適宜扱うほか、メディア（映画・ドラマ・ドキュメンタリー・新聞・戦記・マンガ・観光・博覧会・博物館等）の分析・批評に重点を置く。									
【授業計画と内容】									
<p>授業の形式は、受講者による発表とディスカッションを主とする予定である。</p> <p>授業計画は以下の通り（ただし、履修者の数や要望も踏まえながら、一部変更の可能性もある）。</p> <p>第1回：ガイダンス，文献・映像資料の紹介</p> <p>第2回：事例紹介と分析視角の紹介（映像資料等を用いながら）</p> <p>第3～5回：「記憶のメディア学」に関連する文献紹介の批評（輪読）</p> <p>第6～14回：メディア資料（映画・新聞・雑誌等々）の分析・批評</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表と期末レポートで評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
<p>（参考書）</p> <p>野上元・福間良明編 『戦争社会学ブックガイド』（創元社）（2012年3月刊行予定）</p> <p>福間良明 『焦土の記憶：沖縄・広島・長崎に映る戦後』（新曜社）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<ul style="list-style-type: none"> ・関連する文献や映画等については、初回授業時に紹介するので、自学自習に努めること。 ・特定の時間帯にオフィスアワーを設けることはしませんが、申し出があれば、授業後の時間に質問・相談等々に対応します。 <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	NHKエンタープライズ エグゼクティブプロデューサー 山登 義明				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3,4,金3,4 月末週	授業形態	演習
題目	映像メディア論 A								
【授業の概要・目的】									
映像メディアの手法というものをドキュメンタリー番組制作の視点から捉える。本演習では、企画、取材、編集、発表を実際に体験しながら番組を一本作り上げ、それを通して映像の構造や意味を考察する。									
【授業計画と内容】									
<ol style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーション：多メディア時代における映像メディア 2、企画研究：主題論、時代をどう読むか 3、企画の立て方：ヒト・ウゴキ・ジダイというテレビ的発想法 4、取材の技法：取材者の姿を消す（透明人間化）、シネマヴェリテ 5、リサーチと取材：本番前に十全な調査。主人公のキャラクターなど 6、映像編集の技法：モンタージュ、ナラティブ（語り口） 7、映像編集：いくつもバージョンを作り変え、他者に見せる 8、ポスト＝プロダクション：ナレーション、音響効果、テロップなど 9、作品発表と評価：他者は作品（テキスト）をどう見るか 									
【履修要件】									
テレビドキュメンタリー、特にNHKスペシャルの視聴。									
【成績評価の方法・基準】									
ドキュメンタリー制作は一見遊びに似ている。授業に出席しようとしまいと作品が出来ればいい。だが、授業で毎回教示するのはテレビの現場の智恵であり最新の技法だ。									
【教科書】									
山登義明 『ドキュメンタリーを作る』（京大学術出版会）									
【参考書等】									
（参考書） エリック・バーナウ 『世界ドキュメンタリー史』（日本映像記録センター）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
さまざまなメディアが跋扈するなか、映像メディアの基本は同床。ここでの手法は応用展開が可。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	NHKエンタープライズ エグゼクティブプロデューサー 山登 義明				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
題目	映像メディア論 B								
【授業の概要・目的】									
映像は現代の暮らしに大きな影響を与えている。作為であれ不作為であれ映像は操作されて視聴者に届けられる。ドキュメンタリーの過去の作品10本余を取り上げて、作り手の意図、視点を読み解いていく。									
【授業計画と内容】									
1、オリエンテーション：テレビという文化の歴史 2、ドキュメンタリーとは何か：虚構と事実の関係 3、番組のジャンル：フィクション、エンターテインメントと並存する事実番組 4、ヒューマンドキュメンタリー：ヒトを描く、ウゴキ、時代を掴む 5、主題としての戦争：亀井文夫の映画と比べながら 6、戦争の記憶：8・15をめぐって編成された作品群 7、ドキュメンタリーの演出とは何か：ヤラセの構造と風土 8、他のメディアと融合する：マンガ、アニメ、CG、ネットを活用する									
【履修要件】									
藤子不二雄Aの『まんが道』か『愛 しりぞめし頃』を読むこと									
【成績評価の方法・基準】									
受講後のレポート									
【教科書】									
山登義明 『テレビ制作入門』（平凡社） 河島伸子 『コンテンツ産業論』（ミネルヴァ書房）ISBN:4623055620									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
なるべく、同一教員の「映像メディア論A」を受講しておくこと。 集中講義なので「オフィスアワー」はとくに設けません。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 村上 衛				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	演習
題目	在中国イギリス領事報告を読む								
【授業の概要・目的】									
中国近代の社会・経済に関する英文史料を精読する。英文史料を読むことによって外からの目を利用しつつ、中国近代社会経済史に対する理解を深める。さらに、英文史料の扱い方、長所・短所などを理解し、中国近代史を研究するにあたって利用する史料の可能性を広げ、また史料操作能力の向上を図る。									
【授業計画と内容】									
イギリス外交文書のうち、在中国イギリス領事の報告（FO228）を精読する。具体的には、商業紛争、海事関係・華人関係の紛争など、社会・経済に関わる紛争を取り上げる。必要に応じてFO228に含まれている英文史料に対応する漢文史料も読む。なお、史料の内容は非常に細かいものが多いため、講義形式の解説を加え、史料を中国近代史の中に位置づけていく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
テキストはコピーして授業の際に配布									
【参考書等】									
（参考書） 坂野正高・田中正俊・衛藤藩吉編 『近代中国研究入門』（東京大学出版会） 岡本隆司 『近代中国と海関』（名古屋大学出版会） 本野英一 『伝統中国商業秩序の崩壊 不平等条約体制と「英語を話す中国人」』（名古屋大学出版会）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、手書き文書に慣れるまでは予習に時間を要することになるだろう。ただし、扱う英文は主に部下（領事）から上司（公使）への報告であり、特に難解なものではないから、積極的な参加を期待したい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 坂本 尚志				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	二十世紀思想史の諸相								
【授業の概要・目的】									
二十世紀の思想史において重要なテキストの読解を通じて、思想史的方法の基礎を学ぶ。対象は広義の思想であり、哲学、文学、歴史学などの諸分野を、思想史のアプローチから分析することを目的とする。受講生は講師の提案する文献リスト、あるいは各自が興味を持つ分野からテキストを選択し、それについてまとめ、報告する。読解の作業と討論を通じて思想史に固有の視座についての理解を深め、分析の基礎を修得することを目指す。									
【授業計画と内容】									
1回目：オリエンテーション 2回目：思想史の方法（二十世紀フランス思想を例に） 3回目以降：文献報告（各回1～2人の報告を予定）									
【履修要件】									
本演習は各自の積極的な参加、発言によって授業を進めていくこととしたい。受講希望者多数の場合は、二十世紀学、現代史学両専修所属の学生を優先し、発表担当を決定する。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（50点）とレポート（50点）									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)	担当者氏名	京都精華大学 マンガ学部 准教授	吉村 和真					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	現代日本のマンガ環境について考える マンガ雑誌を手がかりに								
【授業の概要・目的】									
<p>現代日本に居住する私たちの身の回りには、ひとりでは到底網羅できないほど、多種多様なマンガの雑誌・単行本があふれている。二十世紀、とりわけ戦後の日本社会を考察するうえで、マンガは避けて通れない視覚表現・メディアであると言える。</p> <p>本講義では、そうしたマンガ環境の一側面を具体的に考察するために、マンガ雑誌を資料とした演習を行う。掲載された作品・作家論はもとより、そのメディア的特徴、各誌の出版戦略、マンガ誌の文化的意義、「マンガ読者」という共同体の有様など、複眼的な考察を行い、「マンガの現在」を体系的に把握することをねらいとする。</p> <p>形式は、受講者による発表が基本。これに受講者全体でのディスカッション、担当者のコメントを加える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回：ガイダンス、発表順・日程の調整</p> <p>第2回：担当者による講義 現在のマンガ雑誌に関する情報と視点の提供</p> <p>第3回～最終回：受講者による発表。1回につき2人の発表予定。 最低2冊のマンガ雑誌を取り上げ、それを比較検討する。 雑誌候補は基本的に自由。例えば、以下のようなマンガ誌など。</p> <p>『週刊少年ジャンプ』、『週刊少年マガジン』、『週刊少年サンデー』、『週刊少年チャンピオン』、『ちゃお』、『なかよし』、『りぼん』、『コロコロコミック』、『モーニング』、『イブニング』、『マーガレット』、『別冊マーガレット』、『KISS』、『ビッグコミック』、『月刊マガジン』、『アフタヌーン』、『IKKI』、『ヤングアニマル』、『ヤングキング』、『チャンピオンRED』、『ガンダムA』、『漫画サンデー』、『漫画ゴラク』、『週刊漫画TIMES』、『FEEL』、『Cookie』、『デザート』、『SiLKY』、『アックス』、『コミック乱』、『ウルトラジャンプ』、『漫画アクション』…。</p>									
【履修要件】									
「なぜ大学でわざわざマンガを扱うのか」と思う人も歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
出席点30点、発表内容・ディスカッションへの貢献度：40点、レポート30点									
【教科書】									
夏目房之介・竹内オサム編著 『マンガ学入門』（ミネルヴァ書房、2009）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	関西大学 社会学部 准教授 山口 誠				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	演習
題目	観光社会学 ～観光の社会的意味を通時分析する～								
【授業の概要・目的】									
<p>近代社会における観光は、労働と対置される余暇のジャンルに留まらず、さまざまな社会的過程が交錯する場（アリーナ）として捉えることができる。観光によって地理や他者のイメージが構築され、観光者のアイデンティティが再編され、そして受け入れ側の「文化」や「伝統」が「発見」されるなど、観光をめぐるテーマは枚挙にいとまがない。</p> <p>これまで日本における観光研究では、関連産業の振興を図る経済学的アプローチと、観光者の動機をめぐる社会心理学的アプローチが主流であった。これらの成果を視野に入れつつ、この演習では「観光の社会的意味」に着目し、社会学のアプローチから近代日本社会における観光を考えてみたい。</p> <p>この演習の担当者は、20世紀の日本人の海外旅行を、主に観光ガイドブックや紀行書籍の変遷から通時分析するメディア研究を専門としているが、日本人の国内観光や諸外国の観光の歴史など、さまざまな興味関心を持つ受講生の参加を期待する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>まず「観光社会学の現在」と「日本型マス・ツーリズムの現在形」について担当者が講義形式で解説し、この演習の基本的なキーワードとアプローチを整理し共有した後、受講生による自由テーマ発表と討論を行いたい。</p> <p>いわゆる狭義の「観光」に限らず、たとえばアニメやマンガにおける「聖地巡礼」や、文学作品や映画作品に描かれた旅のかたち、「戦国武将ブーム」や「パワースポットブーム」などに見られる歴史／記憶の消費、海外の観光ガイドブックに描かれた「京都」比較など、様々な興味と関心を持つ受講生の積極的な参加を期待する。</p> <p>第1回：観光社会学の事例：『グアムと日本人』（2007年）を中心に 第2回：観光社会学の視座：『ニッポンの海外旅行』（2010年）から 第3回：日本型マス・ツーリズムの現在形：スケルトン・ツアーを事例に 第4回：テーマパーク化する社会：テーマ型観光の特性 第5回～最終回：受講生による自由テーマ発表と文献輪読を組み合わせ、議論を行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
自由テーマ発表を主とする平常点で評価する。									
----- 二十世紀学(演習II)(2)へ続く -----									

二十世紀学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

山口誠 『グアムと日本人』 (岩波新書)

山口誠 『ニッポンの海外旅行』 (ちくま新書)

山口さやか・山口誠 『「地球の歩き方」の歩き方』 (新潮社)

安村克己ほか 『よくわかる観光社会学』 (ミネルヴァ書房)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習II) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	国立オーストラリア大学 文学部 准教授 STEGEWERNS, Dick				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
題目	戦争映画の系譜								
【授業の概要・目的】									
<p>戦争映画というジャンルを分析する。特に戦後から現在にいたる日本の戦争映画に集中する。アメリカ・ヨーロッパ・アジアの戦争映画および戦時中日本が制作したプロパガンダ映画に比較しながら、戦後から現在に至る日本の戦争映画の系譜と特徴を探っていく。できれば、戦争文学・漫画・アニメとの比較も行う。</p> <p>英語も交えた講義、輪読、発表、議論、とレポートによって総合的英語力を向上させる。</p>									
【授業計画と内容】									
<ul style="list-style-type: none"> － ガイダンス － 戦争映画に関する先行研究を分析 － ハリウッドによる戦争映画の代表作を鑑賞・分析 － 戦争映画の系譜・分類をおこなう － 戦時中の日本国策映画・プロパガンダ映画に関する先行研究を分析 － ハリウッドによる戦争映画の代表作を鑑賞・分析 － 戦後から現在に至る日本の戦争映画を年代別に分析 － 最近のアメリカ・アジア・ヨーロッパの戦争映画と比較 － 日本の戦争文学・漫画・アニメと比較 － 学生による発表 － 日本の戦争映画の系譜・分類・時期区分を行なってみる 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、発表、論文と授業参加の総合評価。									
【教科書】									
適宜に配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
とくになし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木3 隔週	授業形態	演習
題目	修士論文作成演習								
【授業の概要・目的】									
修士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに対する学知を深める。									
【授業計画と内容】									
1 回目：修論予定テーマについて、受講生全員が、その要略を説明する。 2 回目以降：各回とも、1名の受講生が、修論予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは火曜14時～16時 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	二十世紀学(演習) Twentieth Century Studies (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 杉本 淑彦 文学研究科 教授 永井 和 文学研究科 准教授 小野澤 透				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	大学院演習 A								
【授業の概要・目的】									
修士論文および博士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに関する学知を深める。									
【授業計画と内容】									
1 回目: 修士論文・博士論文の予定テーマについて、各受講生がその要略を説明する。 2 回目以降: 各回とも、1名の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、研究をさらに進める場合の課題を考える。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(60点)とレポート(40点)									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) なし									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワーは火曜14時~16時									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

現代史学専修

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	文学研究科 准教授 小野澤 透				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3	授業形態	特殊講義
題目	冷戦とアメリカ外交								
【授業の概要・目的】									
アメリカ外交文書の具体的な分析に即して、冷戦史の諸問題を考察することにより、アメリカ外交史研究の学説史や方法論を修得する。									
【授業計画と内容】									
冷戦を歴史的に理解しようとするとき、それを米ソ対立を基調とする国際政治の枠組みと捉えるだけでは不十分である。冷戦とは、米ソ間の対立・競争の契機と、東西それぞれの陣営内における超大国を頂点とする政治的・経済的・軍事的統合およびシステムを創造・維持・改変しようとする契機が、国際政治のみならず、多くの国々の政治・経済・社会のあり方をも大きく規定する世界秩序の枠組みであった。 以上のような問題意識に立ち、本年度は、昨年度に引き続き、1950年代における、米・中東関係にかかわる諸問題を検討する。おおまかな内容は以下のとおり。									
<ol style="list-style-type: none"> 1．アメリカと中東（概観） 2．英国の帝國的秩序とアメリカ 3．地域的秩序構想の形成（1950-52） 4．地域的秩序の追求（1953-1957） 5．西側陣営統合政策の挫折（1957-1958） 6．新たな地域的政策の枠組み（1958-1963） 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学年末のレポート									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 五十嵐武士編 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）ISBN:4-8122-0623-5									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 HAYASHI,Brian				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	近代アメリカ史								
[授業の概要・目的]									
This course will cover the political, diplomatic, social, and cultural history of the United States, from the Civil War to the present. It is designed to provide you with a working knowledge of American history.									
[授業計画と内容]									
The course covers a broad range of topics, but in general we will cover the political and diplomatic in one class and alternate with the social and cultural history of the United States in the following class. The lectures are in English but the class discussions, for which I expect all students to participate in, can be done in Japanese or English, depending on the individual student's preference. Assigned readings are to be done before class and some videos/DVDs related to a particular week's lecture topic will be assigned for viewing prior to class. The first half of the course will cover up to the 1930s and the second half will reach the present day.									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
Your grade is based on three things--a written report (English or Japanese), an oral report (English or Japanese), and in-class discussions.									
[教科書]									
紀平英作 『アメリカ史』 (山川出版社) (printed handouts, and some video/DVDs to watch.)									
[参考書等]									
(参考書) Mary Beth Norton 『A People and a Nation』									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
Office hours: Fridays, 15:00-16:30 and immediately after class Location: F407 (Yoshida Minami Dai 3) オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 准教授 石川 禎浩						
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月2	授業形態	特殊講義
題目	中国革命史・中国共産党史の諸問題								
【授業の概要・目的】									
<p>中国革命史をもって中国近現代史に代えるような歴史観は、すでにそれ自体が過去の遺物になっている。しかし、だからといって、中国革命や中国共産党の歩みが歴史的分析の対象から除かれるということはありません。本授業においては、なお未解明の史実の多い中国革命史や中国共産党史の重要問題を、歴史学的手法により再検討する。そのさい、第一次資料を重視し、歴史の現場に立ち返ることを重視するのにもさることながら、革命叙述や歴史の通説が如何にして形成されてきたのか、という点にも十分な検討を加える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のような課題について、1課題あたり3-4週の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マルクス主義の伝播と中国共産党の結成 2. 国共合作と中国国民革命の展開（ソ連・コミンテルンの動向） 3. 孫文の死去とその遺書をめぐる確執 4. 中国共産党の農村根拠地における活動 5. 延安整風運動と毛沢東の権力掌握、そして歴史叙述の書き換え 6. 中国共産党における歴史文献・政治文献の編纂 7. 政治と文学のせめぎ合い（小説『劉志丹』事件を例に） 8. 「建国以来の党の若干の歴史問題についての決議」の問題点 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末のレポート									
【教科書】									
関連資料・プリントを授業にあわせて適宜配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	特殊講義
題目	近代古都論								
【授業の概要・目的】									
帝都東京に対して、古都として「歴史」「伝統」を体現する奈良・京都の歩みを、近代天皇制との関わりにおいて考察する。明治維新时期から1945年の敗戦までを見通したい。									
【授業計画と内容】									
奈良・京都といった古都の近代を中心としながら、東京遷都後の皇室の宗教や文化における近世との連続や断絶、天皇と「文明開化」をめぐるあらわれ方、博物館や文化財が持つ政治性、陵墓や正倉院御物のもつ天皇家の「財」としての役割、修学旅行や観光における歴史都市がはたす役割、皇室と古都の祭礼や年中行事との関係の変容、といった問題群を考察したい。近代天皇制をたんなる政治過程ではなく文化や社会から考察し、日本近代の普遍性や固有性を考えたい。前期と後期に、公家社会の痕跡を見る京都御苑、京都の周縁（六波羅・豊臣史跡・花街など）としての東山、古典文学と史跡復興の場としての嵯峨野、黒谷掃苔などの巡見も行いたい。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。									
【教科書】									
使用しない プリント等を配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年） 高木博志 『陵墓と文化財の近代』（山川出版社、2010年）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
レポートの内容について個別相談に応じる。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 法学部 教授 力久 昌幸				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	現代イギリス政治：歴代政権のリーダーシップに注目して								
【授業の概要・目的】									
<p>この講義では、第二次世界大戦後から今日に至るまでのイギリスの歴代政権について、ヨーロッパ諸国との関係やEUに見られるような欧州統合への対応などに注目しながら、内政・外交のさまざまな側面から検討します。特に、戦後の衰退に歯止めをかけ、再び活力を取り戻すためにイギリスの歴代政権が実施したさまざまな改革について、首相の政治的リーダーシップのあり方に焦点をあてて検討します。戦後のイギリスが直面した内外の課題、および、それに対処するための首相のリーダーシップについて理解を深めてもらうことがこの授業の目的です。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下のようなテーマに関して、1テーマあたり1～2週の授業をする予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション：イギリス現代政治の基本枠組 2 戦後政治の開幕：アトリー労働党政権 3 帝国後のイギリス：チャーチル保守党政権 4 スエズ危機：イーデン保守党政権 5 豊かな社会：マクミラン/ダグラス＝ヒューム保守党政権 6 現代化をめざして：ウィルソン労働党政権 7 Uターン：ヒース保守党政権 8 労働組合の時代：ウィルソン/キャラハン労働党政権 9 戦後コンセンサスの破壊：サッチャー保守党政権 10 新自由主義的改革の継続：メージャー保守党政権 11 「大統領型首相」とニュー・レイバー：ブレア/ブラウン労働党政権 12 連立の時代：キャメロン保守自民連立政権 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>学期末レポート評価（80％）、平常点評価（20％） 平常点評価については、不定期（3～4回程度）に行う小テストにもとづいて行います。</p>									
【教科書】									
梅川正美・阪野智一・力久昌幸（編）『イギリス現代政治史』（ミネルヴァ書房）ISBN: 9784623056477									
【参考書等】									
<p>（参考書） 細谷雄一（編）『イギリスとヨーロッパ：孤立と統合の二百年』（勁草書房）ISBN: 9784326351442</p>									
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----									

現代史学(特殊講義)(2)

力久昌幸 『イギリスの選択』（木鐸社）ISBN:9784833222334

高安健将 『首相の権力』（創文社）ISBN:9784423710708

その他，適宜授業中に紹介します。

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	同志社大学 法学部 教授 力久 昌幸				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義
題目	現代イギリス政治：統治機構，政党，政策を中心に								
【授業の概要・目的】									
この授業では，1990年代以降，急速に変化しつつあるイギリス政治の現状について，議会や政府などの統治機構，スコットランド，ウェールズ，北アイルランドに対する分権改革，選挙制度と政党システム，そして，外交，経済，福祉など各種政策を取り上げて検討します。グローバル化や欧州統合の動きを受けて変化しているイギリス政治の現状に対する理解を深めることが，この授業の目的です。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業をする予定です。									
1 現代イギリス政治の概観 2 議会と君主制 3 政府：首相と内閣を中心に 4 行政機構 5 分権：スコットランド，ウェールズ，北アイルランド 6 外交政策 7 経済政策 8 福祉政策 9 選挙制度 10 保守党 11 労働党 12 自由民主党									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
学期末レポート評価（80％），平常点評価（20％） 平常点評価については，不定期（3～4回程度）に行う小テストにもとづいて行います。									
【教科書】									
梅川正美, 阪野智一, 力久昌幸（編）『現代イギリス政治』（成文堂）ISBN:9784792332129									
【参考書等】									
（参考書）									
梅川正美 『イギリス政治の構造』（成文堂）ISBN:9784792331439									
小堀眞裕 『サッチャリズムとブレア政治』（晃洋書房）ISBN:9784771016399									
近藤康史 『左派の挑戦』（木鐸社）ISBN:9784833223147									
その他，適宜授業中に紹介します。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)		担当者氏名	立命館大学 文学部 教授 高橋 秀寿					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	映像と記憶 - - 戦争・暴力・表象								
【授業の概要・目的】									
20世紀の歴史は、ドキュメンタリーであれ、フィクションとしての映画であれ、映像を通して深く現代人の脳裏に刻まれ、歴史的現実を作り上げ続けている。この講義では、20世紀、特に第二次世界大戦後に戦争と暴力の歴史がどのように映像を通して表象され、国民国家と国民を形成してきたのかを明らかにしていく。その際に、授業担当者の専門分野であるドイツ現代史を中心に講義を進めていくが、日本やほかの国々の映像・映画も取り上げていく。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～3週の授業をする予定である。									
1．イントロダクション									
2．史料としての映像・映画									
3．映像・映画の歴史的機能と役割									
4．第二次世界大戦前における映画と記憶									
5．第二次世界大戦後における映画と記憶 - - 戦争の記憶									
6．第二次世界大戦後における映画と記憶 - - ホロコーストの記憶									
7．戦後の終わりとは映画と記憶									
8．総括									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートの内容によって評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
基本的に最小限度の基礎知識があれば理解できるような授業内容にするが、レポートでは欧米だけではなく、日本に関する戦後史と記憶の関係の叙述を求めるので、講義の流れとともに日本戦後史の自主的な学習が要求される。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)		担当者氏名	金沢大学 国際学類 教授 梶川 伸一					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	レーニン時代の民衆支配								
【授業の概要・目的】									
<p>いわゆる「ロシア革命」の時代から100年近くが過ぎようとしている。アーカイブが開放されて20年が経ち、様々な革命神話からの解放が求められている。この授業では「赤色テロル」をキーワードに、1917-22年に至るレーニン時代の民衆支配の現実を明らかにする。同時に、ネップ成立についての新しい解釈を提示し、ボリシェヴィキ権力の本質に触れようと思う。全体的構造の中から、どのように歴史を解釈するかという方法を学んでほしい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1週 包括的説明 2～4週 「十月革命」は存在したか 5～7週 穀物戦争 8～10週 戦時共産主義からネップへ 11～14週 レーニン支配の意味するもの 学生との対応の中で、このスケジュールは変更する可能性がある。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期筆記試験による									
【教科書】									
未定									
【参考書等】									
<p>(参考書) メリグーノフ 『ソヴェト=ロシアにおける赤色テロル』(社会評論社)(訳者による「解説」を参照してほしい。) 梶川伸一 『幻想の革命』(京都大学学術出版会) 梶川伸一 『ボリシェヴィキ権力とロシア農民』(ミネルヴァ書房)</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	グルジア人と戦争								
【授業の概要・目的】									
<p>19世紀後半から第一次世界大戦までの帝政ロシア支配下のザカフカス（トランスコーカサス）史を、グルジア中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やグルジア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。ザカフカスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出し、それはグルジア人などの現地住民にもフィードバックされた。治安の悪さで悪名高いザカフカスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では戦争・反乱とグルジア人の関わりを主軸に、帝国統治と暴力について考えたい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>以下の内容について、各2-3回の講義を行う予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション：日露戦争と匪賊 ・クリミア戦争 ・ヴォロンツォフ改革 ・チェチェン反乱 ・住民移動 ・グルジア文学の興隆 ・露土戦争 ・社会主義運動の浸透 ・「ムスリム・グルジア人」 ・義賊から革命家へ ・1905年革命と民族衝突 ・イラン立憲革命と義勇軍 ・バルカン戦争の余波 ・第一次世界大戦 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
期末レポートおよび中間レポートによる。									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワーは、金曜4限とする。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者氏名	教育学研究科 准教授 佐藤 卓己						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木1	授業形態	特殊講義
題目	メディア文化論								
【授業の概要・目的】									
<p>メディア論を中心に、現代社会のなりたちを世界システムとの関連で考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 都市基盤の上に成立した大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
第1-3回 メディア社会とは何か 第4回 メディア史としてのコミュニケーション研究 第5回 メディア都市の成立 第6章 出版資本主義と近代精神 第7回 大衆新聞の成立 第8回 視覚人間の国民化 第9回 宣伝のシステム化と動員のメディア 第10回 ラジオとファシスト的公共性 第11回 トーキー映画と総力戦体制 第12回 テレビによるシステム統合 第13回 情報化の未来史 第14回 脱・情報化社会へ 第15回 試験									
【履修要件】									
メディアに関心あり、情報への感度が高いこと。									
【成績評価の方法・基準】									
試験を行う。評価基準については、講義中に説明する。									
【教科書】									
佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス・1998）									
【参考書等】									
（参考書）									
佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店・2009年）（メディア史＝メディア論の発想									
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----									

現代史学(特殊講義)(2)

法について、参照のこと。)

佐藤卓己『輿論と世論 日本的民意の系譜学』(新潮選書・2008年)(「ヨロン」と「セロン」の区別について、参照のこと。)

佐藤卓己『現代史のリテラシー 書物の宇宙』(岩波書店・2012)

(関連URL)

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

メディア論の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』(岩波新書・2006年)を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』(岩波新書・2009年)を、事前に読んでおくことが望ましい。

なお、テキストの中国語訳に佐藤卓己『現代伝媒史』(北京大学世界伝播学經典教材中文版)北京大学出版社2004年がある。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	大阪大学 大学院文学研究科 教授 飯塚 一幸				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義
題目	自由民権運動の再検討								
【授業の概要・目的】									
自由民権運動は戦後日本近代史研究の中心的テーマの一つであった。その研究方法は、発展図式論から諸潮流の相互関係論へ、さらには政治文化の変容論へと変化してきたが、その過程で政治史からの自由民権運動研究は沈滞状況に陥って久しい。本講義では、自由民権運動史の原点である『自由党史』の文献批判を交えながら、主に政治史の視点から自由民権運動の再検討を行い、近代日本の政治史・社会史に関する基礎的知識を養うと同時に、研究史への批判的態度を身につけることをめざす。									
【授業計画と内容】									
1. 愛国公党と民撰議院設立建白書 2. 愛国社の創立と大阪会議 3. 地方官会議と地方民会 4. 都市民権派の成立と展開 5. 西南戦争と自由民権運動 6. 政府内の憲法構想 7. 国会期成同盟と私立国会論 8. 私擬憲法の諸相 9. 明治十四年の政変と自由党の成立 10. 自由党広域蜂起派と激化事件 11. 激化事件とモラル・エコノミー論 12. 大阪事件 以上のテーマについて講義を行う予定である。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。具体的には授業で指示する。									
【教科書】									
教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
板垣退助監修 『『自由党史・中』』 (岩波書店) ISBN:ISBN:4-00-331052-7									
板垣退助監修 『『自由党史・中』』 (岩波書店) ISBN:ISBN:4-00-331051-9									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 小関 隆				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	特殊講義
題目	イギリス史における第一次大戦(その4) : 「未完の戦争」とアイルランド								
【授業の概要・目的】									
2008年度以来の継続となるが、今年度もイギリス史における第一次大戦について考える。第一次大戦は多くの意味で「未完の戦争」「うまく終わりそこなった戦争」であり、この戦争を理解するうえでは、戦間期や第二次大戦との連続性の視点がきわめて重要になる。大まかには、前期の授業で戦後の新しい国際秩序の構築過程を概説し、この概説を踏まえて、後期の授業で大戦中から1920年代にかけてのアイルランド問題の展開を検討する。									
【授業計画と内容】									
以下のようなテーマについて、各々1～4回程度の授業を行う予定である。									
1. 「未完の戦争」としての大戦									
2. パリ講和会議									
3. ヴェルサイユ条約									
4. 国際連盟									
5. ロカルノ条約									
6. イースター蜂起									
7. アイリッシュ・コンヴェンション									
8. 独立戦争									
9. アイルランド自由国と内戦									
10. その他									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
試験ないしレポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書)									
授業中に紹介する									
小関隆『徴兵制と良心的兵役拒否：イギリスの第一次世界大戦経験』（人文書院、2010年）をはじめ、人文書院刊のシリーズ「レクチャー：第一次世界大戦を考える」全6冊から、1冊でも2冊でも読むことが望ましい。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
予習よりも復習をお願いします。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	佛教大学 歴史学部 教授 原田 敬一				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	日本近代都市史研究の再検討								
【授業の概要・目的】									
日本近代都市史研究は若い学問である。1980年代に始まり、ようやく30年の研究蓄積をもった。それらを振り返りながら、現代の研究課題に迫っていく。授業は資料プリントを多用して行うので、欠席者は自らプリント入手に努力してほしい。									
【授業計画と内容】									
<ol style="list-style-type: none"> 1．日本近代都市史研究の現在 2．近世都市から近代都市へ、さらに現代都市へ 3．近代都市の政治史 4．近代都市社会について 5．近代都市の文化について <p>以上の各テーマにつき、5，6回程度の講義を行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末レポートによる。授業を踏まえた課題提出になる。その前提で自由に叙述したレポートを求める。									
【教科書】									
使用しない 近代都市史に関する研究書を読み、授業中に質問することを歓迎する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)		担当者氏名	東京大学 大学院人文社会系研究科 准教授 吉澤 誠一郎					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	中国ナショナリズムの史的考察								
【授業の概要・目的】									
<p>中国のナショナリズムについて、歴史的に考察する視角を養うことをめざす。 主に清代・民国時代について議論する。それを通じて、中国の特殊な文化的背景によってナショナリズムを説明する論法や安易に何かの理論を適用してわかったつもりになる論法を両方とも批判していくことを意図している。 主に教員による講義の形式で進行させる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>主に次のような話題を扱う予定である。 (一課題あたり半日ほどをあてる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナショナリズムを論じる視角 ・清代の華夷観念はナショナリズムか ・清末における民族と国家をめぐる言説 ・対外ボイコット運動の展開 ・商品宣伝とナショナリズム ・近代中国におけるナショナリズムへの懐疑 ・歴史叙述とナショナリズム 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>授業の最後の部分で時間をとって試験を実施する。 講義の基本的な内容が把握できていることを単位認定の基本とし、加えて自分なりの観点がもてていけば良い評点となるように、設問を工夫するつもりである。</p>									
【教科書】									
<p>使用しない 授業中にプリントを配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書) 吉澤誠一郎 『愛国主義の創成 ナショナリズムから近代中国をみる』(岩波書店) ISBN: 4000268430</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)	担当者氏名	関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義
題目	「人間とコンピュータとの共生」を考える								
【授業の概要・目的】									
この講義では、コンピューティング史において、システムと人間の関係がどのようにとらえられてきたのかについて考察する。歴史的には、人間はまず人間機械混成系（man-machine system）の一部の要素（human factor）とみなされ、やがて人間による処理への介入（human intervention）の研究を経て、「人間とコンピュータとの共生」概念が提示された後、現在のように、人間はシステムのユーザとみなされるようになっていった。そうした黎明期の概念の変遷を踏まえて、人間とコンピュータの関わりについて考える学問領域（Human Computer Interaction, HCI）の成立と発展の歴史について、当該分野における重要基本文献などを通じて検討する。									
【授業計画と内容】									
授業は基本的には歴史学的方法論で進めるが、必要に応じて、科学技術社会論の論点についても言及する。									
授業概要（各項目について1～3回程度の授業を行う）									
<p>オリエンテーション</p> <p>人間機械混成系（man-machine system）からHuman Factor研究へ</p> <p>入出力装置の開発とシステム概念の変化</p> <p>サイバネティクスとHCI分野の関係</p> <p>HCI基本文献の検討</p> <p>HCI分野黎明期の社会的背景</p> <p>まとめ</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
主レポートによる（ただし、レポートの内容が不十分な場合には平常点評価（出席時の態度等）も加味する）。									
【教科書】									
適宜、授業内にプリント配布、およびウェブサイトに資料をアップロードなどする。									
【参考書等】									
（参考書） 喜多千草 『インターネットの思想史』（青土社）ISBN:4-7917-6021-2									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)			担当者氏名	高等教育研究開発推進センター 坂本 尚志				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義
題目	二十世紀思想史の諸相								
【授業の概要・目的】									
<p>二十世紀の思想史において重要なテキストの読解を通じて、思想史的方法の基礎を学ぶ。対象は広義の思想であり、哲学、文学、歴史学などの諸分野を、思想史のアプローチから分析することを目的とする。受講生は講師の提案する文献リスト、あるいは各自が興味を持つ分野からテキストを選択し、それについてまとめ、報告する。読解の作業と討論を通じて思想史に固有の視座についての理解を深め、分析の基礎を修得することを目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1回目：オリエンテーション 2回目：思想史の方法（二十世紀フランス思想を例に） 3回目以降：文献報告（各回1～2人の報告を予定）</p>									
【履修要件】									
<p>本演習は各自の積極的な参加、発言によって授業を進めていくこととしたい。受講希望者多数の場合は、二十世紀学、現代史学両専修所属の学生を優先し、発表担当を決定する。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点（50点）とレポート（50点）</p>									
【教科書】									
<p>授業中に指示する</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 村上 衛				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	演習
題目	在中国イギリス領事報告を読む								
【授業の概要・目的】									
中国近代の社会・経済に関する英文史料を精読する。英文史料を読むことによって外からの目を利用しつつ、中国近代社会経済史に対する理解を深める。さらに、英文史料の扱い方、長所・短所などを理解し、中国近代史を研究するにあたって利用する史料の可能性を広げ、また史料操作能力の向上を図る。									
【授業計画と内容】									
イギリス外交文書のうち、在中国イギリス領事の報告（FO228）を精読する。具体的には、商業紛争、海事関係・華人関係の紛争など、社会・経済に関わる紛争を取り上げる。必要に応じてFO228に含まれている英文史料に対応する漢文史料も読む。なお、史料の内容は非常に細かいものが多いため、講義形式の解説を加え、史料を中国近代史の中に位置づけていく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
テキストはコピーして授業の際に配布									
【参考書等】									
（参考書） 坂野正高・田中正俊・衛藤藩吉編 『近代中国研究入門』（東京大学出版会） 岡本隆司 『近代中国と海関』（名古屋大学出版会） 本野英一 『伝統中国商業秩序の崩壊 不平等条約体制と「英語を話す中国人」』（名古屋大学出版会）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、手書き文書に慣れるまでは予習に時間を要することになるだろう。ただし、扱う英文は主に部下（領事）から上司（公使）への報告であり、特に難解なものではないから、積極的な参加を期待したい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)			担当者氏名	人文科学研究所 教授 水野 直樹				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	演習
題目	朝鮮近現代史関係資料の講読								
【授業の概要・目的】									
朝鮮近現代史を学ぶために必要な文献解読の方法を身につけるとともに、資料の探索・調査・収集のための情報・ツールなど（目録類、インターネットリソース）を解説する。									
【授業計画と内容】									
朝鮮近現代史に関わる朝鮮語資料を選んで解読する。後期には、受講者の関心に応じて新聞記事（植民地期から現代まで）を選び、それぞれが解読・解説する形式で進める。									
【履修要件】									
初級程度の朝鮮語を習得していること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点									
【教科書】									
プリントなどを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://wwwsoc.nii.ac.jp/chosenshi/link/ (朝鮮史研究のためのインターネット利用手引き（朝鮮史研究会）)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 永井 和				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	演習
題目	倉富勇三郎日記を読む								
【授業の概要・目的】									
<p>国立国会図書館所蔵の倉富勇三郎日記を解読し，翻刻テキストを作成する。解読，翻刻にはデジタル化時代の文献・史料研究ツールであるSMART-GSの協働翻刻システムを使用する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>昨年度に続き，倉富勇三郎の東京控訴院検事長時代の日記「充紳」を解読し，翻刻をおこなう。検事総長への昇進に途を絶たれたあと，弁護士協会からの辞任要求に対応する倉富と司法登極の動向が日記の記述から明らかとなる。</p> <p>なお、倉富日記の解読・翻刻については、情報・史料学専修で開発中の文献解読・翻刻ツールであるSMART-GSを利用し，オンラインでの協働翻刻作業を実地におこなう。SMART-GSの使用法を学び、自分の研究に役立てることも、この授業の目的である。</p> <p>開講時に倉富日記のデジタル画像とSMART-GSのシステムを配布する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点で評価する。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) なし。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
なし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 客員准教授 福間 良明				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	後期	曜時限	水4,5	授業形態	演習
題目	「戦争の記憶」のメディア史								
【授業の概要・目的】									
戦後日本のメディアにおける「戦争の語り」を検証しながら、戦後の戦争観の変容プロセスやその社会背景について考察する。授業では、研究紹介や戦後思想を適宜扱うほか、メディア（映画・ドラマ・ドキュメンタリー・新聞・戦記・マンガ・観光・博覧会・博物館等）の分析・批評に重点を置く。									
【授業計画と内容】									
授業の形式は、受講者による発表とディスカッションを主とする予定である。 授業計画は以下の通り（ただし、履修者の数や要望も踏まえながら、一部変更の可能性もある）。 第1回：ガイダンス，文献・映像資料の紹介 第2回：事例紹介と分析視角の紹介（映像資料等を用いながら） 第3～5回：「記憶のメディア学」に関連する文献紹介の批評（輪読） 第6～14回：メディア資料（映画・新聞・雑誌等々）の分析・批評									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
発表と期末レポートで評価する。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 野上元・福間良明編 『戦争社会学ブックガイド』（創元社）（2012年3月刊行予定） 福間良明 『焦土の記憶：沖縄・広島・長崎に映る戦後』（新曜社）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
・ 関連する文献や映画等については、初回授業時に紹介するので、自学自習に努めること。 ・ 特定の時間帯にオフィスアワーを設けることはしませんが、申し出があれば、授業後の時間に質問・相談等々に対応します。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)			担当者氏名	NHKエンタープライズ エグゼクティブプロデューサー 山登 義明				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3,4,金3,4 月末週	授業形態	演習
題目	映像メディア論 A								
【授業の概要・目的】									
映像メディアの手法というものをドキュメンタリー番組制作の視点から捉える。本演習では、企画、取材、編集、発表を実際に体験しながら番組を一本作り上げ、それを通して映像の構造や意味を考察する。									
【授業計画と内容】									
1、オリエンテーション：多メディア時代における映像メディア 2、企画研究：主題論、時代をどう読むか 3、企画の立て方：ヒト・ウゴキ・ジダイというテレビ的発想法 4、取材の技法：取材者の姿を消す（透明人間化）、シネマヴェリテ 5、リサーチと取材：本番前に十全な調査。主人公のキャラクターなど 6、映像編集の技法：モンタージュ、ナラティブ（語り口） 7、映像編集：いくつもバージョンを作り変え、他者に見せる 8、ポスト＝プロダクション：ナレーション、音響効果、テロップなど 9、作品発表と評価：他者は作品（テキスト）をどう見るか									
【履修要件】									
テレビドキュメンタリー、特にNHKスペシャルの視聴。									
【成績評価の方法・基準】									
ドキュメンタリー制作は一見遊びに似ている。授業に出席しようとしまいと作品が出来ればいい。だが、授業で毎回教示するのはテレビの現場の智恵であり最新の技法だ。									
【教科書】									
山登義明 『ドキュメンタリーを作る』（京大学術出版会）									
【参考書等】									
（参考書） エリック・バーナウ著 『世界ドキュメンタリー史』（日本映像記録センター） さまざまなメディアが跋扈するなか、映像メディアの基本は同床。ここでの手法は応用展開が可。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)	担当者氏名	NHKエンタープライズ エグゼクティブプロデューサー 山登 義明						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
題目	映像メディア論 B								
【授業の概要・目的】									
<p>映像は現代の暮らしに大きな影響を与えている。作為であれ不作為であれ映像は操作されて視聴者に届けられる。ドキュメンタリーの過去の作品10本余を取り上げて、作り手の意図、視点を読み解いていく。</p> <p>授業計画と内容</p>									
【授業計画と内容】									
<ol style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーション：テレビという文化の歴史 2、ドキュメンタリーとは何か：虚構と事実の関係 3、番組のジャンル：フィクション、エンターテインメントと並存する事実番組 4、ヒューマンドキュメンタリー：ヒトを描く、ウゴキ、時代を掴む 5、主題としての戦争：亀井文夫の映画と比べながら 6、戦争の記憶：8・15をめぐって編成された作品群 7、ドキュメンタリーの演出とは何か：ヤラセの構造と風土 8、他のメディアと融合する：マンガ、アニメ、CG、ネットを活用する 									
【履修要件】									
藤子不二雄Aの『まんが道』か『愛 しりそめし頃』を読むこと									
【成績評価の方法・基準】									
受講後のレポート									
【教科書】									
山登義明 『テレビ制作入門』（平凡社） 河島伸子 『コンテンツ産業論』（ミネルヴァ書房）ISBN:4623055620									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） なるべく、同一教員の「映像メディア論A」を受講しておくこと。 集中講義なので「オフィスアワー」はとくに設けません。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)	担当者氏名	京都精華大学 マンガ学部 准教授	吉村 和真					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金2	授業形態	演習
題目	現代日本のマンガ環境について考える マンガ雑誌を手がかりに								
【授業の概要・目的】									
<p>現代日本に居住する私たちの身の回りには、ひとりでは到底網羅できないほど、多種多様なマンガの雑誌・単行本があふれている。二十世紀、とりわけ戦後の日本社会を考察するうえで、マンガは避けて通れない視覚表現・メディアであると言える。</p> <p>本講義では、そうしたマンガ環境の一側面を具体的に考察するために、マンガ雑誌を資料とした演習を行う。掲載された作品・作家論はもとより、そのメディア的特徴、各誌の出版戦略、マンガ誌の文化的意義、「マンガ読者」という共同体の有様など、複眼的な考察を行い、「マンガの現在」を体系的に把握することをねらいとする。</p> <p>形式は、受講者による発表が基本。これに受講者全体でのディスカッション、担当者のコメントを加える。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回：ガイダンス、発表順・日程の調整</p> <p>第2回：担当者による講義 現在のマンガ雑誌に関する情報と視点の提供</p> <p>第3回～最終回：受講者による発表。1回につき2人の発表予定。 最低2冊のマンガ雑誌を取り上げ、それを比較検討する。 雑誌候補は基本的に自由。例えば、以下のようなマンガ誌など。</p> <p>『週刊少年ジャンプ』、『週刊少年マガジン』、『週刊少年サンデー』、『週刊少年チャンピオン』、『ちゃお』、『なかよし』、『りぼん』、『コロコロコミック』、『モーニング』、『イブニング』、『マーガレット』、『別冊マーガレット』、『KISS』、『ビッグコミック』、『月刊マガジン』、『アフタヌーン』、『IKKI』、『ヤングアニマル』、『ヤングキング』、『チャンピオンRED』、『ガンダムA』、『漫画サンデー』、『漫画ゴラク』、『週刊漫画TIMES』、『FEEL』、『Cookie』、『デザート』、『SiLKY』、『アックス』、『コミック乱』、『ウルトラジャンプ』、『漫画アクション』…。</p>									
【履修要件】									
「なぜ大学でわざわざマンガを扱うのか」と思う人も歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
出席点30点、発表内容・ディスカッションへの貢献度：40点、レポート30点									
【教科書】									
夏目房之介・竹内オサム編著 『マンガ学入門』（ミネルヴァ書房、2009）									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)	担当者氏名	関西大学 社会学部 准教授 山口 誠						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木4	授業形態	演習
題目	観光社会学～観光の社会的意味を通時分析する～								
【授業の概要・目的】									
<p>近代社会における観光は、労働と対置される余暇のジャンルに留まらず、さまざまな社会的過程が交錯する場（アリーナ）として捉えることができる。観光によって地理や他者のイメージが構築され、観光者のアイデンティティが再編され、そして受け入れ側の「文化」や「伝統」が「発見」されるなど、観光をめぐる社会学のテーマは枚挙にいとまがない。</p> <p>これまで日本における観光研究では、関連産業の振興を図る経済学的アプローチと、観光者の動機をめぐる社会心理学的アプローチが主流であった。これらの成果を視野に入れつつ、この演習では「観光の社会的意味」に着目して、社会学のアプローチから近代日本社会における観光を考えてみたい。</p> <p>この演習の担当者は、20世紀の日本人の海外旅行を、主に観光ガイドブックや紀行書籍の変遷から通時分析するメディア研究を専門としているが、日本人の国内観光や諸外国の観光の歴史など、さまざまな興味関心を持つ受講生の参加を期待する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>まず「観光社会学の現在」と「日本型マス・ツーリズムの現在形」について担当者が講義形式で解説し、この演習の基本的なキーワードとアプローチを整理し共有した後、受講生による自由テーマ発表と討論を行いたい。</p> <p>いわゆる狭義の「観光」に限らず、たとえばアニメやマンガにおける「聖地巡礼」や、文学作品や映画作品に描かれた旅のかたち、「戦国武将ブーム」や「パワースポットブーム」などに見られる歴史／記憶の消費、海外の観光ガイドブックに描かれた「京都」比較など、様々な興味と関心を持つ受講生の積極的な参加を期待する。</p> <p>第1回：観光社会学の事例：『グアムと日本人』（2007年）を中心に 第2回：観光社会学の視座：『ニッポンの海外旅行』（2010年）から 第3回：日本型マス・ツーリズムの現在形：スケルトン・ツアーを事例に 第4回：テーマパーク化する社会：テーマ型観光の特性 第5回～最終回：受講生による自由テーマ発表と文献輪読を組み合わせ、議論を行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
自由テーマ発表を主とする平常点で評価する。									
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----									

現代史学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

山口誠 『グアムと日本人』 (岩波新書)

山口誠 『ニッポンの海外旅行』 (ちくま新書)

山口さやか・山口誠 『「地球の歩き方」の歩き方』 (新潮社)

安村克己ほか 『よくわかる観光社会学』 (ミネルヴァ書房)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)		担当者氏名	国立オーストラリア大学 文学部 准教授 STEGEWERNS, Dick					
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	演習
題目	戦争映画の系譜								
【授業の概要・目的】									
<p>戦争映画というジャンルを分析する。特に戦後から現在にいたる日本の戦争映画に集中する。アメリカ・ヨーロッパ・アジアの戦争映画および戦時中日本が制作したプロパガンダ映画に比較しながら、戦後から現在に至る日本の戦争映画の系譜と特徴を探っていく。できれば、戦争文学・漫画・アニメとの比較も行う。</p> <p>英語も交えた講義、輪読、発表、議論、とレポートによって総合的英語力を向上させる。</p>									
【授業計画と内容】									
<ul style="list-style-type: none"> － ガイダンス － 戦争映画に関する先行研究を分析 － ハリウッドによる戦争映画の代表作を鑑賞・分析 － 戦争映画の系譜・分類をおこなう － 戦時中の日本国策映画・プロパガンダ映画に関する先行研究を分析 － ハリウッドによる戦争映画の代表作を鑑賞・分析 － 戦後から現在に至る日本の戦争映画を年代別に分析 － 最近のアメリカ・アジア・ヨーロッパの戦争映画と比較 － 日本の戦争文学・漫画・アニメと比較 － 学生による発表 － 日本の戦争映画の系譜・分類・時期区分を行なってみる 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート、発表、論文と授業参加の総合評価。									
【教科書】									
適宜に配布する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
とくになし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(演習) Contemporary History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 永井 和 文学研究科 教授 杉本 淑彦 文学研究科 准教授 小野澤 透				
配当学年	全回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	演習
題目	大学院演習								
【授業の概要・目的】									
修士論文および博士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代史に関わる多様な研究テーマに対する学知を深める。									
【授業計画と内容】									
1回目：修士論文・博士論文の予定テーマについて、各受講生がその概略を説明する。 2回目以降：各回とも、1名（場合によっては2名）の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（60点）とレポート（40点）									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） なし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワーは、水曜日の14時から15時（永井） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代史学(博士論文指導) Contemporary History (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 永井 和			
配当学年	博士	単位数	0	開講期	通年	曜時限	水3	授業形態
題目	博士課程論文指導							
【授業の概要・目的】								
学位論文の作成をめざす博士課程の大学院生に対し論文指導をおこなう。								
【授業計画と内容】								
受講生と協議のうえ、論文作成計画にもとづいて、報告日程を決め、随時中間報告をおこない、指導教員より助言を受ける。								
【履修要件】								
特になし								
【成績評価の方法・基準】								
最終的には学位論文を提出し、その審査の結果が成績評価となる。								
【教科書】								
使用しない								
【参考書等】								
(参考書)								
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))								
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。								

【大学院共通科目】

授業科目名 <英訳>	シュメール語（初級）（語学） Sumer			担当者氏名	総合地球環境学研究所 森 若葉 上級研究員				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	語学
題目	シュメール語（初中級）								
【授業の概要・目的】									
古代メソポタミアで話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末から三千年間にわたる数多くの資料を残している。この言語は、楔形文字で記され、複雑な接辞体系で知られている。本授業は、まだあきらかになっていない部分もあるシュメール語文法について概説をおこない、その古代の資料を実際に講読することを目的とする。									
【授業計画と内容】									
前期は、シュメール語文法の概説およびその書記体系である楔形文字の成立としくみについて解説を行う。その間、適宜簡単なシュメール語資料を読む予定である。 後期は、シュメール語資料の講読を中心におこない、資料ごとに文法の解説、問題点の指摘を行う。また死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点、系統不明の古代のシュメール語の解読がどのようにおこなわれたのかについてもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキスト等である。なお、後期後半に楔形文字実習を予定している。									
【履修要件】									
楔形文字実習の際、粘土等を用意してもらう必要がある。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および学年末レポートを予定。									
【教科書】									
なし。プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（初級）（語学） Swahili			担当者氏名	非常勤講師 井戸根 綾子				
配当学年	全回生	単位数	1	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	スワヒリ語初級								
【授業の概要・目的】									
スワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。名詞クラスなどスワヒリ語の初級文法の理解を基本とし、語彙、基本文型、実際の会話表現なども学ぶことで、初級に相当する読解力の習得を目指す。									
【授業計画と内容】									
第1週はオリエンテーションを行なう。 第2週より、以下の項目について学習する。 あいさつ表現、自己紹介、動詞を使わない文（コピュラ・存在・所有）、現在時制・過去時制・未来時制・完了時制の表現、名詞クラスなど。 なお、授業の進度は適宜調整する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、平常点、定期試験の結果により、総合的に判断する。 なお、3分の2以上の出席を必須とする。									
【教科書】									
竹村景子『ニューエクスプレス スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08527-1									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://el.osaka-gaidai.ac.jp/flc/swa/index.html (スワヒリ語独習コンテンツ)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。 各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（中級）（語学） Swahili	担当者氏名	非常勤講師 井戸根 綾子						
配当学年	全回生	単位数	1	開講期	後期	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	スワヒリ語中級								
【授業の概要・目的】									
スワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。スワヒリ語の標準文法の理解をさらに深め、新たな語彙や慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力の習得を目指す。									
【授業計画と内容】									
第1週は初級で学習した文法の復習を行なう。 第2週より、以下の項目について学習する。 接続形、動詞の派生形（受身形・相互形・使役形・状態形など）、指示詞、条件節、関係節、ことわざ・格言など。 なお、学習の進度は適宜調整する。									
【履修要件】									
「スワヒリ語初級」受講者に限る。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、平常点、定期試験の結果により、総合的に判断する。 なお、3分の2以上の出席を必須とする。									
【教科書】									
竹村景子 『ニューエクスプレス スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08527-1									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://el.osaka-gaidai.ac.jp/flc/swa/index.html (スワヒリ語独習コンテンツ)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。 各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット（2時間コース）（語学） Sanskrit (2H)			担当者氏名	文学研究科 准教授 横地 優子				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火2	授業形態	語学
題目	サンスクリット初級文法（2時間コース）								
【授業の概要・目的】									
古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけさせることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。									
【授業計画と内容】									
文法事項の解説と練習問題による読解演習とを平行して授業を進める。扱う主な文法事項は：									
サンスクリット語概論、音論・連声（第1-3週） 名詞・形容詞曲用（第4-9週：母音語幹、第10-15週：子音語幹） 複合語、代名詞、数詞（第16-17週） 動詞現在活用（第18-19週：第1種活用、第20-23週：第2種活用） 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞ほか（第24-28週） まとめ（第29-30週）									
授業の進行は学習の理解度に応じて調整する場合がある。									
【履修要件】									
予備知識は必要ない。幅広い専攻からの受講を歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
平素の成績と筆記試験による。特に平常点（出席率および宿題）を重視する。									
【教科書】									
上村勝彦・風間喜代三 『サンスクリット語・その形と心』（三省堂）ISBN:978-4-385-36465-0									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎回宿題を課す。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(4時間前期コース)(語学) Sanskrit (4H)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	Sanskrit Grammar								
【授業の概要・目的】									
An introduction to the Sanskrit language for beginners. This class aims to cover the basics of Sanskrit Grammar in one term.									
【授業計画と内容】									
We will focus on covering the material taught in R. Goldman's Devavanipraveshika, reading all of the exercises and actively translating into Sanskrit. Supplementary materials and exercises will be provided as necessary.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, participation, quizzes.									
【教科書】									
1) Devavanipravesika: An Introduction to the Sanskrit Language (Paperback) by Robert P. Goldman (Author), Sally J. Sutherland (Author), Paperback, Publisher: Center for South & Southeast; 2nd Rev edition (August 1987), ISBN-10: 0944613004, ISBN-13: 978-0944613009 Arthur A. MacDonell, A Sanskrit Grammar for Students (OUP, 1971)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(4時間後期コース)(語学) Sanskrit (4H)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	Sanskrit Grammar								
【授業の概要・目的】									
An introduction to the Sanskrit language for beginners. This class aims to cover the basics of Sanskrit Grammar in one term.									
【授業計画と内容】									
We will focus on covering the material taught in R. Goldman's Devavanipraveshika, reading all of the exercises and actively translating into Sanskrit. Supplementary materials and exercises will be provided as necessary.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, participation, quizzes.									
【教科書】									
1) Devavanipravesika: An Introduction to the Sanskrit Language (Paperback) by Robert P. Goldman (Author), Sally J. Sutherland (Author), Paperback, Publisher: Center for South & Southeast; 2nd Rev edition (August 1987), ISBN-10: 0944613004, ISBN-13: 978-0944613009 Arthur A. MacDonell, A Sanskrit Grammar for Students (OUP, 1971)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ヘブライ語(語学) Hebrew			担当者氏名	非常勤講師 手島 勲矢				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	古典ヘブライ語初級文法								
【授業の概要・目的】									
<p>聖書テキストおよびラビ文献を声に出して読むことができることを達成目標に初級ヘブライ語文法を概説する。声に出して読めるための基礎情報（文字と母音記号）および言葉の種類と形態認識の能力の獲得を目指す。テキストをベースに文法情報から意味を引き出す解釈基礎の習得にも努力する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前半は、アルファベットと母音記号などのマソラ記号を学ぶことから始めて、名詞、形容詞、前置詞、動詞の分詞形について学ぶ。次に、名詞や前置詞につく人称接尾辞の変化、規則動詞のカル形の人称変化、動詞の態などについて学ぶ。後半は復習から始めて、不規則動詞の形態変化を学びながら、聖書およびユダヤ教文献から選んだテキストをベースにして文法情報を確認しながら解釈の可能性の思考に慣れ親しむ。読解テキストは、創世記、出エジプト記、申命記、ヨシュア記、詩篇、コヘレト等からのもの数節、またミシュナー・アボット他から選んだ数節。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点評価（前半小テスト(20%)と小クイズ（10%）と後半レポート（70%）の合計）狙いは、アレフベートと母音記号を組み合わせる能力、品詞を分類理解できる能力、辞書でテキストの言葉の意味を見つける能力、意味の可能性（複数）を見出す能力などの目標達成度を見るもの。</p>									
【教科書】									
<p>授業中に指示する教科書に加えて補助的プリントを配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>特になし。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	イラン語（初級）（語学） Iranian			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 教授 森 茂男				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	語学
題目	イラン語（初級）								
【授業の概要・目的】									
イラン諸語の中でもっとも多くの人々によって用いられている現代ペルシア語の文法の基礎を習得する。基礎とはいえペルシア語の読解には必要十分な内容である。同時に古典ペルシア語文献を読みこなす基礎力を身につける場としたい。									
【授業計画と内容】									
授業は、教科書にしたがって授業一回につき一課半ほど進む。10月の半ばには文法を終了し、その後は古典をも含む平易なテキストを使って読解力の基礎を身につける。予定している読解用のテキスト：現代語による説話の再話から二話、『タバリーの歴史（ペルシア語訳）』からイスカンダル（アレキサンダー）の章、アッタール『神秘主義者列伝』の一部。古典ペルシア語文献は語彙、文法のいずれも平易な部分を選読する。なお、テキストは受講者の希望によって変更することもある。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
原則として、試験は特に行わず、出席点と平常点によって評価する。									
【教科書】									
森茂男『ペルシア語初級文法』（最初の授業時に配布する。） 後期途中から始める読解用のテキストは10月のはじめにプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 黒柳恒男『現代ペルシア語辞典』（大学書林）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	チベット語（初級）（語学） Tibetan	担当者氏名	愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	月1	授業形態	語学
題目	チベット語初級								
[授業の概要・目的]									
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>									
[授業計画と内容]									
<p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p> <p>テキストは、プリントとして配布する。</p>									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
<p>成績は、出席点および学期末に行う試験によって決定する。 チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。</p>									
[教科書]									
プリントを配布する。									
[参考書等]									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	チベット語（中級）（語学） Tibetan	担当者氏名	文学研究科 准教授 宮崎 泉						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	語学
題目	チベット語（中級）								
【授業の概要・目的】									
<p>この授業は、チベット語初級を終えた学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めるためのものである。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中に使われているチベット語にも様々な種類があるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げ、どの分野の仏教文献にも対処できる基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業では、偈頌だけからなる文献や注釈文献といったスタイルの違う文献も含め、古チベット語を含む仏教文献、サンスクリットからの翻訳文献、チベット撰述文献を取りあげる。それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴の解説と読解のために必要な内容の説明を行う。その後各文献を五週程度かけて輪読する。</p>									
【履修要件】									
<p>チベット語初級文法を終えている必要があるが、読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>平常点。出席と授業の中で発表の内容により評価する。</p>									
【教科書】									
<p>授業中にプリントを配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	アラブ語（初級）（語学） Arabic			担当者氏名	国立民族学博物館 教授 西尾 哲夫				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	語学
題目	アラブ語								
【授業の概要・目的】									
現代アラビア語（アラブ語）の初級程度の文法を習得することを目標にする。また基本的な会話ができることをめざす。									
【授業計画と内容】									
アラビア語の歴史やアラビア語を使用する社会ならびにイスラームとの関係について簡単にふれたのち、アラビア語を学習する上で必携すべき辞書等の参考文献について紹介する。アラビア文字の習得から初級文法について講義する。またアラビアンナイト等のアラブ文学についてもアラブ文化理解の一環として紹介する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況ならびに平常点による。									
【教科書】									
こちらで配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 西尾哲夫・師岡カリーマ・エルサムニー 『CD版エクスプレス エジプト・アラビア語』（白水社） 西尾哲夫 『アラビアンナイト 文明のはざまに生まれた物語（岩波新書）』（岩波書店） 西尾哲夫 『世界史の中のアラビアンナイト』（NHK出版）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級Ⅰ）（語学） Polish	担当者氏名	神戸市外国語大学 外国語学部 准教授 森田 耕司						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	語学
題目	ポーランド語初級Ⅰ								
【授業の概要・目的】									
ポーランド語の初級文法を習得する。									
【授業計画と内容】									
ポーランド語はスラブ諸語の一つとして、チェコ語、スロヴァキア語とともに、西スラブグループを構成する。文字は、ロシア語とは異なり、普通のローマ字に必要な改変記号をつけて使用する。この授業では、文字の読み方、母音と子音の発音から始めてポーランド語の初級文法を教科書に沿って学習する。概ね次のような文法項目を学習する。名詞の性の区別、単数形と複数形、男性名詞・女性名詞・中性名詞の格変化、人称代名詞の変化、形容詞的代名詞の変化、形容詞の変化、動詞の現在形・過去形・未来形、非人称文、動詞の体（アスペクト）、命令法、能動分詞と受動分詞の作り方、前置詞の用法、仮定法など。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況（50%）と定期試験（50%）の両方で評価する。									
【教科書】									
石井哲士朗・三井レナータ著 『ニューエクスプレス ポーランド語』（白水社）ISBN:978-4-560-06794-9									
【参考書等】									
（参考書） 木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正〔編〕 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書を中心に授業を行うので、毎回、各自予習・復習を怠らないこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級Ⅰ）（語学） Polish	担当者氏名	神戸市外国語大学 外国語学部 准教授 森田 耕司						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	語学
題目	ポーランド語中級Ⅰ								
【授業の概要・目的】									
この授業では、「ポーランド語初級Ⅰ」を終えた学生がスムーズに中級へレベルアップできるようにすることを主な目的とする。ポーランド政府公認のポーランド語国家検定試験のB1（初中級）に合格できる程度の運用能力養成をめざす。									
【授業計画と内容】									
初級時に学習した基礎的な文法事項（名詞・形容詞・形容詞的代名詞・人称代名詞の格変化、形容詞の比較変化、副詞とその比較変化、動詞の現在形・過去形・未来形、非人称文、動詞の体、仮定法、sie動詞、命令法など）の復習を豊富な練習問題を通して行いながら、文法への理解を深め、知識の安定化を図る。特に応用力の養成に重点を置く。									
【履修要件】									
「ポーランド語初級Ⅰ」を履修済みであるか、もしくはそれ同等の知識を有すること。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況（50%）と定期試験（50%）の両方で評価する。									
【教科書】									
初回授業時に指示するので、履修希望者は必ず出席すること。									
【参考書等】									
（参考書） 木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正〔編〕『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3（授業時必携） 石井哲士朗・三井レナータ著『ニューエクスプレス ポーランド語』（白水社）ISBN:978-4-560-06794-9（授業時必携）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書を中心に授業を行うので、毎回、各自予習・復習を怠らないこと。そして、辞書を引く苦勞をいとわないこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級II）(語学) Polish	担当者氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	語学
題目	ポーランド語初級								
【授業の概要・目的】									
ポーランド語の学習を始めた人を対象にネイティブの教員が文法事項の復習をし、それぞれの表現が身に付くように練習して、ポーランド語能力試験に定義されるA2のレベルを目指します。									
【授業計画と内容】									
基本的な日常表現と文法の基礎を学び、丁寧な挨拶や自己紹介から始めて、ゆっくりと、簡単な言い回しを使いながら、家族、趣味、料理、仕事などのテーマについて簡単に話すことができるように学んでいきます。 授業中は、聴解練習と会話練習をたくさん行います。									
【履修要件】									
とくにないが、「ポーランド語初級」と並行して出席することが望ましい。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と学年末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
授業中にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級II）（語学） Polish			担当者氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki				
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	語学
題目	ポーランド語中級								
【授業の概要・目的】									
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。自身の意見や観点を、より明確に伝えられるようになることを目指し、やや複雑な文章構造を学びます。ポーランド語能力試験に定義されるB1のレベルを目指します。									
【授業計画と内容】									
ポーランド語の文法の基礎と基本的な語彙力を持つ学生を対象に、会話、聴解、読み書き等の能力を高める練習を行います。 実際に日常生活でよく使われる表現を紹介し、実生活の場面で必要な会話能力の充実を目標とします。									
【履修要件】									
ポーランド語の文法の基礎を習得していること、および簡単に自己紹介したり家族・趣味等について話すことができるような語彙力を持っていることが要求される。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と学年末の試験の両方で評価する。									
【教科書】									
授業時にプリントの形で配布する。									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	現代インド語（ヒンディー）(語学) Hindi	担当者氏名	北海道大学 スラブ研究員センター 研究員 小松 久恵						
配当学年	全回生	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	語学
題目	現代インド語（ヒンディー語）								
【授業の概要・目的】									
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初頭文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通してインド社会に触れ、急激に変化を遂げる現代インド社会への理解を深める。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。									
【授業計画と内容】									
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。幸い、ヒンディー語は文法が簡単で、日本語に極めてよく似ているので、日本人学習者にとり習得することはそれほど困難ではないであろう。教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語に触れ、同時にインドの社会風俗に対する知識を深める。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（40％）と筆記試験（期末30％、年度末30％）によって評価する。									
【教科書】									
町田和彦『ニューエクスプレス、ヒンディー語』（白水）ISBN:ISBN978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）									
【参考書等】									
（参考書） 辞書については初回の授業で紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	研究科横断型教育科目 (Bタイプ) (講義) Kyoto University Transdisciplinary Graduate Program (Btype) (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 出口 康夫 文学研究科 教授 水谷 雅彦 文学研究科 准教授 伊勢田 哲治						
配当学年	全回生	単位数	1	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	講義
題目	「応用哲学入門」								
[授業の概要・目的]									
現代日本が直面している様々な課題を提示し、その問題の所在を明確に見定めた上で、われわれの従来の思考法の枠を破りつつ、それらに対する解決策・対処策を模索する。それが応用哲学の思考スタイルである。この授業では、原則的に、一回につき一つの「課題」を設定し、専門を異にする大学院生が、それぞれの立場から自由に意見を交わしあうことで、知のブレイン・ストーミングを繰り返し広げることを目指す。そのことで個々の専門の枠にとらわれず、広い視野に立った議論を展開できる大学院生の養成を目指す。									
[授業計画と内容]									
採用する教科書(下記)から8つの章を選び、一回の授業につき、原則的に一つの章を取り上げて議論を行う。受講者には、あらかじめ当該の章を読んだ上で授業に出席することが求められる。扱われる章は、「無知の哲学」「臨床治験を哲学する」「疑似科学問題」を含む諸章である。									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
発言・意見表明等の授業中のパフォーマンス(評価の3分の1)、出席回数(同、3分の1)、レポート成績(3分の1)。									
[教科書]									
戸田山・出口編(2011)『応用哲学を学ぶ人のために』(世界思想社)									
[参考書等]									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業中に適宜指示する。									
開講期: 前期8回(詳細未定)									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	研究科横断型教育科目（Bタイプ）(講義) Kyoto University Transdisciplinary Graduate Program (Btype) (Lectures)	担当者氏名	文学研究科 准教授 伊勢田 哲治 文学研究科 教授 水谷 雅彦						
配当学年	全回生	単位数	1	開講期	後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	講義
題目	応用倫理入門								
【授業の概要・目的】									
<p>「応用倫理学」は、さまざまな実践問題の領域における倫理的思考の総称である。一般にもよく知られた生命倫理、環境倫理のほか、情報倫理、工学倫理など、応用倫理学で扱われてきた領域は多岐にわたる。これらさまざまな領域の倫理問題は、領域に特有のものもあれば、複数の領域に共通して発生する問題もある。本講義では、さまざまな応用倫理領域について横断的に学ぶことで、そうした特有性と共通性について見通しを得ることをめざす。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>採用する教科書（下記）から8つの章を選び、一回の授業につき、原則的に一つの章を取り上げて議論を行う。受講者には、あらかじめ当該の章を読んだ上で授業に出席することが求められる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>発言・意見表明等の授業中のパフォーマンス（評価の3分の1）、出席回数（同、3分の1）、レポート成績（3分の1）。</p>									
【教科書】									
戸田山・出口編 『応用哲学を学ぶ人のために』（世界思想社）									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	研究科横断型教育科目 (Bタイプ) (講義) Kyoto University Transdisciplinary Graduate Program (Btype) (Lectures)	担当者氏名	人文科学研究所 教授 浅原 達郎						
配当学年	全回生	単位数	1	開講期	後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	講義
題目	「干支紀年をさかのぼる」								
【授業の概要・目的】									
六十干支で年を数える干支紀年をさかのぼると、中国古代の歳星紀年法に行きあたる。そこでは、木星の運行が関わり、また、出土した文書が貴重な情報をもたらす。現在なにげなく使われているものにも、それなりの起原のあることを、知ってもらいたい。									
【研究科横断型教育の概要・目的】 だれの案内を乞うわけでもなく、ひとり山道を踏み分けながら、峠越えを目ざす、そういう「横断」もある。個々の研究の現場でそれが求められる場合もあろう。わたしの試みが、ささやかなヒントを提供することになれば、さいわいである。									
【授業計画と内容】									
以下の八項目について、解説する。だいたい紀元前四世紀中ごろから紀元前二世紀終りごろまで、戦国時代中ごろから前漢中ごろの中国が話題となる。 六十干支・干支紀年 / 歳星紀年・新城新蔵氏の研究 / 木星の位置計算・戦国時代から秦まで / 馬王堆漢墓・帛書刑徳 / 帛書五星占 / 漢元年の惑星集合 / 太初元年前後・現在の干支紀年へ / 古天文学とハイパーカード									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
講義をすすめる過程で、いくつか課題を出す。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
教員のウェブサイトを受講者専用の簡単な掲示板を設ける予定である。									
開講場所：吉田キャンパス総合研究4号館430 開講期：10月9、16、23、30日、11月6、13、20、27日(火) 16時30分～18時									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									